静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第187集

上ノ平遺跡

第二東名No.104・105地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

掛川市－2（第2分冊）

2008

中日本高速道路株式会社 横浜支社

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第187集

上　ノ　平　遺　跡

第二東名No.104・105地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

掛川市－2（第2分冊）

2008

中日本高速道路株式会社 横浜支社

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

例　言

1．本書は、静岡県掛川市寺島字上ノ平に所在する上ノ平遺跡（第二東名№104・105地点）の発掘調査報告書である。この報告書は２分冊で構成されており、本冊は「第２分冊」である。

2．本冊の執筆は下記のとおりである。

株式会社ジェネテック：第６章第１～３節

パリノ・サーヴェイ株式会社：第６章第４節

田村隆太郎：第５章、第７章（編集担当）

3．現地の写真撮影は各調査担当者が実施した。空中写真の撮影は委託したものである。遺物の写真撮影は当研究所写真室が実施した。

4．遺物番号は、掲載遺物について種類・挿図の別に関わらず、とおし番号を付している。

5．観察表にある土色表記は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(2000年版）に基づいている。

6．本書にある図表は、調査で測量・実測したもののほか、下に記した各種地図を使用しているものがある。その他に使用した出典などは、必要に応じて各図中に記している。

国土地理院発行の地形図（縮尺２万５千分の１）

国土地理院発行の地形図（縮尺５万分の１）

掛川市役所発行の東遠広域都市計画図（縮尺５千分の１）

中日本高速道路株式会社横浜支社掛川工事事務所管轄（作成時は日本道路公団静岡建設局掛川工事事務所管轄）の第二東名高速道路掛川地区幅杭設置測量（縮尺千分の１）

7．本冊の頁数は、第１分冊とは独立して付けている。ただし、章や図・表の番号は、第１分冊からの連番とする。

8．その他の事項は第１分冊に順ずる。

目　次

例　言

第５章　遺　物 …… 1
　第１節　土　器 …… 1
　第２節　石　器 …… 11
　第３節　玉類など …… 13

第６章　自然科学的分析 …… 77
　第１節　土壌ブロックのCTスキャン分析と炭化米のDNA分析 …… 77
　第２節　花粉分析 …… 80
　第３節　プラント・オパール分析 …… 85
　第４節　炭化米の樹種同定およびＣ14年代測定・種子の同定 …… 88

第７章　まとめ …… 95

写真図版
抄　録

（第１分冊）
　第１章　調査に至る経緯
　第２章　遺跡の位置と環境
　　第１節　地理的環境
　　第２節　歴史的環境
　第３章　調査の方法と経過
　　第１節　調査の体制
　　第２節　現地調査
　　第３節　資料整理・報告書作成
　第４章　遺　構
　　第１節　概　要
　　第２節　住居跡
　　第３節　掘立柱建物跡
　　第４節　土坑・不明遺構
　　第５節　方形周溝墓

写真図版目次

カラー図版
図版1　北からの遠景
図版2　1　全景（南西から）
　　2　中央・西部の全景（北東から）
図版3　1　SB49～51（周溝を伴う住居跡）周辺（南から）
　　2　SH111（布掘りの掘立柱建物跡）（南東から）
図版4　1　SZ01・02（方形周溝墓）（南から）
　　2　赤彩のある土器片
　　3　玉類
白黒図版
図版5　調査区全景（合成）
図版6　1　調査区西側遺構集中部（俯瞰）
　　2　SB07・SD04～06（北から）
図版7　1　SB11・SB12（西から）
　　2　SB15・SD18～20（南東から）
図版8　1　SB16・SD81・82・SH85・86（北から）
　　2　SB18（西から）
図版9　1　SD24遺物出土状況（南から）
　　2　SD24遺物出土状況（東から）
図版10　1　SB23・SB25・26（東から）
　　2　SB26～31・SD30～33（東から）
図版11　1　SB26～31・SD30～33（南から）
　　2　SB27炭化米出土状況（南から）
図版12　1　SB37・SD43～45（南から）
　　2　SD43遺物出土状況（東から）
　　3　SD45遺物出土状況（南から）
図版13　1　SB39・40・SD46・47（北東から）
　　2　調査区南西部（南東から）
図版14　1　SB42・SD49（南から）
　　2　SB42炉跡検出状況（東から）
図版15　1　SB49～51・SD56～59（北西から）
　　2　SB49～51・SD56～59（俯瞰）
図版16　1　SD57遺物出土状況（南から）
　　2　SD57遺物出土状況（東から）
　　3　SD57遺物出土状況（東から）
図版17　1　SB54・56・SD70・73・74（南から）
　　2　SB54・56・SD70・73・74（東から）
図版18　1　SB52・SD61（南から）
　　2　SB69・70・SD84・85（北から）
図版19　1　SB82・SD87（南西から）
　　2　SB87・SD91（東から）
図版20　1　SB89・SD97～100（西から）
　　2　SD100遺物出土状況（西から）
　　3　SD100遺物出土状況（北から）
図版21　1　SB90・SD96（北西から）
　　2　調査区中央部（俯瞰）
図版22　1　SB110・SD116～120（南から）
　　2　SD120遺物出土状況（南から）
　　3　SD120遺物出土状況（南から）
図版23　1　SB113・SD121（南東から）
　　2　SB126・127・SD123・124（北から）
図版24　1　SB163・164・SD125（南東から）
　　2　SB01（東から）
図版25　1　SB02・03（西から）
　　2　SB04～06（南西から）
図版26　1　SB10（東から）
　　2　SB10炭化材検出状況（東から）
図版27　1　SB13・14（東から）
　　2　SB29床面検出状況（南から）
図版28　1　SB34床面検出状況（北西から）
　　2　SB43（東から）
図版29　1　SB44遺物出土状況（北西から）
　　2　SB47（東から）
図版30　1　SB53（北西から）
　　2　SB55（南東から）
図版31　1　SB59（南東から）
　　2　SB62（南東から）
図版32　1　SB67（西から）
　　2　SB67炭化材検出状況（西から）
図版33　1　SB67貯蔵穴内土器出土状況（西から）
　　2　SB64（南から）
　　3　SB65（北東から）
図版34　1　SB71（西から）
　　2　SB72床面検出状況（西から）
図版35　1　SB73・74（北から）
　　2　SB76（東から）
図版36　1　SB75～79（南東から）
　　2　SB81（南西から）
図版37　1　SB86（南から）
　　2　SB88（南東から）
図版38　1　SB94（南西から）
　　2　SB95・96（東から）
図版39　1　SB97（西から）
　　2　SB106（北から）
図版40　1　調査区北東部（俯瞰）
　　2　SB114～117（北から）
図版41　1　SB118～120（南東から）
　　2　SB118遺物出土状況（南から）
　　3　SB118遺物出土状況（東から）
図版42　1　SB122（北から）
　　2　SB128～130（北から）
図版43　1　SB133・134（北から）
　　2　SB135～137（東から）
図版44　1　SB138（北から）
　　2　SB139床面検出状況（東から）
図版45　1　SB143（東から）
　　2　SB143炭化材検出状況（北から）
図版46　1　SB145～151（東から）
　　2　SB155・156（南から）
図版47　1　SB157・158（南から）
　　2　SB160～162（南から）
図版48　1　SH01～05（西から）
　　2　調査区北西部（俯瞰）
図版49　1　SH17～21（南東から）
　　2　SH23・25～27（北から）
図版50　1　SH45～47・50・51（南から）
　　2　SH48・49（南から）
　　3　SH56～59（南から）
図版51　1　SH60・61（南から）
　　2　SH66（南から）
図版52　1　SH72～75（南から）
　　2　SH77～80（北から）
図版53　1　SH81（北西から）
　　2　SH88・89（北西から）
　　3　SH82・83・SD77・78・80（北から）
図版54　1　SH92（南東から）
　　2　SH98（南から）
図版55　1　SH111（南から）
　　2　SH111根固石出土状況（北東から）
　　3　SH111土層断面（東から）
図版56　1　SH118～120（北から）
　　2　SH141・143・144（東から）
図版57　1　SH127～135（西から）
　　2　SH127～135（北から）
図版58　1　SH146・147（北から）
　　2　SH148（北から）

図版59　1　SH150・183（南から）
　　2　調査区南東部（俯瞰）
図版60　1　SH155・156（南から）
　　2　SH159・161（北から）
図版61　1　SH166～168（北から）
　　2　SH169（北から）
図版62　1　SH178～180（北から）
　　2　SH187（北から）
図版63　1　調査区北部（俯瞰）
　　2　SZ01・02（南から）
図版64　1　SZ01遺物出土状況（北から）
　　2　SZ01遺物出土状況（北から）
　　3　SZ01遺物出土状況（南から）
　　4　SZ02遺物出土状況（西から）
図版65　1　SF21遺物出土状況（北東から）
　　2　SF22遺物出土状況（東から）
図版66　1　SF01半切状況
　　2　SF02半切状況
　　3　SF04半切状況
　　4　SF08遺物出土状況
　　5　SF15半切状況
　　6　SF16半切状況
　　7　SF14（南から）
図版67　1　SX01半切状況（西から）
　　2　SX05遺物出土状況
　　3　SX04（東から）
　　4　SX04炉跡土層断面
　　5　SX06遺物出土状況（北から）
　　6　SX07（東から）
　　7　焼き場跡遺物出土状況（東から）
図版68　1　SD93暗渠部分土層断面（東から）
　　2　SD28鍬掘削痕検出状況（西から）
　　3　SD97遺物出土状況（南東から）
図版69　出土土器１（縄文）
図版70　出土土器２（弥生～古墳）
図版71　出土土器３（弥生～古墳）
図版72　出土土器４（弥生～古墳）
図版73　出土土器５（弥生～古墳）
図版74　出土土器６（弥生～古墳）
図版75　出土土器７（弥生～古墳）
図版76　出土土器８（弥生～古墳）
図版77　出土土器９（弥生～古墳）
図版78　出土土器10（弥生～古墳）
図版79　出土土器11（弥生～古墳）
図版80　出土土器12（弥生～古墳）
図版81　出土土器13（弥生～古墳）
図版82　出土土器14（弥生～古墳）
図版83　出土土器15（弥生～古墳）
図版84　出土土器16（弥生～古墳）
図版85　出土土器17（弥生～古墳）
図版86　出土土器18（弥生～古墳）
図版87　出土土器19（弥生～古墳）
図版88　出土土器20（弥生～古墳）
図版89　出土土器21（弥生～古墳）
図版90　出土土器22（弥生～古墳）
図版91　出土土器23（弥生～古墳）
図版92　出土土器24（弥生～古墳、その他）
図版93　出土石器１
図版94　出土石器２
図版95　出土石器３、ガラス質の滓、玉類

挿図目次

第258図　出土土器１（縄文土器）　…… 14
第259図　出土土器２（弥生土器・土師器）　…… 15
第260図　出土土器３（弥生土器・土師器）　…… 16
第261図　出土土器４（弥生土器・土師器）　…… 17
第262図　出土土器５（弥生土器・土師器）　…… 18
第263図　出土土器６（弥生土器・土師器）　…… 19
第264図　出土土器７（弥生土器・土師器）　…… 20
第265図　出土土器８（弥生土器・土師器）　…… 21
第266図　出土土器９（弥生土器・土師器）　…… 22
第267図　出土土器10（弥生土器・土師器）　…… 23
第268図　出土土器11（弥生土器・土師器）　…… 24
第269図　出土土器12（弥生土器・土師器）　…… 25
第270図　出土土器13（弥生土器・土師器）　…… 26
第271図　出土土器14（弥生土器・土師器）　…… 27
第272図　出土土器15（弥生土器・土師器）　…… 28
第273図　出土土器16（弥生土器・土師器）　…… 29
第274図　出土土器17（弥生土器・土師器）　…… 30
第275図　出土土器18（弥生土器・土師器）　…… 31
第276図　出土土器19（弥生土器・土師器）　…… 32
第277図　出土土器20（弥生土器・土師器）　…… 33
第278図　出土土器21（弥生土器・土師器）　…… 34
第279図　出土土器22（弥生土器・土師器）　…… 35
第280図　出土土器23（弥生土器・土師器）　…… 36
第281図　出土土器24（弥生土器・土師器）　…… 37
第282図　出土土器25（弥生土器・土師器）　…… 38
第283図　出土土器26（弥生土器・土師器）　…… 39
第284図　出土土器27（弥生土器・土師器）　…… 40
第285図　出土土器28（弥生土器・土師器）　…… 41
第286図　出土土器29（弥生土器・土師器）　…… 42
第287図　出土土器30（弥生土器・土師器）　…… 43
第288図　出土土器31（弥生土器・土師器）　…… 44
第289図　出土土器32（弥生土器・土師器）　…… 45
第290図　出土土器33（弥生土器・土師器）　…… 46
第291図　出土土器34（弥生土器・土師器）　…… 47
第292図　出土土器35（弥生土器・土師器）　…… 48
第293図　出土土器36（弥生土器・土師器）　…… 49
第294図　出土土器37（弥生土器・土師器）　…… 50
第295図　出土土器38（弥生土器・土師器）　…… 51
第296図　出土土器39（弥生土器・土師器）　…… 52
第297図　出土土器40（弥生土器・土師器・須恵器など）53
第298図　出土石器１（石鏃）　…… 54
第299図　出土石器２（石鏃）　…… 55
第300図　出土石器３（石鏃・石錘・石匙）　…… 56
第301図　出土石器４（スクレイパーなど）　…… 57
第302図　出土石器５（石斧・石錘など）　…… 58
第303図　出土石器６（敲石）　…… 59
第304図　出土石器７（敲石・磨石）　…… 60
第305図　出土石器８（砥石・石皿など）　…… 61
第306図　出土石器９（砥石など）、出土玉類、
　　ガラス質の滓　…… 62
第307図　サンプルＡ～Ｃの位置　…… 78
第308図　炭化米を含む断面のスキャン画像　…… 80
第309図　切断面のフィルム写真　…… 80
第310図　出土炭化米の３CCDデジタル画像　…… 81
第311図　上ノ平遺跡の花粉・胞子　…… 84
第312図　プラント・オパールの顕微鏡写真　…… 87
第313図　上ノ平遺跡の炭化材１　…… 92
第314図　上ノ平遺跡の炭化材２・種実遺体　…… 93
第315図　上ノ平遺跡全体図　…… 95
第316図　縄文時代に関する全体概要　…… 96

第317図 古代の可能性が高い建物跡の分布 …… 97
第318図 住居跡の分類 …… 99
第319図 隅丸長方形・楕円形住居跡の主な出土土器 ・ 100
第320図 方形住居跡の主な出土土器 …… 101
第321図 幅狭周溝をもつ建物跡、幅広周溝をもつ
竪穴住居跡の主な出土土器 …… 102
第322図 幅広（無溜）周溝をもつ建物跡の主な
出土土器 …… 102
第323図 幅広（有溜）周溝をもつ建物跡の主な
出土土器 …… 103
第324図 住居跡の分布１ …… 106
第325図 住居跡の分布２ …… 107
第326図 掘立柱建物跡等の分布１ …… 108
第327図 掘立柱建物跡等の分布２ …… 109
第328図 各種住居・建物等の時期的傾向 …… 110
第329図 中・東遠江の弥生時代集落分布 …… 112

挿表目次

第６表 遺物観察表（土器） …… 63
第７表 遺物観察表（玉類・ガラス質の滓） …… 74
第８表 遺物観察表（石器） …… 75
第９表 花粉分析結果 …… 83
第10表 プラント・オパール分析結果１ …… 86
第11表 プラント・オパール分析結果２ …… 86
第12表 放射線炭素年代測定 …… 90
第13表 暦年較正結果 …… 90
第14表 樹種同定結果 …… 90
第15表 種実同定結果 …… 90

第5章　遺　物

第1節　土　器

1．縄文土器

縄文土器の出土は調査区西部に集中し、とくにD・Eの9・10グリッドからの出土が多い。ただし、残存率の高い土器の出土はなく、小破片で占められている。

1～12の多くは、加曽利E3式のあたりに併行するものと判断できる。15などは、曽利Ⅱ～Ⅲ式の系統に位置づけできる。16～24の多くは、加曽利E3式に併行する東海系（咲畑系）の土器片である。14については、それ以前の東海系の可能性がある。26～28は北屋敷式、29は曽利Ⅳ・Ⅴ式の可能性が指摘できる。いずれも散在的に出土した小破片であり、詳細な復元や検討は難しい。しかし、全体的に縄文時代中期中葉～後葉の土器群として把握することはできる。（註1）

2．弥生土器・土師器

本遺跡出土遺物の内、最も多いのが弥生時代後期～古墳時代前期に位置づけできる土器（弥生土器・土師器）である。以下、出土遺構ごとに出土土器についての概要や特徴を示す。なお、土器編年に基づいて示される時期については、該当する弥生土器（主に菊川式）の研究（中嶋1988、岩本1995、鈴木敏1996、佐藤・荻野谷・篠原2002など）や古式土師器の研究（鈴木一2002、鈴木敏2002）によるものである。

（1）住居跡出土土器

SB02・04・06・07・09出土土器（31～40）　いずれの住居跡も、図化できた出土土器片は少ない。SB02には上げ底状の底部片などが出土しており、弥生時代後期前葉に位置づけできる可能性がある。SB06出土の底部片（35）も、上げ底状になる可能性がある。一方、SB04やSB07の壷底部は平底である。壷口縁部片（37）などを含めて、弥生時代後期中葉～後葉に位置づけできる可能性が高い。38については、摩滅が著しいために文様が消失している可能性もある。

SB10出土土器（41～47）　残存率の良い土器が比較的多く出土している。46の壷は細身で、胴部上半の比較的広い範囲に縄文が施されている。47の底部はやや上げ底状になる。これらは、弥生時代後期前葉～中葉に位置づけることができる。

SB12・13出土土器（48～53）　いずれの住居跡も、図化できた出土土器片は少ない。さらに、50・51はSB12の排水溝からの出土であり、SB11やSD24から流入した可能性もある。52は短頸の壷、53は上げ底状の底部片である。SB13出土土器は弥生時代後期前葉～中葉に位置づけできる可能性が高い。

SB15・16出土土器（54～81、188・189）　SB15は遺物出土数が決して少ない方ではないが、出土土器の破片化と摩滅が著しい。高坏の接合部や壷の肩に羽状刺突が多用されていることから、概ね弥生時代後期後半に位置づけできる可能性が高い。SB16は、図化できた出土土器片が少ない。弥生時代後期前葉もしくは古墳時代初頭（古式土師器）に位置づけできる要素は見当たらず、全体的に弥生時代後期中葉～後葉の中に位置づけできる可能性が指摘できる。

SB18出土土器（86～187）　多くは周溝（SD24）からの出土であり、重複するSB20などから流入した土器片も混在している可能性がある。台付甕・高坏・鉢と大小の壷がある。台付甕については、刻みを伴う口縁部、球形に近い胴部、短い台部を伴うものが多い。88の口縁部には刻みを伴わない。87・88の肩部には、横方向のハケ調整が認められる。98の接合部には、粘土帯が巻かれている。高坏は、不明瞭な段状の屈曲を伴う脚裾（105・106）、折り返しを伴う口縁部（107・108）が認められる。接合部には、羽状刺突が1段めぐるもの(109・110)がある。105は摩滅が著しく、接合部の文様は観察できない。107の口縁部には刻みがめぐるが、108の口縁部は無文である。111は小型の鉢であり、口縁部に折り返しを伴う。

壷は出土数が多く、規模や形態の差異も認められる。規模については、123・124のように極小さなものから141・145のような小型壷、さらに、151のような比較的大きなものまである。底部は概ね平底で占められるが、小破片の中に上げ底状のものがある。胴部は、下膨れの形状のもので占められる。123・140以外は胴部下半に稜を伴う。頸部は、112・113だけが短頸、その他は細い頸から外反して口縁部に至る。口縁部は、折り返し口縁が最も多いが、比較的大型の壷には複合口縁も多く認められる。小型壷である145だけは単純口縁である。文様については、肩の羽状刺突・結節縄文、口縁部の櫛描文・縄文などが多く認められる。文様が認められない壷も少なくないが、摩滅のために消失した可能性もあり、本来より文様が施されなかった壷がどれほどあったかについては、判断しかねる。以上のようなSD24(SB18)出土土器は、一部に古い要素をもつ破片も含まれているが、多くは弥生時代後期後葉～末葉（もしくは古墳時代初頭）の中に位置づけできるものと判断できる。

SB20・SD23出土土器（82～85）　ともに出土数は少ない。SB20出土土器には、1段の羽状刺突がめぐる高坏（83）や折り返しの壷の口縁部（84）などがあり、弥生時代後期中葉のあたりに位置づけできる可能性が指摘できる。SD23は竪穴住居跡の排水溝である可能性が高い。しかし、出土した縄文の施された受口状口縁（85）は、SB20出土土器より古い可能性が指摘できる。

SB21・22・23出土土器（190～199）　SB21・22は、図化できた出土土器が少ない。弥生時代後期の甕の口縁部や壷の底部片があるが、詳細な時期を特定することは難しい。

SB23からは、住居跡と周溝から比較的多くの土器が出土している。壷の口縁部には、折り返し口縁、複合口縁、内湾気味に大きく開く口縁部がある。壷の頸部～胴部が残る198では、頸部下端に横線状文、その下部に羽状刺突・櫛描扇形文・波状文が認められる。199は、接合部に粘土帯を巻いて指頭痕をめぐらせた台付甕の台部である。これらは弥生時代後期中葉～後葉の中に位置づけできるものと判断できる。

SB26～31出土土器（200～252）　SB26～28においては、周溝から比較的多くのの土器が出土している。SB26周溝（SD33）の出土土器には、頸部下端の櫛刺突文や胴部上半の縄文などがある壷の破片（243・244)、台付甕の破片（240・241）が認められる。SB27からは古式土師器の高坏片（200）などが出土しており、その周溝（SD32）からは台付甕や大小の壷の破片が出土している。大型の壷は折り返し口縁を伴うもの（230・231）が多く、肩部の羽状刺突文や口縁部内面の結節縄文が残るもの（234・235）もある。SB28の周溝（SD31）からは、台付甕と壷の出土が認められる。壷には多段の羽状刺突文を伴う肩部（216)、円形浮文を伴う端部を内に折り返した複合口縁（214）などがある。SB27出土土器には古式土師器の出土もあり、菊川様式の土器を含めて概ね弥生時代後期末葉～古墳時代初頭の中に位置づけることができる。SB26・28出土土器は、弥生時代後期後葉のあたりに位置づけできる特徴が認められる。

SB29～31からの出土土器は少なく、SB30・31出土土器は極小さな破片に限られる。SB29からは台付甕の破片や壷の折り返し口縁、櫛描横線文や扇形文のある肩部、羽状刺突文がめぐる高坏の接合部などのほか、不明品（252）の出土も認められる。ただし、SB29はSB27に切られていることから、SB27に伴

う遺物が混在している可能性がある。総じて、弥生時代後期の中葉以降のものと把握することはできる。

SB33・34・36・38出土土器（253～257）　いずれも出土土器が少なく、小破片に限られる。壷の口縁部（253）や折り返しを伴う高坏の口縁部（254）があり、弥生時代後期の土器群である可能性は指摘できるが、それ以上の詳細を特定することは難しい。

SB37出土土器（275～306）　周溝（SD43～45）から多くの土器が出土している。SD43からは、台付甕（275・276）や壷などの出土が認められる。壷には折り返しを伴う口縁部片（279）と平底の底部片（280）、羽状刺突文のある胴部片（277）と櫛描文のある胴部片（278）がある。281については、器形から細頸の壷ではなく、鉢もしくは碗状を呈する可能性が指摘できる。SD44からは、壷の底部片と頸～胴部片の出土が認められる。底部は平底である。胴部は下膨れの形状を呈するが、肩が張ってやや球形に近い。頸部は直立し、外反して口縁部に至る。頸部下端には横線文がめぐり、その下に貼り付けの円形浮文、肩部には縄文が観察できる。円形浮文は、４方向に５個ずつ配置されている。SD45からは最も多くの土器が出土しており、台付甕・壷・高坏が認められる。台付甕には、口縁部に刻みがめぐるもの（284・287）とめぐらないもの（286）とがある。284の肩部には、横方向のハケ調整が認められる。壷には、内湾気味に開く口縁部片、棒状浮文のある複合口縁部片などがある。底部は全て平底である。高坏には、屈曲の不明瞭な脚裾部片（306）と細い接合部片（305）がある。306は菊川様式の土器であるが、305は古式土師器である可能性が指摘できる。

全体的に弥生時代後期中葉以降に位置づけできる土器群であるといえるが、SD45出土土器は後期後葉以降に位置づけでき、古式土師器の出土から古墳時代初頭にまで至る可能性も指摘できる。なお、切り合い関係ではSD43が最も古く、SD45が最も新しいと判断できている。

SB39・40・42・43出土土器（258～274、330～332）　SB39・40およびその周溝（SD47）からは、台付甕・高坏・壷の破片が比較的多く出土している。甕には、短く開いて刻みがめぐらない厚手の口縁部を伴う破片（260）、刻みがめぐり、肩に横方向のハケ調整が認められる破片（262）などがある。台部には短小なもの（265）が混じるほか、接合部に指頭痕がめぐるもの（263）もある。壷には、胴部上半に結節縄文が観察できる破片（268）、平底の底部片（269・270）がある。概ね菊弥生時代後期後葉～末葉に位置づけることができる。

SB42からは、口縁部に刻みがめぐる甕、折り返しを伴う壷、平底の壷底部などが出土している。弥生時代後期の中葉以降のものと判断できるが、最新段階に至るような特徴は認められない。SB43には壷の底部片と片口の鉢の口縁部片の出土が認められる。出土数が少なく詳細を特定することはできないが、概ね弥生時代後期前葉～中葉の中に位置づけできる可能性がある。

SB44出土土器（307～327）　住居跡の床面上において、多くの土器がまとまって出土している。数個体の台付甕、壷、高坏があるほか、鉢が２個体出土している。

台付甕は、台部によって４個体を確認することができる。308の口縁部は残存状態が悪く、307のように刻みがめぐる可能性も否定できない。肩部に横方向のハケ調整を施すものはない。壷は、刻みのめぐる折り返し口縁部片（316）、棒状浮文と縄文を伴う受口状口縁部片（317）、平底の底部片（318）のほか、頸部以下が残る中型壷（315）が出土している。315は、細頸・下膨れの胴部を持ち、頸部下端に横線文、胴部上半の広い範囲に縄文が施されている。底部は上げ底状を呈する。

鉢は、口縁部の外面と端面に縄文が施されたもの（320）と無文のもの（319）とがある。摩滅の差異の影響もあるが、口縁部と体部との境の稜線、ミガキ調整などは320の方が明瞭である。高坏は、口縁部によって５個体を確認することができる。いずれも鍔状の坏部を伴い、口縁部と体部との境には、内面に明確な屈折稜を伴う。脚部は、細長い脚柱と大きく屈曲する裾部（325）を伴うものが主であるが、326だけは台付甕に類似する台部を伴う。口縁部には、折り返しを伴わずに端面下端に刻みがめぐるも

の（324）と、折り返しを伴って端面や内面に縄文を施したもの（321・323・325）が認められる。前者の接合部には三角突帯がめぐる。後者の接合部には、無文（325）のものと横線文（押圧横線文か）がめぐるもの（323）とがある。

以上の土器群は、弥生時代後期前葉に位置づけできる特徴を多くもつ。

SB46周辺・SB47出土土器（334・335・328・329）　SB47からは折り返しを伴う壷の口縁部片と胴部片、SB46周辺（SD53）からは壷の底部片と刻みのめぐる甕の口縁部片が出土している。いずれも小破片であり、弥生時代後期の土器である可能性は高いが、詳細な特定は難しい。また、SB46周辺（SD53）出土土器については、SB46には伴わず、SB49～51の周溝から流入してきた遺物である可能性もある。

SB49～51出土土器（333、336～420）　各住居跡および周溝から土器が出土している。出土量は周溝の方が圧倒的に多い。

SB49からは壷の底部片、周溝（SD56）からは高坏・甕・壷の破片が出土している。341は鍔状口縁の高坏であり、折り返した口縁端面に斜格子文、脚部との接合部には櫛刺突がめぐる。坏部外面にはミガキ調整が認められるが、上部にはハケ調整が残されている。

SB50の周溝（SD58）からも、各器種の破片が比較的多く出土している。甕は、比較的小型の台付甕で占められており、口縁部には刻みがめぐる。高坏には、文様のない折り返し口縁部片（352）が認められる。口縁部と体部との境には、内面の屈折稜と外面の輪積み（接合）痕が認められる。壷には、高坏と同様の折り返し口縁部片（353･361）のほかに、受口状の口縁部片（355）がある。肩には三角突帯がめぐるもの（356･357）と羽状刺突文（354）がめぐるものとがある。底部は全て平底である。これらの中には、弥生時代後期の中葉以降に位置づけできるもの（354など）と、前葉に位置づけできるもの（356･357など）とがある。遺構の切り合いから、SB50はSB49よりも新しい住居跡であることがわかっている。したがって、後期前葉の土器については、SB51によって切られた古い時期の住居跡などから流入したものと判断できる。なお、SD52出土の337～339は、SB49･SB50のいずれかに伴う可能性がある。SD52がどちらの住居跡に属する排水溝であるかは不明であり、土器の特徴からも特定することは難しい。

SB51からは少数の土器（333）、その周溝（SD59）からは多量の土器（364～420）が出土している。SB51出土の333は口縁部に刻みを伴わない台付甕である。SD59出土の台付甕（363～384）の中には、口縁部に刻みがめぐるものと刻みを伴わないものとがある。また、胴部や台部に大小の差があることがわかり、363や376のような明らかな小型品も認められる。365・368の肩には横方向のハケ目が観察できる。374の接合部だけには指頭圧痕がめぐる。

385～415は、SD59出土の壷である。大型品が比較的多いが、397のような小型品もある。口縁部には折り返し口縁が多い。大きく外反して開く385は無文であるのに対して、さほど外反しない386・387には刺突文・斜格子文が施されている。399だけは複合口縁に復元できる。肩部には突帯を伴うものと伴わないものとがある。肩部の文様は羽状刺突文が最も多く、それに櫛描横線文・扇形文・円形浮文などが合わさる場合が認められる。ただし、395・396など摩滅が著しいものが多く、全ての文様が観察できたとはいえない。389・390の胴部には、縄文が羽状に施されている。389では頸部の縦方向のミガキ調整、胴部下半のミガキ調整も観察することができる。底部は平底で占められているが、木葉痕が確認できるのは415だけである。

416～420は、SD59出土の高坏である。図化できたのは脚部のみである。胎土や形状などから、418だけは古墳時代の土師器高坏の屈折脚、その他は菊川様式の中に位置づけできる高坏であると判断できる。419・420の接合部には羽状刺突文がめぐる。416・417には認められないが、摩滅のために消失している可能性もある。416・417・420は、細い接合部からやや開く形状を呈する。416は脚裾まで残存する短めの脚部であり、外面の不明瞭な段と内面の屈折稜を介して脚裾部に至る。

全体的にみると、概ね弥生時代後期中葉～末葉の中に位置づけることができるが、SD58（SB50周溝）には古い時期（弥生時代後期前葉）、SD59には新しい時期（古墳時代）の遺物も混在している。前者は、より古い住居跡（SB48）などからの流入・混在が考えられるが、後者についての具体的な流入過程は特定し難い。SD59上層から山茶碗（947）も出土していることから、長期に渡ってSD59の場所が窪地になっていたと推測することはできる。SB49～51の先後関係については、遺構の切り合いからSB49が最も古く、SB51が最も新しいことがわかっている。弥生時代後期中葉～末葉の中で建て替え・拡張しながら営まれたと把握することができる。

SB52～56、62・64出土土器（421～450）　SB52・53・56・62・64は、出土土器が少ない。SB52出土土器には櫛刺突がめぐる壷の胴部片、SB56出土土器には三角突帯を伴う壷の肩部片、SB62・64出土土器には棒状浮文が配置された壷の複合口縁が認められる。SB52出土土器は弥生時代後期中葉以降、SB56出土土器は弥生時代後期前葉頃、SB62・64出土土器は後期中葉前後に位置づけることもできるが、住居跡の時期を示すとは限らない。SB55は、これらより多くの土器が出土しており、甕・壷・高坏を確認することができる。しかし、いずれも小破片に限られており、出土土器のみから住居跡の時期を詳細に特定することは難しい。

SB54およびその周溝（SD73・74）からは、やや多くの土器が出土している。SB54（住居跡）の出土土器は小破片に限られる。台付甕の胴部や台部のほか、平底の底部片、端面と内面に縄文が施された折り返し口縁といった壷の破片が認められる。周溝の出土土器には、いくつか残存の良い個体が存在する。423は、口縁部と胴部中位に欠損のある壷である。頸部下端に押圧横線文、その下には羽状刺突文がめぐる。胴部最大径が下寄りにあり、明確な稜を伴う。436は、鍔状口縁の高坏の坏部である。口縁部には折り返しを伴うが、刻みなどの文様は認められない。接合部に櫛刺突がめぐることがわかる。これらは、概ね弥生時代後期中葉～後葉に位置づけることができる。

SB67・68（451～472）　SB67は焼失した住居跡であり、比較的まとまった土器の出土があった。台付甕（451～457）は、全ての口縁部に刻みがめぐる。肩部外面に横方向のハケ調整は認められない。454の胴部下寄りに横方向のハケ調整を観察することができる。接合部は比較的細く、粘土帯などの補強も認められない。壷（458～467・471）は、大きく開いて折り返しを伴う口縁部、細い頸部と下膨れの胴部をもつものが多い。底部には平底と上げ底状のものとがある。460・461の胴部上半には縄文が施されている。なお、469は上記したような壷ではなく、碗形を呈する可能性があるが、特定はできない。470は鍔状口縁の高坏片である。以上の土器群は、概ね弥生時代後期前葉に位置づけることができる。

SB68からの出土遺物は少なく、図化できたものは底部片だけである。

SB71～76・81出土土器（473～489）　これらの住居跡からの出土土器は、決して多くはない。SB71からは三角突帯がめぐる壷の肩部片（475）、SB81からは上げ底状の壷の底部片（489）の出土が認められ、弥生時代後期前葉に位置づけできる可能性がある。SB72出土の高坏（480）などは後期中葉に下る可能性もあるが、積極的に後期後葉以降に位置づけできる出土土器はない。

SB82出土土器（490～502）　住居跡の周溝から、比較的多くの土器が出土している。台付甕には刻みのない口縁部（491）などの破片、高坏には羽状刺突文がめぐる接合部片（494・495）がある。壷は、受け口状の口縁部、太めで直立せずに内傾する頸部、平底の底部などが認められる。文様には、口縁部外面の斜格子文や肩部の羽状刺突文が認められる。490は、壷と同様の胴部から屈折を介して短い口縁部に至る破片である。各種の特徴から、弥生時代後期中葉～後葉に位置づけることができる。

SD88・97・99、SB88・89出土土器（503～515）　SD88（住居の周溝）やSB88の周溝（SD93）からは、台付甕などの小破片が出土している（503～508）。SD97・99（住居の周溝）からは、羽状刺突文や赤彩のある壷の胴部片（511・512）、内傾する短い頸部と内湾して開く口縁部の壷の破片（510）なども認めら

れる。総じて弥生時代後期後葉～末葉のものと把握できるが、少ない出土遺物から遺構ごとの時期を詳細に特定することは難しい。

SB89の周溝（SD100）からは、上記の遺構より多くの土器が出土している。台付甕（513）と肩部に結節縄文が施された壷（514・515）が認められる。壷の口縁部には、受口状の複合口縁（514）と外反して開く折り返し口縁（515）がある。以上のような壷の特徴などから、弥生時代後期末葉のあたりに位置づけることができる。なお、遺構の切り合い関係においては、SB89（SD100）がSD97・99より新しいと把握できる。

SB95・96、99～102、104、165出土土器（516～534）　いずれも遺物の出土量が少なく、SB165以外の出土土器は小破片に限られる。刻みのめぐる甕の口縁部（519）、壷や高坏の折り返し口縁部（520・526・527）、平底の壷の底部（518・522～525）などが認められる。いずれも弥生時代後期の中に位置づけできることはわかるが、これらから各遺構の時期の詳細を特定することは難しい。

SB165の周溝（SD115）からは、甕・壷の小破片のほかに小型壷（530・531）の出土が認められる。直立する壷の頸部（532）や上げ底状の壷の底部（534）の出土もある。弥生時代後期中葉のあたりに位置づけたいが、周溝からの少数の出土であり、確実に住居に伴うとはいい難い。なお、遺構の切り合いからSB165はSB110より古いことが把握できている。

SB110出土土器（535～628）　幾重にも切り合う各周溝（SD116～SD120）から、多くの土器が出土している。なお、切り合い関係からSD116→SD117→SD118→SD119→SD120という変遷が認められている。

SD116の出土土器（536～547）には、台付甕の台部片の他に壷や高坏の破片も認められる。高坏には、羽状刺突文がめぐる接合部、外面の弱い段と内面の屈折稜を伴う脚裾部が認められる。壷には、内傾する頸部や羽状刺突がめぐる肩部、平底の底部が認められる。概ね弥生時代後期中葉～後葉の中に位置づけることができる。541は古式土師器の高坏であり、より新しい遺構からの混在と判断したい。

SD117の出土土器（548～566）にも、各種の破片が認められる。台付甕には、端面に刻みがめぐる短い口縁部をもつ小型品（548）のほか、低い台部片（555）や厚く粘土を巻いた接合部片（551）などもある。高坏には、羽状刺突文がめぐる接合部片（558）や、折り返し口縁を伴う深めの坏部片（556）などがある。壷には、折り返しを伴う口縁部片（563）や下膨れ形の胴部片（560・561・564）、平底の底部片（562・565・566）などがある。560・561は小型の壷であるが、SD115（SB165）出土の530・531とは異なって縦長の器形を呈する。564には文様が観察できないが、摩滅のために消失している可能性がある。ただし、突帯や貼り付け文は本来よりなかった可能性が高い。これらは、概ね弥生時代後期中葉～後葉の中に位置づけることができる。

SD119の出土土器（567～578）には、口縁部に刻みが認められない台付甕（567・568）や平底の壷などが認められる。572は小型の壷であり、縦長の算盤玉に近い形状を呈する。573は、内湾気味に大きく開く口縁部、非常に短い頸部を伴う壷であり、肩部や口縁部内面に結節縄文が施されている。574の肩部には多段の羽状刺突文がめぐる。主に台付甕と573・574の特徴から、概ね弥生時代後期後葉～末葉の中に位置づけることができる。

SD120の出土土器（579～628）には、他よりも多くの台付甕や壷の破片、高坏片がある。台付甕には接合部片が多く、厚く粘土を巻いたものも少なくない（579・581・588・600）。599は他の多く（592など）と異なっており、刻みのない短い口縁部をもち、器壁はやや厚い。高坏には、羽状刺突文がめぐる接合部（601）や外面の段と内面の屈折稜を伴う脚裾（604）といった菊川様式の破片がある一方、細い接合部から裾へと大きく開き、円形の透孔が認められる古式土師器の高坏片（602・603）も認められる。

壷（605～628）には、他に比べて良好に残存するものが多い。ただし、全体を復元できるものはなく、摩滅が著しい場合が多い。口縁部には厚い折り返し口縁部（605）、薄い折り返し口縁部（606・607）、棒

状浮文を伴う受け口状口縁（609）、複合口縁（608・610・611）がある。厚い折り返し口縁（605）には、端面の刻みと内面の結節縄文・円形浮文が観察できる。薄い折り返し口縁部の606・607は細い頸部を伴うが、複合口縁の610・611の頸部は比較的太い。607・610の肩には突帯だけが認められたが、刺突文などの文様が摩滅によって消失している可能性がある。612の肩には結節縄文、613や小型壷の614には櫛刺突文がめぐる。胴部は下膨れ形、底部は概ね平底で占められている。以上のようなSD120出土土器は、概ね弥生時代後期末葉の前後に位置づけることができる。上げ底状の底部片（617）など古い時期のものについては、重複する別の遺構から流入した可能性も考慮する必要がある。

SB113～116出土土器（629～640）　いずれの住居跡も、決して多くの土器が出土しているわけではない。壷や台付甕の小破片の出土で占められており、出土遺物のみから各遺構の時期の詳細を特定することは難しい。ただし、壷の底部が全て平底であることなどから、総じて弥生時代後期中葉以降のもので占められていると推測することはできる。さらに、SB113出土土器については、刻みがめぐる短頸壷の折り返し口縁部片や刻みがめぐる甕の口縁部片があり、弥生時代後期の菊川様式の中で位置づけることができる。その一方で、SB115の出土土器は、円形透しを伴う円錐形の高坏の脚部（638）などといった古式土師器が主体となり、古墳時代前期のものとして把握することができる。

SB118・120出土土器（641～658）　SB118からは、残存が比較的良好な高坏（643）と壷（644）が出土している。高坏（643）は、口縁部から脚裾の屈折部までが残存する。口縁部は折り返しを伴う鍔状口縁であり、内面に縄文、折り返しの下面には刻みがめぐる。口縁部内面の段は明瞭である。接合部には三角突帯がめぐり、櫛刺突文が施されている。坏部のミガキ調整、脚部のミガキ調整とハケ調整の残存などが良好に観察できる。壷（644）は、外反して開く口縁部の下半と細長く直立する頸部、撫で肩で下膨れ形の胴部が残存する。内面では底部付近のハケ調整、外面では胴部上半に広く羽状に施された縄文、肩部にめぐる円形浮文、胴部下半に施された横方向のミガキ調整を認めることができる。円形浮文について、摩滅のために配置などの確定はできないが、等間隔に全周していた可能性が高い。これらは、弥生時代後期前葉～中葉に位置づけることができる。

SB118に隣接するSB120からも、比較的多くの土器が出土している。646～650は台付甕であり、口縁部は刻みのない「く」字の口縁が主体となる。648の口縁部は端部が内湾、端面が内傾する。刻みがめぐる649の口縁部も、端部が内湾する。647・648は、口縁部から明瞭な屈折を介して肩の張る胴部に至る。胴部には横方向に近いハケ調整が行われている。651は小型器台の脚柱部、652は菊川様式の高坏の脚裾部である。壷（653～656）には、平底の底部片以外に頸部付近の破片（653）がある。結節縄文がめぐる肩部から、なだらかに内傾する頸部につながる。口縁部とは屈折を介しており、外反する口縁部に至るものと復元できる。657は小型の鉢である。弥生時代後期の鉢のような口縁部に至る屈折はなく、全体に丸い形状を呈している。これらSB120出土土器の多くは、古墳時代前期に位置づけできる古式土師器である。653は菊川様式の中でも最新段階のものであり、同様の時期に併行するものとして把握できる。一方、652は明らかに古い時期の土器片であり、他の遺構からの流入などを考慮する必要がある。

SB122・126・128～130出土土器（659～674）　いずれの住居跡も、土器の出土量は少ない。SB122出土土器には、球形に近い胴部などの台付甕（659～661）、肩の結節縄文（無節）と下部の赤彩が観察できる胴部（662）や平底の底部（663）といった壷の破片が認められる。SB126およびSD124（周溝）出土土器には、刻みがめぐる壷の折り返し口縁（664）、平底の底部（666）、高坏の脚柱部（665）がある。高坏の脚柱部（665）は、本遺跡周辺地域の土器様式にはないものである。SB128出土土器には台付甕の台部（667）、SB129出土土器には小型高坏か器台の接合部（669）、端面や内面に結節縄文（無節）を施した壷の口縁部（670）などが認められる。いずれにおいても、菊川様式の最新段階のものや古式土師器が含まれていることから、概ね古墳時代前期に位置づけることができる。

SB133、136～138、140・141出土土器(675～683)　これらの住居跡においても土器の出土量は少なく、小破片に限られる。刻みがめぐる甕の口縁部片（675）や折り返しを伴う壷の口縁部（677・679・680）がある。いずれも弥生時代後期中葉～後葉の中に位置づけできるものであるが、少ない遺物から住居跡ごとの時期の詳細を特定することは難しい。

SB144～146、150出土土器(684～688)　これらの住居跡も土器の出土量は少なく、小破片に限られる。SB144出土の甕の口縁部片（684）は、非常に短い内湾気味の口縁部であり、胴部から明瞭な屈折を介して開き、刻みはめぐらない。SB146出土の高坏の脚部（687）は、細い接合部から開きながら裾部に至る。以上は古墳時代前期の古式土師器に該当するものである。SB150出土の壷の肩部（688）は、結節縄文が観察でき、菊川様式の最新段階に該当する可能性もある。SB145からは刻みのある壷の口縁部片（685）などが出土しており、弥生時代後期の中に位置づけできる可能性が高い。しかし、少ない遺物から住居跡ごとの時期の詳細を特定することは難しい。

SB155・156・158・159・163・164出土土器（689～699）　これらの住居跡も土器の出土量は少なく、小破片に限られる。SB156からは刻みがめぐる甕の口縁部（690）や内面に縄文が観察できる壷の折り返し口縁（691）、多段の羽状刺突文がめぐる壷の肩部片（692）などが出土している。壷の折り返し口縁はSB163出土土器にも、羽状刺突文がめぐる壷の肩部はSB164出土土器にもある。これらは概ね弥生時代後期中葉～後葉の中に位置づけることができる。しかし、少ない遺物から住居跡ごとの時期の詳細を特定することは難しい。切り合う住居跡からの流入なども考慮する必要がある。

（２）掘立柱建物跡出土土器

全部で190棟を数える掘立柱建物跡の内、50棟近くの建物跡の柱穴から、図化できる土器の出土があった。第１分冊の第４章第３節にて、建物規模や桁行の間数から建物跡を分類している。図化できた土器の出土率は大型建物跡に該当する３Ａ・２Ａが高いが、出土数は桁行２間の中型建物跡（２Ｂ・２Ｃ）が最も多い。

この出土土器には、柱の裏込め土に混在したものと柱痕等の中に流入したものがあると想定することができる。遺構の状態を考慮する限りにおいては、多くは前者に該当すると推測できる。また、柱穴規模が最大クラスのⅠ（第１分冊第４章第３節を参照）の建物跡では、６割以上に図化できる土器の出土があり、Ⅱでは４割弱、Ⅲでは２割、Ⅳ・Ⅴでは１割以下となる。土器片出土が柱穴全体の大きさに左右されることから、柱痕に土器片が流入する場合の方が少ないと判断できる。以上から、これら土器の多くは出土した建物跡よりも古い時期のものであると推察することができる。

図化した出土土器（700～753）には甕と壷が多く、高坏は３点のみ（703・715・720）である。甕は台付甕で占められ、口縁部には折り返し口縁（710）や刻みがめぐる口縁（752）もあるが、刻みのない口縁部が比較的多い（731・746・748・750）。刻みのない口縁部は桁行２間の中型建物跡（２Ｂ）と布掘りのSH111からの出土である。高坏は、刺突文がめぐる接合部片(703・720)と刻みがめぐる折り返し口縁部片（715）があり、大型（２Ａ・３Ａ）の建物跡とSH66から出土している。

壷の口縁部には、広口・短頸の713・730や内湾しながら開く単純口縁の721の他に、外反しながら開く折り返し口縁が多い(704・706・727・735・736・742・747・749など)。折り返しを伴う口縁部の中には、内面に縄文や結節縄文、端面に縄文や櫛刺突などがめぐるものがある。壷の底部は全て平底である。文様のある壷の胴部片は、肩に横線文と羽状刺突がめぐる711だけである。これら壷の多くは、桁行２間の中型建物跡（２Ｂ・Ｃ）からの出土である。

SB133、136～138、140・141出土土器(675～683)　これらの住居跡においても土器の出土量は少なく、小破片に限られる。刻みがめぐる甕の口縁部片（675）や折り返しを伴う壷の口縁部（677・679・680）がある。いずれも弥生時代後期中葉～後葉の中に位置づけできるものであるが、少ない遺物から住居跡ごとの時期の詳細を特定することは難しい。

SB144～146、150出土土器(684～688)　これらの住居跡も土器の出土量は少なく、小破片に限られる。SB144出土の甕の口縁部片（684）は、非常に短い内湾気味の口縁部であり、胴部から明瞭な屈折を介して開き、刻みはめぐらない。SB146出土の高坏の脚部（687）は、細い接合部から開きながら裾部に至る。以上は古墳時代前期の古式土師器に該当するものである。SB150出土の壷の肩部（688）は、結節縄文が観察でき、菊川様式の最新段階に該当する可能性もある。SB145からは刻みのある壷の口縁部片（685）などが出土しており、弥生時代後期の中に位置づけできる可能性が高い。しかし、少ない遺物から住居跡ごとの時期の詳細を特定することは難しい。

SB155・156・158・159・163・164出土土器（689～699）　これらの住居跡も土器の出土量は少なく、小破片に限られる。SB156からは刻みがめぐる甕の口縁部（690）や内面に縄文が観察できる壷の折り返し口縁（691）、多段の羽状刺突文がめぐる壷の肩部片（692）などが出土している。壷の折り返し口縁はSB163出土土器にも、羽状刺突文がめぐる壷の肩部はSB164出土土器にもある。これらは概ね弥生時代後期中葉～後葉の中に位置づけることができる。しかし、少ない遺物から住居跡ごとの時期の詳細を特定することは難しい。切り合う住居跡からの流入なども考慮する必要がある。

（２）掘立柱建物跡出土土器

全部で190棟を数える掘立柱建物跡の内、50棟近くの建物跡の柱穴から、図化できる土器の出土があった。第１分冊の第４章第３節にて、建物規模や桁行の間数から建物跡を分類している。図化できた土器の出土率は大型建物跡に該当する３Ａ・２Ａが高いが、出土数は桁行２間の中型建物跡（２Ｂ・２Ｃ）が最も多い。

この出土土器には、柱の裏込め土に混在したものと柱痕等の中に流入したものがあると想定することができる。遺構の状態を考慮する限りにおいては、多くは前者に該当すると推測できる。また、柱穴規模が最大クラスのⅠ（第１分冊第４章第３節を参照）の建物跡では、６割以上に図化できる土器の出土があり、Ⅱでは４割弱、Ⅲでは２割、Ⅳ・Ⅴでは１割以下となる。土器片出土が柱穴全体の大きさに左右されることから、柱痕に土器片が流入する場合の方が少ないと判断できる。以上から、これら土器の多くは出土した建物跡よりも古い時期のものであると推察することができる。

図化した出土土器（700～753）には甕と壷が多く、高坏は３点のみ（703・715・720）である。甕は台付甕で占められ、口縁部には折り返し口縁（710）や刻みがめぐる口縁（752）もあるが、刻みのない口縁部が比較的多い（731・746・748・750）。刻みのない口縁部は桁行２間の中型建物跡（２Ｂ）と布掘りのSH111からの出土である。高坏は、刺突文がめぐる接合部片(703・720)と刻みがめぐる折り返し口縁部片（715）があり、大型（２Ａ・３Ａ）の建物跡とSH66から出土している。

壷の口縁部には、広口・短頸の713・730や内湾しながら開く単純口縁の721の他に、外反しながら開く折り返し口縁が多い(704・706・727・735・736・742・747・749など)。折り返しを伴う口縁部の中には、内面に縄文や結節縄文、端面に縄文や櫛刺突などがめぐるものがある。壷の底部は全て平底である。文様のある壷の胴部片は、肩に横線文と羽状刺突がめぐる711だけである。これら壷の多くは、桁行２間の中型建物跡（２Ｂ・Ｃ）からの出土である。

（3）土坑・不明遺構出土土器

SF21出土土器（754～779）　土坑から出土した土器群であり、出土状況から一括性が高いと判断できる。台付甕は、口縁部には押引刺突文がめぐるもの（754）と無文の「く」字口縁（756・757）とがあり、胴部は球形に近く（755・756など）、台部は低い傾向（759・760・762など）にある。766～769は小型の高坏や器台の脚部片であり、細い接合部から裾へと広がる形状を呈し、円形の透孔をもつもの（766・767）もある。その一方で、770は菊川様式の特徴をもつ高坏の鍔状口縁の可能性が高い。壷は、胴部が球形のもので占められている。口縁部には、棒状浮文のある受口状の複合口縁（771）や内面に結節縄文のある折り返し口縁（772）が認められる。773の肩には結節縄文、口縁部内面には赤彩が認められる。以上は、古式土師器と菊川様式の最新段階に位置付けできるものとがあり、総じて古墳時代前期前半に位置づけることができる。

SF07・08・12・17・19出土土器（780～785）　各土坑から少数の土器片が出土している。図化できたものは全て壷であり、底部は平底で占められる。肩部の文様は観察できないが、781については摩滅のために消失した可能性もある。少なくとも、突帯はめぐらない。器形の特徴から、総じて弥生時代後期後葉以降のもので占められると判断することができる。

SF22出土土器（786～796）　小破片で占められるが、比較的多く出土している。甕には、「く」字状の無文の口縁部片（786）とS字状に復元できる口縁部片（788）などがある。壷には、折り返し口縁（792）や刺突がめぐる肩部片（793）などがある。792の折り返し口縁は、SF21出土の772と同様に折り返し部が下垂する。これらは、概ね古墳時代前期に位置づけることができる。

SX03～06、09～11出土土器（797～810）　SX03からは縦長の算盤玉形を呈する壷の胴部（797）、SX04からは細い接合部から大きく開く小型高坏か器台の脚部片（798）、SX06からは壷の底部～胴部（805）が出土している。805は摩滅・劣化が著しく、文様などは全く観察できない。図化した形状についても、変形したものを示している可能性がある。SX09～11からは、台付甕の接合部や壷の底部（806・810）、折り返し口縁（809）などの小破片が出土している。798は古式土師器であり、古墳時代前期に位置づけることができる。797については、特徴の近い土器がSB110の周溝から出土しており（561・572）、弥生時代後期末葉のあたりに位置づけできる可能性がある。その他については、時期の詳細を特定することは難しい。

SX05からは、比較的多くの土器片が出土している。799はS字状口縁の甕の破片である。肩の横ハケは施されない可能性が高いが、摩滅が著しく消失している可能性もないとはいえない。粘土帯を巻いて指頭痕をめぐらせた台付甕の接合部（800）、低く大きく開いた台部（801）などもあるが、明らかに菊川様式に該当するという破片はない。古墳時代前期の土器群として位置づけることができる。

（4）周溝墓出土土器

SZ01出土土器（811～847）　周溝から多くの土器が出土しており、残存の比較的良いものが含まれている。台付甕・鉢・壷の各種が認められるが、図化できたものには壷と台付甕が多い。図化できた土器のうち、明確に高坏であるといえるものはない。

台付甕は、口縁部に刻みのめぐらないものが多い（811～813）。814の口縁部には刻みがめぐるが、疎である。813は口縁部と胴部とで外面ハケ調整の方向が異なり、両者間の屈曲はやや鋭い。その一方で、811・812・814の屈曲は鈍く、外面ハケ調整における口縁部と胴部との差異も明確でない。台部には比較的高いもの（817）と低いもの（816・818）とがあり、接合部に粘土を厚く巻いて指頭痕をめぐらせたもの（819・822）も認められる。823・824は、折り返し口縁を伴う大型の鉢である。体部のつくりは壷の胴部下半と共通する。823の口縁部は屈曲して開き、広口の短頸壷に類似する。824の口縁部には片口

を伴う。822は高坏の脚部の可能性があるが、摩滅などのために判断し難い。

壷は、平底の底部と下膨れ形の胴部のもので概ね占められるが、大・中・小の違いがある。口縁部は、大型品には折り返し口縁（825）と複合口縁（827・833）、小型品には内湾気味に開く単純口縁（834）が認められる。口縁部の文様が観察できるものはない。肩部については、大・中型品には羽状刺突文がめぐるものが多く（828・830・832・833）、そこに段・押圧横線文・結節縄文などが伴う場合（828・830・832）がある。小型品には結節縄文が施されたもの（834）がある。826・831などは摩滅が著しいために文様が消失している可能性があるが、829・835などは本来より文様のなかった可能性がある。胴部最大径付近には横方向の磨き調整が観察できるものが多いが、中位以上にはハケ調整が残るもの（831・832・835・837）がある。

以上のような台付甕・鉢・壷の諸特徴から、SZ01出土土器は概ね弥生時代後期末葉のあたりに位置づけることができる。

SZ02出土土器（848～855）　SZ01に比べると遺物量は少なく、出土土器の残存も悪い。台付甕の低い台部、非常に低く裾部に至る稜が不明瞭な高坏の脚部、押圧横線文と刺突がめぐる壷の肩部や縄文と折り返しを伴う口縁部などが認められる。これらの諸特徴から、概ね弥生時代後期末葉～古墳時代初頭の中に位置づけることができる。なお、遺構の切り合い関係においては、SZ02はSZ01よりも新しいことがわかっている。

（5）遺構外出土土器

表土除去や流土掘削の際にも多くの弥生土器や古式土師器の破片が出土しており、伴う遺構が特定できないものも少なくない。その中で、図化できたものが856～933である。残存の良いものはなく、多くは小破片である。いずれの特徴も、遺構出土土器の中で示すことのできるものであり、871・925などのように弥生時代後期前葉に位置づけできるものから、861・886・931・932・933のような古式土師器までがある。古式土師器は調査区東部からの出土が多い傾向にある。

3．その他の土器

表土・流土や遺構の覆土の上層からは、古墳時代後期以降の土器の出土も認められた。934～936は古代の土師器である。いずれにも赤彩が認められるが、934・935は褐色で砂粒の多い粗い胎土であるのに対して、936の胎土は白く細かい。須恵器には坏蓋（937）、坏身（940）、甕（938・939）の破片がある。坏蓋は古墳時代終末期、坏身は奈良時代のものと判断できる。

941・943・944は灰釉陶器であり、胎土などは清ヶ谷産のものに類似している。これらについては、概ね11世紀代の中に位置づけることができる。942・945・949は、東遠江（金谷）産のものに類似した胎土・色調をもつ山茶碗であり、概ね12世紀前半のあたりに位置づけることができる。947・950も12世紀前半のあたりに位置づけできる山茶碗であるが、胎土などは渥美・湖西産のものに類似する。951～955は、調査区西部の撹乱からまとまって出土したかわらけである。いずれも外反する体部と糸切痕が残る底部を伴う。（註２）

第2節　石　器

（1）石　鏃

石鏃は、半分以上が残るものを図に掲載した。全て打製の石鏃であり、未製品を合わせて54点ある。図は、概ね基部の抉りが深いものから順に並んでいる。抉りの深いもの（956など）は鏃身長の3割程になるが、0割（抉りのないもの）まで様々であり、抉りの度合に疎密があるわけでもない。大半は、凹基無茎に分類されるものである。平基として把握できるのは、抉りが鏃身長の1割以下となる990～999のあたりとなる。1000は凸基無茎、1001は有茎の石鏃である。1006～1009は凹基無茎もしくは平基の未成品であるが、980～999の中にも製作途中のものが含まれている可能性がある。

凹基無茎・平基　同じ凹基無茎や平基の石鏃であっても、長：幅の比率や側縁のラインにおいて様々なものがある。長さと幅の比率においては、概ね1：1に近いもの（956・968・970・980・985など）から、長さが幅の1.5倍以上になる細長いもの（963・965・976・978・979・992など）まである。側縁ラインにおいては、直線的なもの（957・958・965・976など）から大きく膨らむ（ふくらの張る）もの（969・979・980など）まであり、さらに、弧状に凹むものも少数ある（975・977）。なお、962・972・978・986・987・989などは先端部付近の側縁が弱く抉れており、先端が強調されている。

大きさについては、幅0.9㎝程度のものから幅が2㎝を超えるものまであり、形態に関わらずに様々である。石材は、凝灰岩・シルト岩・黒曜石が多く、頁岩・瑪瑙・安山岩などが数点ずつある。形態や大きさとの明確な相関関係はないが、傾向として、短めで大きめのものには凝灰岩や頁岩が多く、細長いものには黒曜石やシルト岩が多いことが指摘できる。なお、未製品とした1006～1009の石材は、凝灰岩とシルト岩である。加工は両面に細かい調整を施しているものが主体となるが、二次調整が側縁加工のみになるもの（979・996・997・999・1005など）もある。また、大型品を中心に二次調整の粗いものがある一方、細長いものを中心に精緻な二次調整を施したもの（965・966など）もある。

凸基無茎・有茎　1000は凸基無茎の石鏃である。シルト岩製の小型品であり、側縁が直線的な短めの形態を呈する。先端付近の側縁が弱く抉られており、先端が強調されている。1001は有茎の石鏃であり、石材は凝灰岩である。鏃身部は細長く、五角形に近い形状を呈する。左右の側縁中央に突出部があり、側縁は上下に別れてそれぞれ弱く抉れている。基部も弱く抉れる。この有茎石鏃については、形態的特徴から縄文時代の石鏃ではなく、弥生時代後期の打製石鏃である可能性も指摘できる。

出土位置と時期　石鏃の出土位置は、大半が調査区西部にあり、遺構内外の堆積土中や住居跡の床面構築土から出土している。とくに調査区南西隅部に集中しているが、調査区西部の西縁～南縁には落し穴などの縄文時代の遺構（SF01～18）が分布しており、その範囲に石鏃出土の集中が概ね重なると把握することができる。すなわち、石鏃の多くについては、縄文時代の落し穴などに関連している可能性が指摘できる。なお、縄文土器片が多く出土したSB60付近においては、石鏃の出土が少なかった。居住と狩猟などの場の違いが影響している可能性が考慮される（第7章、第316図）。

そうした一方で、弥生時代後期の集落に伴う打製石鏃が含まれている点も指摘することができる。有茎の1001については、先述のとおり弥生時代の石鏃である可能性が指摘できるが、石鏃集中範囲から離れた場所で出土しており、出土位置においても縄文時代の石鏃群とは異なることがわかる。958・965・984・986・998・1000・1002・1009も、縄文時代の遺構や石鏃の集中範囲から外れた場所で出土しており、これらに弥生時代の石鏃が含まれている可能性はある。965・1002については、975・976などとともに整った長三角形の形態が特徴的であり、他の多くとは異質である。その内の3点は黒曜石製、1点は瑪瑙・玉髄製である。

（2）その他の石器

石錐・石匙・スクレイパー・楔形石器・石核　1010はシルト岩製の石錐、1011は縦形石匙、1012～1014は横形石匙である。1011と1014はシルト岩製、1012は頁岩製、1013は砂岩製である。1014の刃には強い磨耗痕がみられる。1015～1018は、削器や掻器といった様々なスクレイパーである。これらにも、頁岩・砂岩・シルト岩が用いられている。1019は、緑色の凝灰岩製の楔形石器である。1020は頁岩の石核であるが、縁辺に細かい剥離が連続しており、二次調整もしくは使用による痕跡の可能性が指摘できる。

これらの出土は調査区西部に多く、中央部出土は1012（石匙）、東部出土は1020（石核）だけである。遺構内外の堆積土中や住居跡の床構築土からの出土である。調査区西部においては、西寄りに比較的多いものの、石鏃の集中範囲との重なりは浅い。

石斧・円盤形石器・石錘　1021・1022は、ホルンフェルス製の打製石斧である。1021は完形であるが、1022は基部が欠損しており、刃部には顕著な磨耗が観察できる。1023・1025は偏平片刃石斧、1024は鑿形の石器であるが、いずれも凝灰岩の磨製石器である。1023の刃は中央で84°、両側で83°である。1024の刃は62°である。1026・1027は凝灰岩製であり、太型磨製石斧の基部の可能性が高い。1028は砂岩礫の周囲に剥離のある円盤形の石器、1029～1032は、楕円形の薄い小礫の両端に打ち欠きのある石錘である。

円盤形石器は調査区南西隅部からの出土である。石斧の出土は調査区西部にかたよるものの、必ずしも石鏃集中範囲内とは限らない。むしろ、調査区西部の中央やSB53・55といった、集中範囲外の石鏃出土地との重なりが目立つ。磨製石斧だけではなく打製石斧についても、弥生時代後期の集落との関連を含めて考慮する必要がある。石錘の出土は、明らかに石鏃の出土傾向と異なる。形態的には縄文時代の石錘の特徴を伴うが、弥生時代のものであっても問題ないと考える。いずれにおいても、遺構内外の堆積土中や住居跡の床構築土からの出土である。

敲石・磨石・砥石・石皿・台石　1033～1040は端部に敲打痕のある敲石である。1036は閃緑岩、その他は砂岩の礫である。1033・1035は球形に近いが、多くは細長い形状を呈する。敲打痕は、両端に認められるものが多く、加えて側面にも認められるものがある。1038と1040は、両端と側面2方向の計4ヶ所に敲打痕がある。1039・1036の敲打痕は、凹みが比較的浅い。トチの実などの比較的やわらかいものを対象とした可能性が指摘できる（註3）。1034・1040には被熱が認められる。

1041は、緑色片岩礫を用いた敲石である。端部は欠損、側面に敲打痕が認められる。全体的に磨耗が顕著である。着装による磨耗である可能性、太型の磨製石斧の転用である可能性が考慮される。1042は、凝灰岩の敲石である。太型の磨製石斧を転用した可能性があり、折れた断面には磨耗が認められる。

1043～1054は、磨石・砥石・石皿・台石の類である。1043・1044（ともに磨石）は凝灰岩、他は砂岩である。古墳時代前期の土坑（SF21）から出土した1048は、三方の側面に研磨が認められ、比較的整った方台形を呈している。その他は不整形なものが多い。磨面は、非常に滑らかで光沢を帯びたもの（1046など）や、深く凹んだもの（1050・1051など）がある一方、磨耗のわずかなもの（1052）もある。1047には、断面V字の溝が認められる。工具などの刃の研磨によるものとは観察できない。より小型の砥石などをつくるため、石材を分割しようとした可能性なども考慮される（註4）。

敲石・磨石・砥石・石皿・台石の出土位置は、石鏃のようなかたよりや集中はなく、調査区全体に対して分散している。他の種類の石器に比べると、住居跡の周溝内に検出された遺物群中からの出土や、床面直上からの出土（1039・1044・1049・1051・1052）が多い。敲石については、SD59やSD117といった比較的大きな住居跡の周溝からの出土が多い。砥石・石皿などは、調査区西部では住居跡の周溝と調査区中央付近、調査区中央～東部では竪穴住居跡からの出土が多い。なお、1045と1046は出土位置が比較的近いことから、組み合わさる可能性が指摘できる。

第３節　玉類など

（１）玉　類

1055は、SB113の覆土中から出土した鉄石英の管玉である。径0.3cm弱と細く、濃い赤褐色を呈する。片側の端部が欠損している。1056～1060はガラス小玉であり、1056は建物跡の柱穴中から、1057・1058・1060は各住居跡の床面上から、1059は住居跡覆土中から出土している。1056だけが濃青色であり、その他は水色を呈する。いずれも丸味が強く、形態の歪みが認められる。

（２）ガラス質の滓

不透明なガラス質の小さな塊が、少数出土している。これらは基本的に土が高温によって変化したものであり、ガラス製品の製作によるものとは限らない。

形状は、球形に近いもの（1064・1065）や針状のもの（1066）もあるが、基本的には不整形であり、形態に意図はないものと把握できる。色調は、明るい緑色を呈するもの（1062・1064・1066）と黒に近い青緑色を呈するもの（1061・1063・1065）とがある。いずれも不純物（土砂）を多く含み、1061などは縞状になっている。気泡は、黒に近い青緑色を呈するものの方に多く認められる。

これらは、周溝墓や住居跡の周溝などから出土している。1064は住居の床構築土中からの出土である。まとまった出土や分布のかたよりは認められない。

（３）骨片

各種遺構から骨片が出土しているが、極小さな破片や粉状のものばかりであり、何の骨か鑑定できる状態のものはない。

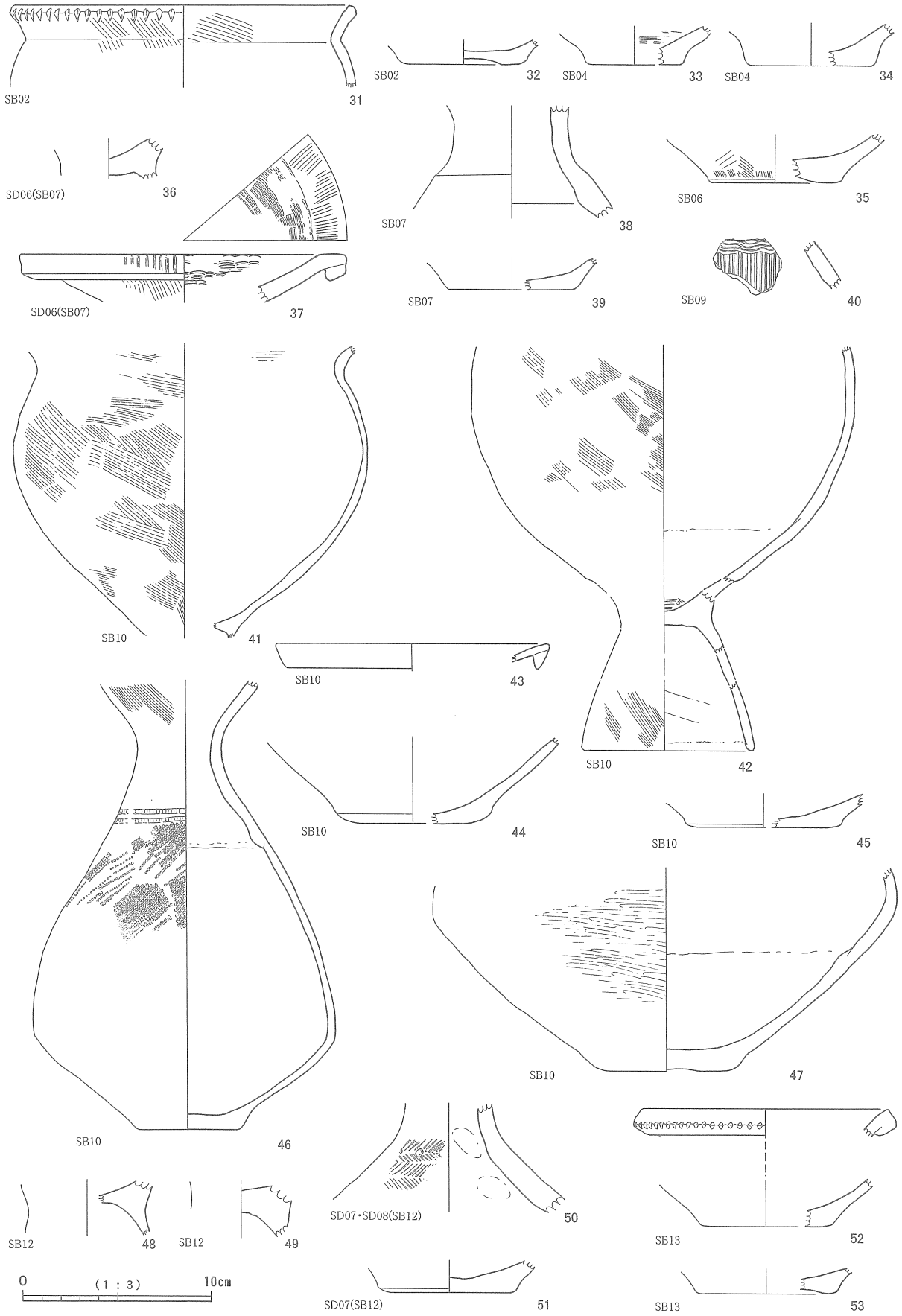
註

1　戸田哲也氏（玉川文化財研究所）より縄文土器にかかわる御教示をいただいた。
2　松井一明氏（袋井市教育委員会）より灰釉陶器・山茶碗・かわらけにかかわる御教示をいただいた。
3　株式会社アルカより御教示いただいた。
4　禰冝田佳男氏（文化庁）より御教示いただいた。

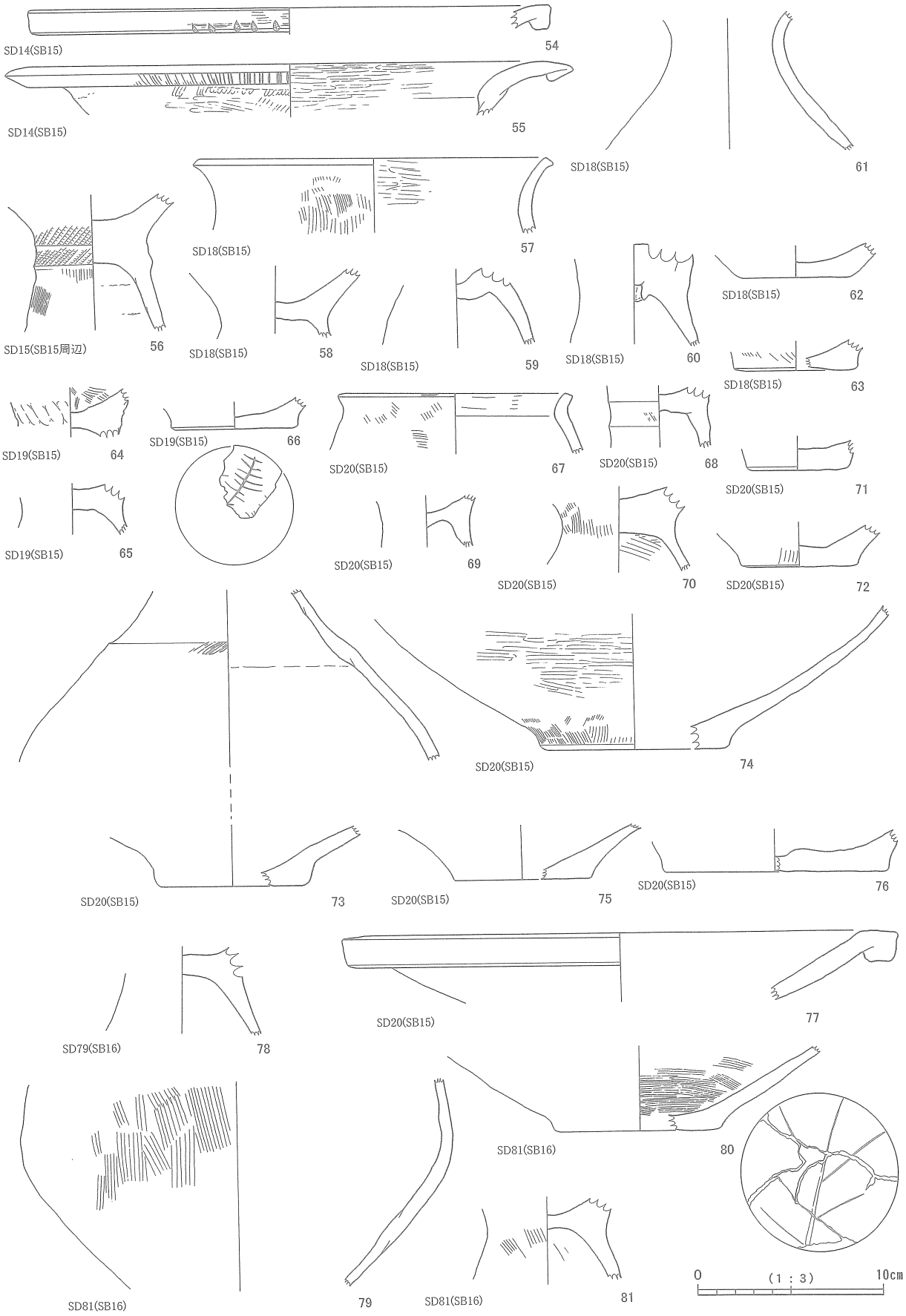
参考文献

岩本　崇　1995「菊川式土器における編年上の問題」『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所設立10周年記念論文集』
佐藤由紀男・萩野谷正宏・篠原和大　2002「遠江・駿河地域」『弥生土器の様式と編年　東海編』木耳社
鈴木一有　2002「古墳時代前期にかんする諸問題」『恒武西宮遺跡』浜松市文化協会
鈴木敏則　1996「遠江・駿河（後期）」『ＹＡＹ！』弥生土器を語る会
　　2002「西遠江の古式土師器－堤町様式」平野吾郎先生還暦記念論文集『東海の路』
中嶋郁夫　1988「いわゆる「菊川式」と「飯田式」の再検討」『転機』2
　　1997「東海東部の古式土師器」『静岡県史研究』13
松井一明　1989「宮口古窯跡群と清ヶ谷古窯跡群における須恵器・陶器生産についての一考察」『静岡県の窯業遺跡』静岡県教育委員会
　　1993a「遠江における山茶碗生産について」『静岡県考古学研究』№25
　　1993b「東海地域のかわらけ編年について」『久野城Ⅳ』袋井市教育委員会
　　1995「古墳時代前半期土器」『坂尻遺跡－遺物・総括編－』袋井市教育委員会

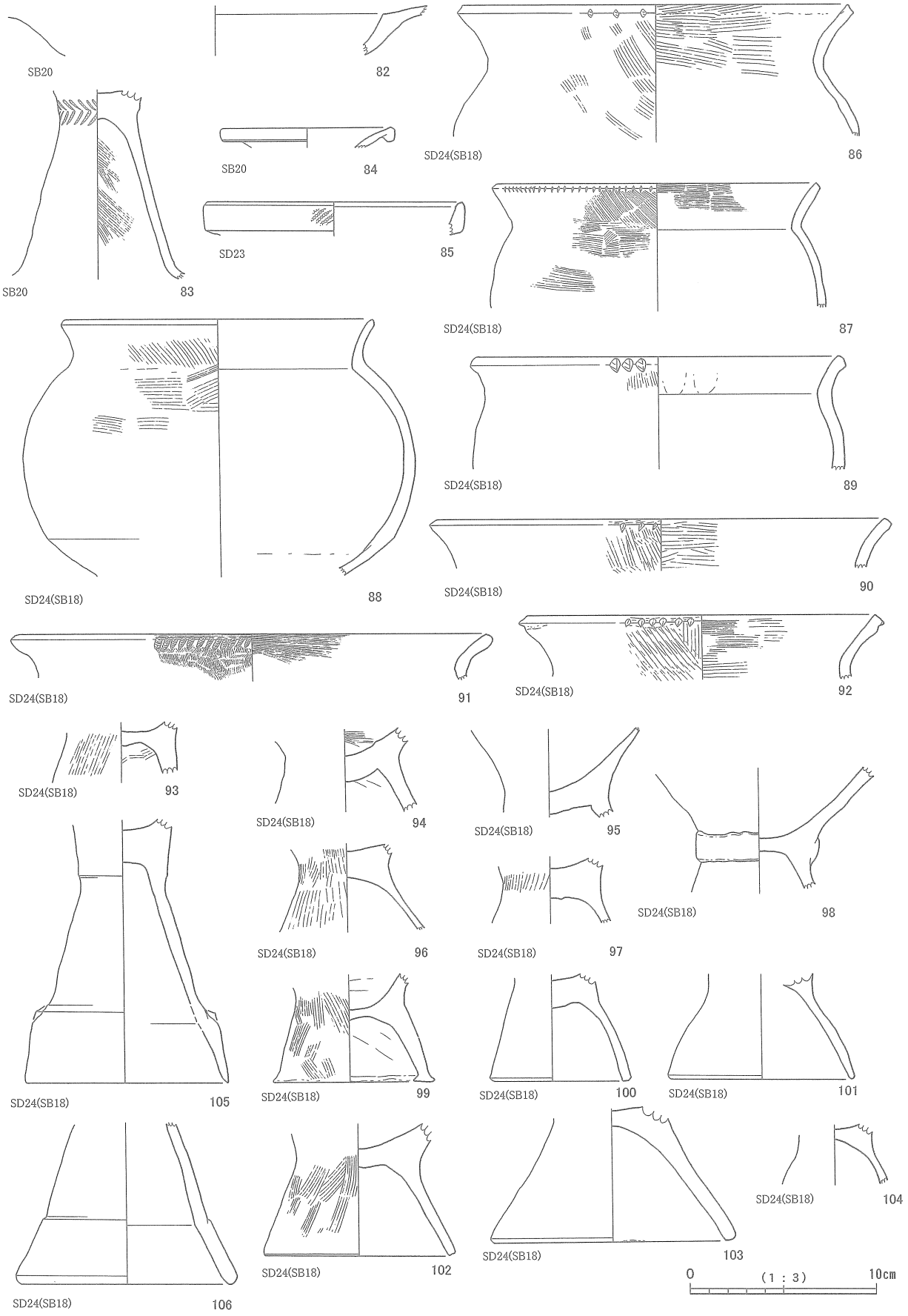
第258図　出土土器１（縄文土器）



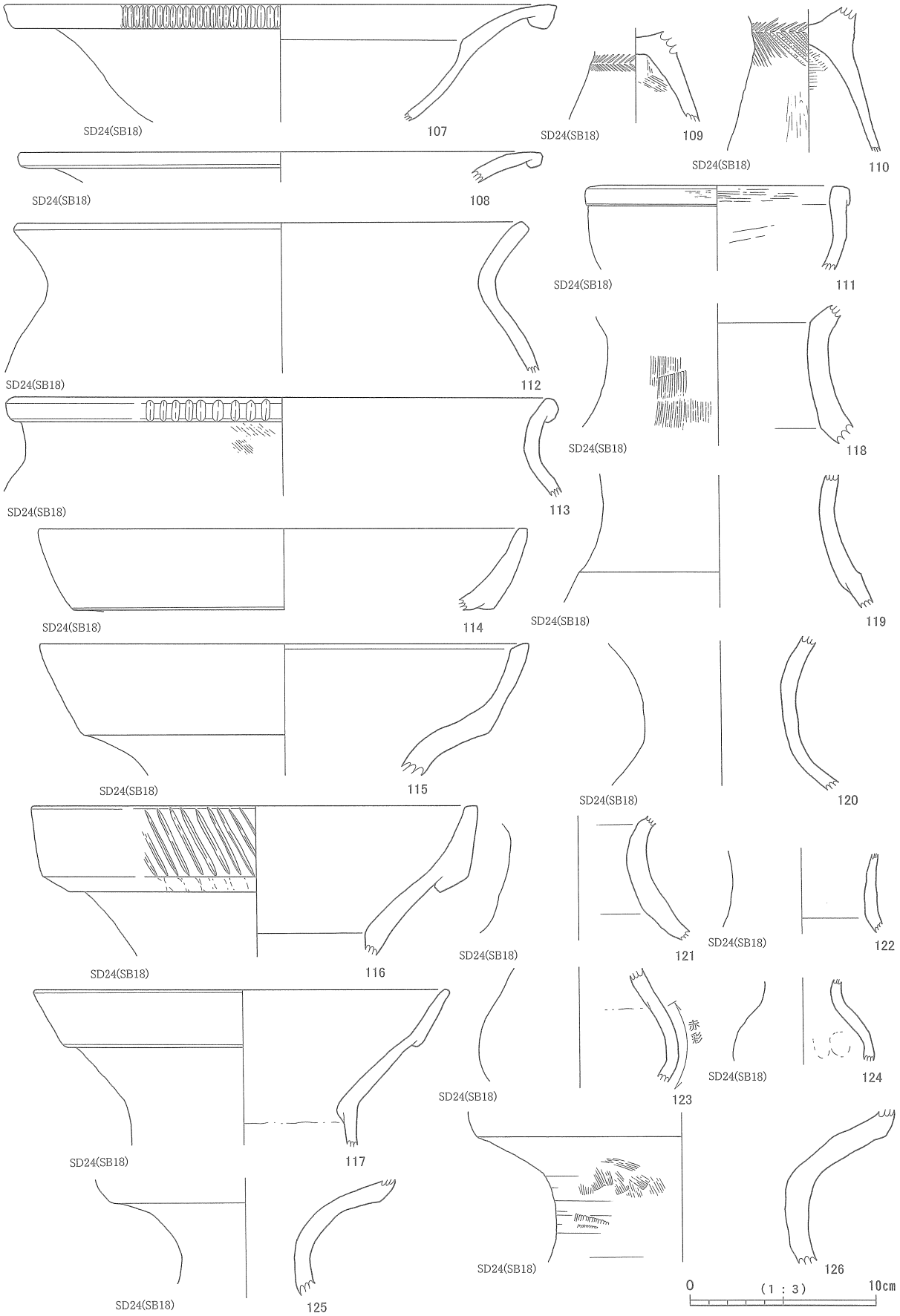
第259図　出土土器２（弥生土器・土師器）



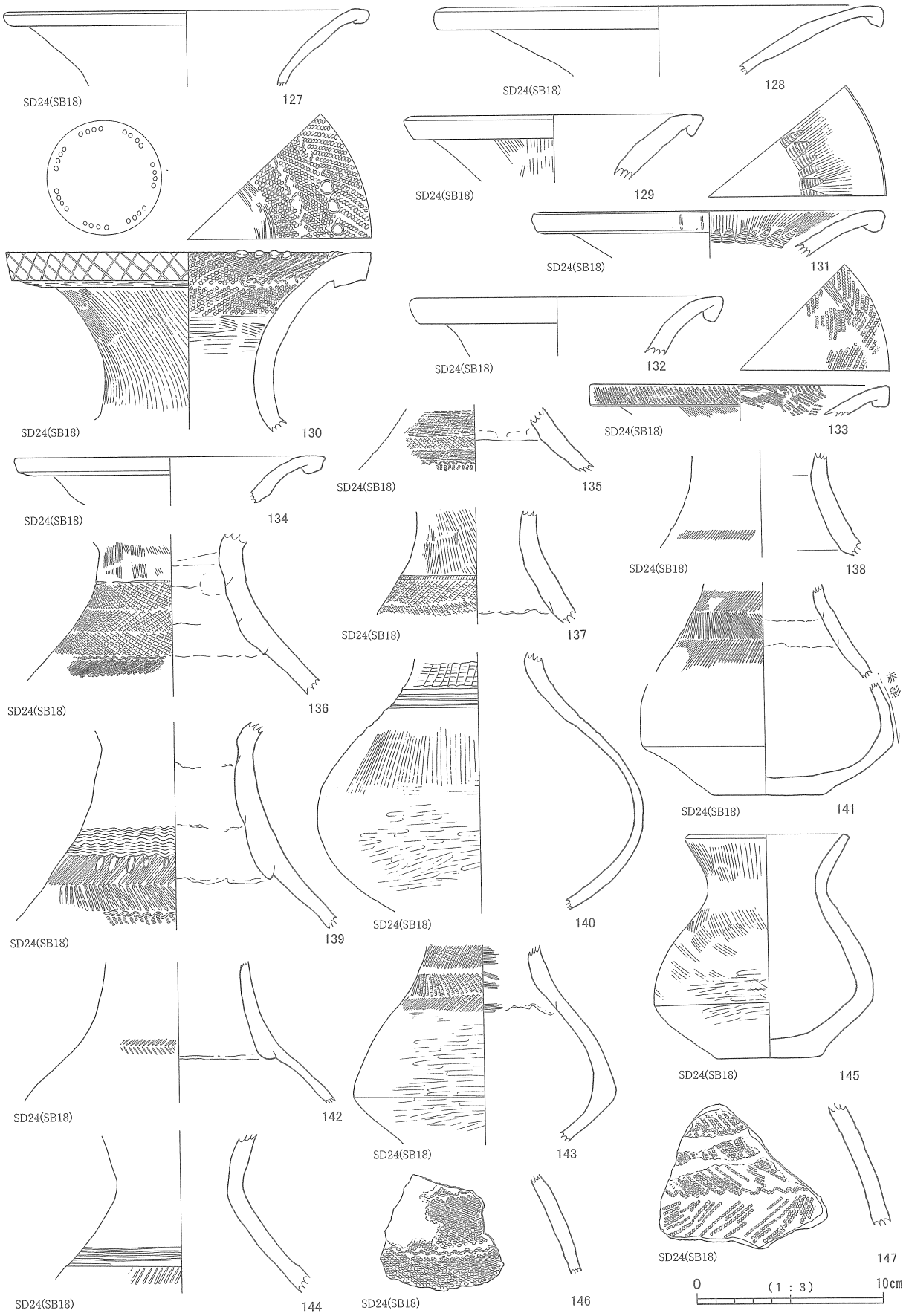
第260図　出土土器３（弥生土器・土師器）



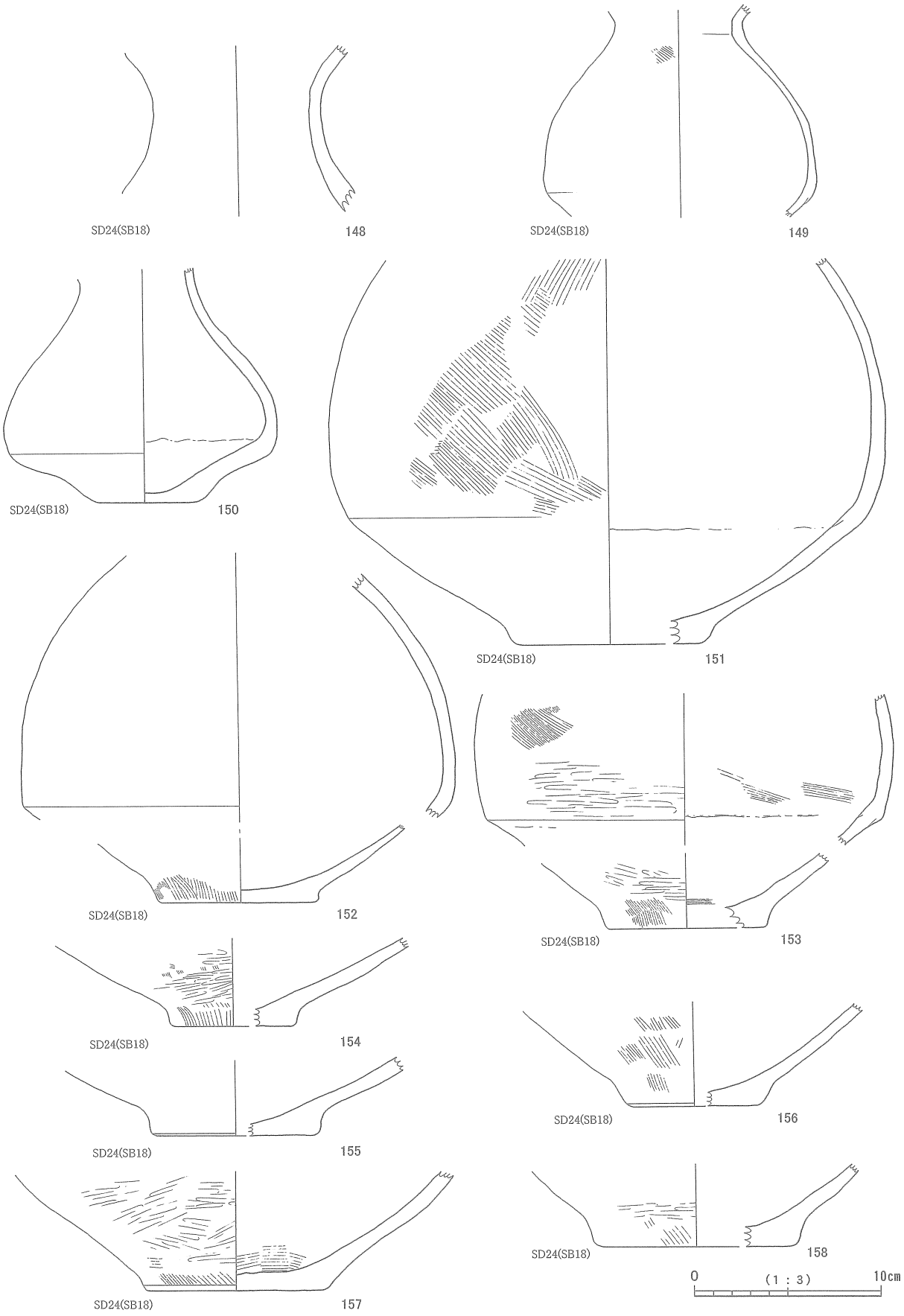
第261図　出土土器４（弥生土器・土師器）



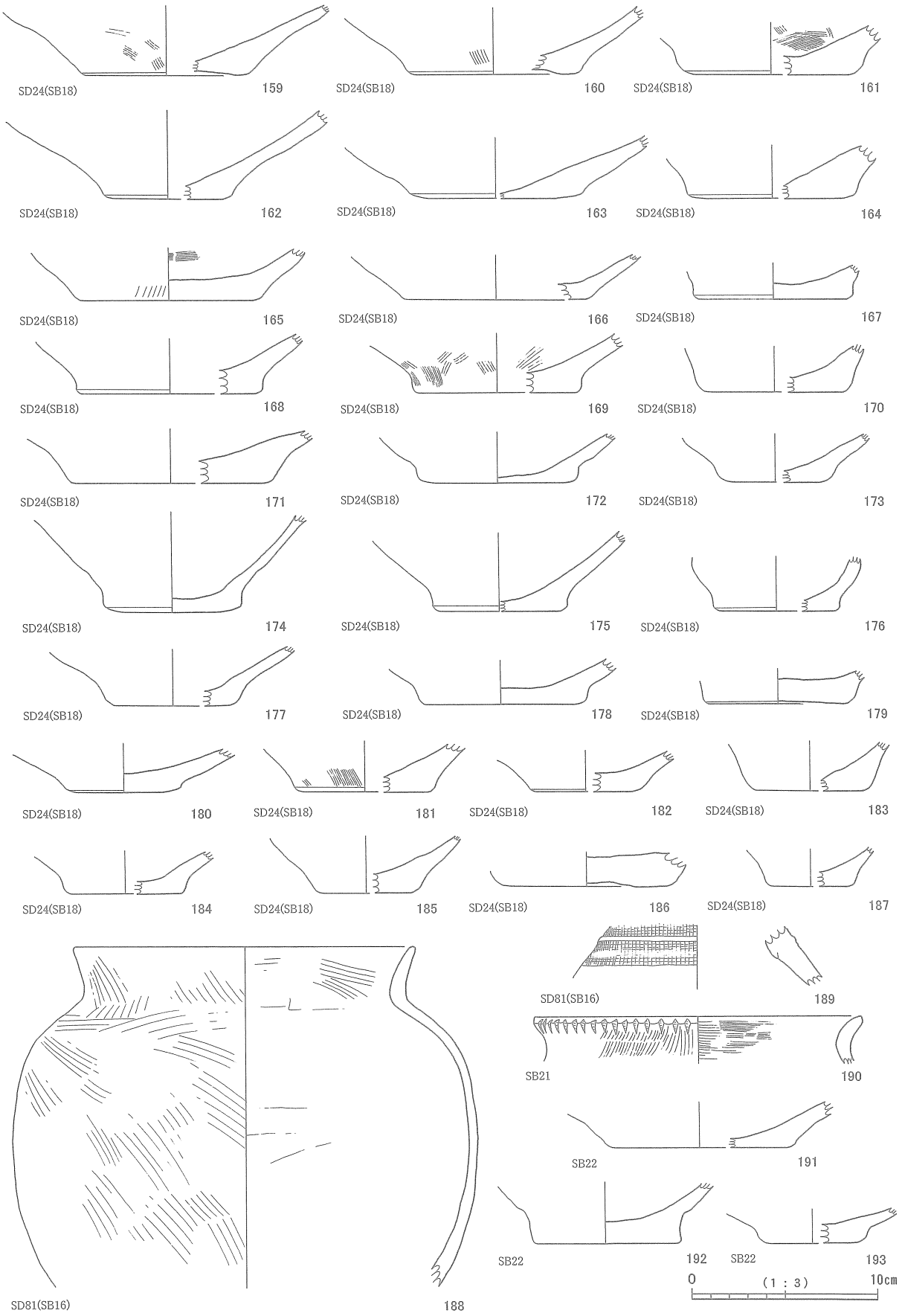
第262図　出土土器５（弥生土器・土師器）



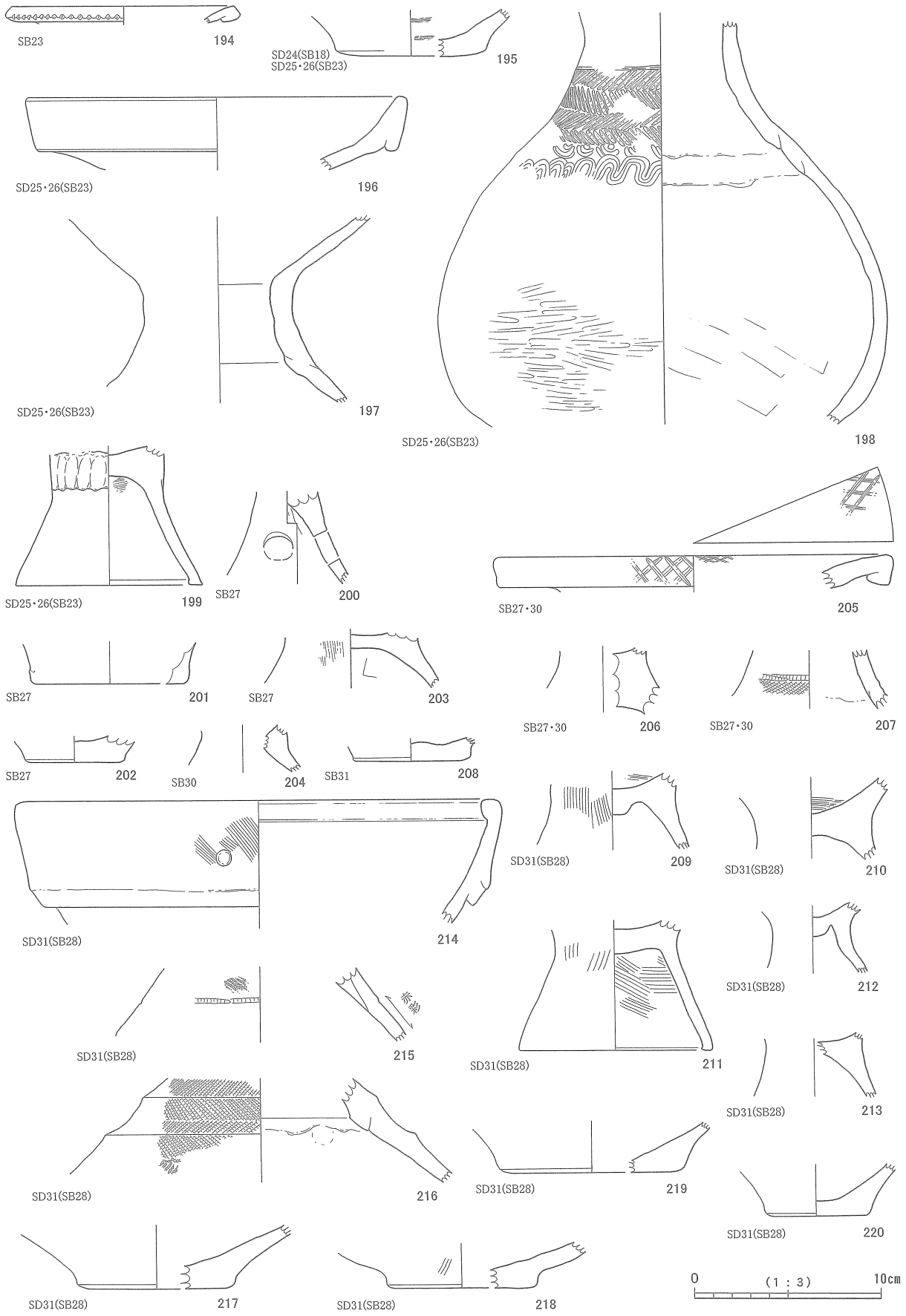
第263図　出土土器 6 （弥生土器・土師器）



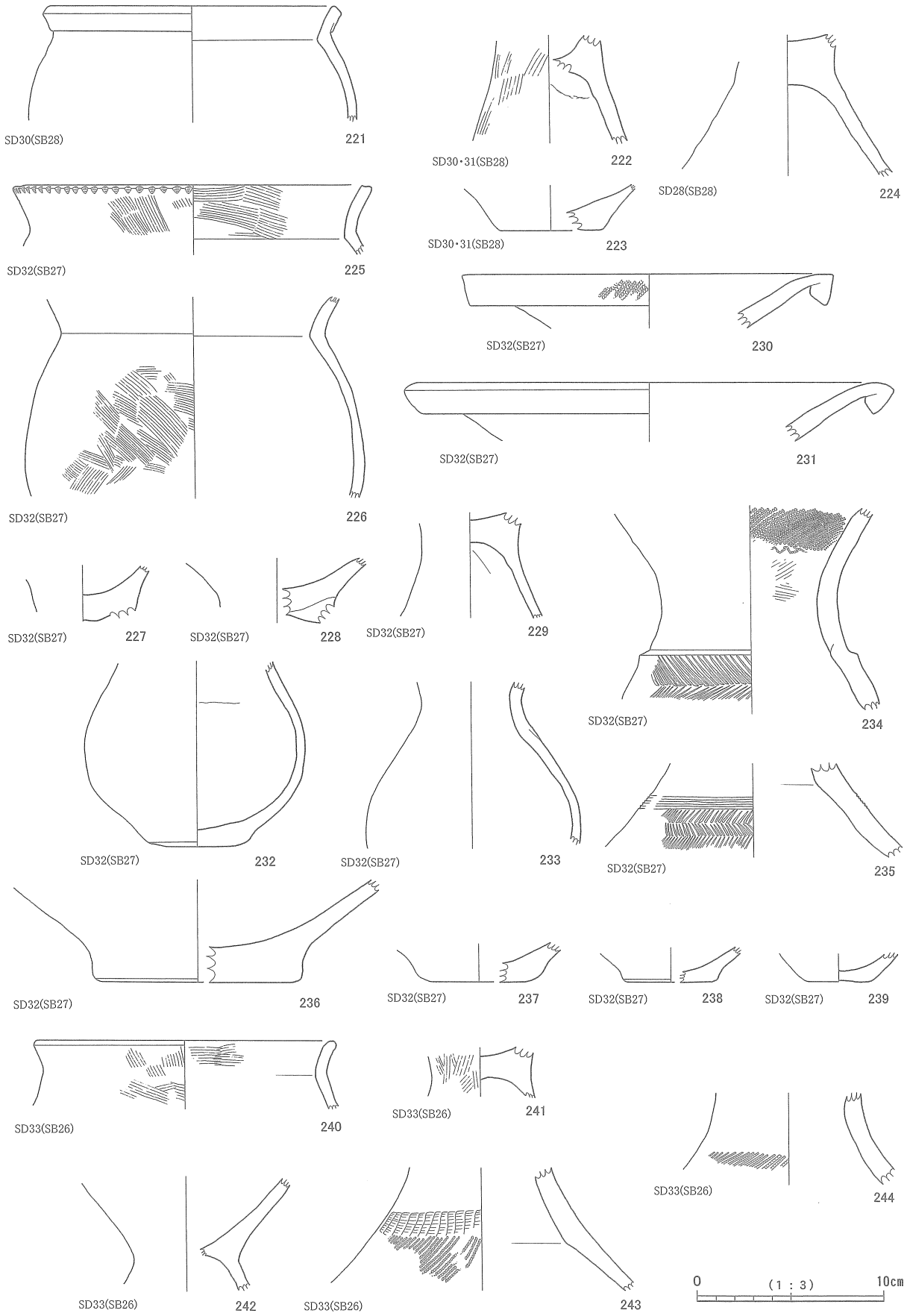
第264図　出土土器７（弥生土器・土師器）



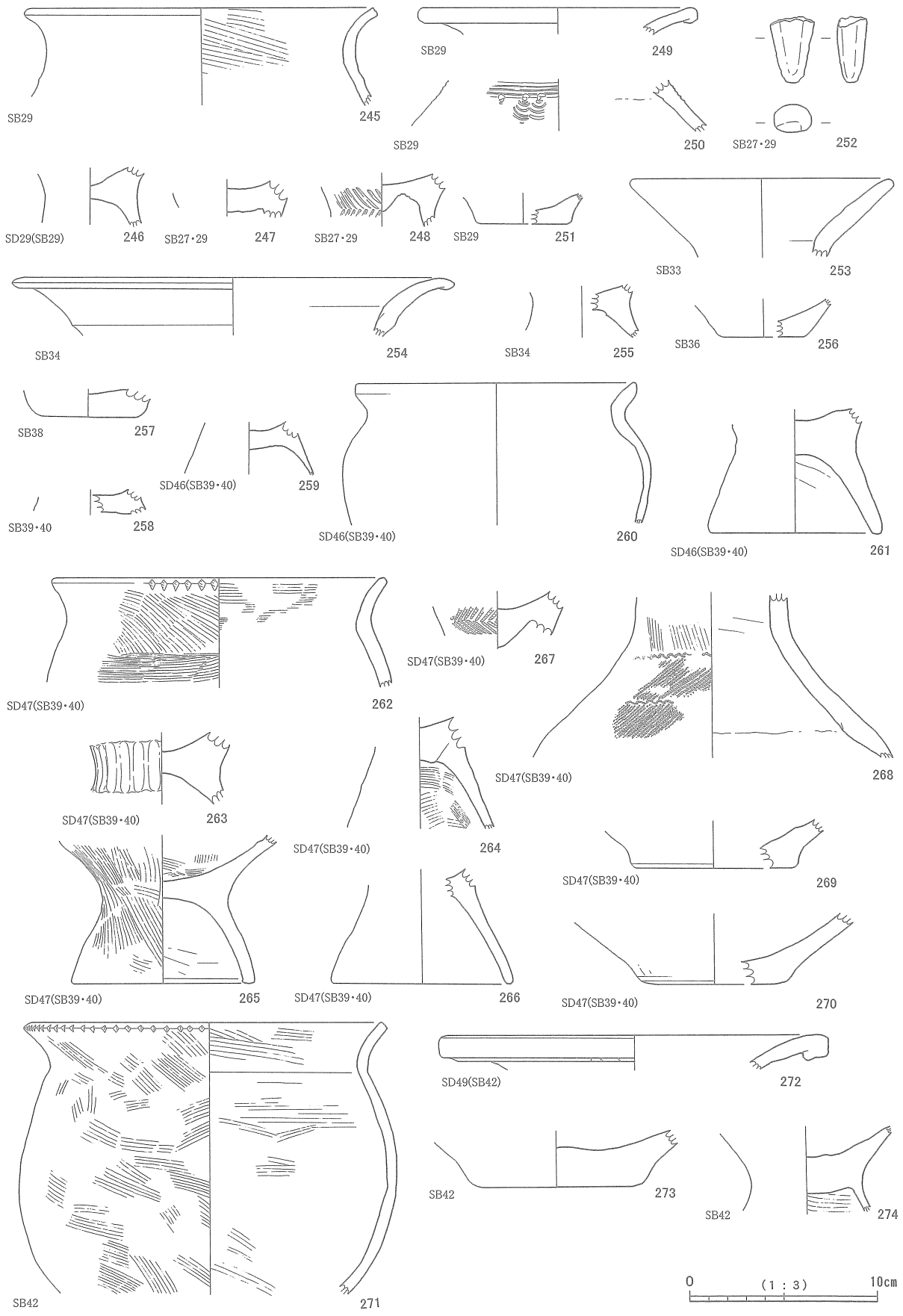
第265図　出土土器 8 （弥生土器・土師器）



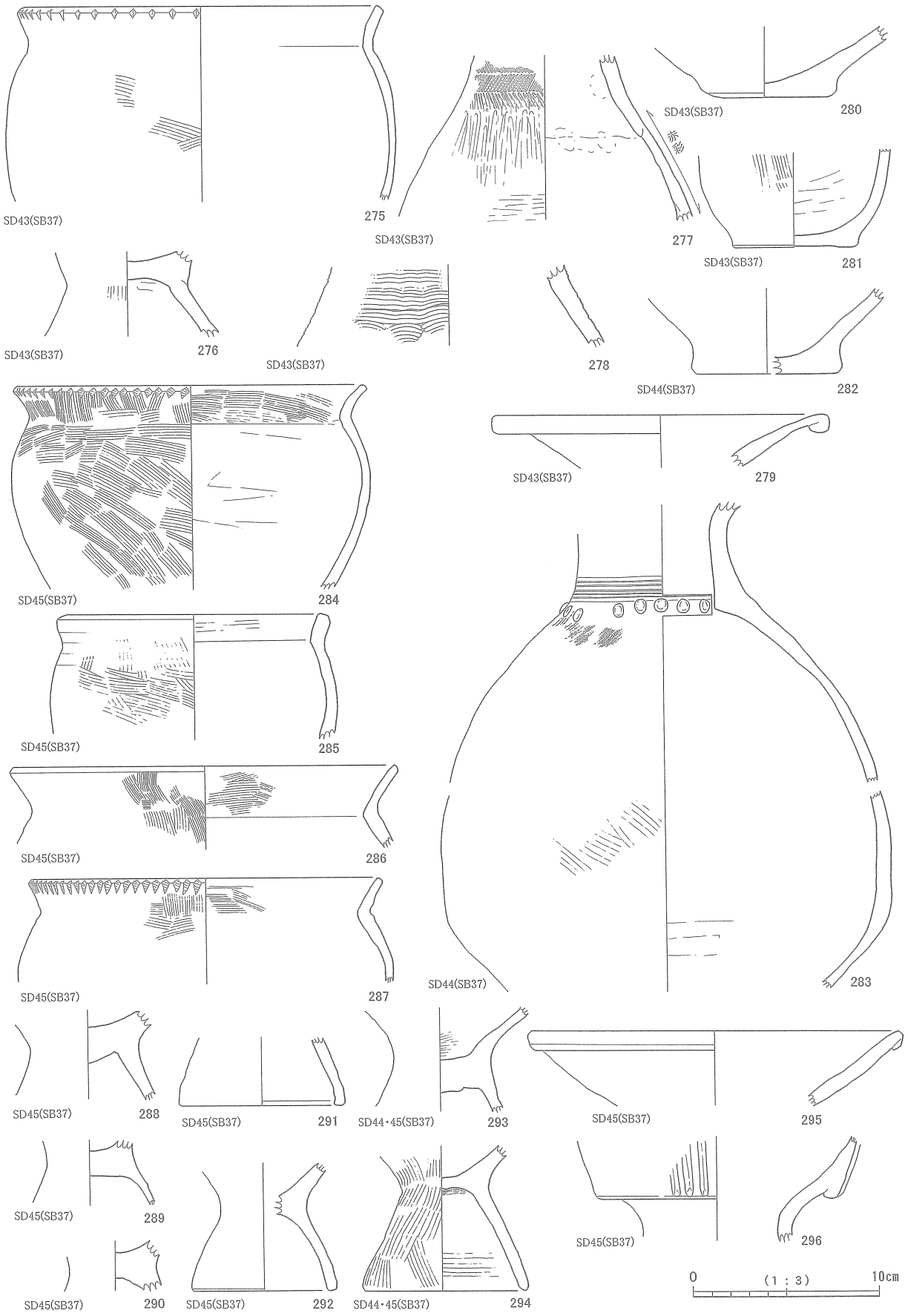
第266図　出土土器 9（弥生土器・土師器）



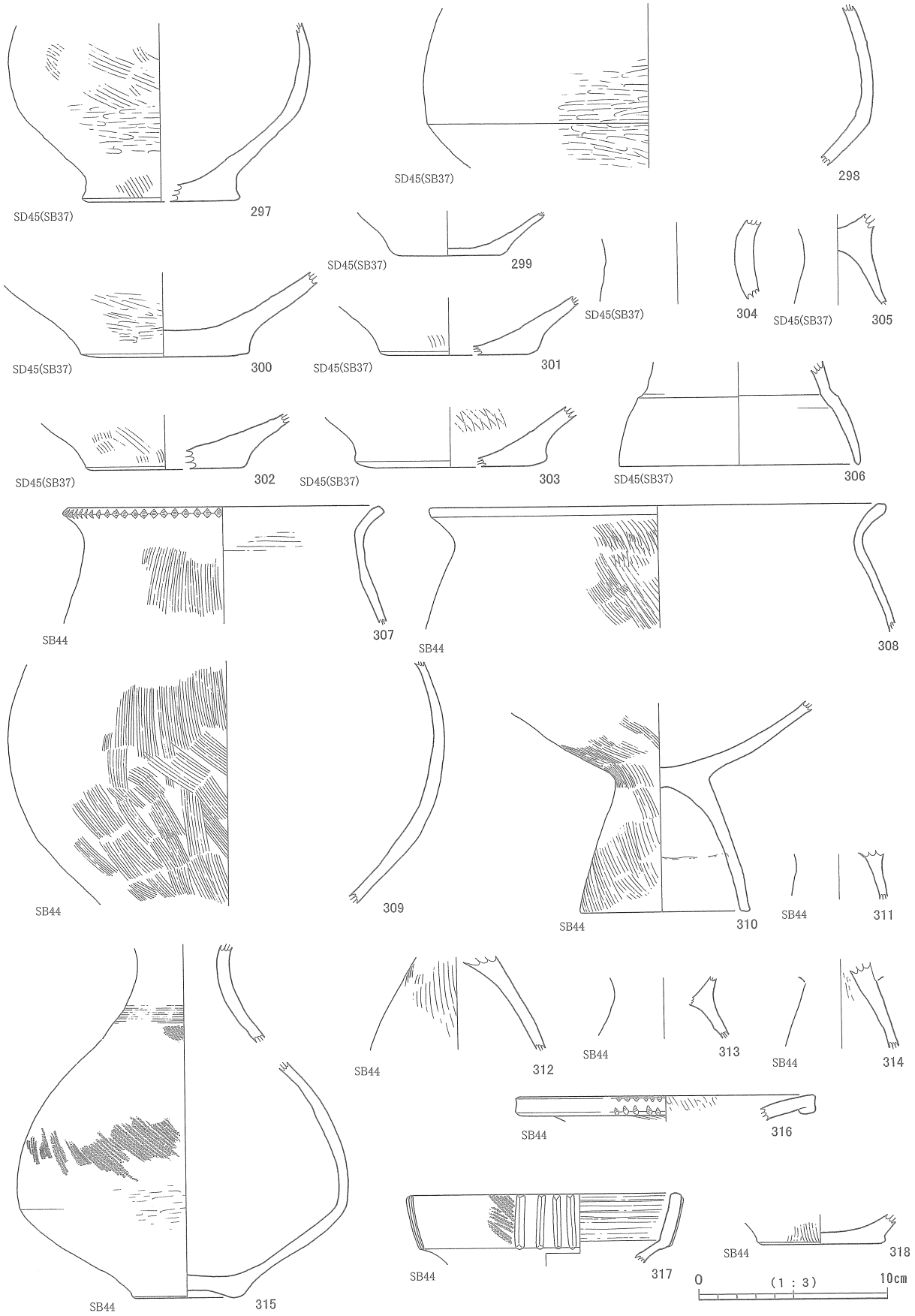
第267図　出土土器10（弥生土器・土師器）



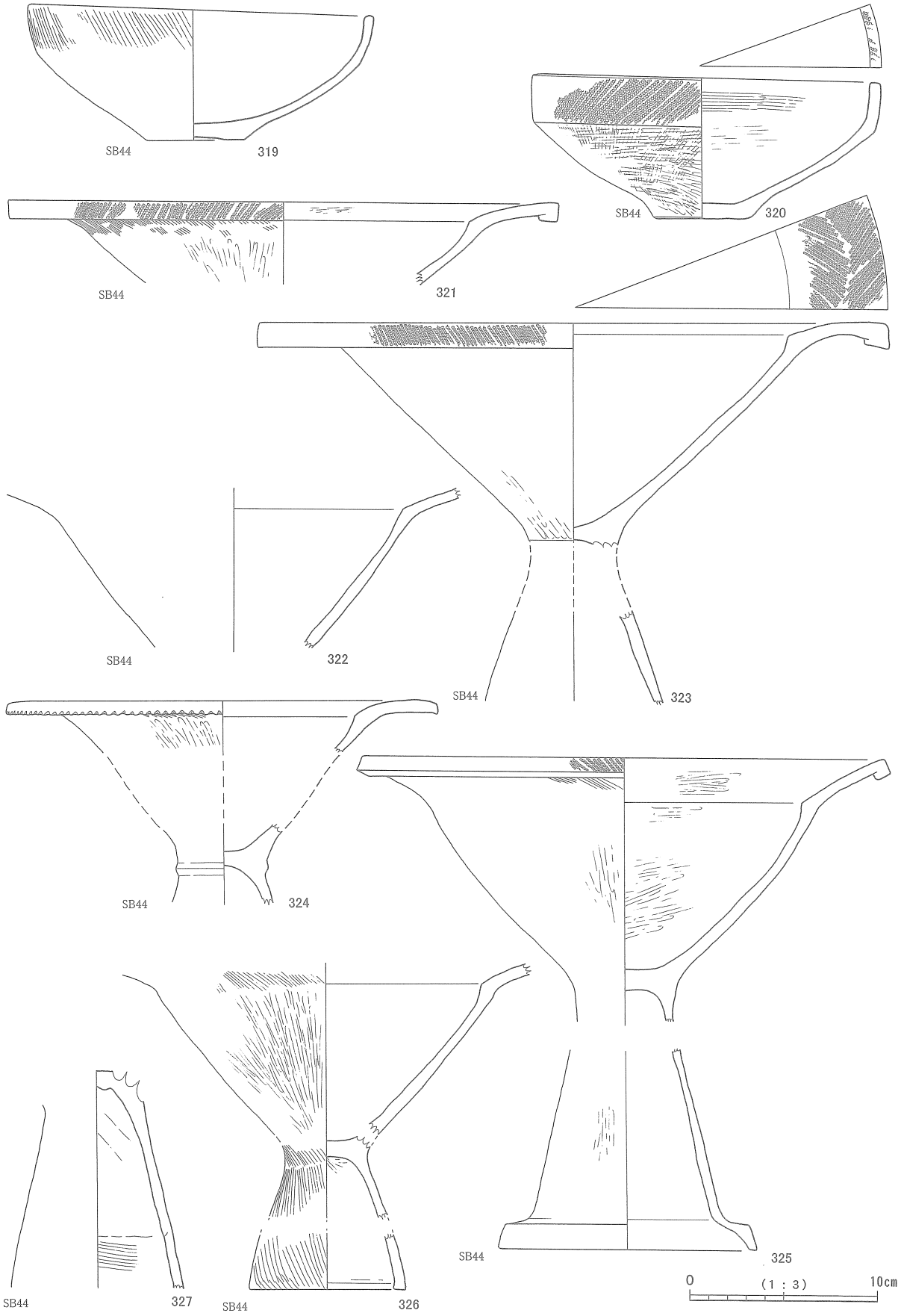
第268図　出土土器11（弥生土器・土師器）



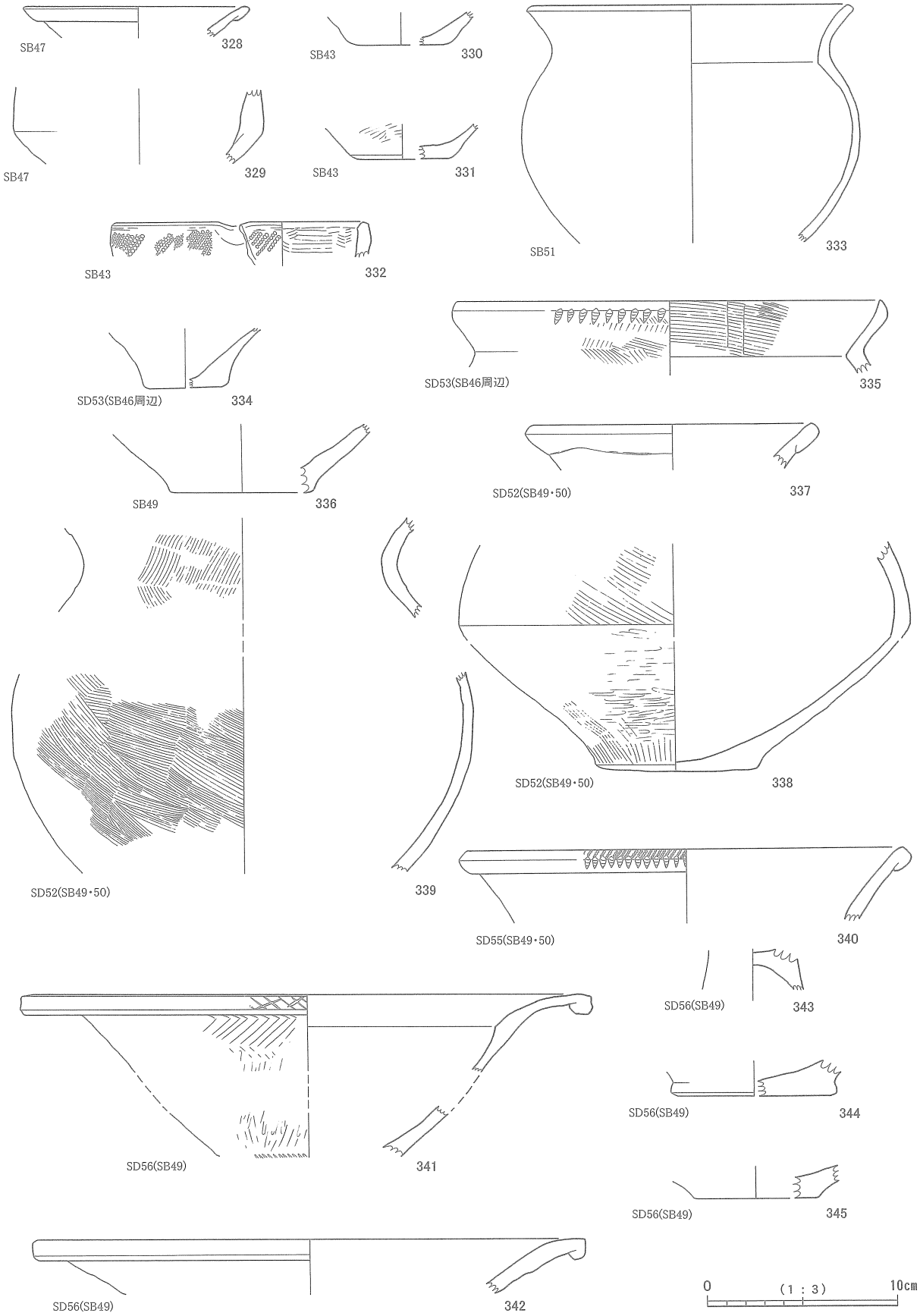
第269図　出土土器12（弥生土器・土師器）



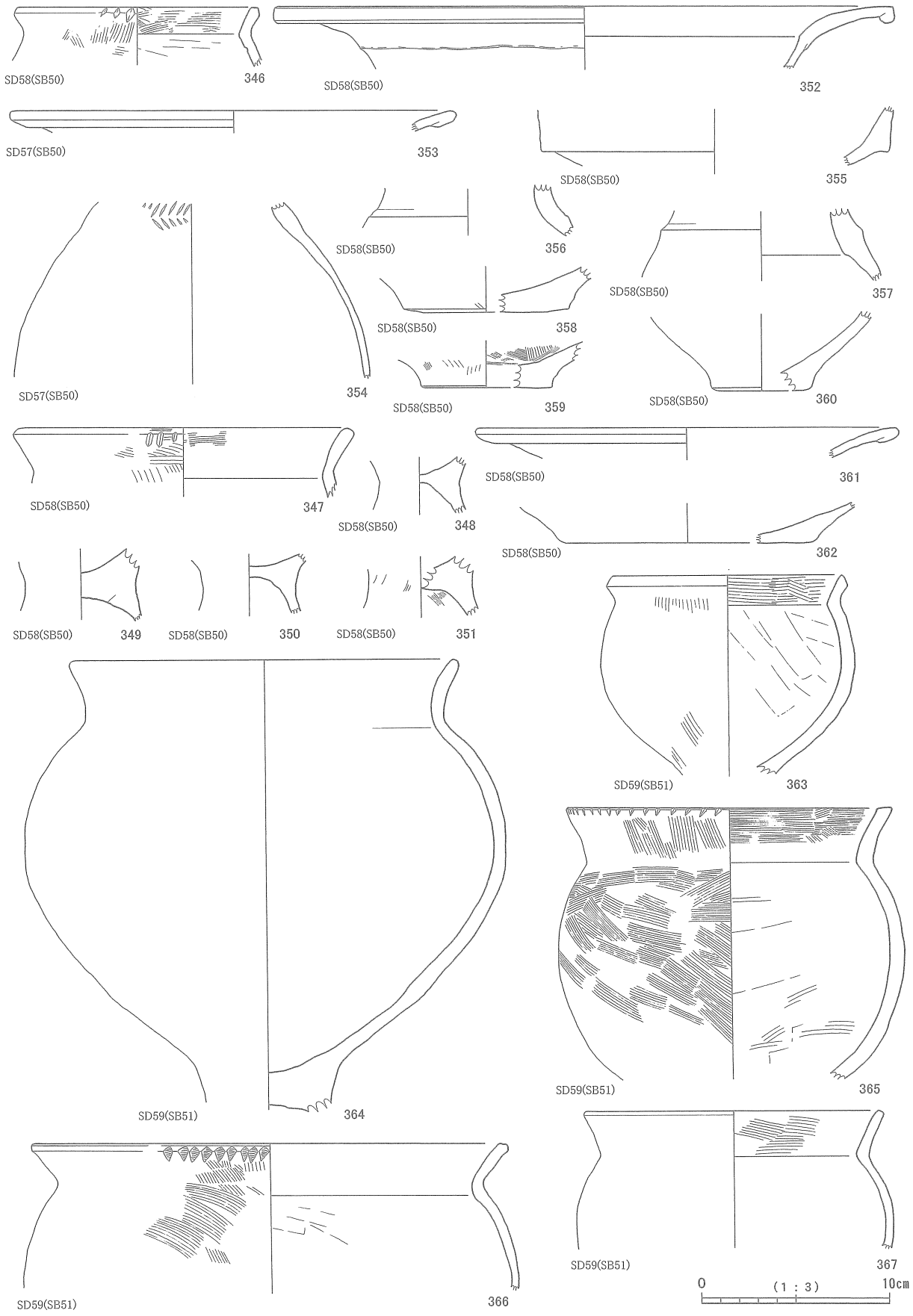
第270図　出土土器13（弥生土器・土師器）



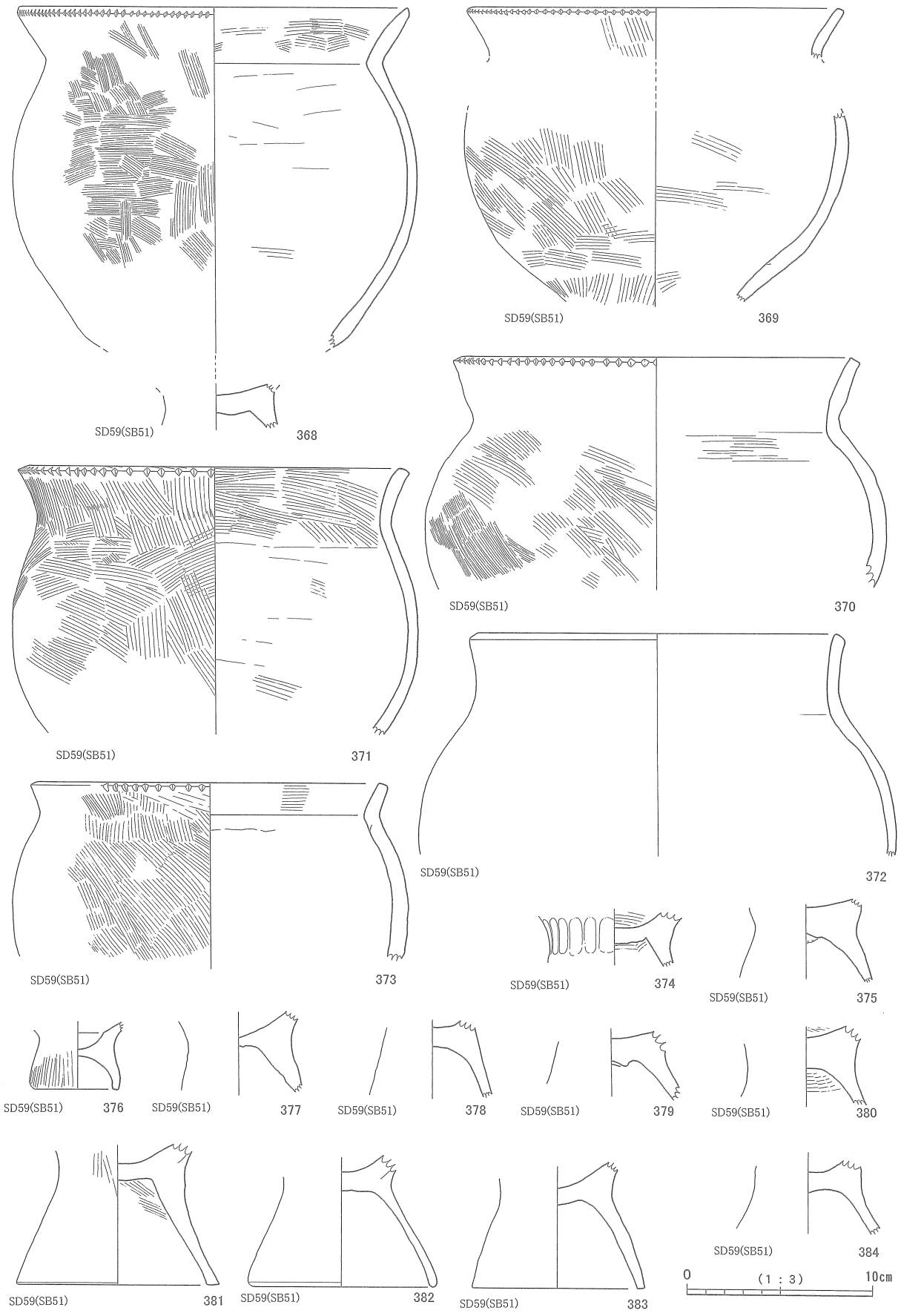
第271図　出土土器14（弥生土器・土師器）



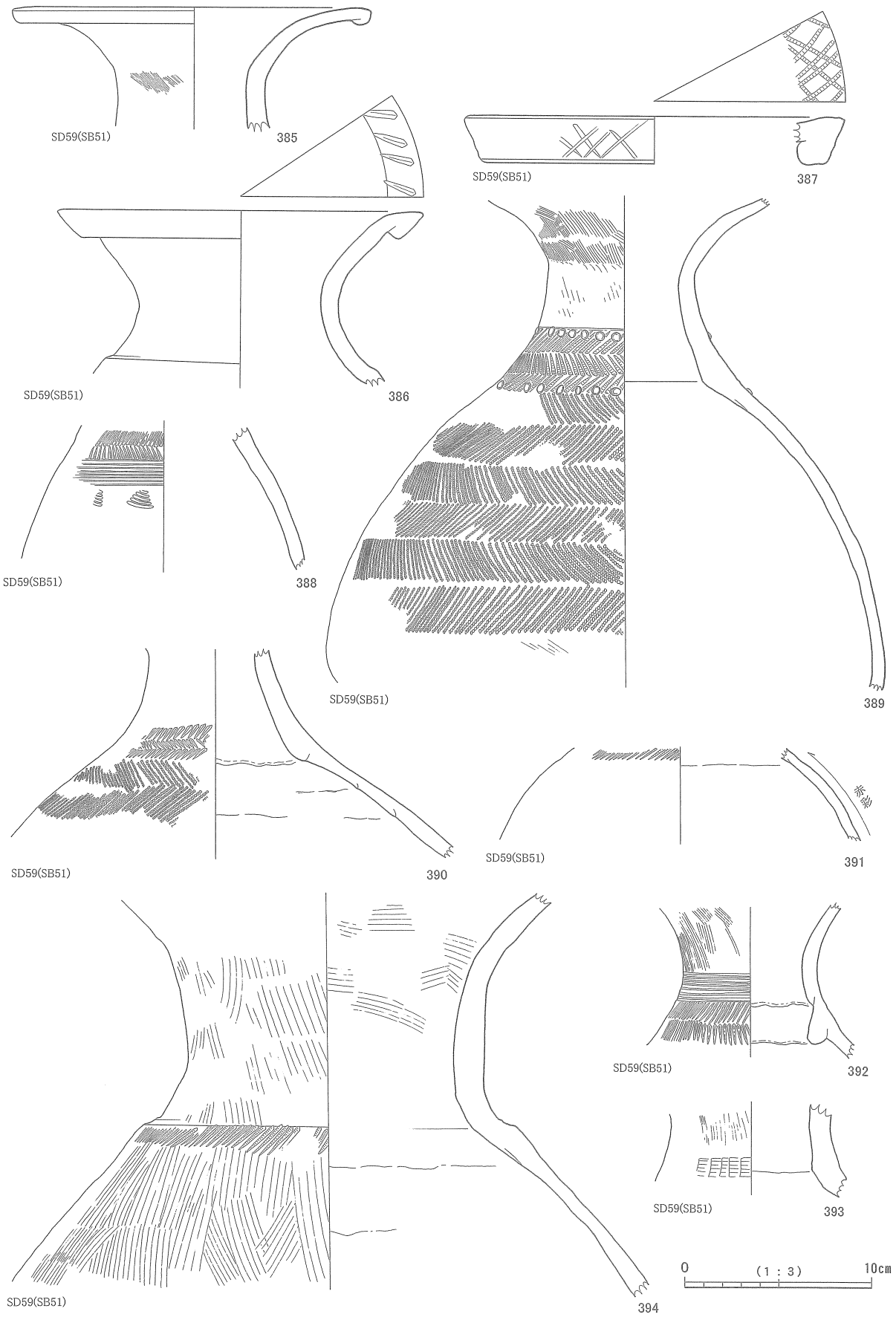
第272図　出土土器15（弥生土器・土師器）



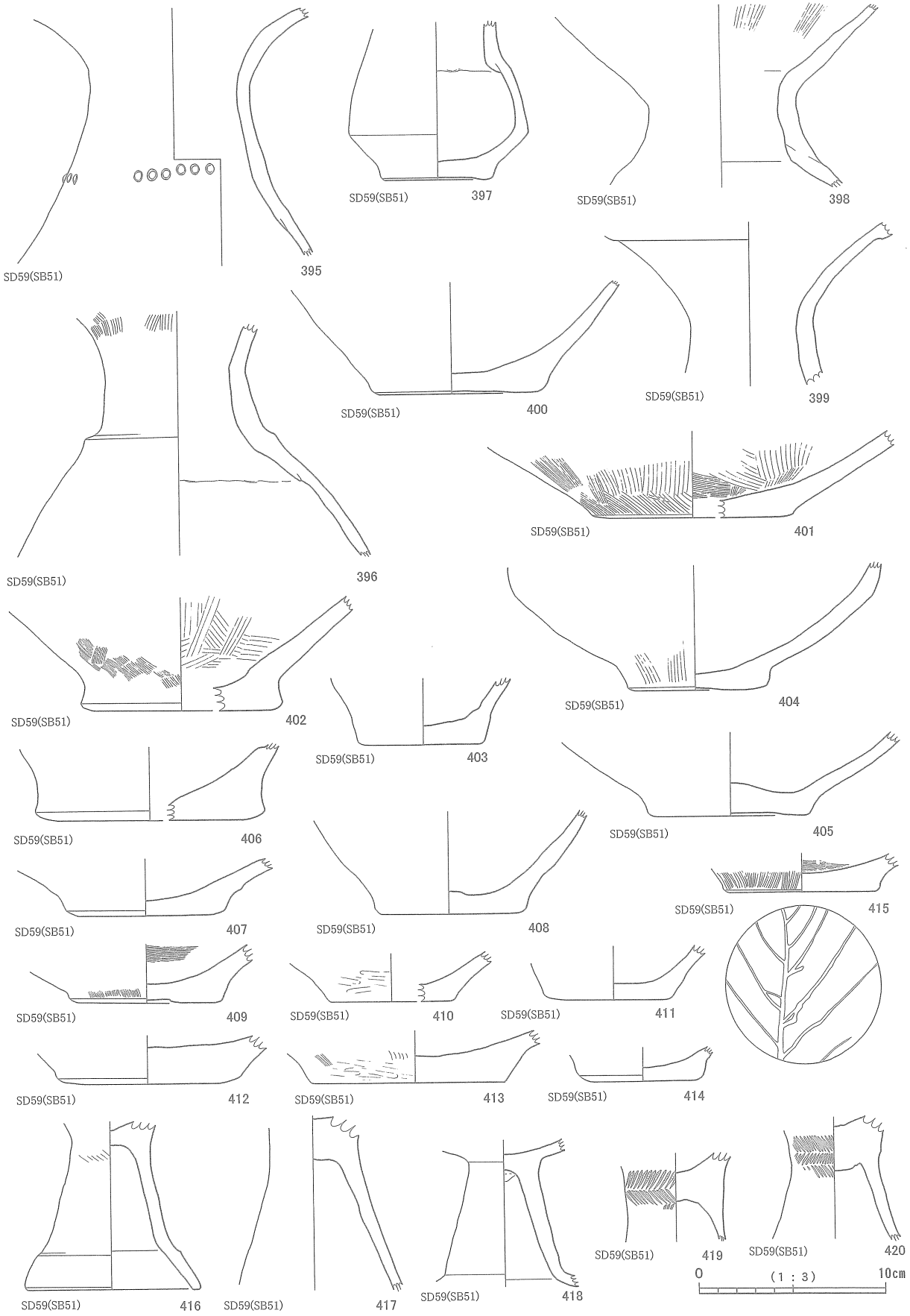
第273図　出土土器16（弥生土器・土師器）



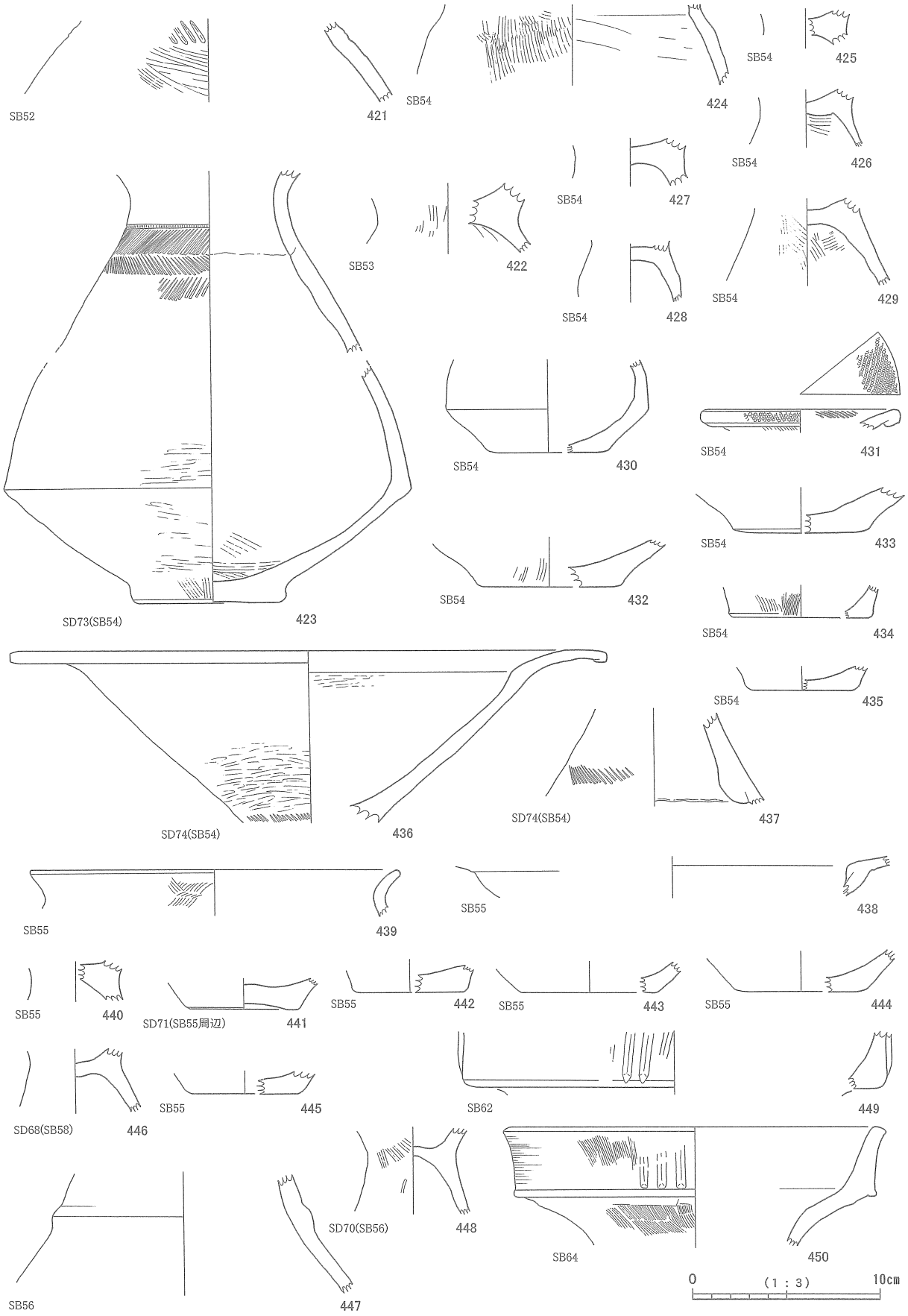
第274図　出土土器17（弥生土器・土師器）



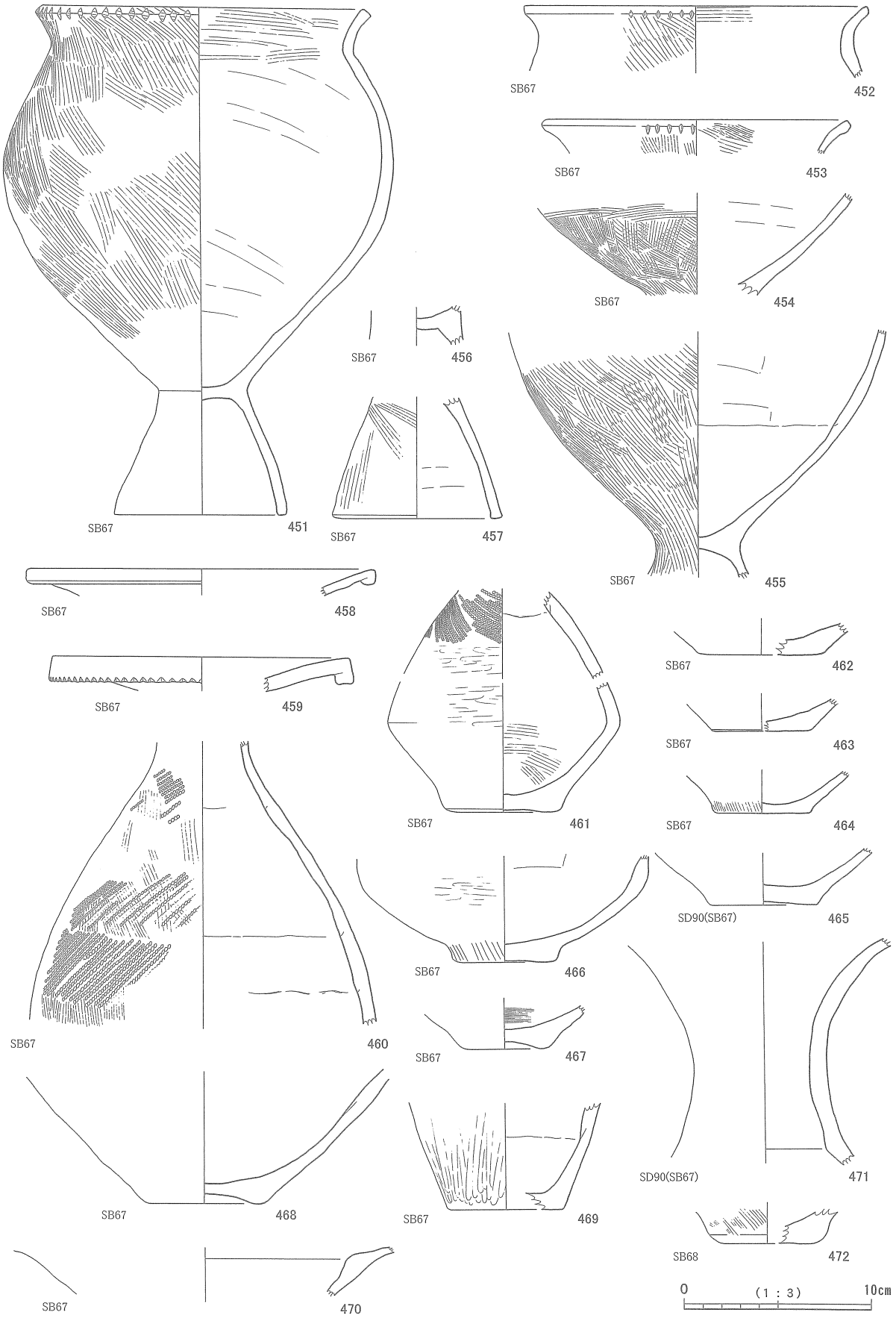
第275図　出土土器18（弥生土器・土師器）



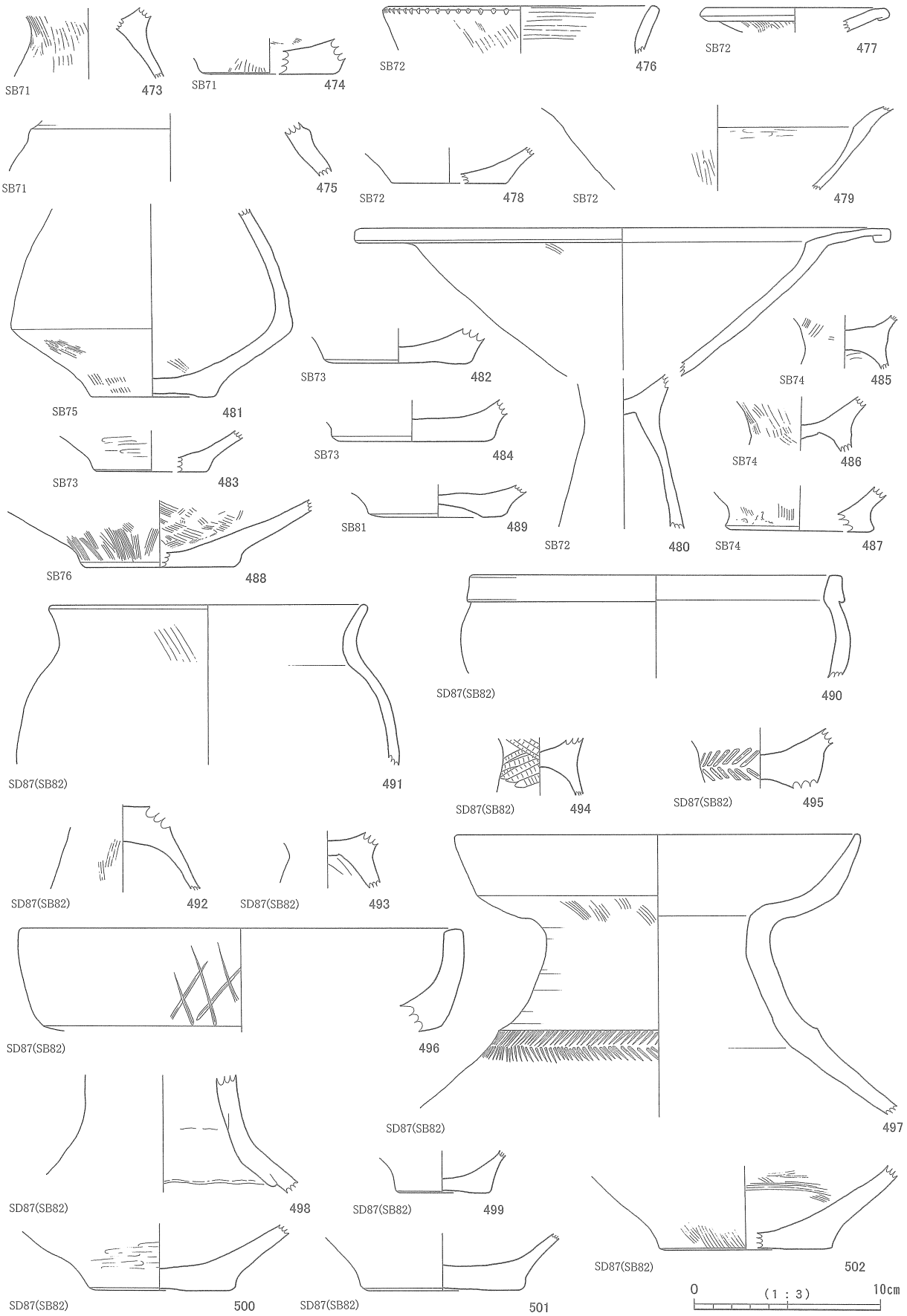
第276図　出土土器19（弥生土器・土師器）



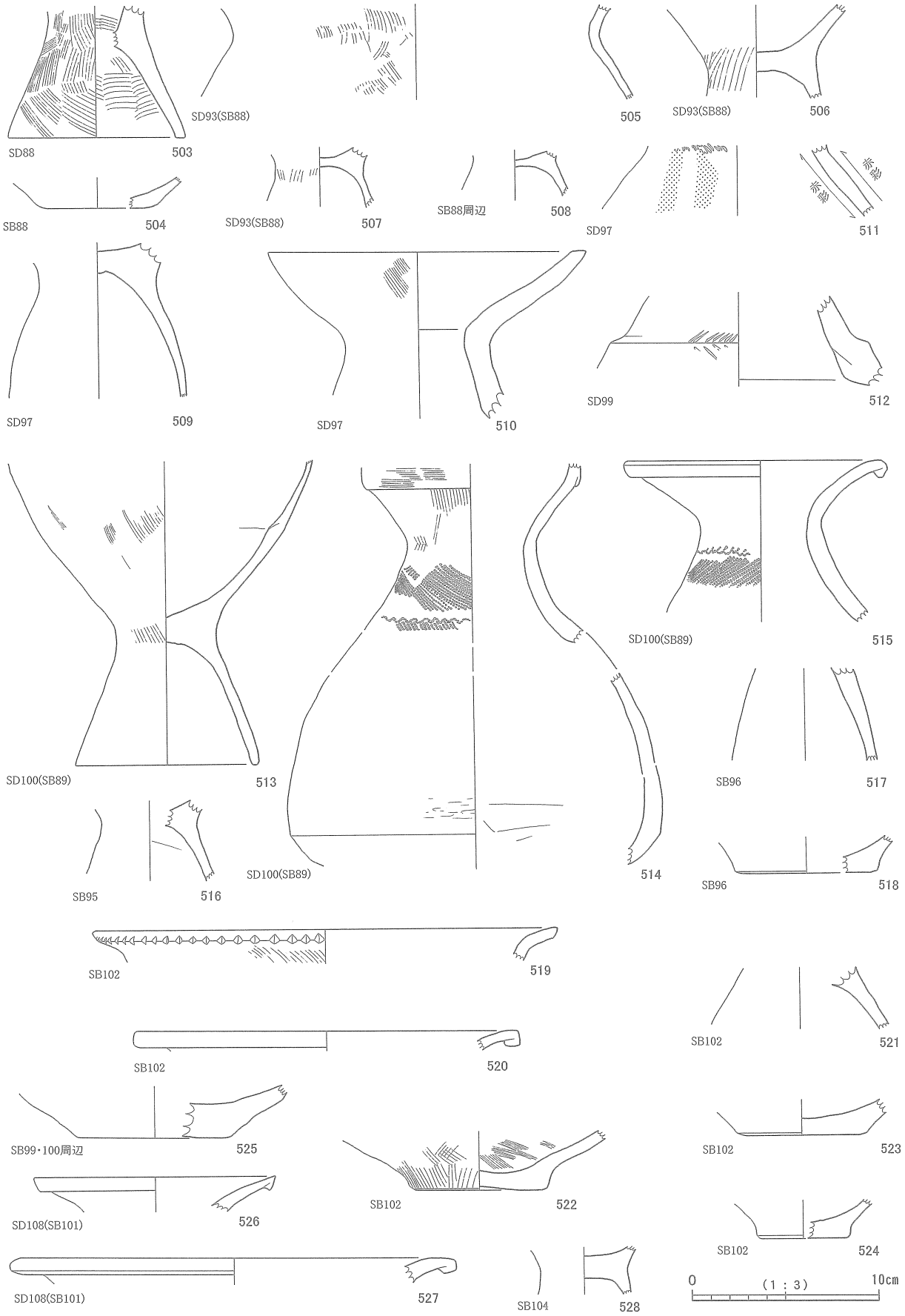
第277図　出土土器20（弥生土器・土師器）



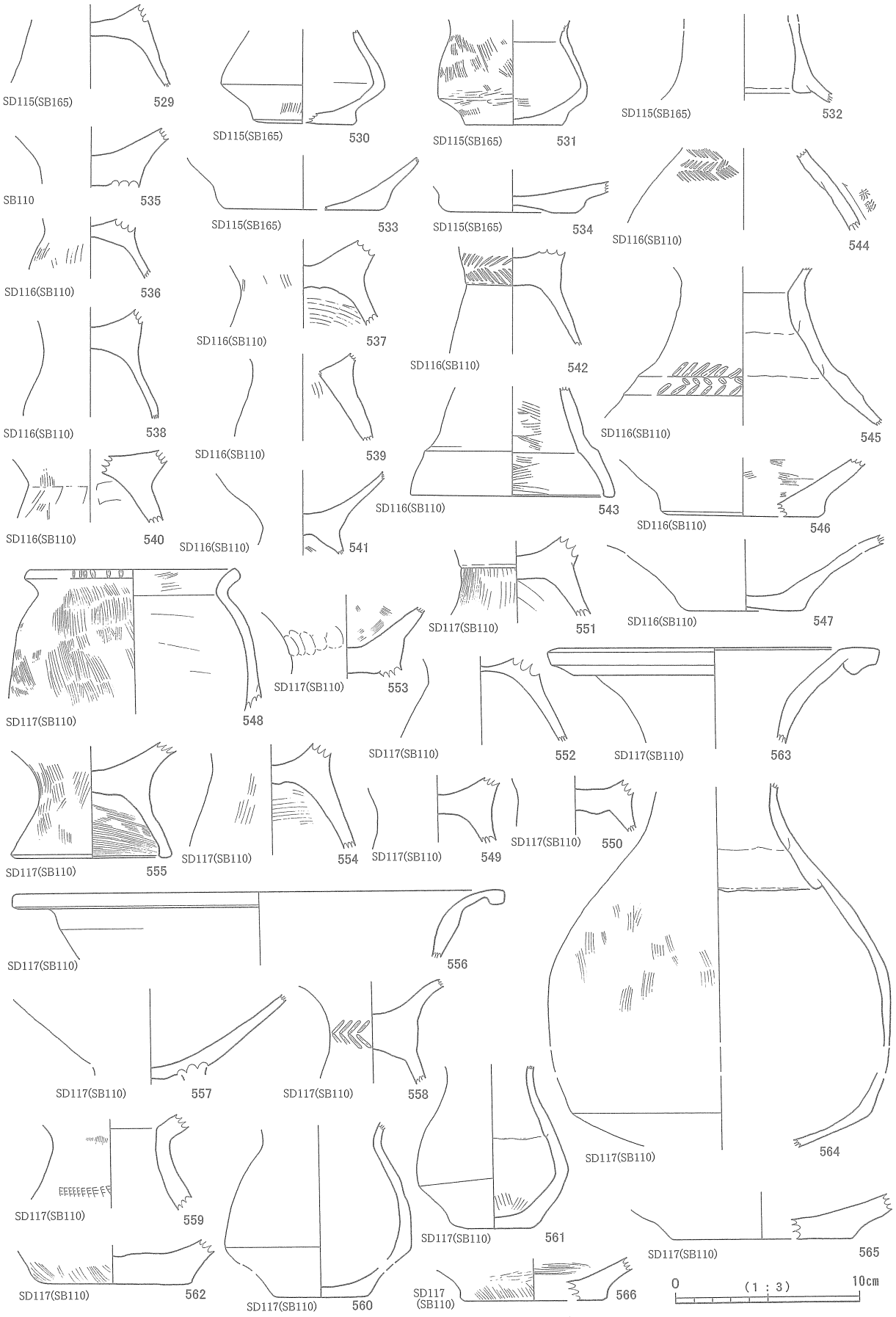
第278図　出土土器21（弥生土器・土師器）



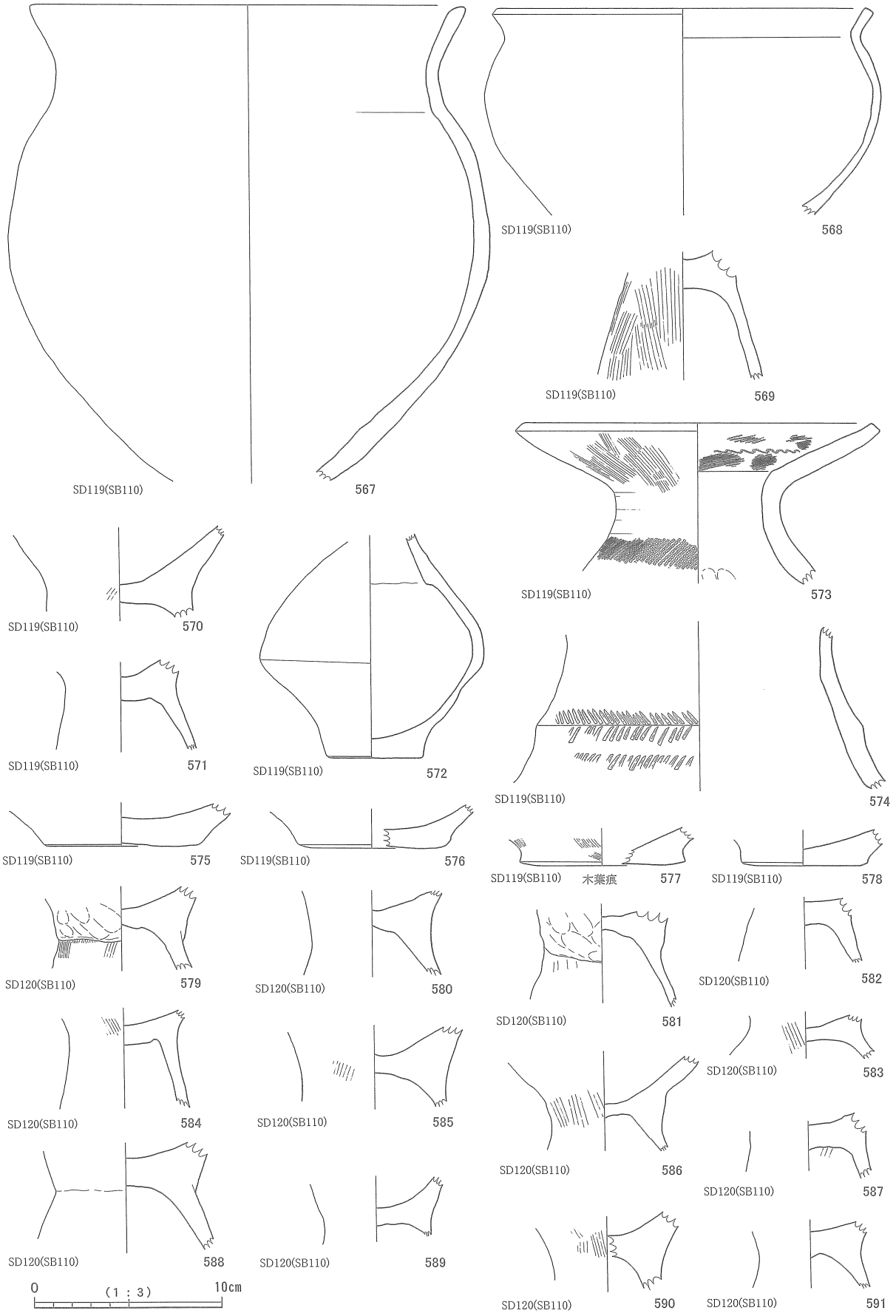
第279図　出土土器22（弥生土器・土師器）



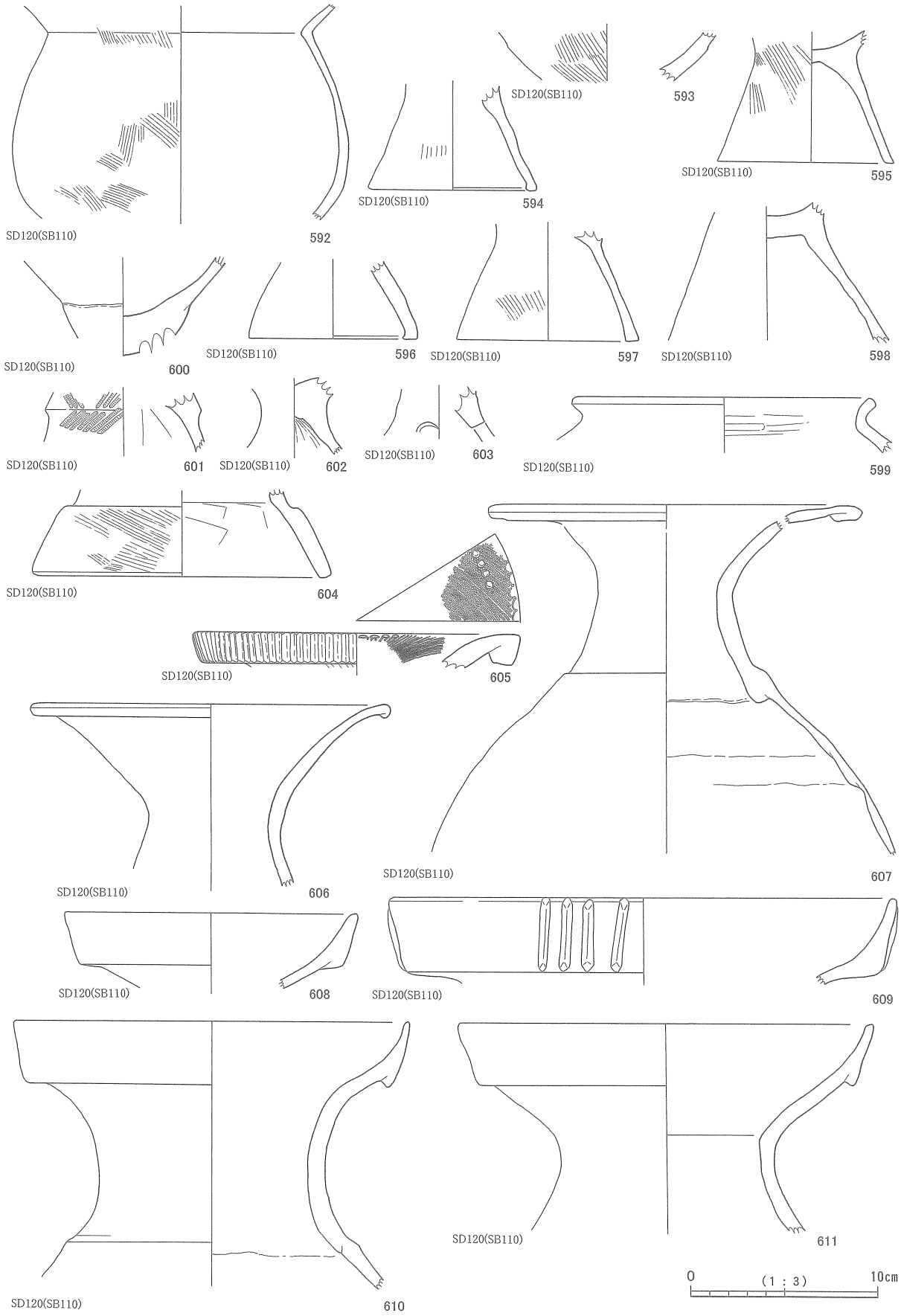
第280図　出土土器23（弥生土器・土師器）



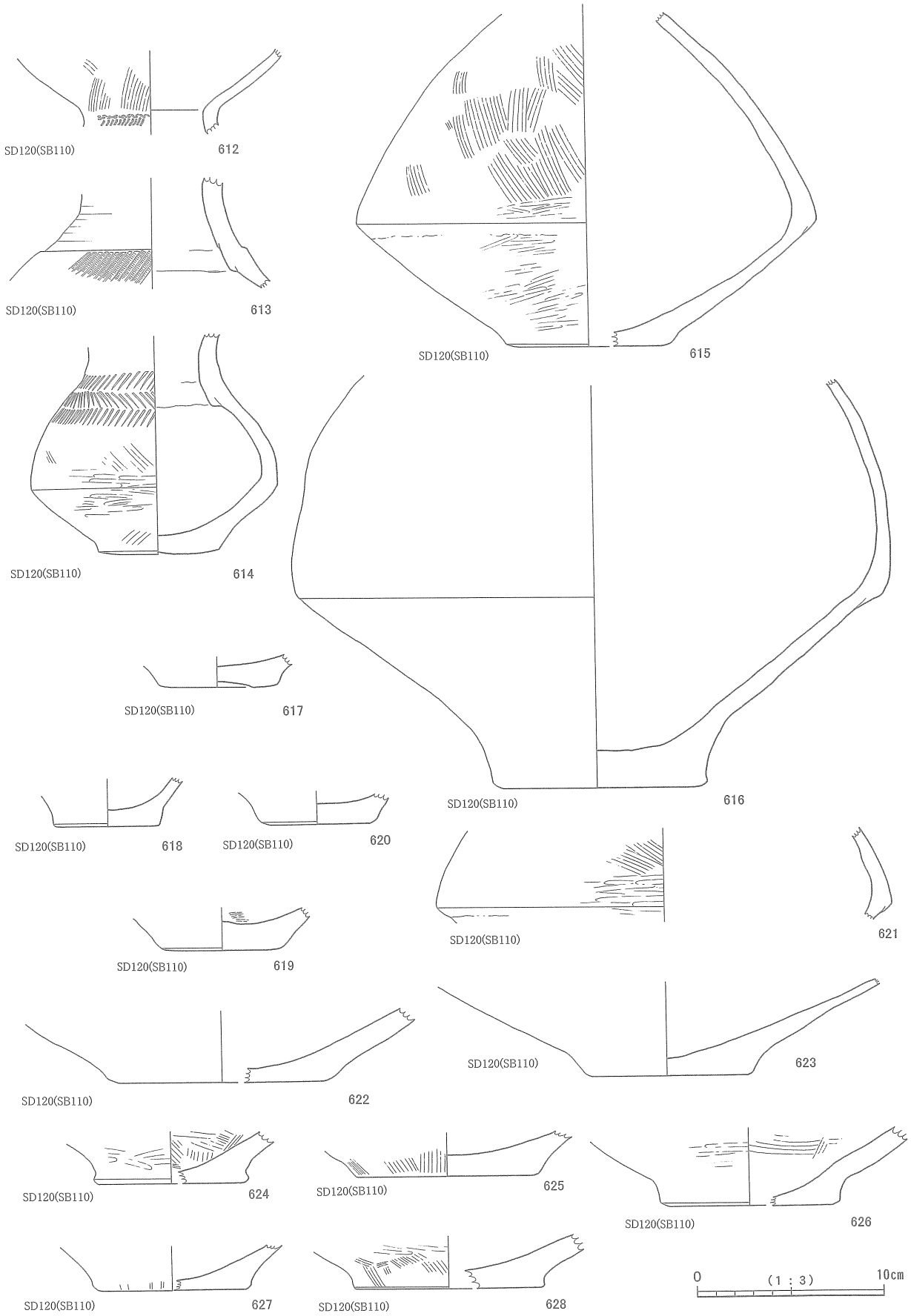
第281図　出土土器24（弥生土器・土師器）



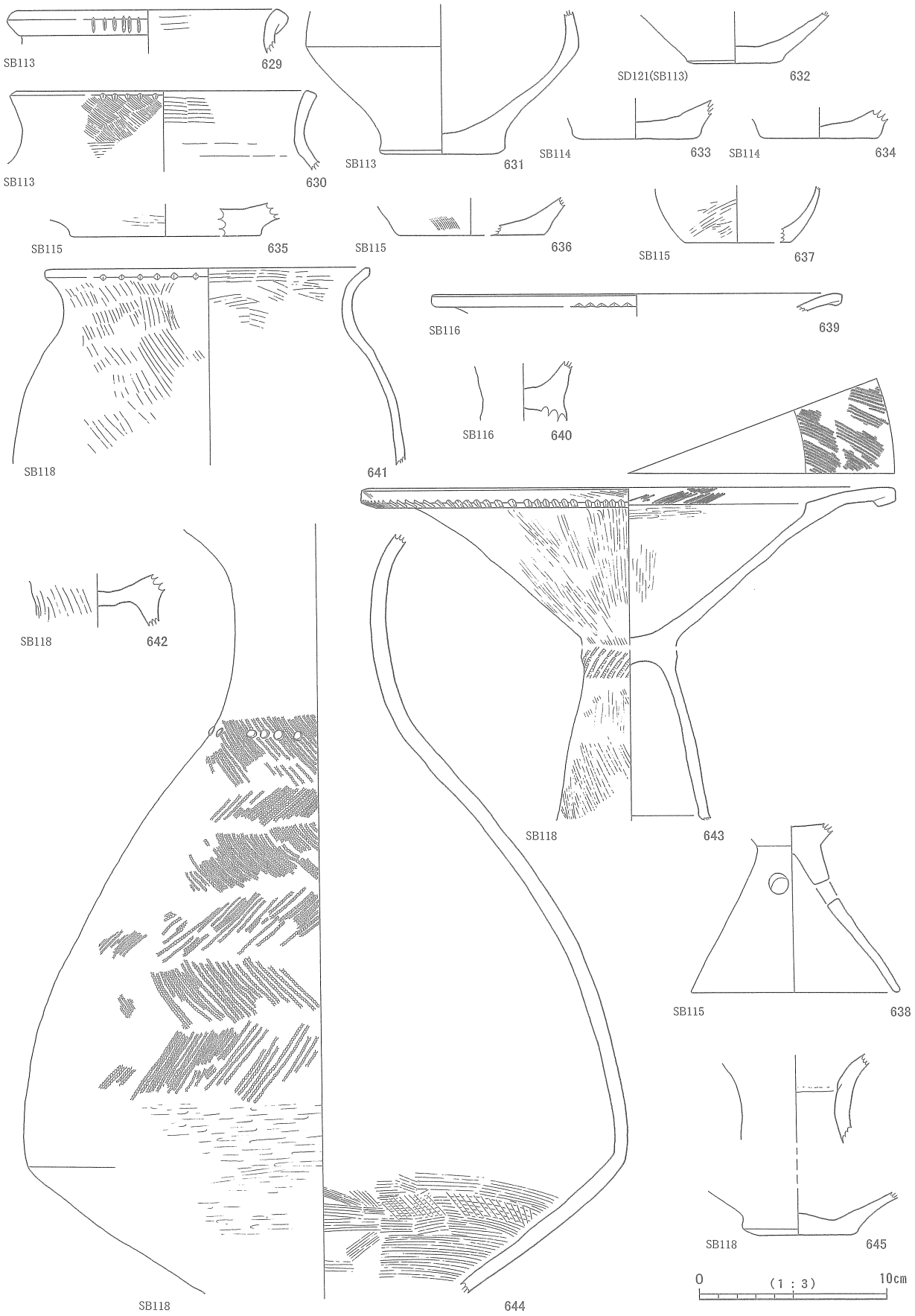
第282図　出土土器25（弥生土器・土師器）



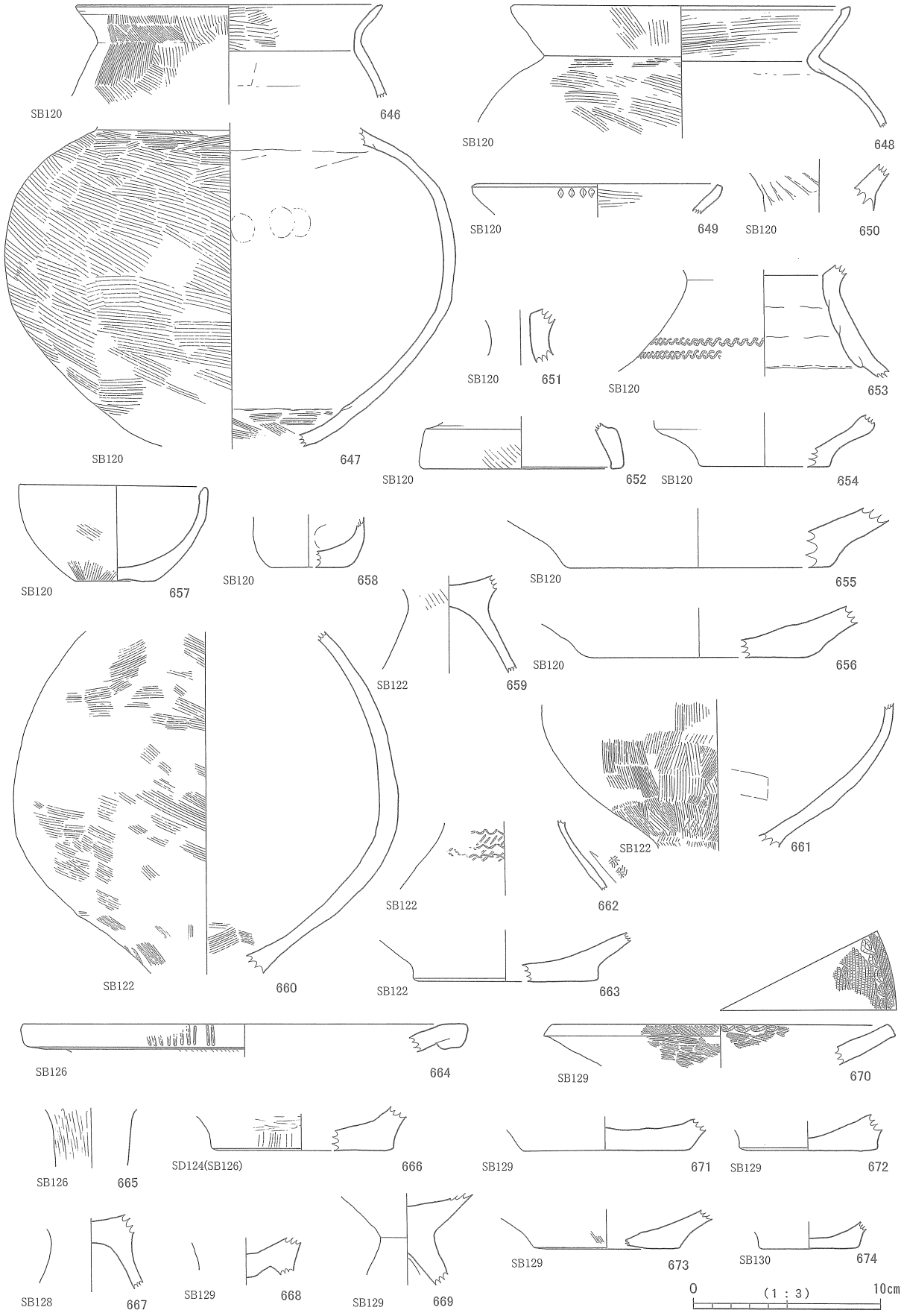
第283図　出土土器26（弥生土器・土師器）



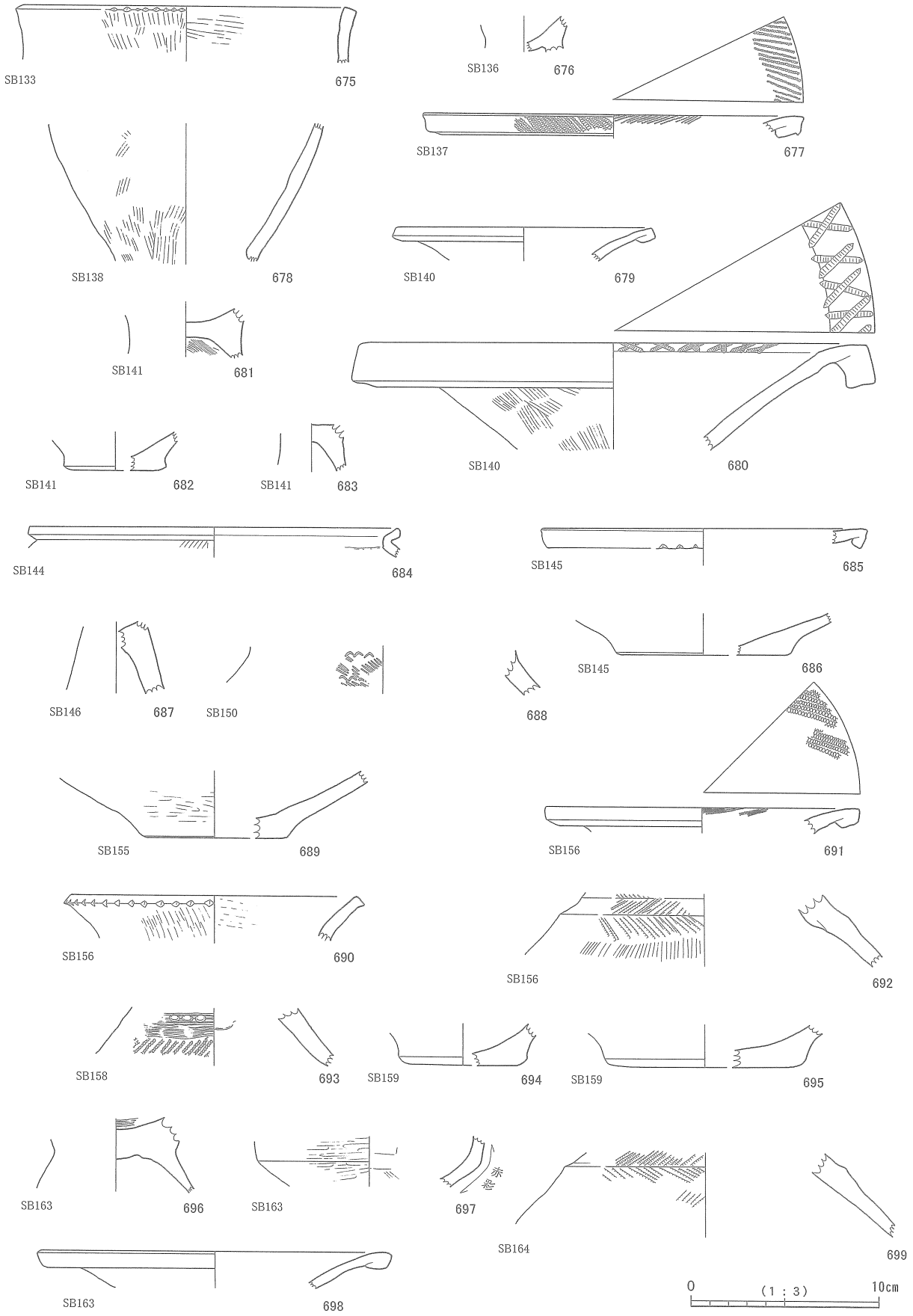
第284図　出土土器27（弥生土器・土師器）



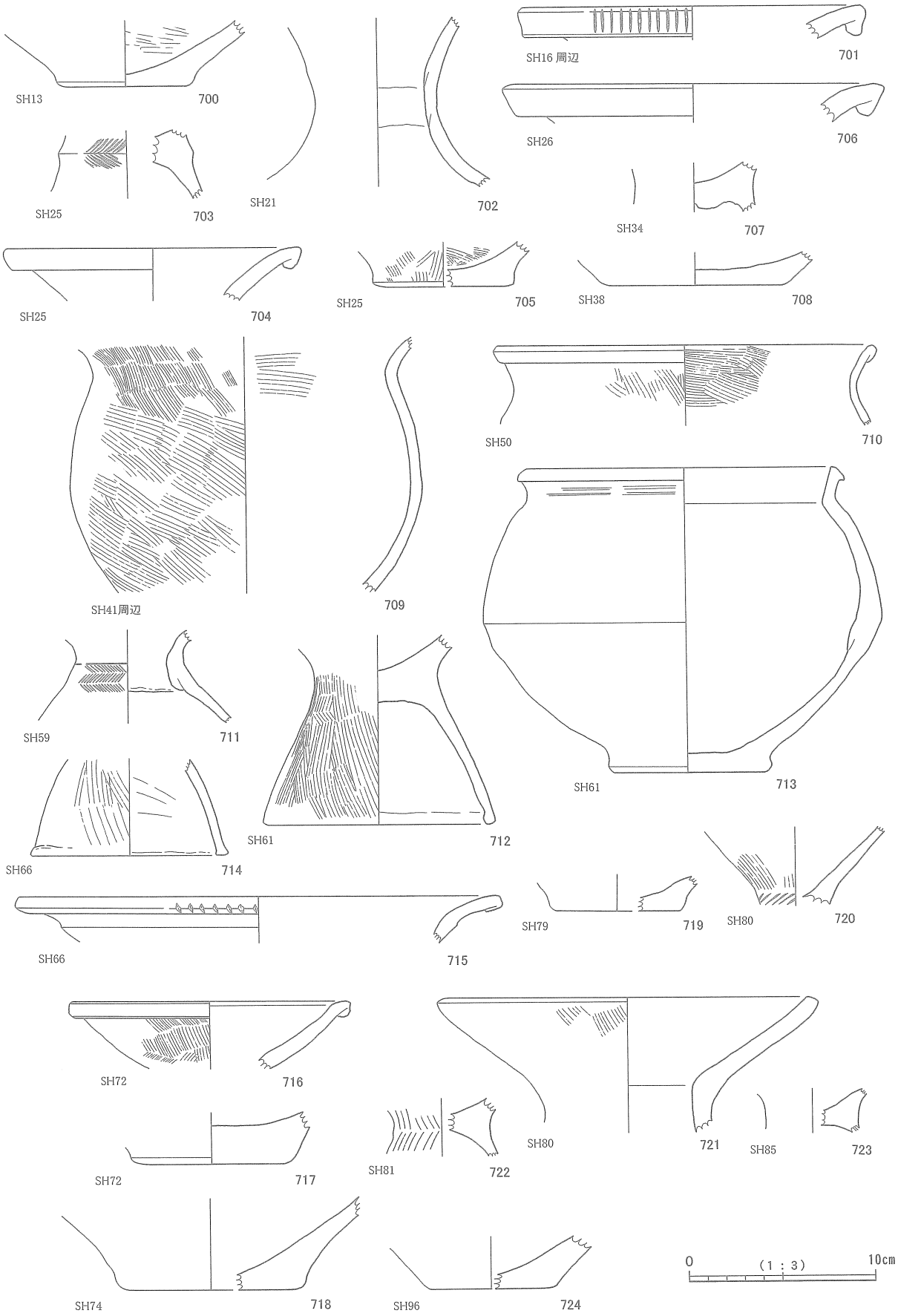
第285図　出土土器28（弥生土器・土師器）



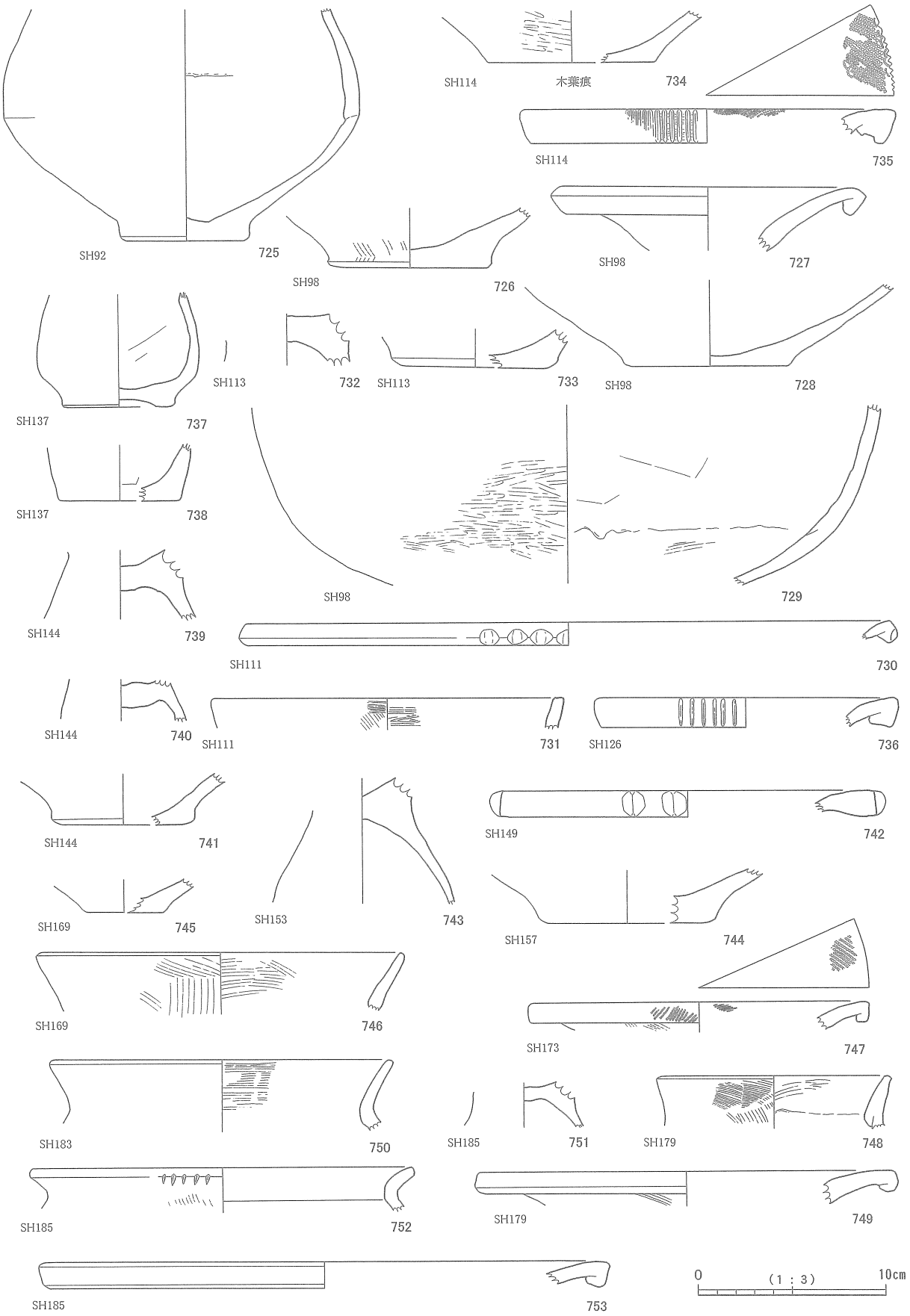
第286図　出土土器29（弥生土器・土師器）



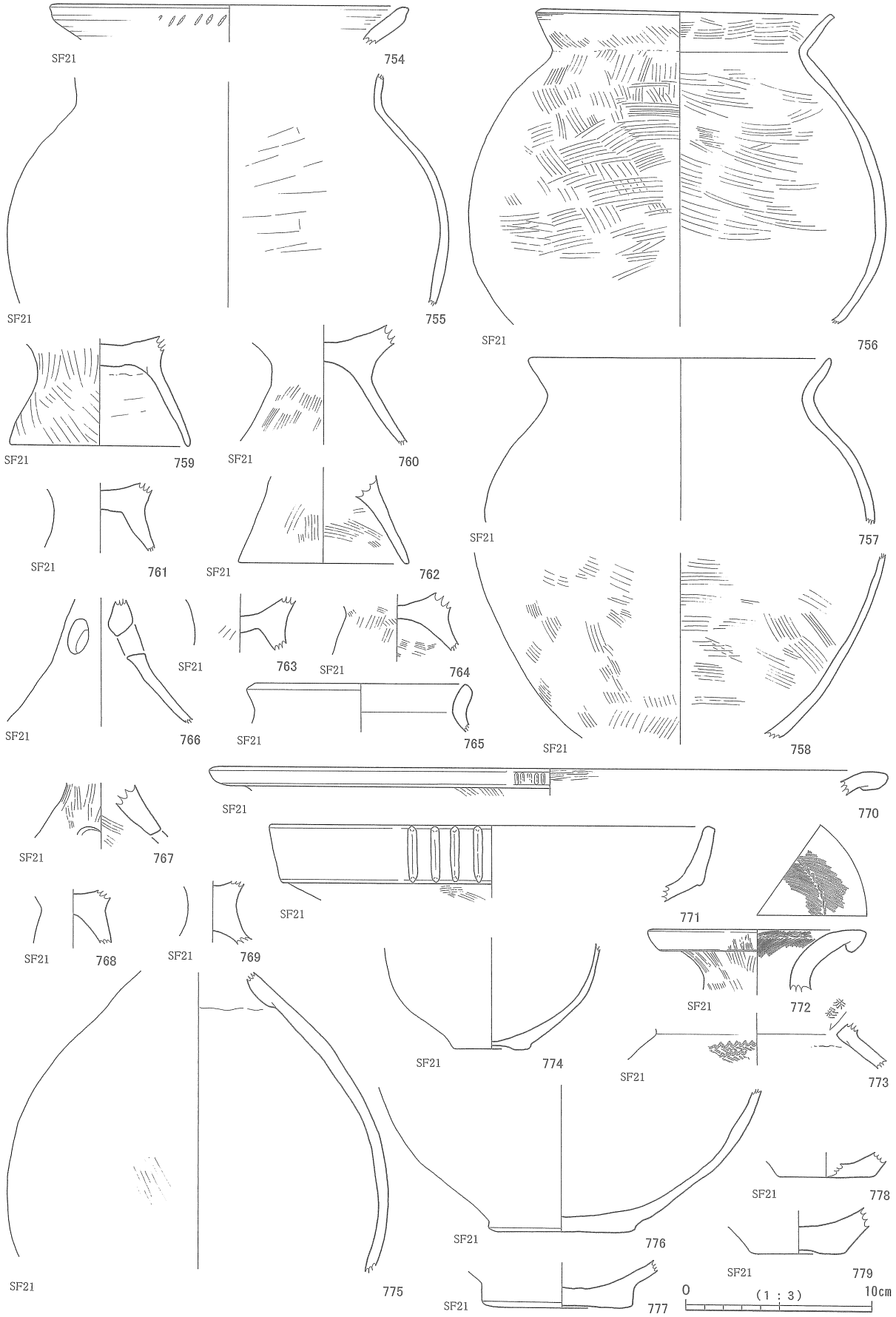
第287図　出土土器30（弥生土器・土師器）



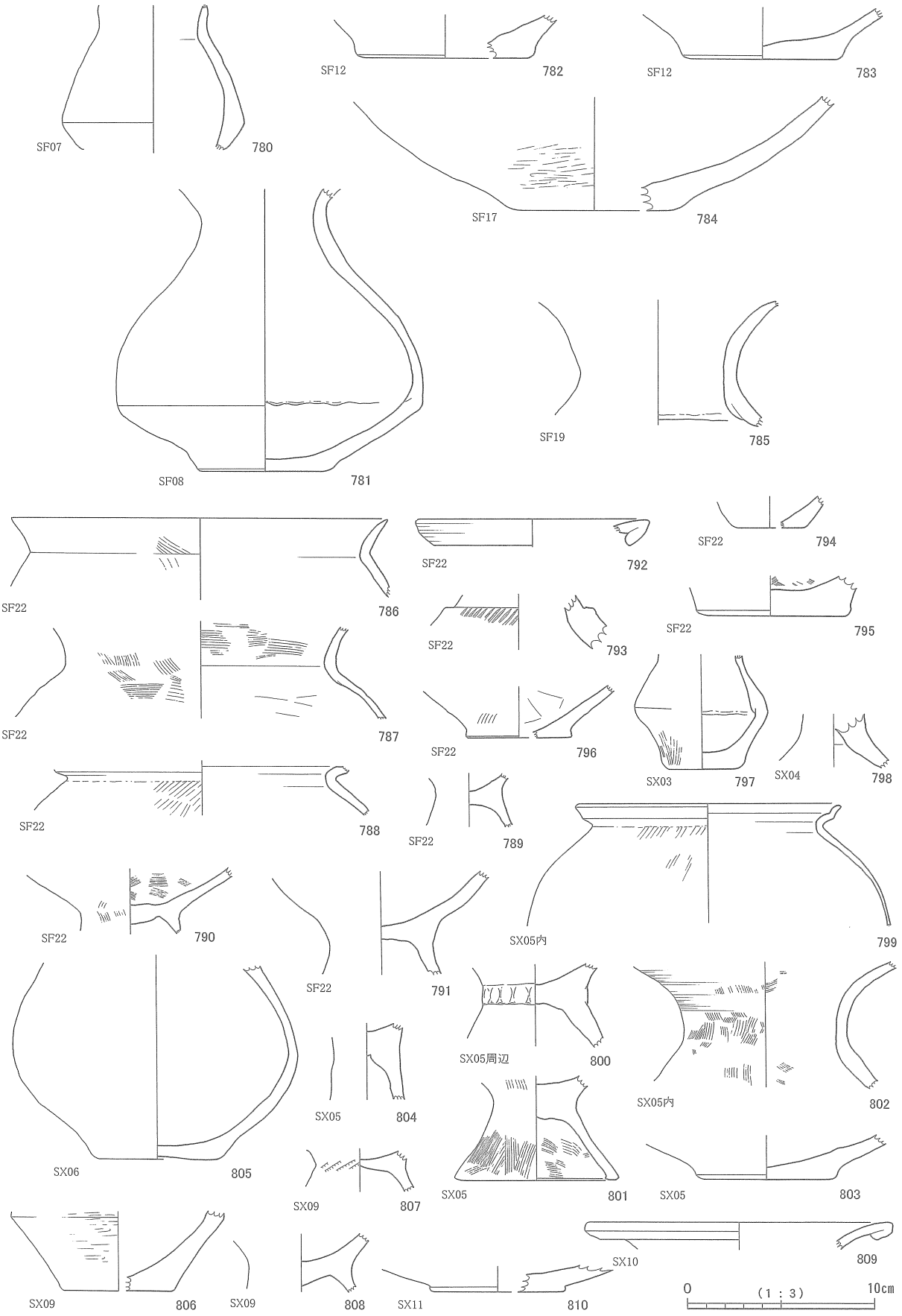
第288図　出土土器31（弥生土器・土師器）



第289図　出土土器32（弥生土器・土師器）

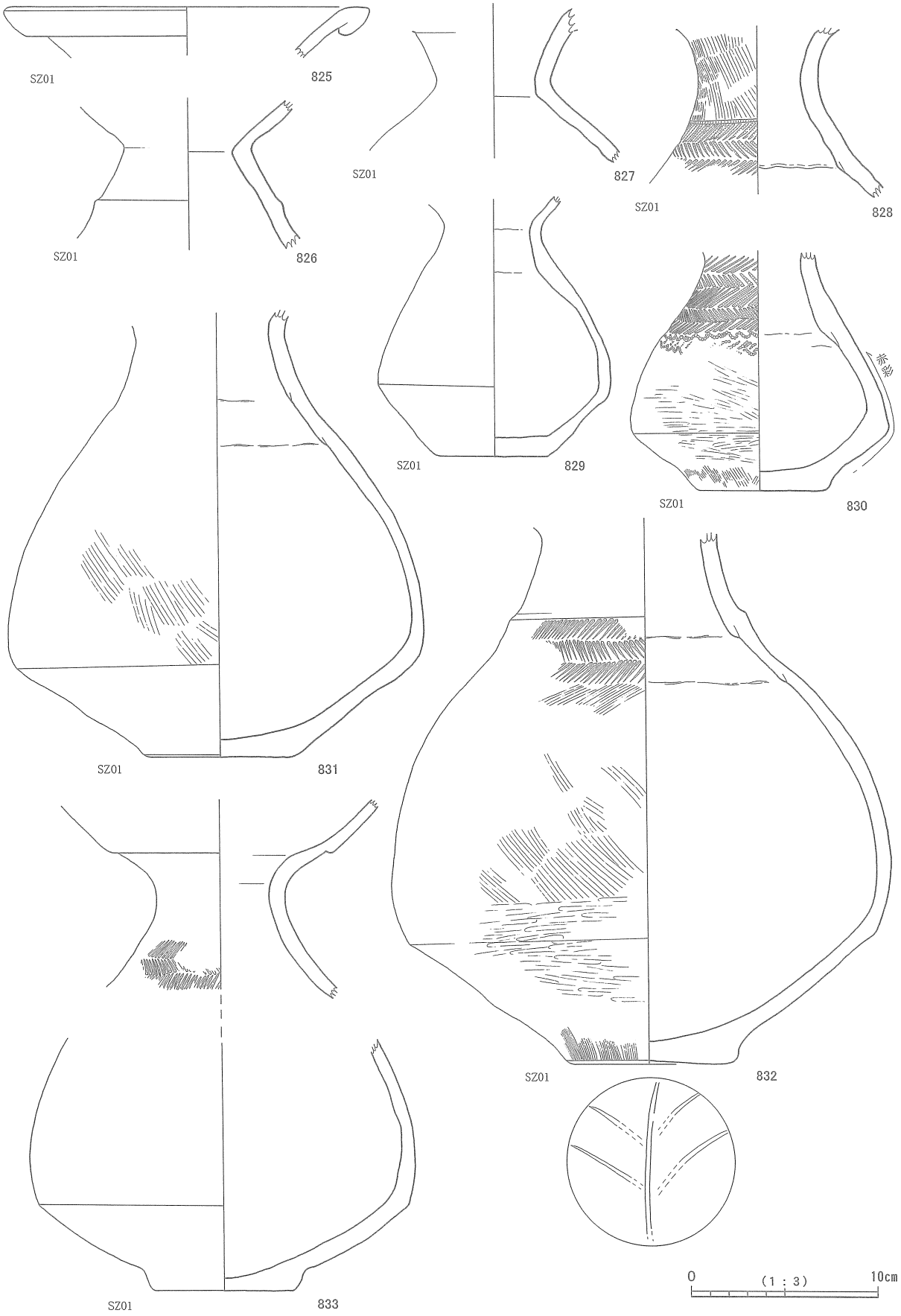


第290図　出土土器33（弥生土器・土師器）

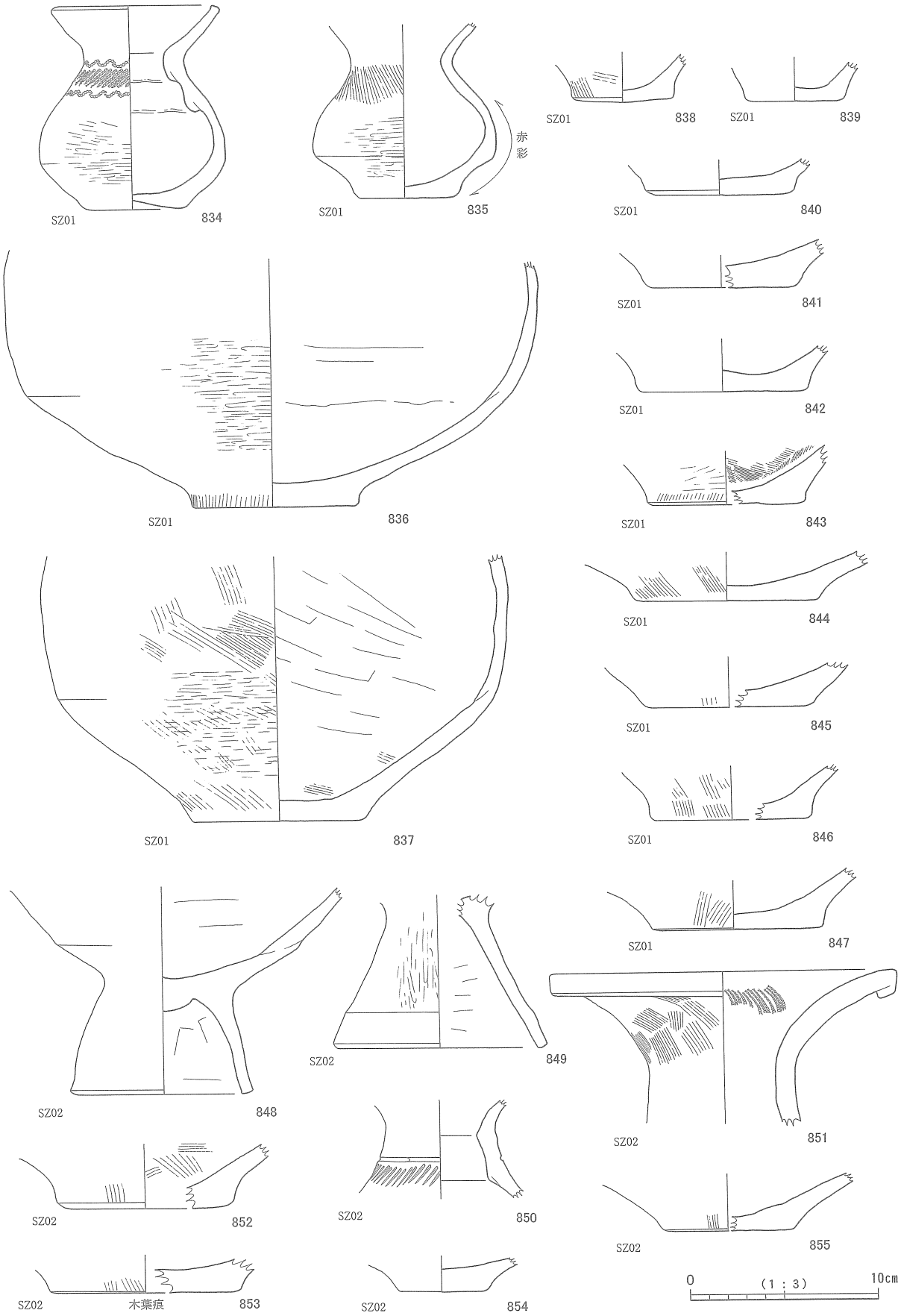


第291図　出土土器34（弥生土器・土師器）

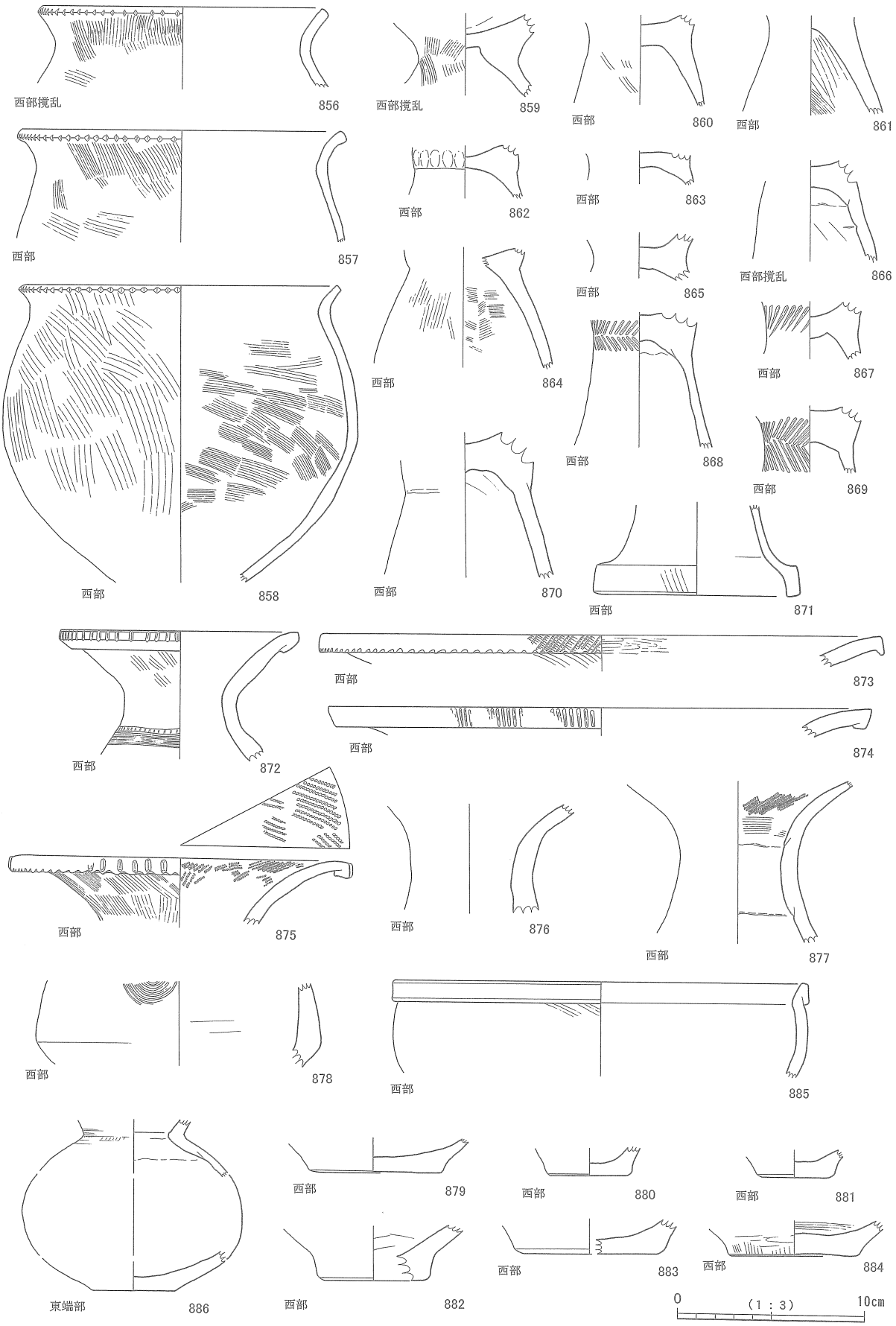
第292図　出土土器35（弥生土器・土師器）



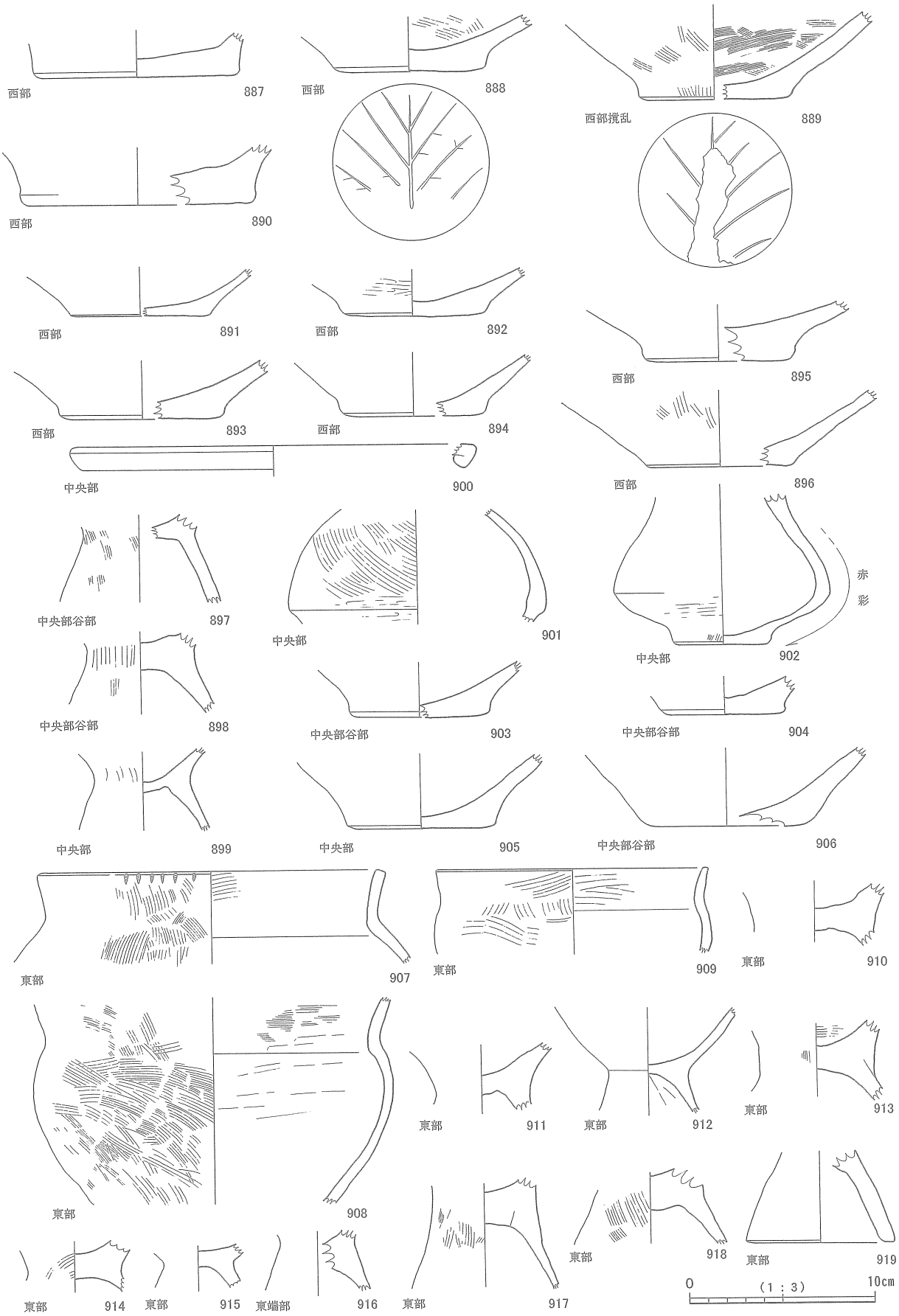
第293図　出土土器36（弥生土器・土師器）



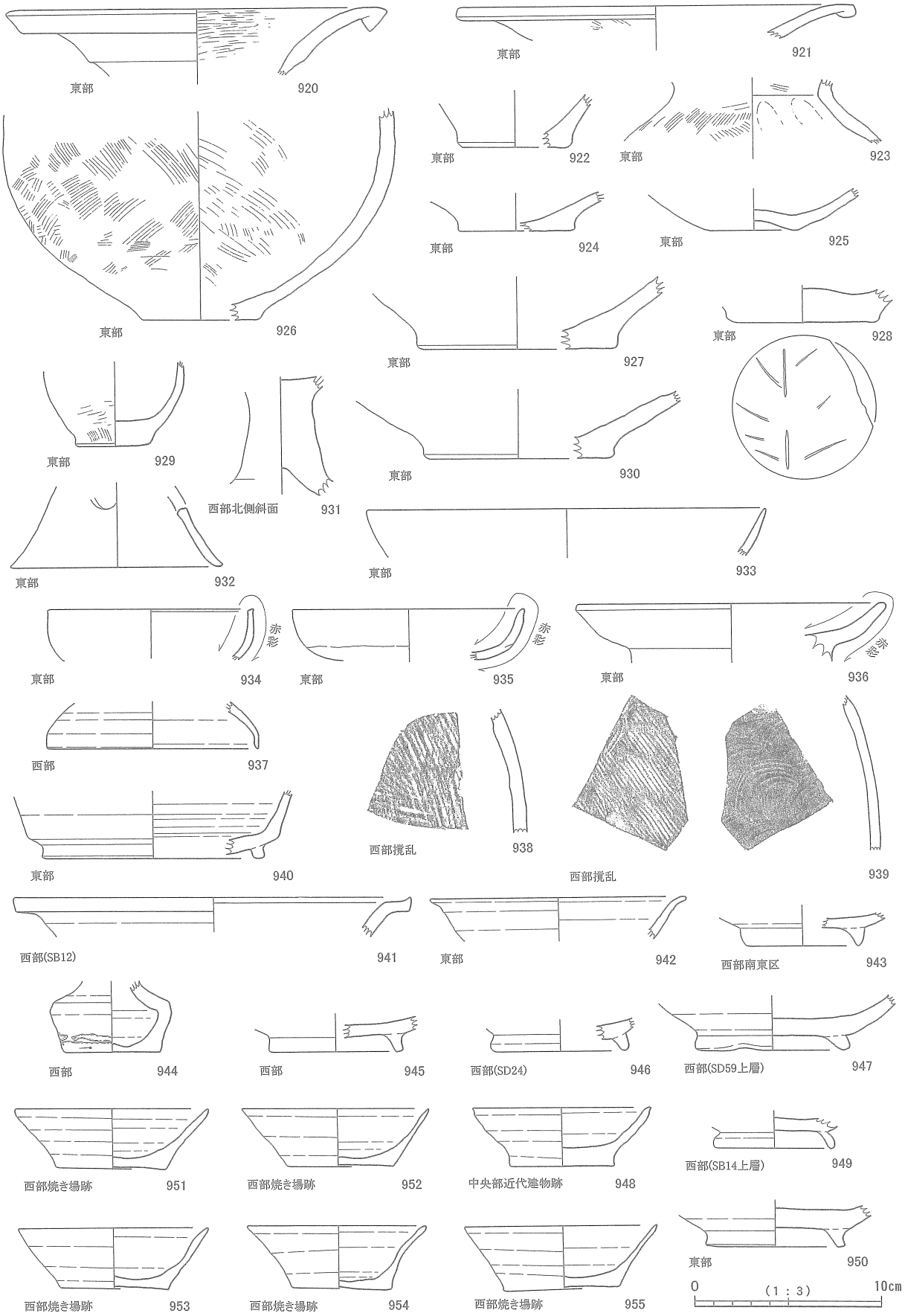
第294図　出土土器37（弥生土器・土師器）



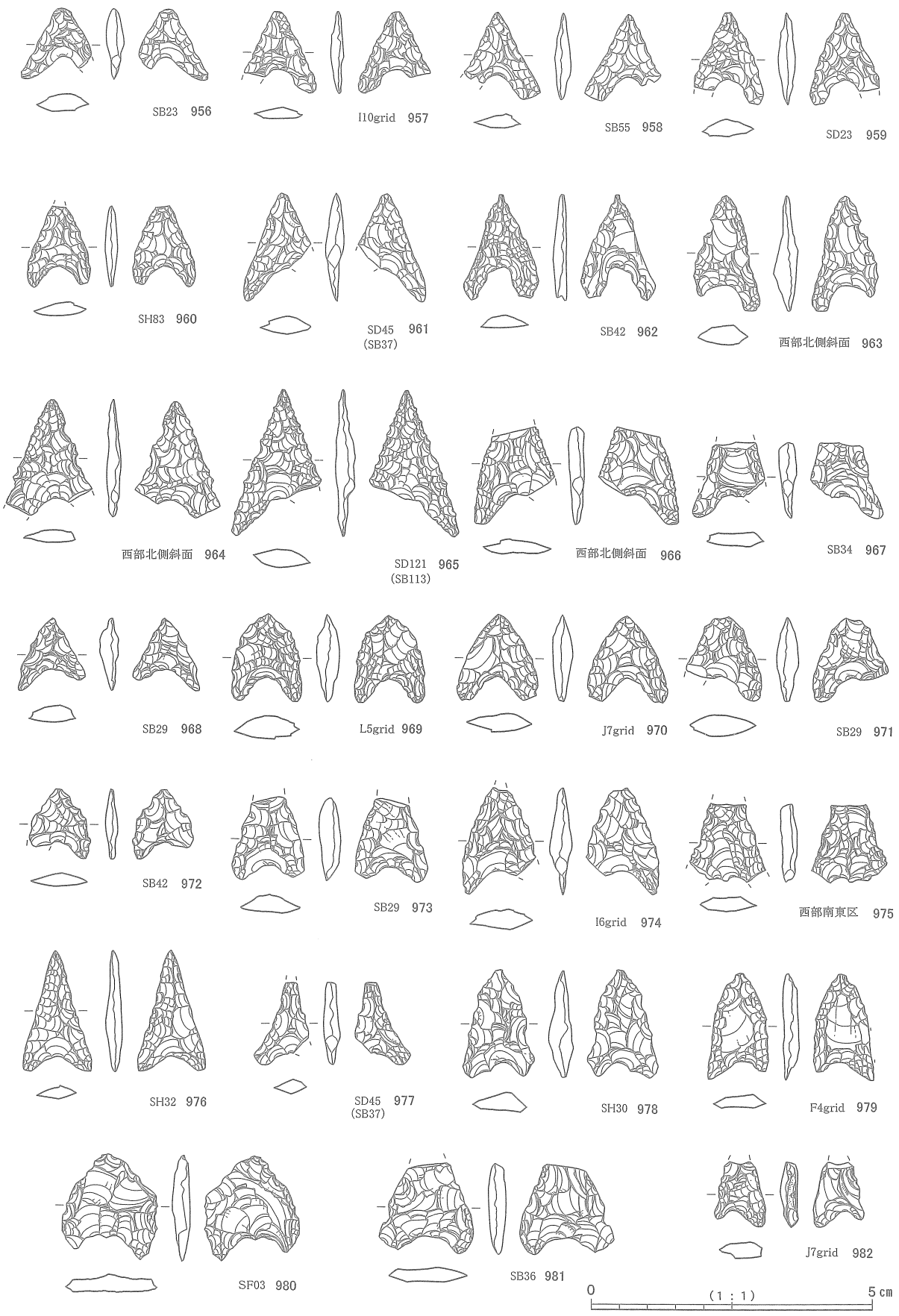
第295図　出土土器38（弥生土器・土師器）



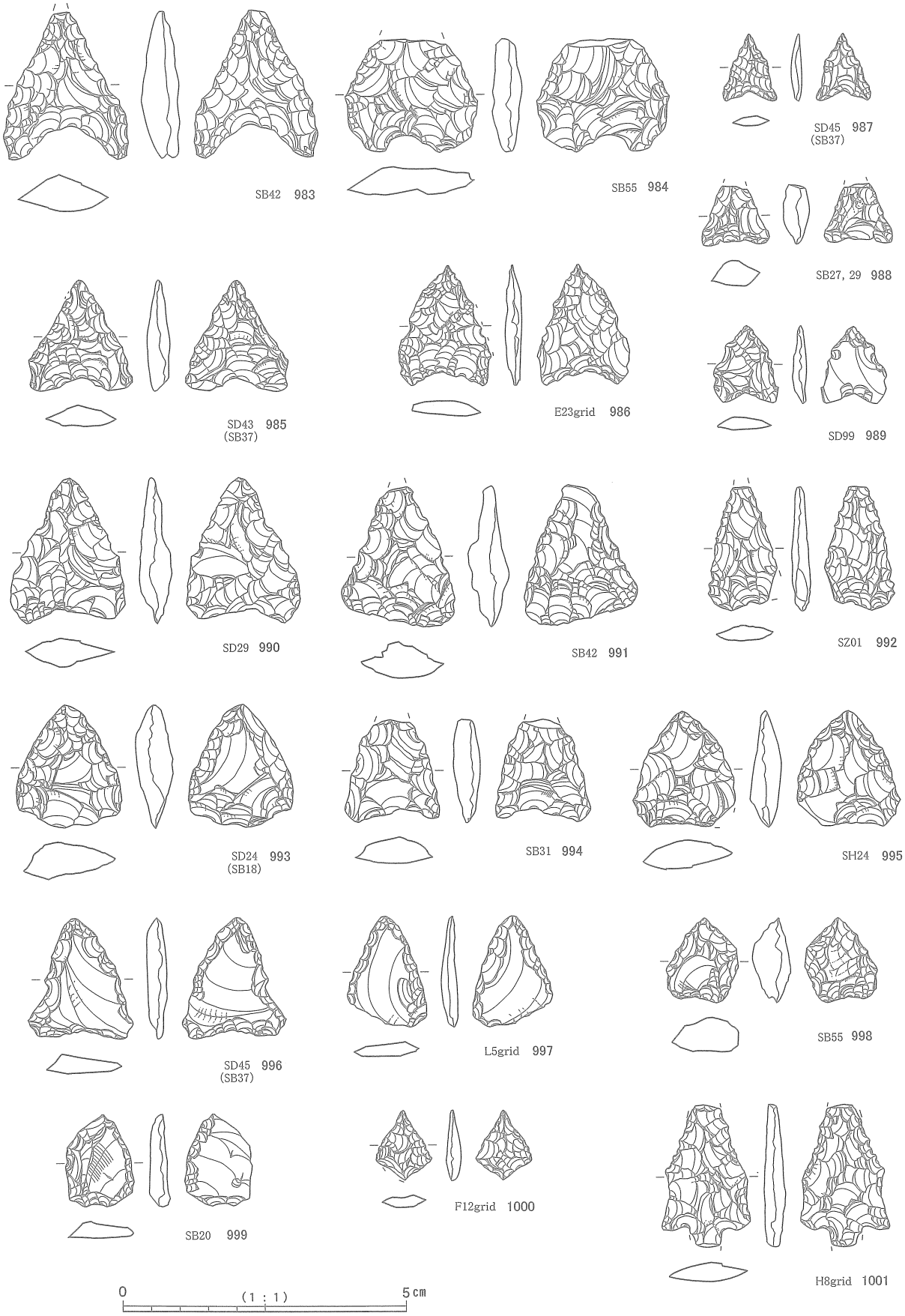
第296図　出土土器39（弥生土器・土師器）



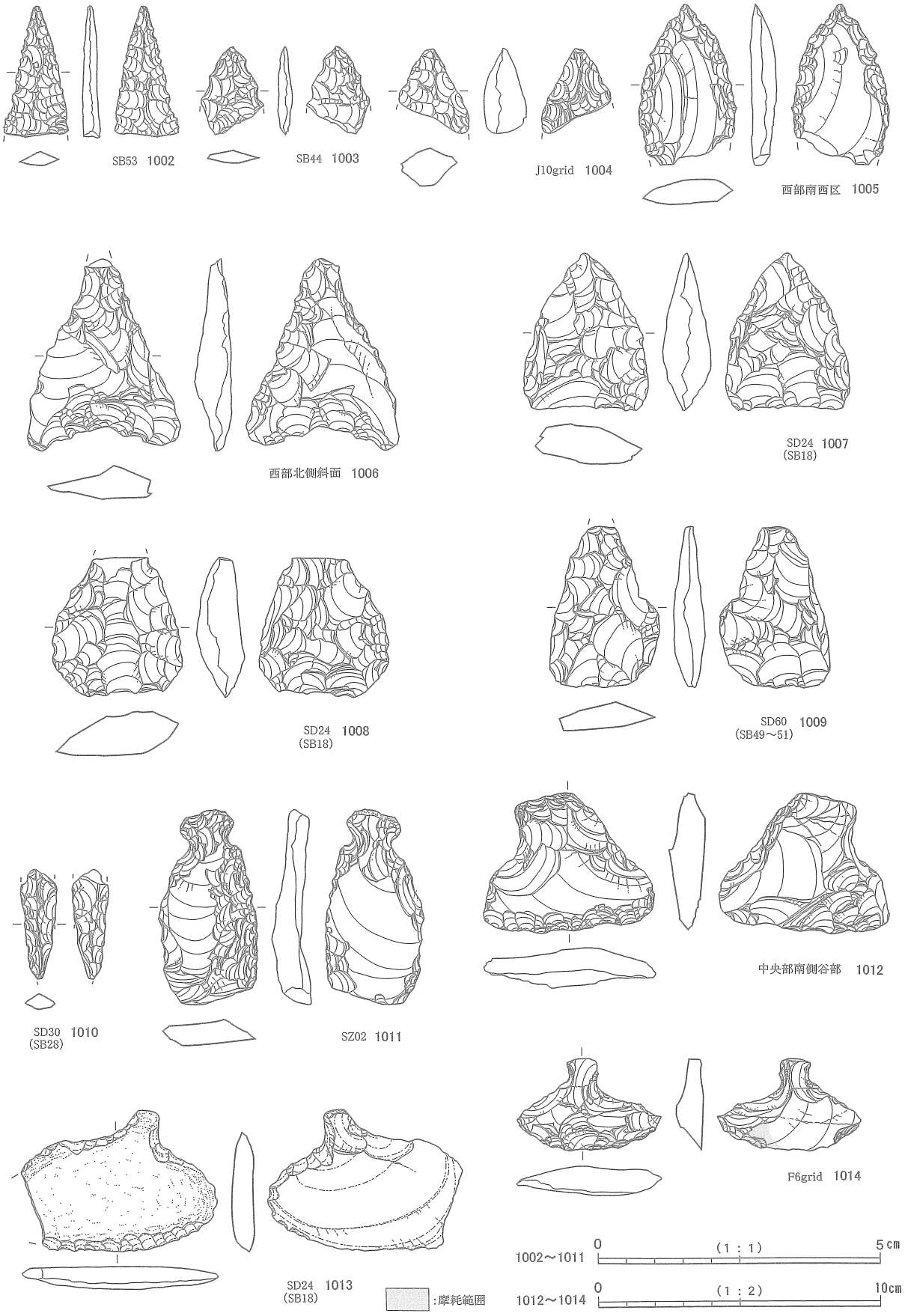
第297図　出土土器40（弥生土器・土師器・須恵器など）



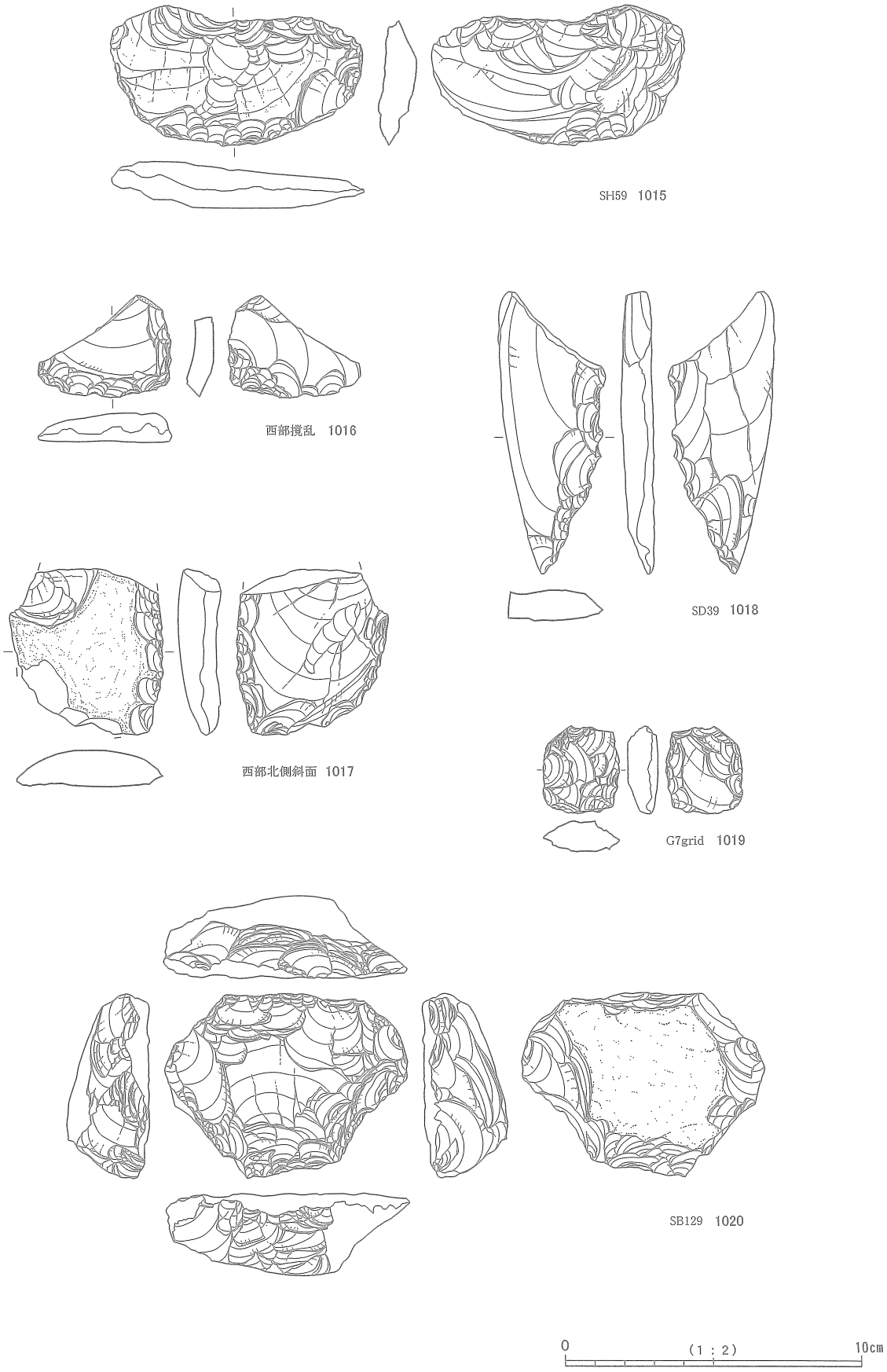
第298図　出土石器１（石鏃）



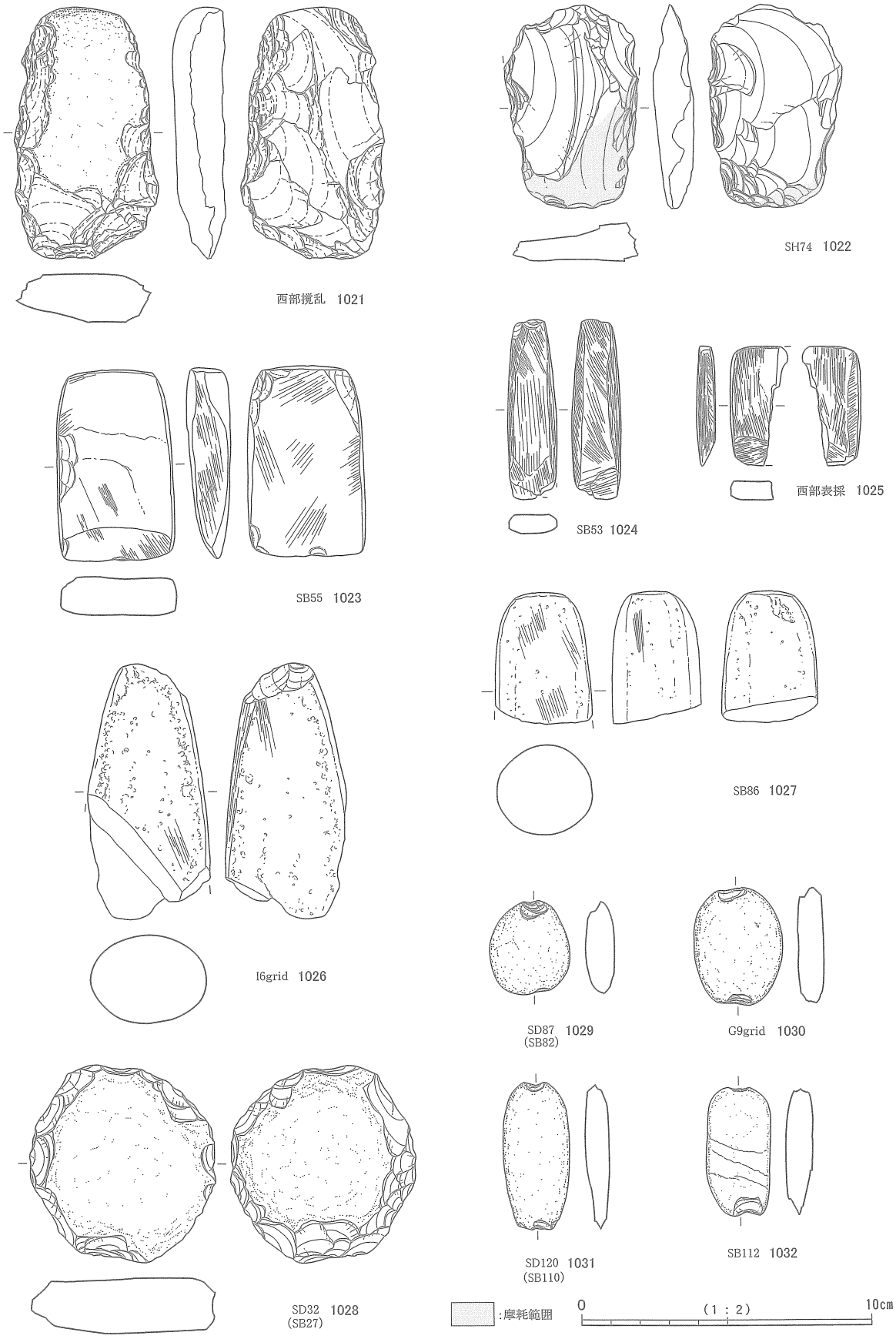
第299図　出土石器 2 （石鏃）



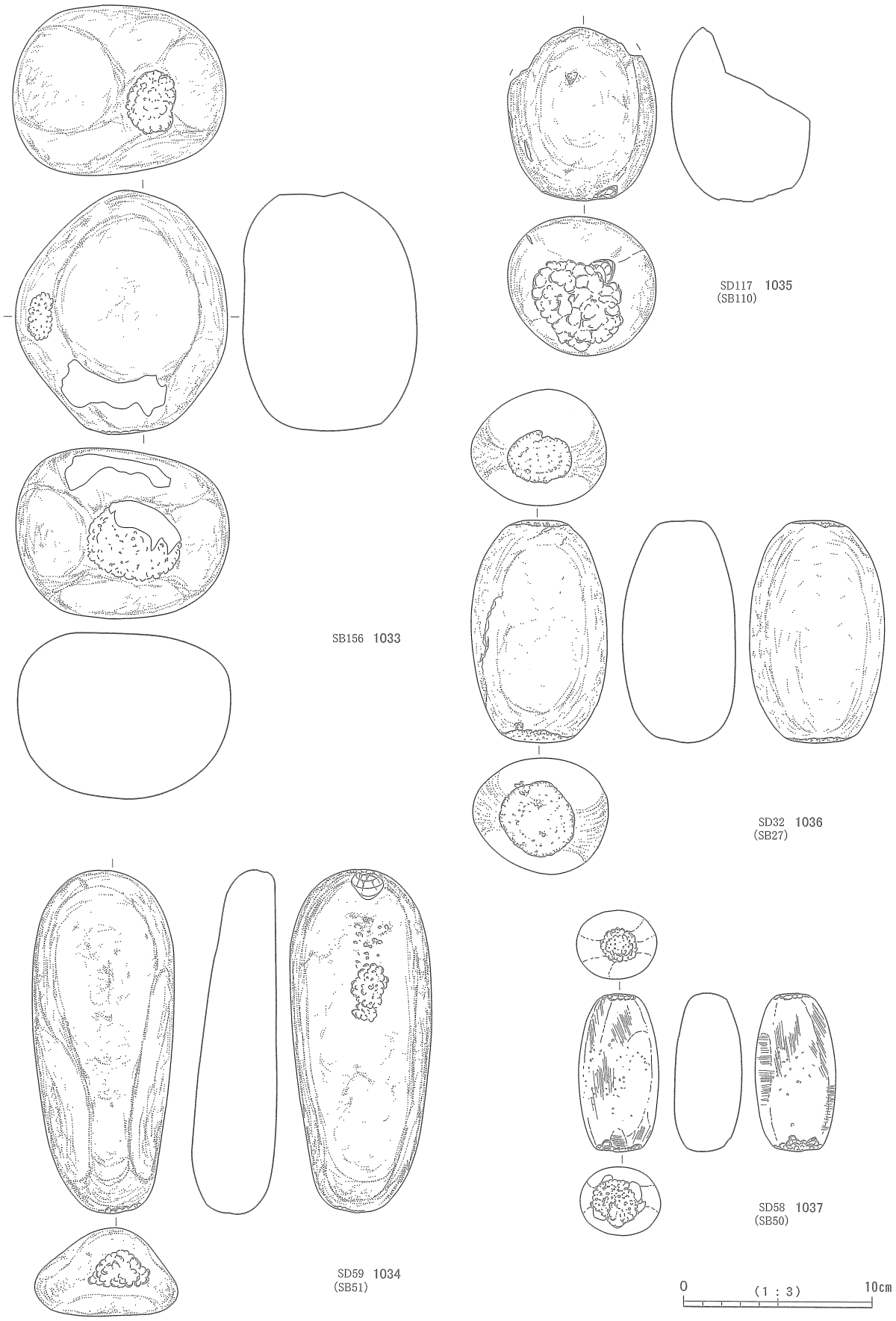
第300図　出土石器 3（石鏃・石錘・石匙）



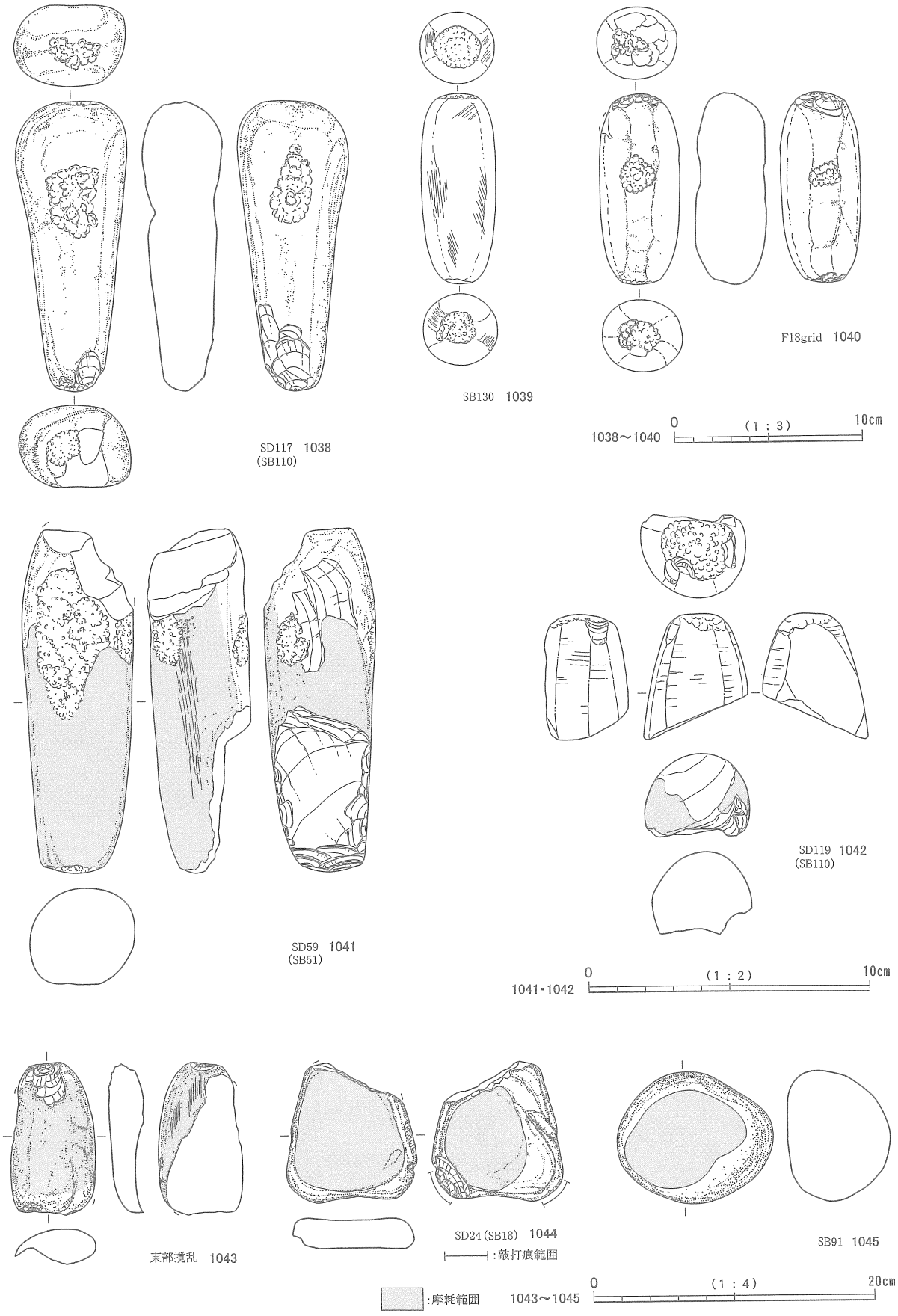
第301図　出土石器４（スクレイパーなど）



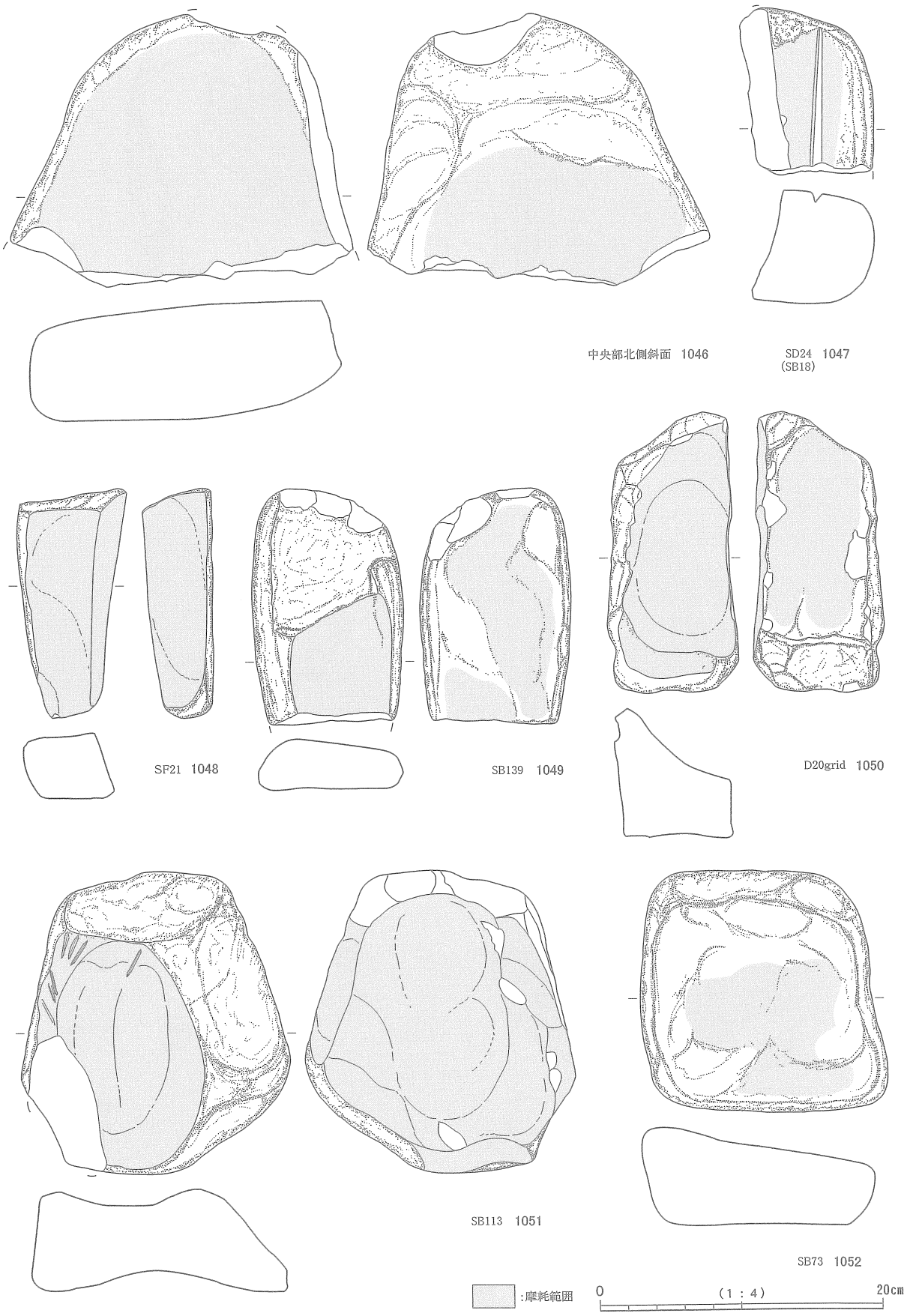
第302図　出土石器5（石斧・石錘など）



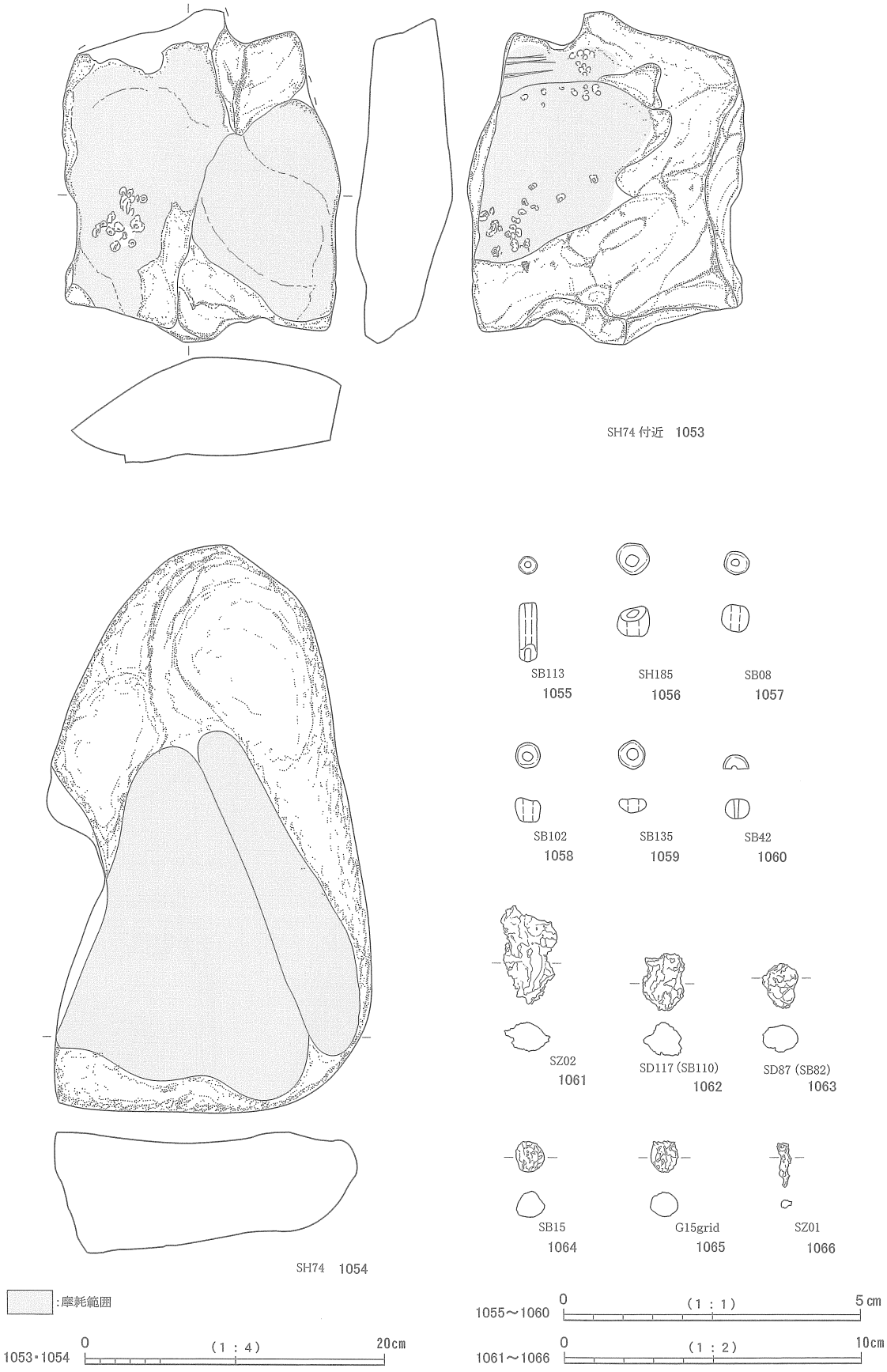
第303図　出土石器 6（敲石）



第304図　出土石器７（敲石・磨石）



第305図　出土石器 8（砥石・石皿など）



第306図　出土石器９（砥石など）、出土玉類、ガラス質の滓

第６表　遺物観察表（土器）

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
1	258	69	西部北側斜面	縄文土器		口縁部						にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
2	258	69	西部北側斜面	縄文土器								橙(7.5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
3	258	69	西部(SB60)	縄文土器								橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
4	258	69	西部(SB60)	縄文土器								橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
5	258	69	西部北側斜面	縄文土器								明赤褐(5YR5/6)	明褐(7.5YR5/6)	
6	258	69	西部	縄文土器								橙(7.5YR6/6)	にぶい褐(7.5YR5/4)	
7	258	69	西部北側斜面	縄文土器								橙(5YR7/6)	橙(5YR6/6)	
8	258	69	西部北側斜面	縄文土器								灰黄褐(10YR5/2)	褐灰(10YR6/1)	
9	258	69	西部(SB54)	縄文土器		口縁部	10			(22.6)		にぶい黄褐(10YR5/4)	橙(7.5YR7/6)	
10	258	69	西部北側斜面	縄文土器								橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
11	258	69	西部北側斜面	縄文土器								にぶい橙(7.5YR7/4)	黄灰(2.5Y6/1)	
12	258	69	西部北側斜面	縄文土器		口縁部						灰黄褐(10YR4/2)	橙(5YR6/6)	
13	258	69	西部	縄文土器		口縁部						褐(7.5Y4/6)	褐(7.5Y4/6)	
14	258	69	中央部撹乱	縄文土器		口縁部						橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	
15	258	69	西部北側斜面	縄文土器		口縁部						橙(7.5YR7/6)	橙(5YR6/6)	
16	258	69	西部(SB72)	縄文土器		口縁部						にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
17	258	69	中央部谷部	縄文土器		口縁部						にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
18	258	69	西部	縄文土器		口縁部						にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
19	258	69	西部撹乱	縄文土器		口縁部						にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
20	258	69	西部北側斜面	縄文土器		口縁部						橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
21	258	69	西部北側斜面	縄文土器		口縁部						にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	
22	258	69	西部北側斜面	縄文土器								にぶい橙(7.5YR6/4)	明赤褐(5YR5/6)	
23	258	69	西部(SZ01)	縄文土器		口縁部						橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
24	258	69	西部(SF16)	縄文土器								にぶい黄褐(10YR5/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	
25	258	69	西部(SB60)	縄文土器		口縁部						橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
26	258	69	西部北側斜面	縄文土器		口縁部						にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
27	258	69	西部	縄文土器		口縁部						明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	
28	258	69	西部	縄文土器		口縁部						にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
29	258	69	西部北側斜面	縄文土器		口縁部	15			(28.8)		橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
30	258	69	西部(SF07)	縄文土器		底部	30				(8.0)	明赤褐(5YR5/6)	にぶい黄褐(10YR5/3)	
31	259		SB02	弥生土器	甕	口縁部	10			(18.4)		明黄褐(10YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
32	259		SB02	弥生土器	壷	底部	95				6.8	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
33	259		SB04	弥生土器	壷	底部	5				(5.2)	にぶい黄橙(10YR7/4)	黄灰(2.5Y5/1)	
34	259		SB04	弥生土器	壷	底部	20				(7.0)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
35	259		SB06	弥生土器	壷	底部	20				(7.2)	浅黄(2.5Y7/3)	淡黄(2.5Y8/3)	
36	259		SD06(SB07)	弥生土器	甕	接合部	80					橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
37	259	70	SD06(SB07)	弥生土器	壷	口縁部	10			17.3		にぶい橙(7.5YR6/4)	灰黄褐(10YR5/2)	
38	259		SB07	弥生土器	壷	頸部	80					にぶい黄(2.5Y6/3)	黒褐(2.5Y3/1)	
39	259		SB07	弥生土器	壷	底部	45				(7.0)	橙(7.5YR6/6)	灰オリーブ(5Y6/2)	
40	259	70	SB09	弥生土器	壷	胴部	5					灰(5Y4/1)	灰(5Y4/1)	
41	259	70	SB10	弥生土器	甕	頸～胴部	80		18.8			オリーブ黄(5Y6/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
42	259		SB10	弥生土器	甕	胴～台部	20		(20.5)		(9.2)	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
43	259		SB10	弥生土器	壷	口縁部	5			(14.6)		黄褐(2.5Y5/3)	黄褐(2.5Y5/3)	
44	259		SB10	弥生土器	壷	底部	30				(8.0)	浅黄橙(10YR8/4)	にぶい赤橙(10R6/3)	
45	259		SB10	弥生土器	壷	底部	50				(8.4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/3)	
46	259	70	SB10	弥生土器	壷	頸～底部	60		16.0		5.6	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
47	259	70	SB10	弥生土器	壷	胴～底部	70		24.8		7.1	黄橙(7.5YR7/8)	明黄褐(10YR7/6)	
48	259		SB12	弥生土器	甕	接合部	40					黄橙(10YR8/6)	浅黄(2.5Y7/4)	
49	259		SB12	弥生土器	甕	接合部	100					橙(7.5Y7/6)	橙(5YR7/6)	
50	259	70	SD07・08(SB12)	弥生土器	壷	胴部	15					浅黄橙(10YR8/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
51	259		SD07(SB12)	弥生土器	壷	底部	85				7.5	にぶい橙(7.5YR7/4)	黄灰(2.5Y4/1)	
52	259		SB13	弥生土器	壷	口縁部・底部	20			(14.0)	(7.0)	浅黄橙(10YR8/4)	淡黄(2.5Y8/3)	
53	259		SB13	弥生土器	壷	底部	20				(7.6)	淡黄(2.5YR8/3)	灰(5Y4/1)	
54	260		SD14(SB15)	弥生土器	高坏	口縁部	15		(28.2)	(28.2)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
55	260	70	SD14(SB15)	弥生土器	高坏	口縁部	20		(30.2)	(30.2)		にぶい黄橙(10YR7/3)	暗灰(N3/0)	
56	260	70	SD15(SB15周辺)	弥生土器	高坏	接合部	70					浅黄橙(10YR8/4)	灰(5Y6/1)	
57	260		SD18(SB15)	弥生土器	甕	口縁部	15			(19.2)		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
58	260		SD18(SB15)	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
59	260		SD18(SB15)	弥生土器	甕	接合部	50					橙(5YR7/6)	浅黄橙(10YR8/4)	
60	260		SD18(SB15)	弥生土器	甕	接合部	75					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
61	260		SD18(SB15)	弥生土器	壷	頸～胴部	50					橙(5YR7/6)	浅黄橙(10YR8/4)	
62	260		SD18(SB15)	弥生土器	壷	底部	20				(6.0)	淡黄(2.5Y8/3)	灰(5Y6/1)	
63	260		SD18(SB15)	弥生土器	壷	底部	75				6.7	にぶい橙(7.5Y7/4)	黄灰(2.5Y6/1)	
64	260		SD19(SB15)	弥生土器	甕	接合部	65					にぶい橙(5Y7/4)	黄灰(2.5Y5/1)	
65	260		SD19(SB15)	弥生土器	甕	接合部	80					橙(5YR6/6)	浅黄橙(10YR8/3)	
66	260		SD19(SB15)	弥生土器	壷	底部	20				(6.8)	橙(2.5YR6/6)	にぶい橙(5YR6/4)	
67	260		SD20(SB15)	弥生土器	甕	口縁部	20			(12.6)		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
68	260		SD20(SB15)	弥生土器	高坏	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
69	260		SD20(SB15)	弥生土器	高坏	接合部	75					にぶい黄橙(10YR7/3)	淡赤褐(2.5YR7/4)	
70	260		SD20(SB15)	弥生土器	甕	接合部	60					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
71	260		SD20(SB15)	弥生土器	壷	底部	85				5.4	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰(5Y5/1)	
72	260		SD20(SB15)	弥生土器	壷	底部	60				(6.3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	灰(5Y6/1)	
73	260	70	SD20(SB15)	弥生土器	壷	胴部・底部	70				(8.2)	にぶい黄橙(10YR7/3)	灰白(2.5Y8/1)	
74	260		SD20(SB15)	弥生土器	壷	胴～底部	25				(10.2)	にぶい橙(7.5YR7/4)	灰黄(2.5Y7/2)	
75	260		SD20(SB15)	弥生土器	壷	底部	20				(7.2)	灰黄(2.5Y7/2)	灰(5Y5/1)	
76	260		SD20(SB15)	弥生土器	壷	底部	25				(12.1)	浅黄橙(10YR8/4)	灰白(2.5Y8/2)	
77	260	70	SD20(SB15)	弥生土器	高坏	坏部	15		(29.8)	(29.8)		灰白(10YR8/2)	灰白(2.5Y7/1)	
78	260		SD79(SB16)	弥生土器	甕	台部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
79	260		SD81(SB16)	弥生土器	甕	胴部	20		(23.0)			にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
80	260		SD81(SB16)	弥生土器	壷	底部	65				8.5	にぶい黄橙(10YR7/4)	褐灰(10YR4/1)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
81	260		SD81(SB16)	弥生土器	甕	接合部	20					にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
82	261		SB20	弥生土器	高坏	坏部	10					明赤褐(5YR5/6)	浅黄橙(7.5YR8/4)	
83	261	71	SB20	弥生土器	高坏	脚部	70					淡黄(2.5Y8/4)	淡黄(2.5Y8/4)	
84	261		SB20	弥生土器	壷	口縁部	10			(9.4)		橙(7.5Y7/6)	浅黄(2.5Y7/3)	
85	261	70	SD23	弥生土器	壷	口縁部	15			(14.0)		にぶい黄橙(10YR7/4)	明黄褐(10YR7/6)	
86	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	口縁～胴部	10			(20.5)		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
87	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	口縁～胴部	10			(17.0)		黄灰(2.5Y5/1)	浅黄橙(10YR8/4)	
88	261	71	SD24(SB18)	弥生土器	甕	口縁～胴部	35		(20.7)	(16.8)		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
89	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	口縁～胴部	10			(18.8)		にぶい黄(2.5Y6/4)	浅黄橙(10YR8/3)	
90	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	口縁部	5		(24.6)			黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	
91	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	口縁部	5			(25.0)		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
92	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	口縁部	5			(18.6)		にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
93	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
94	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	接合部	80					橙(2.5YR7/8)	橙(2.5YR7/8)	
95	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	接合部	60					浅黄橙(10YR8/3)	灰白(2.5Y8/2)	
96	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	接合部	75					にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(7.5YR8/4)	
97	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
98	261	71	SD24(SB18)	弥生土器	甕	接合部	60					明赤褐(2.5YR5/8)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
99	261	71	SD24(SB18)	弥生土器	甕	台部	80				(8.5)	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
100	261	71	SD24(SB18)	弥生土器	甕	台部	30				(7.7)	淡赤褐(2.5YR7/4)	橙(2.5YR6/6)	
101	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	台部	25				10.0	橙(2.5Y6/8)	橙(2.5YR6/8)	
102	261	71	SD24(SB18)	弥生土器	甕	台部	95				10.1	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
103	261	71	SD24(SB18)	弥生土器	甕	台部	40				(13.1)	にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(2.5YR7/8)	
104	261		SD24(SB18)	弥生土器	甕	接合部	70					橙(2.5YR6/8)	赤橙(10YR6/8)	
105	261	71	SD24(SB18)	弥生土器	高坏	脚部	50				(10.9)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
106	261		SD24(SB18)	弥生土器	高坏	脚部	20				(11.8)	暗灰黄(2.5Y5/2)	浅黄(2.5Y7/4)	
107	262		SD24(SB18)	弥生土器	高坏	坏部	10		(29.3)	(29.3)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
108	262		SD24(SB18)	弥生土器	高坏	口縁部	5		(28.0)	(28.0)		浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
109	262		SD24(SB18)	弥生土器	高坏	脚部	55					浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
110	262	71	SD24(SB18)	弥生土器	高坏	脚部	60					浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
111	262		SD24(SB18)	弥生土器	鉢	口縁部	5		(14.2)	(14.2)		灰(5Y4/1)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
112	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁～頸部	10			(26.7)		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
113	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁～頸部	10			(28.2)		にぶい橙(7.5YR7/4)	橙(5YR6/6)	
114	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁部	5			(26.0)		浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
115	262	71	SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁部	25			(26.0)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
116	262	71	SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁部	30			(24.0)		橙(7.5YR6/6)	暗灰黄(2.5Y5/2)	
117	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁～頸部	15			(22.0)		にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
118	262	71	SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸部	40					浅黄(2.5Y7/3)	灰黄(2.5Y7/2)	
119	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸～胴部	20					浅黄橙(10YR8/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
120	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸部	55					にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/3)	
121	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸部	70					浅黄(2.5Y7/4)	灰(7.5Y5/1)	
122	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸部	50					明黄褐(10YR7/6)	浅黄橙(10YR8/4)	
123	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	胴部	15		(10.0)			にぶい黄橙(10YR7/4)	明黄褐(10YR7/6)	赤彩
124	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸～胴部	30		(7.5)			淡黄(2.5Y8/3)	淡黄(2.5Y8/3)	
125	262		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸部	25					橙(5YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	
126	262	71	SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸部	15					浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	
127	263		SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁部	15			(19.5)		にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄褐(10YR6/2)	
128	263		SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁部	15			(24.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
129	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁部	15			(16.0)		にぶい黄橙(7.5YR6/4)	灰黄(2.5Y7/2)	
130	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁～頸部	30			19.4		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
131	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁部	15			(18.8)		橙(5YR7/6)	灰黄(2.5Y6/2)	
132	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁部	5			(16.6)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
133	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁部	20			(16.0)		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
134	263		SD24(SB18)	弥生土器	壷	口縁部	15			(16.6)		浅黄橙(10YR8/4)	灰黄(2.5Y7/2)	
135	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	胴部	15					灰白(5Y7/2)	灰白(5Y7/1)	
136	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸～胴部	25					にぶい黄橙(10YR6/4)	黄灰(2.5Y4/1)	
137	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸部	80					にぶい黄(2.5Y6/3)	黄灰(2.5Y5/1)	
138	263		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸部	15					浅黄橙(10YR8/4)	灰黄(2.5Y7/2)	
139	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸～胴部	60					橙(5YR6/8)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
140	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸～胴部	25		(17.3)			にぶい黄(2.5Y6/4)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
141	263		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸～底部	30		(13.5)		5.8	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/3)	赤彩
142	263		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸～胴部	20					灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	
143	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸～胴部	20		(14.0)			橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
144	263		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸部	30					灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	
145	263	72	SD24(SB18)	弥生土器	壷	全体	95	11.9	11.7	(8.0)	5.5	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
146	263		SD24(SB18)	弥生土器	壷	胴部						橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
147	263		SD24(SB18)	弥生土器	壷	胴部						にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
148	264		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸部	20					にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
149	264		SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸～胴部	25		14.5			浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
150	264	73	SD24(SB18)	弥生土器	壷	頸～底部	85		14.5		5.4	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
151	264	73	SD24(SB18)	弥生土器	壷	胴～底部	20		(29.5)		(10.2)	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
152	264	73	SD24(SB18)	弥生土器	壷	胴～底部	80		23.0		8.6	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
153	264		SD24(SB18)	弥生土器	壷	胴～底部	15		22.0		8.5	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄(2.5Y7/4)	
154	264		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(6.5)	暗青灰(5B4/1)	浅黄(2.5Y7/3)	
155	264		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	40				(9.0)	にぶい黄橙(10YR7/3)	灰黄(2.5Y7/2)	
156	264		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	25				(7.3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄(2.5Y7/2)	
157	264		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	50				9.9	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄(2.5Y7/2)	
158	264		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	10				(11.0)	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰白(5Y7/2)	
159	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	25				(9.0)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
160	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	25				(9.0)	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
161	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	40				(9.2)	橙(7.5YR7/6)	灰黄(2.5Y7/2)	
162	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(7.0)	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄(2.5Y7/2)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
163	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(9.4)	浅黄(2.5Y7/4)	灰白(7.5Y7/1)	
164	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(9.0)	明黄褐(2.5Y7/6)	浅黄(2.5Y7/4)	
165	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	30				10.0	浅黄(2.5Y7/3)	黄灰(2.5Y5/1)	
166	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	15				(10.0)	浅黄(2.5Y7/4)	灰黄(2.5Y7/2)	
167	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	60				(8.6)	浅黄橙(10YR8/4)	灰白(7.5Y8/1)	
168	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(10.0)	灰(5Y6/1)	灰白(5Y7/1)	
169	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(9.0)	黄灰(2.5Y5/1)	黄灰(2.5Y5/1)	
170	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(8.0)	にぶい黄橙(10YR7/2)	灰(10Y5/1)	
171	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	30				(10.8)	浅黄(2.5Y7/3)	灰黄(2.5Y7/2)	
172	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	25				(8.6)	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
173	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(6.0)	浅黄橙(10YR8/4)	灰白(2.5Y8/2)	
174	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	25				(7.3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	浅黄(2.5Y7/4)	
175	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(7.2)	浅黄橙(7.5Y8/4)	灰白(5Y7/1)	
176	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(6.8)	明黄褐(10YR7/6)	浅黄(2.5Y7/3)	
177	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(7.0)	にぶい黄橙(10YR7/3)	黄灰(2.5YR5/1)	
178	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	80				(8.5)	浅黄橙(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/4)	
179	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	90				7.8	橙(7.5YR7/6)	灰白(2.5Y8/1)	
180	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	70				6.0	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰白(2.5Y7/1)	
181	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	15				(7.6)	青黒(5B2/1)	浅黄(2.5Y7/3)	
182	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	30				(6.0)	黄灰(2.5Y6/1)	黄灰(2.5Y6/1)	
183	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	20				(6.4)	灰黄(2.5Y7/2)	灰(5Y5/1)	
184	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	40				(6.2)	浅黄(2.5Y7/3)	灰(5Y5/1)	
185	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	15				(4.8)	浅黄橙(7.5Y8/4)	灰白(2.5Y8/2)	
186	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	95				9.0	浅黄(2.5Y7/3)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
187	265		SD24(SB18)	弥生土器	壷	底部	30				(4.8)	浅黄(2.5Y7/3)	黄灰(2.5Y4/1)	
188	265	73	SD81(SB16)	弥生土器	甕	口縁～胴部	40			(18.0)		にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄褐(10YR6/3)	
189	265		SD81(SB16)	弥生土器	壷	胴部	20					にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
190	265		SB21	弥生土器	甕	口縁部	10			(17.5)		橙(5YR6/8)	橙(5YR6/8)	
191	265		SB22	弥生土器	壷	底部	20				(10.2)	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
192	265		SB22	弥生土器	壷	底部	90				8.0	灰黄(2.5Y7/2)	黄橙(10YR8/6)	
193	265		SB22	弥生土器	壷	底部	45				(5.8)	橙(7.5YR7/6)	黄灰(2.5Y6/1)	
194	266		SB23	弥生土器	壷	口縁部	15			(12.5)		にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄褐(10YR6/2)	
195	266		SD24(SB18) SD25・26(SB23)	弥生土器	壷	底部	10				(8.0)	黄灰(2.5Y6/1)	黄灰(2.5Y6/1)	
196	266		SD25・26(SB23)	弥生土器	壷	口縁部	10			(20.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	灰黄(2.5Y6/2)	
197	266	73	SD25・26(SB23)	弥生土器	壷	頸部	60					淡黄(2.5Y8/4)	淡黄(2.5Y8/4)	
198	266	73	SD25・26(SB23)	弥生土器	壷	頸～胴部	70		(24.0)			にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
199	266	73	SD25・26(SB23)	弥生土器	壷	台部	95				10.0	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
200	266	74	SB27	弥生土器	高坏	脚部	35					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
201	266		SB27	弥生土器	壷	底部	15				(8.4)	黄橙(10YR8/6)	灰(5Y5/1)	
202	266		SB27	弥生土器	壷	底部	20				(5.2)	にぶい黄橙(10YR6/3)	暗灰黄(2.5Y5/2)	
203	266		SB27	弥生土器	甕	接合部	40					黄灰(2.5Y5/1)	浅黄(2.5Y7/3)	
204	266		SB30	弥生土器	甕	接合部	95					浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄(2.5Y7/2)	
205	266		SB27・30	弥生土器	壷	口縁部	5			(21.4)		黄橙(7.5YR8/6)	黄橙(7.5YR8/6)	
206	266		SB27・30	弥生土器	甕	接合部	50					明赤褐(5YR5/6)	黒褐(10YR1/3)	
207	266	74	SB27・30	弥生土器	壷	胴部	20					にぶい橙(7.5YR6/4)	黄灰(2.5Y6/1)	
208	266		SB31	弥生土器	壷	底部	90				6.3	淡黄(2.5Y8/3)	暗灰黄(2.5Y5/2)	
209	266		SD31(SB28)	弥生土器	甕	接合部	40					にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
210	266		SD31(SB28)	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
211	266	74	SD31(SB28)	弥生土器	甕	台部	60				10.3	にぶい黄(2.5Y7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
212	266		SD31(SB28)	弥生土器	甕	接合部	80					橙(5YR6/6)	橙(2.5Y6/3)	
213	266		SD31(SB28)	弥生土器	甕	接合部	35					浅黄(10YR8/4)	浅黄(5YR6/6)	
214	266	74	SD31(SB28)	弥生土器	壷	口縁部	5			(26.0)		にぶい橙(7.5YR6/4)	明黄褐(10YR6/6)	
215	266		SD31(SB28)	弥生土器	壷	胴部	5					橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	赤彩
216	266	74	SD31(SB28)	弥生土器	壷	胴部	10					にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/2)	
217	266		SD31(SB28)	弥生土器	壷	底部	10				(8.2)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/2)	
218	266		SD31(SB28)	弥生土器	壷	底部	15				(8.0)	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
219	266		SD31(SB28)	弥生土器	壷	底部	5				(10.0)	浅黄(2.5Y7/4)	淡黄(2.5Y8/4)	
220	266		SD31(SB28)	弥生土器	壷	底部	70				5.5	にぶい黄(2.5Y6/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
221	267		SD30(SB28)	弥生土器	甕	口縁～胴部	10			(15.0)		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
222	267		SD30・31(SB28)	弥生土器	甕	台部	30					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
223	267		SD30・31(SB28)	弥生土器	壷	底部	15				(5.7)	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
224	267	74	SD28(SB28)	弥生土器	甕	台部	60					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
225	267		SD32(SB27)	弥生土器	甕	口縁～頸部	5			(19.0)		にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
226	267	74	SD32(SB27)	弥生土器	甕	頸～胴部	10		(18.0)			にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
227	267		SD32(SB27)	弥生土器	甕	接合部	90					にぶい黄橙(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/6)	
228	267		SD32(SB27)	弥生土器	甕	接合部	30					橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
229	267		SD32(SB27)	弥生土器	甕	台部	40					橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
230	267		SD32(SB27)	弥生土器	壷	口縁部	10			(20.0)		にぶい黄橙(10YR6/1)	灰黄褐(10YR6/2)	
231	267	74	SD32(SB27)	弥生土器	壷	口縁部	15			(26.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
232	267	74	SD32(SB27)	弥生土器	壷	頸～底部	80		11.8		5.0	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
233	267	74	SD32(SB27)	弥生土器	壷	頸～胴部	45		(11.4)			にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4	
234	267	74	SD32(SB27)	弥生土器	壷	頸部	80					にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
235	267	74	SD32(SB27)	弥生土器	壷	胴部	10					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
236	267		SD32(SB27)	弥生土器	壷	底部	30				(11.0)	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
237	267		SD32(SB27)	弥生土器	壷	底部	10				(6.0)	橙(7.5YR7/6)	暗灰黄(2.5Y4/2)	
238	267		SD32(SB27)	弥生土器	壷	底部	40				(5.0)	暗灰黄(2.5Y5/2)	暗灰黄(2.5Y5/2)	
239	267		SD32(SB27)	弥生土器	壷	底部	70				(3.5)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
240	267		SD33(SB26)	弥生土器	甕	口縁部	5			(16.0)		灰褐(7.5YR5/2)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
241	267		SD33(SB26)	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
242	267		SD33(SB26)	弥生土器	甕	胴～接合部	30					橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
243	267	74	SD33(SB26)	弥生土器	壷	胴部	20					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
244	267	74	SD33(SB26)	弥生土器	壷	頸部	30					にぶい黄橙(10YR6/4)	黄灰(2.5Y4/1)	
245	268		SB29	弥生土器	壷	口縁部	10			(18.8)		明黄褐(10YR7/6)	灰黄(2.5Y6/2)	
246	268		SD29(SB29)	弥生土器	甕	接合部	30					にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
247	268		SB27・29	弥生土器	甕	接合部	95					橙(2.5YR7/6)	橙(2.5YR7/6)	
248	268		SB27・29	弥生土器	高坏	接合部	80					黄橙(10YR8/6)	黄橙(10YR8/6)	
249	268		SB29	弥生土器	壷	口縁部	10			(14.8)		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄(2.5Y7/3)	
250	268	74	SB29	弥生土器	壷	胴部	10					浅黄(2.5Y7/3)	黄灰(2.5Y6/1)	
251	268		SB29	弥生土器	壷	底部	10				(5.1)	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰(5Y5/1)	
252	268	74	SB27・29	弥生土器	甑	把手	100					にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
253	268		SB33	弥生土器	壷	口縁部	15			(14.0)		明黄褐(10YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	
254	268		SB34	弥生土器	高坏	口縁部	10		(23.4)	(23.4)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
255	268		SB34	弥生土器	甕	接合部	35					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
256	268		SB36	弥生土器	壷	底部	35				(4.8)	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい黄橙(10YR4/6)	
257	268		SB38	弥生土器	壷	底部	95				5.8	浅黄橙(10YR8/4)	淡黄(2.5Y8/3)	
258	268		SB39・40	弥生土器	甕	接合部	60					明黄褐(10YR7/6)	褐灰(10YR4/1)	
259	268		SD46(SB39・40)	弥生土器	甕	接合部	55					橙(5YR6/8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
260	268		SD46(SB39・40)	弥生土器	甕	口縁～胴部	20			(15.0)		灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	
261	268	75	SD46(SB39・40)	弥生土器	甕	台部	60				(9.1)	にぶい橙(7.5Y7/4)	にぶい橙(7.5Y7/4)	
262	268	75	SD47(SB39・40)	弥生土器	甕	口縁～胴部	15			(18.0)		黄灰(2.5Y4/1)	浅黄橙(10YR8/4)	
263	268		SD47(SB39・40)	弥生土器	甕	接合部	85					橙(5YR6/8)	灰黄(2.5Y6/2)	
264	268		SD47(SB39・40)	弥生土器	甕	台部	40					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
265	268	75	SD47(SB39・40)	弥生土器	甕	台部	70				9.8	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
266	268		SD47(SB39・40)	弥生土器	甕	台部	30				(9.6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
267	268		SD47(SB39・40)	弥生土器	高坏	接合部	25					にぶい黄橙(10YR7/4)	黄灰(2.5Y5/1)	
268	268		SD47(SB39・40)	弥生土器	壷	頸～胴部	30					にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
269	268		SD47(SB39・40)	弥生土器	壷	底部	20				(9.0)	浅黄(2.5Y7/3)	淡黄(2.5Y8/4)	
270	268		SD47(SB39・40)	弥生土器	壷	底部	20				(8.2)	にぶい黄橙(10YR7/4)	黄褐(2.5Y5/4)	
271	268	75	SB42	弥生土器	甕	口縁～胴部	75		19.8	18.5		にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
272	268	75	SD49(SB42)	弥生土器	壷	口縁部	5				(20.8)	明黄褐(10YR7/6)	灰(7.5Y4/1)	
273	268		SB42	弥生土器	壷	底部	15				(9.7)	淡黄(2.5Y8/3)	淡黄(2.5Y8/3)	
274	268		SB42	弥生土器	甕	接合部	75					にぶい黄橙(10YR6/4)	灰黄褐(10YR6/2)	
275	269	75	SD43(SB37)	弥生土器	甕	口縁～胴部	20		(20.9)	(19.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
276	269		SD43(SB37)	弥生土器	甕	接合部	60					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
277	269	75	SD43(SB37)	弥生土器	壷	胴部	30					にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	赤彩
278	269	76	SD43(SB37)	弥生土器	壷	胴部	20					にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
279	269		SD43(SB37)	弥生土器	壷	口縁部	20			(18.0)		明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
280	269		SD43(SB37)	弥生土器	壷	底部	80				7.0	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
281	269	75	SD43(SB37)	弥生土器	碗	胴部～底部	85	5.2	10.3	10.3	6.7	黒褐(10YR3/1)	灰黄褐(10YR6/2)	
282	269		SD44(SB37)	弥生土器	壷	底部	20				(8.2)	灰(7.5Y4/1)	灰(7.5Y4/1)	
283	269	76	SD44(SB37)	弥生土器	壷	頸～胴部	40		(24.2)			にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
284	269	75	SD45(SB37)	弥生土器	甕	口縁～胴部	60		(19.0)	(18.5)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
285	269	75	SD45(SB37)	弥生土器	甕	口縁～胴部	15			(14.7)		灰(7.5Y5/1)	灰(5Y6/1)	
286	269		SD45(SB37)	弥生土器	甕	口縁部	5			(20.5)		暗灰黄(2.5Y5/2)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
287	269		SD45(SB37)	弥生土器	甕	口縁部	25			(19.0)		にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	
288	269		SD45(SB37)	弥生土器	甕	接合部	70					橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
289	269		SD45(SB37)	弥生土器	甕	接合部	40					にぶい橙(5YR7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
290	269		SD45(SB37)	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
291	269		SD45(SB37)	弥生土器	甕	台部	20				(9.0)	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
292	269	75	SD45(SB37)	弥生土器	甕	台部	40				(7.8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
293	269		SD44・45(SB37)	弥生土器	甕	接合部	70					橙(7.5YR7/6)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
294	269	75	SD44・45(SB37)	弥生土器	甕	台部	80				8.9	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
295	269	76	SD45(SB37)	弥生土器	壷	口縁部	10			(21.6)		浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
296	269	76	SD45(SB37)	弥生土器	壷	頸部	15					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
297	270		SD45(SB37)	弥生土器	壷	胴～底部	20		(15.8)		(8.4)	灰(7.5Y5/1)	暗青灰(5B4/1)	
298	270		SD45(SB37)	弥生土器	壷	胴部	15		(23.5)			にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
299	270		SD45(SB37)	弥生土器	壷	底部	55				6.2	明黄褐(10YR7/6)	浅黄(2.5Y7/4)	
300	270		SD45(SB37)	弥生土器	壷	底部	50				(9.2)	橙(5YR7/6)	黄灰(2.5Y4/1)	
301	270		SD45(SB37)	弥生土器	壷	底部	20				(9.4)	黄橙(10YR8/6)	浅黄橙(10YR8/4)	
302	270		SD45(SB37)	弥生土器	壷	底部	65				(8.6)	黄橙(10YR8/6)	灰(10Y4/1)	
303	270		SD45(SB37)	弥生土器	壷	底部	25				(10.0)	にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	
304	270		SD45(SB37)	弥生土器	壷	頸部	90					淡黄(2.5Y8/4)	灰黄(2.5Y6/2)	
305	270		SD45(SB37)	弥生土器	高坏	接合部	60					橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
306	270		SD45(SB37)	弥生土器	高坏	脚部	20				(12.6)	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
307	270	76	SB44	弥生土器	甕	口縁～胴部	10			(17.0)		にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	
308	270	76	SB44	弥生土器	甕	口縁～胴部	10			(24.2)		にぶい橙(5YR6/4)	黄褐(2.5Y5/3)	
309	270		SB44	弥生土器	甕	胴部	30		(22.9)			橙(5YR6/6)	にぶい黄褐(10YR5/3)	
310	270	76	SB44	弥生土器	甕	坏～台部	80				9.0	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
311	270		SB44	弥生土器	甕	接合部	40					にぶい赤褐(5YR5/4)	明黄褐(10YR6/6)	
312	270		SB44	弥生土器	甕	台部	40					浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
313	270		SB44	弥生土器	甕	接合部	25					明赤褐(5YR5/6)	にぶい赤褐(5YR5/4)	
314	270		SB44	弥生土器	甕	台部	30					暗灰黄(2.5Y5/2)	灰黄(2.5Y6/2)	
315	270	76	SB44	弥生土器	壷	頸～底部	70		(17.5)		(5.5)	橙(2.5YR6/6)	明赤褐(2.5YR5/6)	
316	270	76	SB44	弥生土器	壷	口縁部	10			(15.8)		橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
317	270	76	SB44	弥生土器	壷	口縁部	50			(14.2)		明赤褐(5YR5/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
318	270		SB44	弥生土器	壷	底部	30				(6.6)	にぶい赤褐(5YR5/4)	にぶい赤褐(5YR5/4)	
319	271	76	SB44	弥生土器	鉢	全体	95	7.0	18.3	18.3	5.3	明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	
320	271	76	SB44	弥生土器	鉢	全体	60	7.5	18.5	18.5	(5.0)	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
321	271	77	SB44	弥生土器	高坏	坏部	40		29.0	29.0		にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	
322	271	77	SB44	弥生土器	高坏	坏部	50					にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
323	271	77	SB44	弥生土器	高坏	口縁～脚部	50		33.5	33.5		明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	
324	271		SB44	弥生土器	高坏	口縁部・接合部	20		(23.0)	(23.0)		橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
325	271	77	SB44	弥生土器	高坏	全体	10	(26.2)	(28.8)	(28.8)	(14.0)	明赤褐(5YR5/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
326	271		SB44	弥生土器	高坏	坏部・脚部	10				(8.2)	橙(5YR6/6)	明赤褐(5YR5/6)	
327	271	77	SB44	弥生土器	高坏	脚部	85				9.0	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
328	272		SB47	弥生土器	壷	口縁部	10			(12.0)		浅黄橙(10YR8/4)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
329	272		SB47	弥生土器	壷	胴部	10		(13.0)			明黄褐(10YR7/6)	淡黄(2.5Y8/3)	
330	272		SB43	弥生土器	壷	底部	20				(5.6)	浅黄(2.5Y7/4)	灰(5Y5/1)	
331	272		SB43	弥生土器	壷	底部	20				(5.4)	青黒(5B1.7/1)	青黒(5B1.7/1)	
332	272	77	SB43	弥生土器	鉢	口縁部	25		(13.4)	(13.4)		黄灰(2.5Y4/1)	黒褐(2.5Y3/1)	
333	272	77	SB51	弥生土器	甕	口縁～胴部	40		(17.7)	(16.5)		橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
334	272		SD53(SB46周辺)	弥生土器	壷	底部	20				(4.6)	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
335	272		SD53(SB46周辺)	弥生土器	甕	口縁部	5			(22.4)		オリーブ黒(10Y3/1)	オリーブ黒(10Y3/1)	
336	272		SB49	弥生土器	壷	底部	10				(7.6)	明黄褐(10YR7/6)	淡黄(2.5Y8/3)	
337	272		SD52(SB49・50)	弥生土器	壷	口縁部	15			(15.4)		橙(7.5YR6/6)	浅黄(2.5Y7/4)	
338	272		SD52(SB49・50)	弥生土器	壷	胴～底部	40		(23.5)		8.6	橙(7.5YR6/6)	浅黄(2.5Y7/4)	
339	272		SD52(SB49・50)	弥生土器	甕	頸～胴部	30		(24.0)	(17.5)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
340	272	77	SD55(SB49・50)	弥生土器	甕	口縁部	5			(23.0)		浅黄(2.5Y7/3)	灰黄(2.5Y6/2)	
341	272	77	SD56(SB49)	弥生土器	高坏	坏部	10		(29.8)	(29.8)		橙(7.5YR7/6)	灰(N4/0)	
342	272	77	SD56(SB49)	弥生土器	高坏	口縁部	15		(28.8)	(28.8)		橙(5YR6/6)	灰(5Y6/1)	
343	272		SD56(SB49)	弥生土器	甕	接合部	60					橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	
344	272		SD56(SB49)	弥生土器	壷	底部	25				(8.6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄橙(10YR8/3)	
345	272		SD56(SB49)	弥生土器	壷	底部	10				(5.6)	灰白(2.5Y7/1)	浅黄(2.5Y7/3)	
346	273	77	SD58(SB50)	弥生土器	甕	口縁部	15			(12.8)		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	
347	273	77	SD58(SB50)	弥生土器	甕	口縁部	10			(18.1)		黄灰(2.5Y6/1)	黄灰(2.5Y6/1)	
348	273		SD58(SB50)	弥生土器	甕	接合部	65					にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
349	273		SD58(SB50)	弥生土器	甕	接合部	80					橙(7.5YR7/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	
350	273		SD58(SB50)	弥生土器	甕	接合部	45					橙(5YR6/6)	浅黄(2.5Y7/3)	
351	273		SD58(SB50)	弥生土器	甕	接合部	35					にぶい黄橙(10YR7/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	
352	273		SD58(SB50)	弥生土器	高坏	坏部	15		(32.7)	(32.7)		淡黄(2.5Y8/3)	灰白(2.5Y7/1)	
353	273		SD57(SB50)	弥生土器	高坏	口縁部	10		(23.2)	(23.2)		灰(5Y4/1)	灰(5Y4/1)	
354	273		SD57(SB50)	弥生土器	壷	胴部	20					浅黄橙(10YR8/4)	灰(5Y5/1)	
355	273		SD58(SB50)	弥生土器	壷	口縁部	15					黄灰(2.5Y6/1)	灰白(2.5Y7/1)	
356	273		SD58(SB50)	弥生土器	壷	胴部	25					にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
357	273		SD58(SB50)	弥生土器	壷	胴部	15					浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	
358	273		SD58(SB50)	弥生土器	壷	底部	25				(8.8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
359	273		SD58(SB50)	弥生土器	壷	底部	25				(7.0)	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y7/1)	
360	273		SD58(SB50)	弥生土器	壷	底部	15				(5.4)	灰オリーブ(5Y6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	
361	273		SD58(SB50)	弥生土器	壷	口縁部	15			(22.6)		黄灰(2.5Y4/1)	灰白(2.5Y8/2)	
362	273		SD58(SB50)	弥生土器	壷	底部	15				(12.8)	浅黄橙(7.5Y8/3)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
363	273	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁～胴部	45		13.5	12.0		灰褐(7.5YR5/2)	黒褐(7.5YR3/1)	
364	273	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁～接合部	40		(25.4)	(20.6)		浅黄(2.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
365	273	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁～胴部	25		(18.4)	(17.3)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
366	273		SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁～胴部	5			(25.2)		にぶい黄(2.5Y6/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
367	273		SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁～胴部	20		(16.8)	(16.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
368	274		SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁～胴部 接合部	25		(21.5)	(20.7)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
369	274		SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁部・胴部	20		(20.4)	(20.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
370	274	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁～胴部	25		(24.7)	(21.8)		浅黄(2.5Y7/4)	明黄褐(10YR7/6)	
371	274	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁～胴部	40		(21.6)	(21.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
372	274		SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁～胴部	20		(25.3)	(19.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
373	274	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	口縁～胴部	15		(21.0)	(20.0)		浅黄(2.5Y7/4)	灰オリーブ(5Y5/2)	
374	274	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい橙(7.5YR7/4)	灰黄(2.5Y6/2)	
375	274		SD59(SB51)	弥生土器	甕	接合部	60					明黄褐(10YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
376	274	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	台部	95				4.5	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい褐(7.5YR6/3)	
377	274		SD59(SB51)	弥生土器	甕	台部	65					浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
378	274		SD59(SB51)	弥生土器	甕	台部	50					浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
379	274		SD59(SB51)	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
380	274		SD59(SB51)	弥生土器	甕	接合部	95					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
381	274	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	台部	70				11.0	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
382	274	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	台部	95				10.0	にぶい橙(5YR6/4)	橙(5YR6/6)	
383	274	78	SD59(SB51)	弥生土器	甕	台部	80				9.2	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
384	274		SD59(SB51)	弥生土器	甕	台部	60					浅黄(2.5Y7/3)	浅黄橙(10YR8/3)	
385	275	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	口縁～頸部	40			(19.0)		浅黄(2.5Y7/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
386	275	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	口縁～頸部	50			(19.5)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
387	275		SD59(SB51)	弥生土器	壷	口縁部	10			(20.4)		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	
388	275		SD59(SB51)	弥生土器	壷	胴部	20					浅黄橙(10YR8/4)	浅黄(5Y7/3)	
389	275	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	頸～胴部	50		(29.7)			にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(5YR7/6)	
390	275		SD59(SB51)	弥生土器	壷	頸～胴部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
391	275		SD59(SB51)	弥生土器	壷	胴部	20					灰黄褐(10YR6/2)	にぶい黄橙(10YR7/3)	赤彩
392	275	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	頸部	55					浅黄(2.5Y7/4)	淡黄(2.5Y8/4)	
393	275	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	頸部	25					黄灰(2.5Y6/1)	灰(7.5Y5/1)	
394	275	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	頸～胴部	40					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
395	276	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	頸～胴部	80					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
396	276	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	頸～胴部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
397	276	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	頸～底部	95		9.6		5.8	にぶい黄(2.5Y6/4)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
398	276	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	頸～胴部	70					暗灰黄(2.5Y5/2)	暗灰黄(2.5Y5/2)	
399	276	79	SD59(SB51)	弥生土器	壷	頸部	75					にぶい橙(5YR6/4)	にぶい橙(5YR7/4)	
400	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	60				9.0	にぶい黄橙(10YR7/4)	黄灰(2.5Y5/1)	
401	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	30				(10.8)	浅黄(2.5Y7/3)	黄灰(2.5Y6/1)	
402	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	20				(10.7)	淡黄(2.5Y8/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
403	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	75				6.9	オリーブ黒(10Y3/2)	オリーブ黒(10Y3/2)	
404	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	30				7.5	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
405	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	60				(8.8)	淡黄(2.5Y8/3)	オリーブ灰(10YR6/2)	
406	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	30				(12.2)	黄橙(10YR8/6)	灰(7.5Y4/1)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
407	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	40				(8.6)	浅黄(2.5Y7/4)	灰黄(2.5Y7/2)	
408	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	50				8.1	浅黄橙(7.5YR8/4)	灰白(2.5Y7/1)	
409	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	75				8.2	浅黄橙(10YR8/4)	灰(5Y6/1)	
410	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	20				(6.8)	橙(5YR6/6)	黄灰(2.5Y4/1)	
411	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	80				7.0	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
412	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	75				9.4	オリーブ黒(10Y3/2)	オリーブ黒(10Y3/2)	
413	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	90				10.6	にぶい黄橙(10YR7/4)	青灰(5B6/1)	
414	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	90				6.4	浅黄(2.5Y7/4)	黄灰(2.5Y5/1)	
415	276		SD59(SB51)	弥生土器	壷	底部	90				8.4	浅黄(2.5Y7/4)	黄灰(2.5Y5/1)	
416	276	80	SD59(SB51)	弥生土器	高坏	脚部	95				9.3	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
417	276		SD59(SB51)	弥生土器	高坏	脚部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
418	276	80	SD59(SB51)	弥生土器	高坏	脚部	75					にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	
419	276		SD59(SB51)	弥生土器	高坏	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	黄灰(2.5Y5/1)	
420	276	80	SD59(SB51)	弥生土器	高坏	脚部	60					黄橙(7.5YR7/8)	黄橙(7.5YR7/8)	
421	277		SB52	弥生土器	壷	胴部	10					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
422	277		SB53	弥生土器	甕	接合部	10					明緑灰(7.5GY7/1)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
423	277	80	SD73(SB54)	弥生土器	壷	頸～底部	60		21.7		8.0	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
424	277		SB54	弥生土器	甕	胴部	15					浅黄(2.5Y7/3)	橙(7.5YR7/6)	
425	277		SB54	弥生土器	甕	接合部	50					浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
426	277		SB54	弥生土器	甕	接合部	90					明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	
427	277		SB54	弥生土器	甕	接合部	65					浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
428	277		SB54	弥生土器	甕	接合部	60					明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	
429	277		SB54	弥生土器	甕	台部	45					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
430	277		SB54	弥生土器	壷	胴～底部	25			(10.7)	(6.6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	淡黄(2.5Y8/4)	
431	277		SB54	弥生土器	壷	口縁部	10			(10.6)		明黄褐(5Y5/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
432	277		SB54	弥生土器	壷	底部	40				(7.6)	浅黄(2.5Y7/3)	淡黄(2.5Y8/4)	
433	277		SB54	弥生土器	壷	底部	20				(7.1)	灰(7.5Y5/1)	灰(7.5Y5/1)	
434	277		SB54	弥生土器	壷	底部	10				(7.5)	褐灰(10YR5/1)	浅黄(2.5Y7/3)	
435	277		SB54	弥生土器	壷	底部	40				(6.1)	明黄褐(10YR7/6)	灰黄(2.5Y7/2)	
436	277	80	SD74(SB54)	弥生土器	高坏	坏部	15		32.0	32.0		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
437	277		SD74(SB54)	弥生土器	壷	胴部	70					にぶい黄(2.5Y6/4)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
438	277		SB55	弥生土器	高坏	坏部	5					浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
439	277		SB55	弥生土器	甕	口縁部	5			(19.5)		赤褐(2.5YR4/6)	赤褐(2.5YR4/6)	
440	277		SB55	弥生土器	甕	接合部	30					にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄褐(10YR5/2)	
441	277		SD71(SB55周辺)	弥生土器	壷	底部	90				5.8	黄灰(2.5Y5/1)	黄灰(2.5Y5/1)	
442	277		SB55	弥生土器	壷	底部	45				(6.2)	にぶい黄(2.5Y6/3)	灰黄(2.5Y7/2)	
443	277		SB55	弥生土器	壷	底部	20				(7.4)	明黄褐(10YR7/6)	浅黄橙(10YR8/4)	
444	277		SB55	弥生土器	壷	底部	25				(7.0)	赤褐(2.5YR4/6)	赤褐(2.5YR4/6)	
445	277		SB55	弥生土器	壷	底部	20				(5.8)	淡黄(2.5Y8/4)	淡黄(2.5Y8/4)	
446	277		SD68(SB58)	弥生土器	甕	接合部	70					明赤褐(5YR6/6)	明赤褐(5YR6/6)	
447	277		SB56	弥生土器	壷	胴部	15					明黄褐(10YR7/6)	淡黄(2.5Y8/4)	
448	277		SD70(SB56)	弥生土器	甕	接合部	60					橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
449	277	80	SB62	弥生土器	壷	口縁部	10					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
450	277	80	SB64	弥生土器	壷	口縁部	20			(20.2)		にぶい黄橙(7.5YR6/4)	にぶい褐(7.5YR5/3)	
451	278	80	SB67	弥生土器	甕	全体	60	26.8	20.5	(17.0)	9.0	明赤褐(5YR5/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
452	278		SB67	弥生土器	甕	口縁部	10			(18.1)		灰(7.5Y4/1)	灰黄(2.5Y6/2)	
453	278		SB67	弥生土器	甕	口縁部	10			(16.0)		浅黄(2.5Y7/3)	灰(7.5Y4/1)	
454	278		SB67	弥生土器	甕	胴部	85					明赤褐(5YR5/6)	橙(5YR6/6)	
455	278	80	SB67	弥生土器	甕	胴～接合部	40					橙(5YR6/6)	にぶい黄褐(10YR5/4)	
456	278		SB67	弥生土器	甕	接合部	70					浅黄橙(10YR8/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
457	278		SB67	弥生土器	甕	台部	45				(9.0)	にぶい黄褐(10YR5/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
458	278		SB67	弥生土器	壷	口縁部	5			(18.6)		浅黄橙(10YR8/4)	灰黄(2.5Y6/2)	
459	278		SB67	弥生土器	壷	口縁部	15			(15.5)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	
460	278	81	SB67	弥生土器	壷	頸～胴部	20					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR4/3)	
461	278	81	SB67	弥生土器	壷	胴～底部	50		(12.0)		6.2	にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(5YR6/6)	
462	278		SB67	弥生土器	壷	底部	20				(6.8)	灰白(2.5Y8/2)	黄灰(2.5Y6/1)	
463	278		SB67	弥生土器	壷	底部	20				(5.4)	黄灰(2.5Y5/1)	黄灰(2.5Y6/1)	
464	278		SB67	弥生土器	壷	底部	90				5.3	橙(5YR6/6)	明赤褐(2.5YR5/6)	
465	278		SD90(SB67)	弥生土器	壷	底部	70				5.7	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
466	278		SB67	弥生土器	壷	胴～底部	45				5.5	にぶい黄橙(10YR6/4)	灰黄(2.5Y6/2)	
467	278		SB67	弥生土器	壷	底部	50				(4.6)	にぶい黄(2.5Y6/3)	浅黄(2.5Y7/4)	
468	278		SB67	弥生土器	壷	胴～底部	40				6.0	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
469	278	80	SB67	弥生土器	壷	底部	40				6.0	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
470	278		SB67	弥生土器	高坏	坏部	10					灰黄(2.5Y7/2)	灰黄(2.5Y7/2)	
471	278	81	SD90(SB67)	弥生土器	壷	頸部	80					にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
472	278		SB68	弥生土器	壷	底部	25				(5.0)	灰(N4/0)	灰(5Y6/1)	
473	279		SB71	弥生土器	甕	接合部	20					浅黄(2.5Y7/3)	浅黄橙(10YR8/4)	
474	279		SB71	弥生土器	壷	底部	20				(7.3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	黄灰(2.5Y6/1)	
475	279		SB71	弥生土器	壷	胴部	10					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
476	279		SB72	弥生土器	甕	口縁部	10			(14.8)		明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
477	279	81	SB72	弥生土器	壷	口縁部	10			(10.2)		暗灰黄(2.5Y4/2)	浅黄(2.5Y7/4)	
478	279		SB72	弥生土器	壷	底部	20				(6.2)	橙(2.5YR6/8)	明黄褐(10YR7/6)	
479	279		SB72	弥生土器	高坏	坏部	10					にぶい黄橙(10YR7/4)	灰(5Y4/1)	
480	279	81	SB72	弥生土器	高坏	坏～脚部	65		(28.5)	(28.5)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	
481	279		SB75	弥生土器	壷	胴～底部	35		(15.0)		(6.6)	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
482	279		SB73	弥生土器	壷	底部	20				(8.0)	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
483	279		SB73	弥生土器	壷	底部	10				(6.2)	灰(N4/0)	黄灰(2.5Y6/1)	
484	279		SB73	弥生土器	壷	底部	75				8.8	橙(5YR6/6)	明黄褐(10YR7/6)	
485	279		SB74	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄(2.5Y6/2)	
486	279		SB74	弥生土器	甕	接合部	80					橙(7.5YR7/6)	橙(5YR7/6)	
487	279		SB74	弥生土器	壷	底部	20				(8.0)	黄灰(2.5Y5/1)	浅黄(2.5Y7/4)	
488	279		SB76	弥生土器	壷	底部	30				(8.6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	灰(5Y6/1)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
489	279		SB81	弥生土器	壷	底部	80				7.5	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/3)	
490	279	81	SD87(SB82)	弥生土器	鉢	口縁～胴部	5			(20.0)		浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/3)	
491	279		SD87(SB82)	弥生土器	甕	口縁～胴部	15			(17.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
492	279		SD87(SB82)	弥生土器	甕	接合部	40					にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	
493	279		SD87(SB82)	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
494	279	81	SD87(SB82)	弥生土器	高坏	接合部	80					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
495	279	81	SD87(SB82)	弥生土器	高坏	接合部	90					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
496	279		SD87(SB82)	弥生土器	壷	口縁部	5			(23.5)		にぶい黄橙(10YR7/4)	灰黄(2.5Y6/2)	
497	279	81	SD87(SB82)	弥生土器	壷	口縁～胴部	40			(22.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
498	279	81	SD87(SB82)	弥生土器	壷	頸部	90					にぶい橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
499	279		SD87(SB82)	弥生土器	壷	底部	80				5.0	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
500	279		SD87(SB82)	弥生土器	壷	底部	70				7.5	暗灰黄(2.5Y5/2)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
501	279		SD87(SB82)	弥生土器	壷	底部	30				(8.5)	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
502	279		SD87(SB82)	弥生土器	壷	底部	25				(9.0)	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
503	280		SD88	弥生土器	甕	台部	20				(9.5)	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/3)	
504	280		SB88	弥生土器	壷	底部	10				(6.3)	橙(7.5YR7/6)	浅黄(2.5Y7/4)	
505	280		SD93(SB88)	弥生土器	甕	頸部	15					橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
506	280		SD93(SB88)	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
507	280		SD93(SB88)	弥生土器	甕	接合部	70					橙(5YR6/6)	橙(2.5YR6/6)	
508	280		SB88周辺	弥生土器	甕	接合部	55					にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
509	280		SD97	弥生土器	甕	台部	40					にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
510	280	81	SD97	弥生土器	壷	口縁～頸部	80			17.0		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
511	280	82	SD97	弥生土器	壷	胴部	15					褐灰(10YR5/1)	褐灰(10YR4/1)	赤彩
512	280		SD99	弥生土器	壷	胴部	40					浅黄橙(10YR8/3)	浅黄(2.5Y8/4)	
513	280	82	SD100(SB89)	弥生土器	甕	胴～台部	45				9.8	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
514	280	82	SD100(SB89)	弥生土器	壷	頸～胴部	10		(20.0)			淡黄(2.5Y8/3)	淡黄(2.5Y8/3)	
515	280	82	SD100(SB89)	弥生土器	壷	口縁～頸部	70			14.2		浅黄(2.5YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
516	280		SB95	弥生土器	甕	台部	20					橙(7.5YR7/4)	橙(7.5YR7/4)	
517	280		SB96	弥生土器	甕	台部	25					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
518	280		SB96	弥生土器	壷	底部	15				(7.0)	淡黄(2.5Y7/4)	淡黄(2.5Y7/4)	
519	280		SB102	弥生土器	甕	口縁部	5			(25.0)		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
520	280		SB102	弥生土器	高坏	口縁部	5		(20.5)	(20.5)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
521	280		SB102	弥生土器	甕	台部	20					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
522	280		SB102	弥生土器	壷	底部	60				7.0	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
523	280		SB102	弥生土器	壷	底部	25				(7.0)	浅黄(2.5Y7/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
524	280		SB102	弥生土器	壷	底部	20				(5.0)	にぶい黄(2.5Y6/3)	灰黄(2.5Y6/2)	
525	280		SB99・100周辺	弥生土器	壷	底部	30				(8.4)	橙(5YR6/8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
526	280		SD108(SB101)	弥生土器	壷	口縁部	10			(12.8)		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
527	280		SD108(SB101)	弥生土器	高坏	口縁部	10		(23.8)	(23.8)		橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
528	280		SB104	弥生土器	甕	接合部	30					暗灰黄(2.5Y5/2)	暗灰黄(2.5Y5/2)	
529	281		SD115(SB165)	弥生土器	甕	接合部	60					にぶい橙(5YR7/4)	にぶい橙(5YR7/4)	
530	281	82	SD115(SB165)	弥生土器	壷	胴～底部	60		8.9		5.7	浅黄(2.5Y7/3)	黄橙(10YR8/6)	
531	281	82	SD115(SB165)	弥生土器	壷	頸～底部	80		8.1		5.2	灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y7/2)	
532	281		SD115(SB165)	弥生土器	壷	頸部	75					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/2)	
533	281		SD115(SB165)	弥生土器	壷	底部	30				(8.8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
534	281		SD115(SB165)	弥生土器	壷	底部	80				6.9	にぶい黄橙(10YR7/4)	黄灰(2.5Y5/1)	
535	281		SB110	弥生土器	甕	接合部	80					橙(5YR5/6)	橙(7.5YR7/6)	
536	281		SD116(SB110)	弥生土器	甕	接合部	75					橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
537	281		SD116(SB110)	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい橙(7.5YR7/4)	褐灰(10YR5/1)	
538	281		SD116(SB110)	弥生土器	甕	台部	45					にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(2.5YR6/6)	
539	281		SD116(SB110)	弥生土器	甕	接合部	30					浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	
540	281		SD116(SB110)	弥生土器	甕	接合部	35					にぶい黄橙(10YR6/3)	暗灰(N3/0)	
541	281		SD116(SB110)	弥生土器	甕	接合部	70					橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	
542	281		SD116(SB110)	弥生土器	高坏	接合部	75					灰黄(2.5Y7/2)	灰黄(2.5Y7/2)	
543	281		SD116(SB110)	弥生土器	高坏	脚部	15				(11.0)	浅黄橙(10YR8/4)	淡黄(2.5Y7/6)	
544	281	82	SD116(SB110)	弥生土器	壷	胴部	20					灰黄褐(10YR6/2)	灰黄褐(10YR6/2)	赤彩
545	281		SD116(SB110)	弥生土器	壷	頸部	20					浅黄(2.5Y7/4)	灰黄(2.5Y7/2)	
546	281		SD116(SB110)	弥生土器	壷	底部	30				(8.8)	にぶい橙(7.5YR7/4)	灰(N4/0)	
547	281		SD116(SB110)	弥生土器	壷	底部	75				6.4	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
548	281	82	SD117(SB110)	弥生土器	甕	口縁～胴部	25		(13.6)	(11.0)		灰黄褐(10YR4/2)	灰黄褐(10YR5/2)	
549	281		SD117(SB110)	弥生土器	甕	接合部	95					にぶい橙(5YR6/4)	褐灰(10YR5/1)	
550	281		SD117(SB110)	弥生土器	甕	接合部	90					橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
551	281	82	SD117(SB110)	弥生土器	甕	接合部	60					浅黄橙(7.5YR8/6)	橙(2.5Y7/6)	
552	281		SD117(SB110)	弥生土器	甕	台部	60					にぶい橙(2.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
553	281	82	SD117(SB110)	弥生土器	甕	接合部	85					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
554	281		SD117(SB110)	弥生土器	甕	台部	50					淡赤褐(2.5YR7/4)	にぶい橙(5YR6/4)	
555	281	82	SD117(SB110)	弥生土器	甕	台部	90				8.6	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
556	281		SD117(SB110)	弥生土器	高坏	口縁部	15		(26.6)	(26.6)		灰(5Y4/1)	灰(5Y4/1)	
557	281		SD117(SB110)	弥生土器	高坏	坏部	75					浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
558	281		SD117(SB110)	弥生土器	高坏	接合部	70					明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	
559	281		SD117(SB110)	弥生土器	壷	頸部	90					にぶい橙(7.5YR6/4)	浅黄(2.5YR7/3)	
560	281	82	SD117(SB110)	弥生土器	壷	頸～底部	80		10.0		5.2	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
561	281	82	SD117(SB110)	弥生土器	壷	頸～底部	75		8.1		4.5	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
562	281		SD117(SB110)	弥生土器	壷	底部	90				8.3	にぶい黄橙(10YR6/3)	黄灰(2.5Y5/1)	
563	281		SD117(SB110)	弥生土器	壷	口縁～頸部	40			(18.0)		明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	
564	281	83	SD117(SB110)	弥生土器	壷	頸～胴部	40		(18.5)			にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
565	281		SD117(SB110)	弥生土器	壷	底部	30				(9.8)	灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	
566	281		SD117(SB110)	弥生土器	壷	底部	20				(8.0)	にぶい黄橙(7.5YR6/4)	灰黄褐(10YR4/2)	
567	282	83	SD119(SB110)	弥生土器	甕	口縁～胴部	40		(25.6)	(23.0)		明赤褐(10YR6/6)	明赤褐(10YR6/6)	
568	282	83	SD119(SB110)	弥生土器	甕	口縁～胴部	10		(21.0)	(20.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
569	282		SD119(SB110)	弥生土器	甕	台部	70					にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	
570	282		SD119(SB110)	弥生土器	甕	接合部	50					明赤褐(5YR5/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
571	282		SD119(SB110)	弥生土器	甕	接合部	70					浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/4)	
572	282	83	SD119(SB110)	弥生土器	壷	頸～底部	75		(12.0)		5.0	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
573	282	83	SD119(SB110)	弥生土器	壷	口縁～頸部	50			(29.0)		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
574	282		SD119(SB110)	弥生土器	壷	胴部	20					橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
575	282		SD119(SB110)	弥生土器	壷	底部	90				8.2	にぶい黄橙(10YR6/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
576	282		SD119(SB110)	弥生土器	壷	底部	25				(8.0)	橙(7.5YR7/6)	黄灰(2.5Y6/2)	
577	282		SD119(SB110)	弥生土器	壷	底部	50				(8.8)	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
578	282		SD119(SB110)	弥生土器	壷	底部	90				6.7	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/46)	
579	282	83	SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	75					橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
580	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	85					橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
581	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	75					橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
582	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	80					橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
583	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	80					橙(7.5YR6/6)	明黄褐(10YR7/6)	
584	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	25					にぶい橙(5YR6/4)	にぶい橙(5YR6/4)	
585	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	85					橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	
586	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	60					橙(7.5YR7/6)	浅黄橙(10YR8/4)	
587	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	85					にぶい橙(5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
588	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
589	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	50					にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
590	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	40					にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
591	282		SD120(SB110)	弥生土器	甕	接合部	80					明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	
592	283		SD120(SB110)	弥生土器	甕	頸～胴部	10					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR4/3)	
593	283		SD120(SB110)	弥生土器	甕	胴部	30					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
594	283		SD120(SB110)	弥生土器	甕	台部	15				(9.0)	灰黄褐(10YR6/2)	橙(2.5Y6/6)	
595	283		SD120(SB110)	弥生土器	甕	台部	30				(9.5)	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
596	283		SD120(SB110)	弥生土器	甕	台部	15				(9.0)	橙(7.5Y6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
597	283	83	SD120(SB110)	弥生土器	甕	台部	95				9.5	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
598	283	83	SD120(SB110)	弥生土器	甕	台部	70					にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
599	283		SD120(SB110)	弥生土器	甕	口縁部	10			(15.5)		橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	
600	283	83	SD120(SB110)	弥生土器	高坏	接合部	75					明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
601	283	83	SD120(SB110)	弥生土器	高坏	接合部	20					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
602	283		SD120(SB110)	弥生土器	高坏	接合部	85					橙(2.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
603	283	83	SD120(SB110)	弥生土器	高坏	接合部	85					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
604	283	83	SD120(SB110)	弥生土器	高坏	脚部	10				(15.7)	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
605	283	84	SD120(SB110)	弥生土器	壷	口縁部	5			(27.5)		浅黄(2.5Y7/3)	灰白(2.5Y7/1)	
606	283	84	SD120(SB110)	弥生土器	壷	口縁～頸部	60			(19.2)		橙(2.5YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	
607	283	84	SD120(SB110)	弥生土器	壷	口縁～胴部	60			(19.7)		にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
608	283	84	SD120(SB110)	弥生土器	壷	口縁部	25			(15.5)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
609	283	84	SD120(SB110)	弥生土器	壷	口縁部	10				(27.0)	浅黄橙(10YR8/4)	黄灰(2.5Y6/1)	
610	283	84	SD120(SB110)	弥生土器	壷	口縁～頸部	75			(20.9)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
611	283		SD120(SB110)	弥生土器	壷	口縁～頸部	30			(22.0)		明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	
612	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	頸部	15					橙(5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
613	284	84	SD120(SB110)	弥生土器	壷	頸部	90					浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
614	284	84	SD120(SB110)	弥生土器	壷	頸～底部	95		13.1		6.3	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
615	284	84	SD120(SB110)	弥生土器	壷	頸～底部	40		24.6		8.5	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
616	284	84	SD120(SB110)	弥生土器	壷	胴～底部	85		31.8		11.5	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
617	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	口縁～底部	80				(6.0)	橙(7.5YR6/6)	明黄褐(2.5Y7/4)	
618	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	底部	80				5.7	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
619	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	底部	50				6.1	明黄褐(10YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	
620	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	底部	90				6.0	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
621	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	胴部	10		(24.2)			灰(5Y5/1)	浅黄(2.5Y7/3)	
622	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	底部	25				(11.0)	にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	
623	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	底部	50				9.1	明黄褐(2.5Y6/6)	明黄褐(2.5Y6/6)	
624	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	底部	45				(7.8)	にぶい黄橙(10YR7/3)	黄灰(2.5Y5/1)	
625	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	底部	90				9.5	黒褐(2.5Y3/1)	浅黄(2.5Y7/4)	
626	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	底部	25				(9.5)	にぶい黄橙(10YR7/2)	灰(N5/0)	
627	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	底部	45				(7.8)	にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	
628	284		SD120(SB110)	弥生土器	壷	底部	25				(10.0)	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄(2.5YR6/3)	
629	285	85	SB113	弥生土器	甕	口縁部	10			(13.5)		橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
630	285	85	SB113	弥生土器	甕	口縁部	10			(15.3)		褐灰(10YR4/1)	褐灰(10YR6/1)	
631	285	85	SB113	弥生土器	壷	胴～底部	60		(14.5)		6.5	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
632	285		SD121(SB113)	弥生土器	壷	底部	80				5.1	にぶい黄橙(10YR7/2)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
633	285		SB114	弥生土器	壷	底部	80				6.8	浅黄橙(10YR8/4)	黄灰(2.5YR7/3)	
634	285		SB114	弥生土器	壷	底部	25				(6.5)	黄灰(2.5Y5/1)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
635	285		SB115	弥生土器	壷	底部	15				(10.2)	灰(7.5Y4/1)	灰(7.5Y4/1)	
636	285		SB115	弥生土器	壷	底部	10				(7.8)	灰黄褐(10YR6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	
637	285		SB115	弥生土器	壷	底部	15				(5.6)	浅黄橙(10YR8/4)	橙(5YR7/6)	
638	285	85	SB115	弥生土器	高坏	脚部	50				11.0	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	
639	285		SB116	弥生土器	高坏	口縁部	10		(22.0)	(22.0)		にぶい橙(7.5YR7/4)	橙(5YR7/6)	
640	285		SB116	弥生土器	高坏	接合部	45					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
641	285		SB118	弥生土器	甕	口縁～胴部	15			(17.3)		橙(2.5YR6/6)	黄灰(2.5Y4/1)	
642	285		SB118	弥生土器	甕	接合部	70					橙(5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
643	285	85	SB118	弥生土器	高坏	口縁～脚部	45		(28.5)	(28.5)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	
644	285	85	SB118	弥生土器	壷	頸～胴部	75		32.0			にぶい黄橙(10YR7/4)	明黄褐(10YR7/6)	
645	285		SB118	弥生土器	壷	頸部・底部	60				6.3	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
646	286	86	SB120	弥生土器	甕	口縁部	20			(16.4)		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
647	286	86	SB120	弥生土器	甕	胴部	45		(23.7)			にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
648	286		SB120	弥生土器	甕	口縁～胴部	10			(18.0)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
649	286		SB120	弥生土器	甕	口縁部	15			(13.4)		灰(5Y5/1)	灰(5Y4/1)	
650	286		SB120	弥生土器	甕	接合部	10					にぶい橙(7.5YR6/4)	褐灰(10YR5/1)	
651	286	85	SB120	弥生土器	器台	接合部	20					橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
652	286		SB120	弥生土器	高坏	脚部	15				(7.3)	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい黄橙(10YR7/4)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
653	286	86	SB120	弥生土器	壷	頸部	90					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
654	286		SB120	弥生土器	壷	底部	10				(7.1)	浅黄橙(10YR8/4)	灰(5Y6/1)	
655	286		SB120	弥生土器	壷	底部	10				(14.0)	明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
656	286		SB120	弥生土器	壷	底部	30				(11.6)	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	
657	286	86	SB120	弥生土器	碗	全体	90	5.0	10.0	10.0	4.2	橙(7.5Y7/6)	明黄褐(10YR7/6)	
658	286		SB120	弥生土器	碗	底部	20				(4.0)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
659	286		SB122	弥生土器	甕	接合部	75					橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
660	286	86	SB122	弥生土器	甕	胴部	30		20.2			にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
661	286		SB122	弥生土器	甕	胴部	20		(18.6)			にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
662	286	86	SB122	弥生土器	壷	胴部	10					にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	赤彩
663	286		SB122	弥生土器	壷	底部	25				(10.0)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
664	286		SB126	弥生土器	高坏	口縁部	10		(23.8)	(23.8)		淡黄(2.5Y8/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
665	286		SB126	弥生土器	高坏	脚部	65					褐灰(10YR4/1)	褐灰(10YR4/1)	
666	286		SD124(SB126)	弥生土器	壷	底部	10				(9.6)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
667	286		SB128	弥生土器	甕	接合部	65					明赤褐(2.5YR5/6)	明赤褐(2.5YR5/6)	
668	286		SB129	弥生土器	甕	接合部	45					橙(5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
669	286	85	SB129	弥生土器	高坏	接合部	65					橙(2.5YR6/6)	橙(2.5YR6/6)	
670	286		SB129	弥生土器	壷	口縁部	10			(18.8)		黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	
671	286		SB129	弥生土器	壷	底部	35				(8.9)	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
672	286		SB129	弥生土器	壷	底部	20				(7.4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	灰白(5Y7/1)	
673	286		SB129	弥生土器	壷	底部	30				(7.8)	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄(10YR8/4)	
674	286		SB130	弥生土器	壷	底部	85				5.3	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
675	287		SB133	弥生土器	甕	口縁部	10			(18.1)		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
676	287		SB136	弥生土器	甕	接合部	25					明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	
677	287	86	SB137	弥生土器	高坏	口縁部	10		(20.2)	(20.2)		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
678	287		SB138	弥生土器	甕	胴部	15					にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
679	287		SB140	弥生土器	壷	口縁部	15			(13.6)		橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR6/6)	
680	287	86	SB140	弥生土器	壷	坏部	25			(27.0)		明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
681	287		SB141	弥生土器	甕	接合部	75					橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	
682	287		SB141	弥生土器	壷	底部	15				(5.4)	灰(5Y4/1)	灰(5Y4/1)	
683	287		SB141	弥生土器	高坏	接合部	40					橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
684	287	86	SB144	弥生土器	甕	口縁部	10			(19.7)		にぶい黄橙(10YR6/3)	橙(2.5Y7/6)	
685	287		SB145	弥生土器	壷	口縁部	10			(17.4)		橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
686	287		SB145	弥生土器	壷	底部	30				(9.4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	明黄褐(10YR6/6)	
687	287		SB146	弥生土器	高坏	脚部	20					橙(2.5YR6/8)	橙(2.5YR6/8)	
688	287		SB150	弥生土器	壷	胴部	10					にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
689	287		SB155	弥生土器	壷	底部	20				(7.9)	黄灰(2.5Y4/1)	浅黄(2.5Y7/3)	
690	287		SB156	弥生土器	甕	口縁部	15			(15.7)		灰黄褐色(10YR6/2)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
691	287		SB156	弥生土器	壷	口縁部	15			(16.8)		橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
692	287	86	SB156	弥生土器	壷	胴部	10					浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(10YR8/3)	
693	287	86	SB158	弥生土器	壷	胴部	15					浅黄(10YR8/3)	灰(7.5Y5/1)	
694	287		SB159	弥生土器	壷	底部	20				(6.9)	灰黄褐(10YR6/2)	橙(7.5YR7/6)	
695	287		SB159	弥生土器	壷	底部	25				(10.7)	にぶい黄橙(10YR7/3)	黄灰(2.5Y5/1)	
696	287		SB163	弥生土器	甕	接合部	20					橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
697	287		SB163	弥生土器	壷	胴部	10					にぶい赤褐(2.5YR5/4)	黄灰(2.5Y4/1)	赤彩
698	287		SB163	弥生土器	壷	口縁部	15			(18.8)		にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
699	287		SB164	弥生土器	壷	胴部	20					にぶい黄褐(10YR5/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
700	288		SH13	弥生土器	壷	底部	35				(7.0)	黄灰(2.5Y5/1)	黄灰(2.5Y5/1)	
701	288		SH16周辺	弥生土器	壷	口縁部	10			(18.6)		黄橙(7.5YR7/8)	黄橙(7.5YR7/8)	
702	288	86	SH21	弥生土器	壷	頸部	65					橙(5YR6/6)	黄橙(10YR7/8)	
703	288		SH25	弥生土器	高坏	接合部	25					浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
704	288		SH25	弥生土器	壷	口縁部	20			(15.8)		黄橙(10YR8/6)	黄橙(10YR8/6)	
705	288		SH25	弥生土器	壷	底部	15				(7.6)	橙(5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
706	288		SH26	弥生土器	壷	口縁部	15			(20.6)		明褐(7.5YR5/8)	明褐(7.5YR5/8)	
707	288		SH34	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
708	288		SH38	弥生土器	壷	底部	80				(10.4)	橙(7.5YR6/8)	黄褐(10YR5/6)	
709	288		SH41周辺	弥生土器	甕	頸～胴部	15		(18.8)			にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
710	288		SH50	弥生土器	甕	口縁部	5			(20.6)		暗灰黄(2.5Y5/2)	灰黄(2.5Y6/2)	
711	288	86	SH59	弥生土器	壷	頸～胴部	90					黄褐(2.5Y5/3)	浅黄(5Y7/3)	
712	288	86	SH61	弥生土器	甕	台部	50				(12.4)	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
713	288	87	SH61	弥生土器	壷	全体	70	16.2	21.2	17.5	8.5	にぶい黄(2.5Y6/4)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
714	288		SH66	弥生土器	甕	台部	10				(10.6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
715	288		SH66	弥生土器	高坏	口縁部	5		(25.6)	(25.6)		にぶい黄橙(10YR7/4)	黄灰(2.5YR4/1)	
716	288		SH72	弥生土器	壷	口縁部	25			(14.5)		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
717	288		SH72	弥生土器	壷	底部	95				8.6	浅黄橙(10YR8/3)	灰(5Y6/1)	
718	288		SH74	弥生土器	壷	底部	25				(10.2)	明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	
719	288		SH79	弥生土器	壷	底部	35				(7.2)	黄橙(7.5Y7/8)	青灰(2.5Y4/1)	
720	288		SH80	弥生土器	高坏	坏部	35					浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	
721	288		SH80	弥生土器	壷	口縁部	20			(20.4)		淡黄(2.5Y8/3)	淡黄(2.5Y8/3)	
722	288		SH81	弥生土器	甕	接合部	40					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
723	288		SH85	弥生土器	甕	接合部	30					浅黄橙(10YR8/4)	灰黄褐(10YR6/2)	
724	288		SH96	弥生土器	壷	底部	20				(7.3)	明黄褐(10YR6/8)	明黄褐(10YR6/8)	
725	289	87	SH92	弥生土器	壷	胴～底部	45		(19.0)		7.0	橙(5YR6/8)	黄橙(7.5YR7/8)	
726	289		SH98	弥生土器	壷	底部	80				8.5	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y5/1)	
727	289		SH98	弥生土器	壷	口縁部	15			(16.8)		橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
728	289		SH98	弥生土器	壷	底部	60				10.9	明黄褐(10YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
729	289		SH98	弥生土器	壷	胴部	20					にぶい褐(7.5YR6/3)	灰黄褐色(10YR5/2)	
730	289		SH111	弥生土器	壷	口縁部	5			(45.4)		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
731	289		SH111	弥生土器	甕	口縁部	5			(18.7)		黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	
732	289		SH113	弥生土器	甕	接合部	15					にぶい橙(5YR6/4)	にぶい橙(5YR6/4)	
733	289		SH113	弥生土器	壷	底部	15				(7.6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	
734	289		SH114	弥生土器	壷	底部	20				(8.9)	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y6/2)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
735	289		SH114	弥生土器	壷	口縁部	10			(20.0)		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	
736	289		SH126	弥生土器	壷	口縁部	10			(16.2)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
737	289	87	SH137	弥生土器	壷	頸～底部	65		(8.6)		(6.0)	浅黄(2.5Y7/3)	灰白(2.5Y8/1)	
738	289		SH137	弥生土器	壷	底部	50				(6.2)	褐灰(10YR6/1)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
739	289	87	SH144	弥生土器	甕	接合部	55					橙(2.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
740	289		SH144	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
741	289		SH144	弥生土器	壷	底部	20				(7.6)	橙(7.5YR7/6)	明黄褐(10YR6/6)	
742	289		SH149	弥生土器	壷	口縁部	10			(21.0)		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
743	289	87	SH153	弥生土器	甕	台部	55					橙(5YR7/6)	橙(2.5YR6/6)	
744	289		SH157	弥生土器	壷	底部	25				(8.6)	にぶい黄(2.5Y6/3)	浅黄(2.5Y7/4)	
745	289		SH169	弥生土器	壷	底部	10				(4.0)	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	
746	289		SH169	弥生土器	甕	口縁部	10			(19.0)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
747	289		SH173	弥生土器	壷	口縁部	10			(18.2)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
748	289		SH179	弥生土器	甕	口縁部	10			(12.6)		黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	
749	289		SH179	弥生土器	高坏	口縁部	10		(22.3)	(22.3)		橙(7.5YR7/6)	橙(5YR7/6)	
750	289		SH183	弥生土器	甕	口縁部	10			(18.4)		灰黄褐(10YR6/2)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
751	289		SH185	弥生土器	甕	接合部	75					橙(2.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
752	289		SH185	弥生土器	甕	口縁部	10			(20.2)		浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
753	289		SH185	弥生土器	高坏	口縁部	15		(30.2)	(30.2)		にぶい黄橙(10YR7/4)	灰褐(7.5YR5/2)	
754	290		SF21	弥生土器	壷	口縁部	15			(19.3)		灰黄褐(10YR6/2)	褐灰(10YR5/1)	
755	290	87	SF21	弥生土器	甕	頸～胴部	15		(23.6)			にぶい橙(7.5YR7/4)	灰(7.5Y5/1)	
756	290	87	SF21	弥生土器	甕	口縁～胴部	70		22.5	16.2		暗黄(N3/1)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
757	290	87	SF21	弥生土器	甕	口縁～胴部	45			(16.3)		にぶい黄橙(10YR7/3)	明黄褐(10YR7/6)	
758	290		SF21	弥生土器	甕	胴部	25					黒褐(10YR3/1)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
759	290	87	SF21	弥生土器	甕	台部	95				9.7	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
760	290		SF21	弥生土器	甕	接合部	70					浅黄橙(7.5YR8/6)	橙(5YR6/6)	
761	290		SF21	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい黄橙(10YR7/3)	橙(7.5YR7/6)	
762	290		SF21	弥生土器	甕	台部	95				9.2	にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(2.5YR6/6)	
763	290		SF21	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	
764	290		SF21	弥生土器	甕	接合部	75					橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/2)	
765	290		SF21	弥生土器	甕	口縁部	20			(11.6)		にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
766	290	88	SF21	弥生土器	高坏	脚部	75					橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
767	290	88	SF21	弥生土器	高坏	脚部	75					暗灰(N310)	暗灰(N3/0)	
768	290		SF21	弥生土器	高坏	接合部	50					橙(5YR7/6)	浅黄橙(10YR8/4)	
769	290	88	SF21	弥生土器	高坏	接合部	80					灰白(2.5Y8/2)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
770	290		SF21	弥生土器	高坏	口縁部	10		(36.4)	(36.4)		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
771	290		SF21	弥生土器	壷	口縁部	10			(23.7)		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
772	290	87	SF21	弥生土器	壷	口縁部	30			(11.8)		淡黄(2.5Y8/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
773	290	87	SF21	弥生土器	壷	頸部	15					にぶい黄橙(10YR7/4)	褐(7.5YR4/3)	赤彩
774	290	88	SF21	弥生土器	壷	胴～底部	60				4.0	黄橙(10YR8/6)	浅黄橙(10YR8/4)	
775	290	88	SF21	弥生土器	壷	胴部	50		(20.3)			橙(2.5YR6/6)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
776	290	88	SF21	弥生土器	壷	胴～底部	60				7.7	浅黄橙(7.5YR8/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
777	290		SF21	弥生土器	壷	底部	80				8.1	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
778	290		SF21	弥生土器	壷	底部	25				(5.4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
779	290		SF21	弥生土器	壷	底部	50				(5.2)	にぶい黄橙(10YR6/3)	褐灰(10YR6/1)	
780	291	88	SF07	弥生土器	壷	頸～胴部	20		(9.7)			浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
781	291	88	SF08	弥生土器	壷	頸～底部	90		16.2		6.9	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
782	291		SF12	弥生土器	壷	底部	5				(9.4)	黄灰(2.5Y5/1)	黄灰(2.5Y5/1)	
783	291		SF12	弥生土器	壷	底部	50				(8.6)	灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y7/3)	
784	291		SF17	弥生土器	壷	底部	30				(9.2)	橙(5YR6/6)	橙(2.5YR6/6)	
785	291		SF19	弥生土器	壷	頸部	80					橙(5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
786	291		SF22	弥生土器	甕	口縁部	15			(20.0)		浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
787	291		SF22	弥生土器	甕	頸部	15					灰(10Y4/1)	灰黄褐(10YR5/2)	
788	291	88	SF22	弥生土器	甕	頸部	10					にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR5/2)	
789	291		SF22	弥生土器	甕	接合部	65					橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
790	291		SF22	弥生土器	甕	接合部	50					橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
791	291	88	SF22	弥生土器	甕	接合部	80					浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
792	291		SF22	弥生土器	壷	口縁部	10			(12.6)		にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
793	291		SF22	弥生土器	壷	胴部	15					浅黄橙(10YR8/3)	灰(5Y6/1)	
794	291		SF22	弥生土器	壷	底部	80				4.1	灰(N4/1)	灰(N5/1)	
795	291		SF22	弥生土器	壷	底部	95				8.3	灰(N4/0)	黄灰(2.5Y6/1)	
796	291		SF22	弥生土器	壷	底部	30				(5.7)	にぶい黄橙(10YR7/3)	黄灰(2.5Y6/1)	
797	291	88	SX03	弥生土器	壷	頸～底部	100		7.0		3.7	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	
798	291	88	SX04	弥生土器	高坏	接合部	35					橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
799	291	89	SX05内	弥生土器	甕	口縁～胴部	30			(14.2)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
800	291		SX05周辺	弥生土器	甕	接合部	30					浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
801	291	89	SX05	弥生土器	甕	台部	60				(8.8)	褐灰(10YR6/1)	灰(5Y4/1)	
802	291		SX05内	弥生土器	壷	頸部	25					にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
803	291		SX05	弥生土器	壷	底部	75				(7.5)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
804	291		SX05	弥生土器	高坏	脚部	80					灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	
805	291	89	SX06	弥生土器	壷	頸～底部	80		15.1		6.2	にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5Y6/6)	
806	291		SX09	弥生土器	壷	底部	30				(6.0)	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰(5Y6/1)	
807	291		SX09	弥生土器	甕	接合部	75					浅黄(2.5Y7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
808	291		SX09	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/3)	橙(2.5YR7/6)	
809	291		SX10	弥生土器	壷	口縁部	10			(16.5)		橙(5YR6/6)	浅黄(2.5Y7/4)	
810	291		SX11	弥生土器	壷	底部	25				(7.2)	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰(N5/1)	
811	292		SZ01	弥生土器	甕	口縁部	10			(18.5)		明赤褐(5YR5/6)	褐灰(5YR6/1)	
812	292		SZ01	弥生土器	甕	口縁部～胴部	20			(17.8)		にぶい黄(2.5Y6/4)	明黄褐(10YR7/6)	
813	292	89	SZ01	弥生土器	甕	口縁部～胴部	50		(23.0)	(19.8)		浅黄(2.5Y7/3)	浅黄橙(10YR8/3)	
814	292	89	SZ01	弥生土器	甕	口縁部～胴部	45		(19.6)	(18.7)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
815	292		SZ01	弥生土器	甕	接合部	45					浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
816	292	89	SZ01	弥生土器	甕	台部	50				11.0	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
817	292	89	SZ01	弥生土器	甕	台部	60				(11.3)	明黄褐(2.5Y7/6)	浅黄(2.5Y7/4)	
818	292	89	SZ01	弥生土器	甕	台部	45				(10.4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
819	292	89	SZ01	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
820	292		SZ01	弥生土器	甕	接合部	60					にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(5YR6/8)	
821	292		SZ01	弥生土器	甕	接合部	30					灰黄(2.5Y6/2)	橙(7.5YR7/6)	
822	292		SZ01	弥生土器	高坏	脚部	85					明黄褐(10YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
823	292		SZ01	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	40		(25.0)	(25.0)		明黄褐(10YR6/8)	黄橙(10YR8/6)	
824	292	90	SZ01	弥生土器	鉢	口縁部～胴部	85		24.7	24.7		明黄褐(2.5Y6/6)	明黄褐(2.5Y6/6)	
825	293		SZ01	弥生土器	壷	口縁部	10			(19.8)		橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
826	293		SZ01	弥生土器	壷	頸部	20					浅黄(2.5Y7/3)	淡黄(2.5Y8/4)	
827	293		SZ01	弥生土器	壷	頸部	20					浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
828	293	90	SZ01	弥生土器	壷	頸部	85					浅黄(2.5Y7/4)	淡黄(2.5Y8/4)	
829	293	90	SZ01	弥生土器	壷	頸～底部	85		12.3		5.8	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
830	293	91	SZ01	弥生土器	壷	頸～底部	90		13.7		6.6	褐灰(7.5YR5/1)	橙(5YR6/6)	赤彩
831	293	90	SZ01	弥生土器	壷	頸～底部	95		22.0		7.9	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
832	293	90	SZ01	弥生土器	壷	頸～底部	85		26.5		9.0	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
833	293	90	SZ01	弥生土器	壷	頸～底部	50		(20.3)		(7.6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
834	294	91	SZ01	弥生土器	壷	全体	95	10.8	9.8	8.9	5.4	灰(7.5Y4/1)	灰オリーブ(5Y6/2)	
835	294	91	SZ01	弥生土器	壷	頸～底部	80		9.7		4.9	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	赤彩
836	294	91	SZ01	弥生土器	壷	胴～底部	90		28.0		9.0	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	
837	294		SZ01	弥生土器	壷	胴～底部	50		24.8		9.2	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
838	294		SZ01	弥生土器	壷	底部	70				5.4	淡黄(2.5Y8/4)	淡黄(2.5Y8/4)	
839	294		SZ01	弥生土器	壷	底部	85				5.2	淡黄(2.5Y8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
840	294		SZ01	弥生土器	壷	底部	85				8.0	黄橙(7.5YR7/8)	浅黄(2.5Y7/3)	
841	294		SZ01	弥生土器	壷	底部	20				(8.2)	浅黄橙(10YR8/4)	淡黄(2.5Y8/4)	
842	294		SZ01	弥生土器	壷	底部	20				(9.0)	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
843	294		SZ01	弥生土器	壷	底部	20				(8.5)	にぶい橙(7.5YR6/4)	灰黄褐(10YR5/2)	
844	294		SZ01	弥生土器	壷	底部	80				9.6	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y8/3)	
845	294		SZ01	弥生土器	壷	底部	15				(8.8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/3)	
846	294		SZ01	弥生土器	壷	底部	15				(8.5)	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
847	294		SZ01	弥生土器	壷	底部	80				9.0	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
848	294	91	SZ02	弥生土器	甕	胴～台部	30				(9.5)	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
849	294		SZ02	弥生土器	高坏	脚部	25				(11.2)	にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄(2.5Y7/3)	
850	294		SZ02	弥生土器	壷	頸部	40					にぶい黄橙(10YR6/4)	明黄褐(10YR7/6)	
851	294	91	SZ02	弥生土器	壷	口縁～頸部	75			18.0		浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
852	294		SZ02	弥生土器	壷	底部	20				(9.3)	黄灰(2.5Y5/1)	灰黄(2.5Y7/2)	
853	294		SZ02	弥生土器	壷	底部	20				(10.0)	にぶい橙(7.5YR6/4)	浅黄(2.5Y7/3)	
854	294		SZ02	弥生土器	壷	底部	60				4.5	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
855	294		SZ02	弥生土器	壷	底部	50				(7.0)	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
856	295		西部攪乱	弥生土器	甕	口縁部	10			(14.8)		にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
857	295		西部	弥生土器	甕	口縁～胴部	10			(17.0)		にぶい褐(7.5YR6/3)	浅黄橙(10YR7/4)	
858	295	91	西部	弥生土器	甕	口縁～胴部	20		(18.9)	(16.5)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
859	295		西部攪乱	弥生土器	甕	接合部	80					にぶい黄(2.5Y6/4)	灰黄(2.5Y3/1)	
860	295		西部	弥生土器	甕	接合部	60					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
861	295		西部	弥生土器	甕	台部	70					浅黄(2.5Y7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
862	295		西部	弥生土器	甕	接合部	75					橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
863	295		西部	弥生土器	甕	接合部	90					暗灰黄(2.5Y5/2)	浅黄(2.5Y7/4)	
864	295		西部	弥生土器	甕	台部	25					にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(5YR6/6)	
865	295		西部	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
866	295		西部攪乱	弥生土器	甕	台部	80					にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
867	295	91	西部	弥生土器	高坏	接合部	75					明赤褐(5YR5/6)	明赤褐(5YR5/6)	
868	295	91	西部	弥生土器	高坏	脚部	60					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
869	295	91	西部	弥生土器	高坏	接合部	80					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
870	295		西部	弥生土器	高坏	脚部	60					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
871	295	91	西部	弥生土器	高坏	脚部	15				(11.0)	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
872	295	92	西部	弥生土器	壷	口縁～頸部	90			12.0		橙(2.5Y6/6)	橙(2.5Y6/6)	
873	295		西部	弥生土器	高坏	口縁部	5		(30.0)	(30.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	黄灰(2.5Y4/1)	
874	295		西部	弥生土器	高坏	口縁部	10		(29.0)	(29.0)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
875	295	91	西部	弥生土器	壷	口縁部	25			(18.0)		にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
876	295		西部	弥生土器	壷	頸部	80					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5Y5/2)	
877	295		西部	弥生土器	壷	頸部	80					にぶい黄橙(10YR7/4)	黄灰(2.5Y4/1)	
878	295	91	西部	弥生土器	壷	胴部	10		(15.0)			にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	
879	295		西部	弥生土器	壷	底部	80				7.0	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
880	295		西部	弥生土器	壷	底部	80				4.5	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
881	295		西部	弥生土器	壷	底部	90				4.0	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	
882	295		西部	弥生土器	壷	底部	10				(6.0)	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
883	295		西部	弥生土器	壷	底部	20				(8.0)	にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
884	295		西部	弥生土器	壷	底部	80				6.8	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
885	295		西部	弥生土器	鉢	口縁部	10		(22.0)	(22.0)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
886	295	92	東部東端部	弥生土器	壷	頸部・底部	40		(11.5)		(4.4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
887	296		西部	弥生土器	壷	底部	45				(10.8)	黄橙(10YR8/6)	黄橙(10YR8/6)	
888	296		西部	弥生土器	壷	底部	80				8.0	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
889	296		西部攪乱	弥生土器	壷	底部	80				8.0	にぶい黄(2.5Y6/4)	にぶい黄(2.5Y6/4)	
890	296		西部	弥生土器	壷	底部	15				(12.5)	明褐(7.5YR5/6)	明褐(7.5YR5/6)	
891	296		西部	弥生土器	壷	底部	25				(7.5)	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	
892	296		西部	弥生土器	壷	底部	80				7.5	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
893	296		西部	弥生土器	壷	底部	25				(8.8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
894	296		西部	弥生土器	壷	底部	40				(7.5)	浅黄(2.5Y7/4)	浅黄(2.5Y7/4)	
895	296		西部	弥生土器	壷	底部	25				(8.0)	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
896	296		西部	弥生土器	壷	底部	30				(8.0)	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	
897	296		中央部谷部	弥生土器	甕	台部	30					にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	
898	296		中央部谷部	弥生土器	甕	接合部	45					にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種別	器種	部位	残存率(%)	器高(cm)	器径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	色調(外面)	色調(内面)	備考
899	296		中央部	弥生土器	甕	接合部	75					にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
900	296		中央部	弥生土器	高坏	口縁部	10		(22.0)	(22.0)		にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
901	296		中央部	弥生土器	壷	胴部	25		(13.6)			にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
902	296	92	中央部	弥生土器	壺	胴～底部	60		11.6		5.2	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰(10Y6/1)	赤彩
903	296		中央部谷部	弥生土器	壷	底部	45				(7.5)	にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
904	296		中央部谷部	弥生土器	壷	底部	80				5.9	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰(5Y4/1)	
905	296		中央部	弥生土器	壷	底部	25				(6.9)	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	
906	296		中央部谷部	弥生土器	壷	底部	25				(8.0)	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
907	296		東部	弥生土器	甕	口縁部	15			(18.8)		にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(7.5YR8/6)	
908	296		東部	弥生土器	甕	頸～胴部	20		(19.3)			橙(5YR6/6)	橙(2.5YR6/6)	
909	296		東部	弥生土器	甕	口縁部	15			(14.7)		にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR5/3)	
910	296		東部	弥生土器	甕	接合部	80					橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
911	296		東部	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
912	296	92	東部	弥生土器	甕	胴～接合部	90					浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	
913	296		東部	弥生土器	甕	接合部	70					橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	
914	296		東部	弥生土器	甕	接合部	65					にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
915	296		東部	弥生土器	甕	接合部	70					にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	
916	296		東部東端部	弥生土器	甕	接合部	25					浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
917	296		東部	弥生土器	甕	接合部	65					橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
918	296		東部	弥生土器	甕	接合部	75					橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	
919	296		東部	弥生土器	甕	台部	20				(7.5)	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	
920	297		東部	弥生土器	高坏	坏部	10		(20.4)	(20.4)		にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい赤褐(5YR5/4)	
921	297		東部	弥生土器	高坏	口縁部	10		(21.2)	(21.2)		にぶい黄橙(10YR7/3)	黄灰(2.5Y6/1)	
922	297		東部	弥生土器	壷	底部	40				(5.7)	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	
923	297		東部	弥生土器	壺	頸部	10					にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	
924	297		東部	弥生土器	壷	底部	35				(6.2)	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
925	297		東部	弥生土器	壷	底部	50				4.8	橙(2.5YR6/8)	橙(2.5YR6/8)	
926	297		東部	弥生土器	壷	胴～底部	35		(20.7)		(6.2)	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR6/2)	
927	297		東部	弥生土器	壷	底部	30				(10.4)	橙(7.5YR7/6)	浅黄(2.5Y7/4)	
928	297		東部	弥生土器	壷	底部	75				7.6	橙(7.5YR7/6)	灰(5Y4/1)	
929	297	92	東部	弥生土器	壷	胴～底部	75				4.0	橙(5YR6/6)	橙(5YR7/6)	
930	297		東部	弥生土器	壷	底部	20				(10.2)	にぶい橙(2.5YR6/4)	橙(2.5YR7/6)	
931	297	92	西部北側斜面	弥生土器	高坏	脚部	80					浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
932	297	92	東部	土師器	高坏	脚部	20				(11.3)	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
933	297		東部	土師器	高坏	口縁部	10		(21.3)	(21.3)		にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	
934	297	92	東部	土師器	坏	口縁部	15		(11.0)	(11.0)		にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	赤彩
935	297	92	東部	土師器	坏	口縁部	15		(11.4)	(11.4)		褐灰(10YR6/1)	灰黄(2.5Y7/2)	赤彩
936	297	92	東部	土師器	碗	口縁部	15			(16.6)		浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	赤彩
937	297		西部	須恵器	坏蓋	胴～縁部	10		(11.2)	(11.2)		灰(N5/0)	灰(N6/0)	
938	297		西部撹乱	須恵器	甕	胴部						灰白(7.5Y7/1)	灰(N6/0)	
939	297		西部撹乱	須恵器	甕	胴部						灰黄(2.5Y7/2)	灰白(2.5Y8/2)	
940	297	92	東部	須恵器	坏	底部	15				(11.8)	灰(N6/0)	灰白(2.5Y7/1)	
941	297	92	西部(SB12)	陶器	甕	口縁部	10			(21.2)		灰(10Y6/1)	灰(10Y6/1)	
942	297	92	東部	山茶碗	碗	口縁部	10		(13.6)	(13.6)		灰(10Y4/1)	灰(10Y6/1)	
943	297		西部南東区	灰釉陶器	碗	底部	15				(6.4)	灰(7.5Y6/1)	灰(7.5Y6/1)	
944	297	92	西部	陶器	薬壷	胴～底部	30		(6.4)		(5.1)	灰黄(2.5Y7/2)	灰(10Y6/1)	
945	297		西部	山茶碗	碗	底部	15				(7.1)	灰(7.5Y6/1)	灰黄(2.5Y7/2)	
946	297		西部(SD24)	山茶碗	碗	底部	15				(7.3)	灰白(10Y7/1)	灰白(10Y7/1)	
947	297		西部(SD59上層)	山茶碗	碗	底部	85				8.2	灰白(10YR7/1)	明褐灰(7.5YR7/1)	
948	297		中央部近代建物跡	陶器	小皿	全体	40	3.1	(9.4)	(9.4)	5.5	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	
949	297	92	西部(SB14上層)	山茶碗	碗	底部	25				(6.5)	灰(N6/0)	灰(N610)	
950	297	92	東部	山茶碗	碗	底部	50				7.5	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	
951	297	92	西部焼き場跡	かわらけ		全体	75	3.2	10.2	10.2	5.8	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	
952	297	92	西部焼き場跡	かわらけ		全体	80	3.1	10.0	10.0	5.7	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄(2.5Y8/3)	
953	297	92	西部焼き場跡	かわらけ		全体	60	3.2	(10.1)	(10.1)	5.7	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	
954	297	92	西部焼き場跡	かわらけ		全体	75	3.3	(9.6)	(9.6)	5.4	灰黄(2.5Y7/2)	にぶい橙(5YR7/4)	
955	297	92	西部焼き場跡	かわらけ		全体	80	3.4	10.2	10.2	6.2	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	

(　)は復元値

第7表　遺物観察表（玉類・ガラス質の滓）

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種類	材質	直径(mm)	全長(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	備考
1055	306	95	SB113	管玉	鉄石英	2.6	9.5	1.0	0.09	赤褐色	
1056	306	95	SH185	小玉	ガラス	5.0	4.6	1.8	0.13	濃青色	
1057	306	95	SB08	小玉	ガラス	3.9	3.9	1.4	0.08	水色	
1058	306	95	SB102	小玉	ガラス	3.9	3.7	1.4	0.07	水色	
1059	306	95	SB135	小玉	ガラス	4.1	2.0	1.5	0.04	水色	
1060	306	95	SB42	小玉	ガラス	3.8	3.0	0.9	0.04	水色	
1061	306	95	SZ02	ガラス質の滓					2.32	黒～青緑色	
1062	306	95	SD117(SB110)	ガラス質の滓					1.48	明緑色	
1063	306	95	SD87(SB82)	ガラス質の滓					0.54	黒～青緑色	
1064	306	95	SB15	ガラス質の滓					0.53	明緑色	
1065	306	95	G15grid	ガラス質の滓					0.46	黒～青緑色	
1066	306	95	SZ01	ガラス質の滓					0.07	明緑色	

第８表　遺物観察表（石器）

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	欠損	備考
956	298	93	SB23	石鏃	瑪瑙・玉髄	1.26	(1.26)	0.34	0.3	あり	
957	298	93	I10grid	石鏃	凝灰岩	1.46	(1.30)	0.26	0.3	あり	
958	298	93	SB55	石鏃	無斑晶質安山岩	1.55	(1.37)	0.30	0.3	あり	
959	298	93	SD23	石鏃	瑪瑙・玉髄	1.64	(1.26)	0.33	0.4	あり	
960	298	93	SH83	石鏃	頁岩	(1.44)	1.14	0.26	0.4	あり	
961	298	93	SD45(SB37)	石鏃	シルト岩	1.92	(1.24)	0.34	0.4	あり	
962	298	93	SB42	石鏃	黒曜石	1.88	1.35	0.27	0.4	なし	
963	298	93	西部北側斜面	石鏃	黒曜石	2.05	(1.20)	0.45	0.6	あり	
964	298	93	西部北側斜面	石鏃	黒曜石	(2.08)	(1.53)	0.28	0.6	あり	
965	298	93	SD121(SB113)	石鏃	黒曜石	2.60	(1.60)	0.37	0.7	あり	
966	298	93	西部北側斜面	石鏃	凝灰岩	(1.73)	(1.43)	0.30	0.6	あり	
967	298	93	SB34	石鏃	シルト岩	(1.35)	(1.29)	0.34	0.4	あり	
968	298	93	SB29	石鏃	シルト岩	1.29	1.20	0.35	0.3	なし	
969	298	93	L5grid	石鏃	珪岩	1.56	1.27	0.42	0.7	なし	
970	298	93	J7grid	石鏃	珪岩	1.54	1.45	0.38	0.6	なし	
971	298	93	SB29	石鏃	黒曜石	1.49	(1.35)	0.41	0.5	あり	
972	298	93	SB42	石鏃	シルト岩	1.22	(1.01)	0.20	0.2	あり	
973	298	93	SB29	石鏃	シルト岩	(1.47)	1.31	0.39	0.6	あり	
974	298	93	I6grid	石鏃	シルト岩	(1.89)	(1.31)	0.41	0.6	あり	
975	298	93	西部南東区	石鏃	黒曜石	(1.39)	(13.50)	0.33	0.5	あり	
976	298	93	SH32	石鏃	瑪瑙・玉髄	2.15	1.24	0.32	0.5	なし	
977	298	93	SD45(SB37)	石鏃	シルト岩	(1.47)	(1.00)	0.33	0.2	あり	
978	298	93	SH30	石鏃	黒曜石	1.92	1.28	0.45	0.7	なし	
979	298	93	F4grid	石鏃	シルト岩	1.89	1.10	0.30	0.6	あり	
980	298	93	SF03	石鏃	凝灰岩	1.88	1.70	0.34	1.0	なし	
981	298	93	SB36	石鏃	凝灰岩	(1.61)	1.68	0.33	0.8	あり	
982	298	93	J7grid	石鏃	黒曜石	(1.16)	0.92	0.34	0.3	あり	
983	299	93	SB42	石鏃	凝灰岩	(2.61)	2.21	0.70	2.2	あり	
984	299	93	SB55	石鏃	凝灰岩	(2.00)	2.37	0.54	2.3	あり	
985	299	93	SD43(SB37)	石鏃	シルト岩	1.96	1.84	0.43	1.1	なし	
986	299	93	E23grid	石鏃	黒曜石	2.13	1.66	0.32	0.8	あり	
987	299	93	SD45(SB37)	石鏃	ホルンフェルス	1.19	0.98	0.19	0.2	なし	
988	299	93	SB27,29	石鏃	瑪瑙・玉髄	(1.06)	1.21	0.48	0.5	あり	
989	299	93	SD99	石鏃	凝灰岩	1.37	1.16	0.26	0.4	なし	
990	299	93	SD29	石鏃	凝灰岩	2.57	2.03	0.59	2.1	なし	
991	299	93	SB42	石鏃	凝灰岩	(2.48)	2.02	0.73	2.2	あり	
992	299	93	SZ01	石鏃	珪岩	(2.19)	(1.25)	0.34	0.9	あり	
993	299	93	SD24(SB18)	石鏃	頁岩	2.18	1.79	0.71	2.3	なし	
994	299	93	SB31	石鏃	瑪瑙・玉髄	(1.82)	1.71	0.49	1.3	あり	
995	299	93	SH24	石鏃	頁岩	2.05	1.84	0.60	1.9	あり	
996	299	93	SD45(SB37)	石鏃	頁岩	2.14	1.86	0.37	1.2	なし	
997	299	93	L5grid	石鏃	頁岩	1.96	1.42	0.31	0.6	なし	
998	299	93	SB55	石鏃	黒曜石	1.50	1.30	0.68	1.1	なし	
999	299	93	SB20	石鏃	黒曜石	1.63	1.22	0.39	0.7	なし	
1000	299	93	F12grid	石鏃	シルト岩	1.24	0.99	0.28	0.2	あり	凸基
1001	299	93	H8grid	石鏃	凝灰岩	(2.52)	1.59	0.40	1.4	あり	有茎
1002	300	93	SB53	石鏃	黒曜石	(2.33)	(1.14)	0.33	0.6	あり	
1003	300	93	SB44	石鏃	黒曜石	(1.55)	(1.11)	0.28	0.3	あり	
1004	300	93	J10grid	石鏃	黒曜石	(1.50)	(1.25)	0.78	1.0	あり	
1005	300	93	西部南西区	石鏃	瑪瑙・玉髄	(2.85)	1.75	0.48	2.4	あり	
1006	300	93	西部北側斜面	石鏃	シルト岩	(3.39)	2.72	0.68	4.0	あり	
1007	300	93	SD24(SB18)	石鏃	凝灰岩	2.78	2.23	0.87	4.7	なし	
1008	300	93	SD24(SB18)	石鏃	凝灰岩	(2.47)	2.31	0.87	4.6	あり	
1009	300	93	SD60(SB49～51)	石鏃	シルト岩	(2.85)	1.97	0.57	2.8	あり	
1010	300	93	SD30(SB28)	石錐	シルト岩	(1.94)	(0.67)	0.35	0.3	あり	
1011	300	93	SZ02	縦形石匙	シルト岩	6.88	3.51	1.40	25.8	なし	
1012	300		中央部南側谷部	横形石匙	頁岩	4.95	6.10	1.44	39.9	なし	
1013	300	93	SD24(SB18)	横形石匙	砂岩	5.00	(6.92)	0.82	31.1	あり	
1014	300	93	F6grid	横形石匙	シルト岩	3.28	5.12	1.07	11.6	なし	
1015	301	93	SH59	スクレイパー	シルト岩	4.75	8.55	1.60	54.5	なし	
1016	301	93	西部攪乱	スクレイパー	頁岩	3.44	4.51	1.01	14.8	なし	
1017	301	93	西部北側斜面	スクレイパー	頁岩	(5.58)	5.17	1.48	48.8	あり	
1018	301	93	SD39	スクレイパー	砂岩	9.41	3.71	1.11	40.0	なし	
1019	301	93	G7grid	楔形石器	緑色凝灰岩	2.95	2.63	1.07	9.8	なし	
1020	301		SB129	石核	頁岩	6.27	8.25	2.87	160.4	なし	
1021	302	94	西部攪乱	打製石斧	ホルンフェルス	8.64	4.96	1.84	104.4	なし	
1022	302	94	SH74	打製石斧	ホルンフェルス	(7.00)	(4.64)	1.40	41.5	あり	
1023	302	94	SB55	磨製石斧	凝灰岩	6.56	4.06	1.54	75.7	なし	
1024	302	94	SB53	磨製石斧	緑色凝灰岩	6.17	1.72	0.70	12.2	あり	
1025	302	94	西部表採	磨製石斧	緑色凝灰岩	4.12	(2.03)	0.68	9.3	あり	
1026	302		I6grid	磨製石斧	緑色凝灰岩	(8.80)	(4.24)	3.09	150.3	あり	
1027	302		SB86	磨製石斧	凝灰岩	(5.11)	(3.80)	3.50	118.1	あり	
1028	302	94	SD32(SB27)	石製円盤	砂岩	6.79	6.40	2.05	134.8	なし	
1029	302	94	SD87(SB82)	石錘	砂岩	3.25	2.79	1.11	13.0	なし	
1030	302	94	G9grid	石錘	砂岩	4.06	3.09	0.97	17.9	なし	
1031	302	94	SD120(SB110)	石錘	ホルンフェルス	5.06	2.33	0.84	13.7	なし	
1032	302	94	SB112	石錘	珪岩	4.42	2.28	0.91	14.0	なし	
1033	303		SB156	敲石	砂岩	12.75	11.23	8.97	1758.2	なし	
1034	303	94	SD59(SB51)	敲石	砂岩	18.12	7.57	4.65	824.4	なし	

番号	挿図番号	図版番号	出土位置	種類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	欠損	備考
1035	303		SD117(SB110)	敲石	砂岩	(9.24)	7.95	7.40	551.7	あり	
1036	303	94	SD32(SB27)	敲石	閃緑岩	11.77	7.23	6.17	752.5	なし	
1037	303	94	SD58(SB50)	敲石	砂岩	8.37	4.29	3.67	191.4	なし	
1038	304	94	SD117(SB110)	敲石	砂岩	15.31	5.95	4.33	471.6	なし	
1039	304	94	SB130	敲石	砂岩	10.09	3.99	3.82	235.4	なし	
1040	304	94	F18grid	敲石	砂岩	10.09	4.30	3.83	218.8	なし	
1041	304	94	SD59(SB51)	磨製石斧転用敲石	緑色片岩	(12.15)	3.95	3.63	268.0	あり	
1042	304	94	SD119(SB110)	磨製石斧転用敲石	凝灰岩	(4.45)	(3.77)	2.95	59.3	あり	磨石兼用
1043	304	94	東部攪乱	磨石	凝灰岩	(10.76)	6.00	2.71	220.0	あり	
1044	304	94	SD24(SB18)	磨石	凝灰岩	(9.88)	9.29	2.33	325.6	あり	
1045	304		SB91	磨石	砂岩	11.08	9.51	7.58	1075.8	なし	
1046	305	95	中央部北側斜面	石皿	砂岩	(19.26)	(24.34)	8.52	5180.0	あり	
1047	305	94	SD24(SB18)	砥石	砂岩	(11.79)	(9.51)	8.03	1257.7	あり	
1048	305	94	SF21	砥石	砂岩	16.18	7.88	5.00	651.0	なし	
1049	305	95	SB139	砥石	砂岩	(16.68)	10.80	4.01	873.1	あり	
1050	305	95	D20grid	砥石	砂岩	19.92	9.37	9.51	1850.9	なし	
1051	305	95	SB113	砥石	砂岩	21.36	19.10	9.12	3461.1	あり	
1052	305	95	SB73	砥石(台石)	砂岩	17.12	17.52	7.82	3334.5	なし	
1053	306	95	SH74付近	砥石	砂岩	(22.28)	18.58	7.41	3319.1	あり	
1054	306	95	SH74	砥石	砂岩	38.00	(21.66)	13.35	11600.0	あり	

(　)は残存値

第６章　自然科学的分析

第１節　土壌ブロックのCTスキャン分析と炭化米のDNA分析

静岡県掛川市で発掘された上ノ平遺跡では、原野谷川右岸の丘陵上に100棟をこえる竪穴住居跡と60棟を上回る掘立柱建物跡が発見された。また、土坑と住居跡の周辺に巡らされた溝状遺構も13ヶ所が発掘され、弥生土器、土師器やガラス玉などが多数出土した。このように本遺跡は比較的大規模な集落であり、弥生時代末期から古墳時代初頭の周辺地域における拠点的な丘陵上の集落である。遺跡の最も標高の高いSB27より炭化米が出土した。この出土点は平坦部の北西端で、西側の５ｍ先よりかなりの傾斜で落ちていく部分である。この区域は集落域の一番奥まった比較的高い地域で、住居跡の外側を巡る溝状遺構が多く検出されており、出土地点は数本の溝状遺構と多くの竪穴住居が重なり合った区域であった（第307図）。本分析では埋蔵の状態を推定するために炭化米が密集する部分を含む土塊を取り上げてCT-スキャンを行い、おにぎり状の塊が検出された。その土塊から炭化米を選別し、DNA分析を行った。本報告は炭化米を含む土塊の状態でCT-スキャンを行った初めての例であり、DNA分析と組み合わせることにより当時の埋もれた状態をより詳細に把握し分析することが可能となった。

１．材料と方法

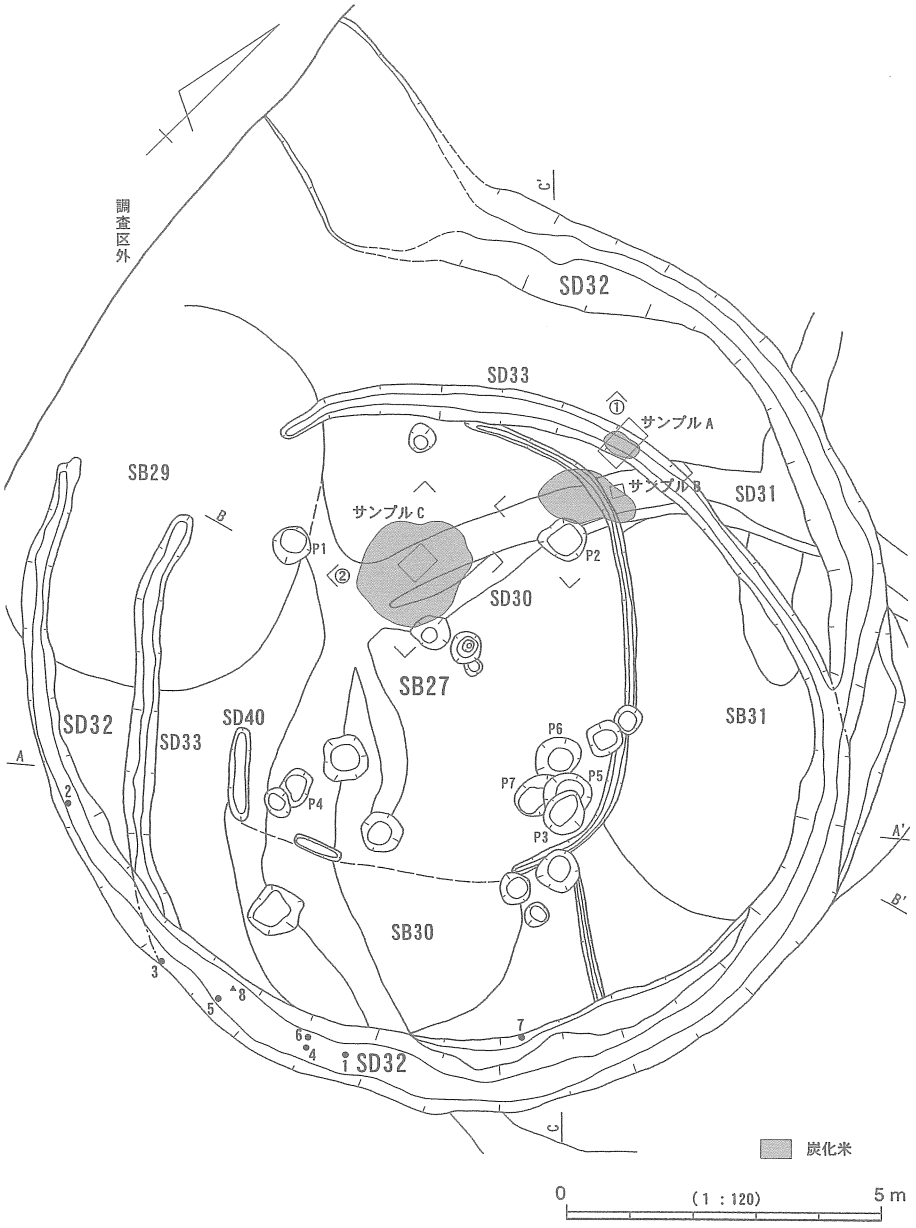
（１）土壌ブロックのCT-スキャン分析

炭化米が密集する部分は多数の竪穴住居跡が複雑に切り合った遺構に複数見出された。対象は最も古い住居の周溝の部分などである。周溝の覆土は下層に自然に堆積したと思われる暗褐色土と上層に人為的に埋められた可能性も考慮できる褐色粘質土ブロックと黄褐色砂質土ブロックを多く含む暗褐色土である。いずれの部分でも多数の炭化米が検出された。分析に用いたサンプルはその上層から炭化米の塊を含むように取り上げた土塊（40×60×23㎝）である。この土塊は取り上げ後４分割し、ウレタンで包んだのち全体を３㎝毎にCT-スキャン（東芝メディカルAquilion）を行った。さらに炭化米の密集部分を３㎜間隔でスキャンし、炭化米の広がりを立体的に把握した。その後土塊を切断し、炭化米ほかの遺物を回収した。

（２）炭化米のDNA分析

（１）で検出した炭化米のうち破損のないサンプル18点を３CCDデジタル顕微鏡で写真撮影した。分析に用いた材料はサンプルＡ～Ｃである（第307図）。これらサンプルのそれぞれから、以下の方法によってDNA分析を行った。まず、サンプルの表面を洗浄後、粉砕のためのマルチビーズとともに１つずつチューブに入れ、マルチビーズショッカー（安井器械製）によって粉砕し、SDS法によってDNAを抽出した。なお抽出方法の詳細はNakamura1990を参照していただきたい。

これらのDNAを鋳型としてプライマーCMNS-B20によるPCR増幅を行った。ここでプライマーCMNS-B20は熱帯ジャポニカに固有のDNA断片を検出するためのプライマーとして以前から使われてきたものである。PCR法の温度条件、反応液の組成などは定法によった。遺物のDNAは通常PCR法で



第307図　サンプルA～Cの位置

は増幅されない。そこでここでは、１回目の増幅産物をテンプレートとして２回目のPCRを行う、いわゆる２段階PCRを行った。PCR反応によって増幅されたDNAは、寒天を支持体とする電気泳動を行ってDNAを視覚化させた。２つのプライマーは、熱帯ジャポニカに固有のバンドであることが確かめられている。分析の信頼度をさらに高めるため、ここではサザンハイブリダイゼーション法と呼ばれる方法を用いて、当該のバンドが熱帯ジャポニカ品種由来のバンドであることを確認する作業を行った。ここでは、現存のジャポニカ品種（タイ国産の品種Th13）由来のDNAをプローブ（釣り針の意）として用い、遺物由来のDNAにハイブリダイズするかどうかを確認した。この作業は、分子生物学の分野では目的のDNA確認の手段としてしばしば用いられてきたもので、バンドが真に遺物由来のものである

ことを確認するための有効な手段である。

さらに、これらのサンプルの葉緑体DNAのPS-ID領域のPCR増幅およびそれによる塩基配列の決定を試みた。PCR法の温度条件、反応液の組成などは定法によった。先述のとおり、遺物のDNAは通常のPCR法では増幅されないことから、ここでは、1回目の増幅産物をテンプレートとして2回目のPCRを行う、いわゆる2段階PCRを行った。PCR反応によって増幅されたDNAは寒天を支持体とする電気泳動を行ってDNAを視覚化させ、DNA増幅の確認後シーケンスを行い、塩基配列を決定した。

2．結果と考察

炭化米は表層から2.5cmのところまでは比較的まばらに分布し、それより下部には認められなかったが、表面から5～10cmの深さのところに炭化米と思われる黒色の粒が密集する部分が1ヶ所認められた（第308・309図）。この部分の大きさは鉛直方向に約5.0cm、水平方向に（画面に対して）約5.5cmで、SCAN画像の解析から奥行きは約3cmと推定された。土塊を、SCAN画面の位置で切断したところ（第308図）、黒い粒子は籾殻を伴わない炭化米であった。また、穂軸、芒などの構造は認められなかった。なお、炭化米の塊のほぼ中央に、0.8×1.3×2.0cm程度の、白色で占められた空間があったが、この実体は不明である。

取り出した炭化米のうち18粒について、その1粒ずつからDNAを抽出したところ、熱帯ジャポニカを示すバンドは増幅せず温帯ジャポニカを示すバンドを持つサンプルが6粒あった。弥生時代後期の全国の遺跡では熱帯ジャポニカが平均35%検出されていることから温帯ジャポニカのみ出土していることは注目に値する。また、今後はラセン状に解析するCTスキャンを利用して土壌中のおにぎり状の炭化米などを洗浄前に検出し、植物の形状を立体的に再現する。

参考文献

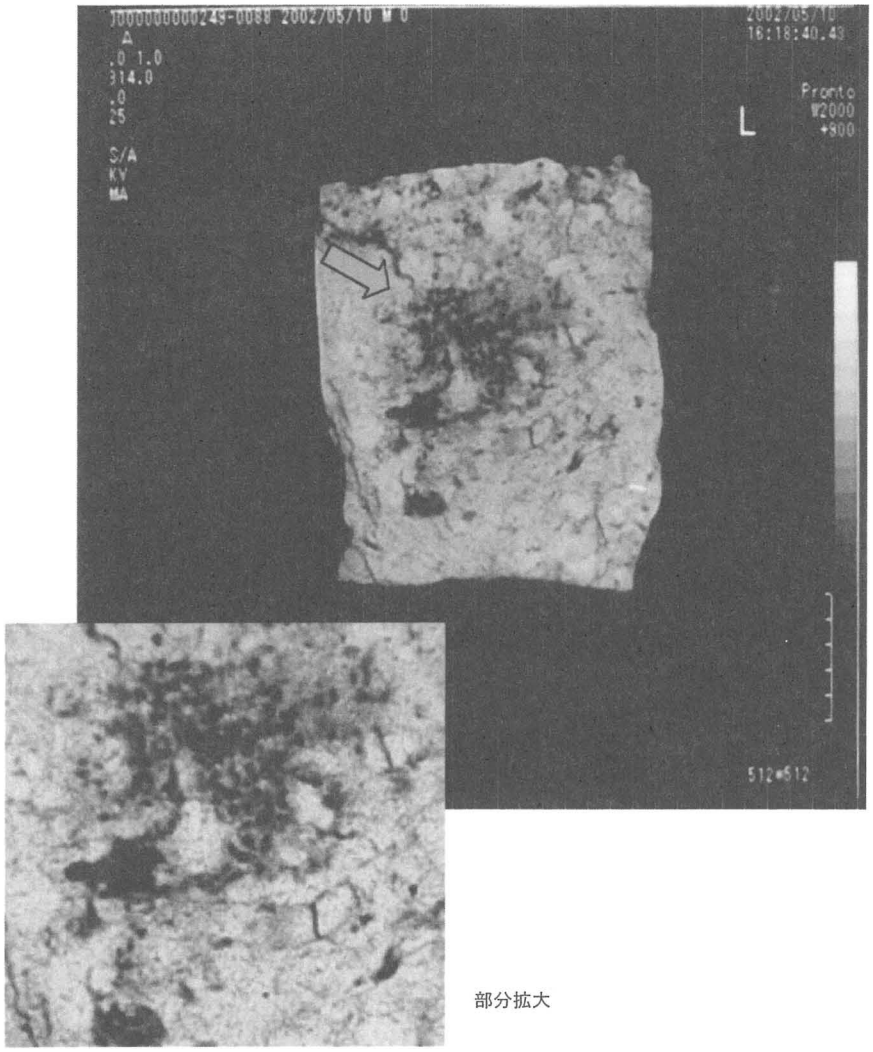
佐藤洋一郎　1998『DNA考古学事始』DNA多型6：1-4
1998「DNAから栽培と農耕の歴史を探る」『遺伝52』(6)：29-33
1999『DNA考古学』東洋書店
2000『縄文農耕の世界』PHP新書
2002『DNA考古学のすすめ』丸善ライブラリー

中村郁郎　1995「DNAフィンガープリント法」『植物遺伝育種学実験法』朝倉書店pp113-117

Nakamura,I. 1990 New DNA Fingerprinting Procedure.Amplified Fragment Length Polymorphism Of Hazy Association (ALPHA).Annu.Rep.Natl.Inst.Genet.41:105-106

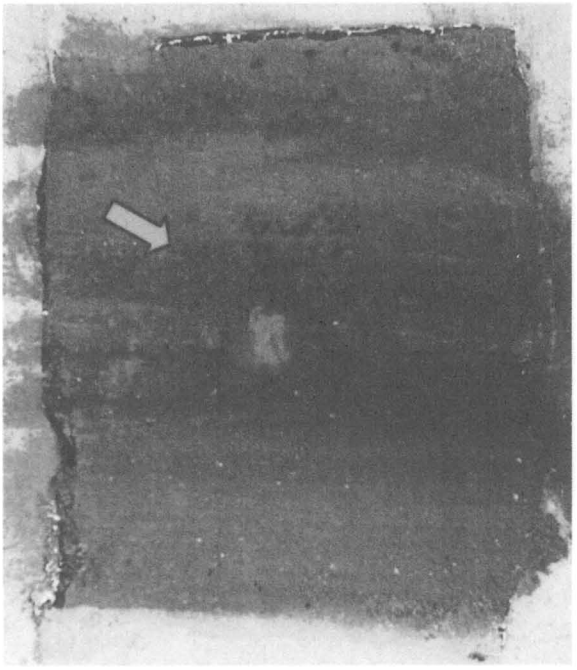
Nakamura,I.and Y.I.Sato 1991 Amplification of DNA fragments Isolated from a Single Seed of Ancient (AD800) by Polymerase Chain Reaction.Chinese J. Rise Sci. 5 :17-5179

Southern,E.M. 1975 Detection of specific sequence among DNA fragments separated by gel Electrophoresis.J.Mol.Biol.95:503-517

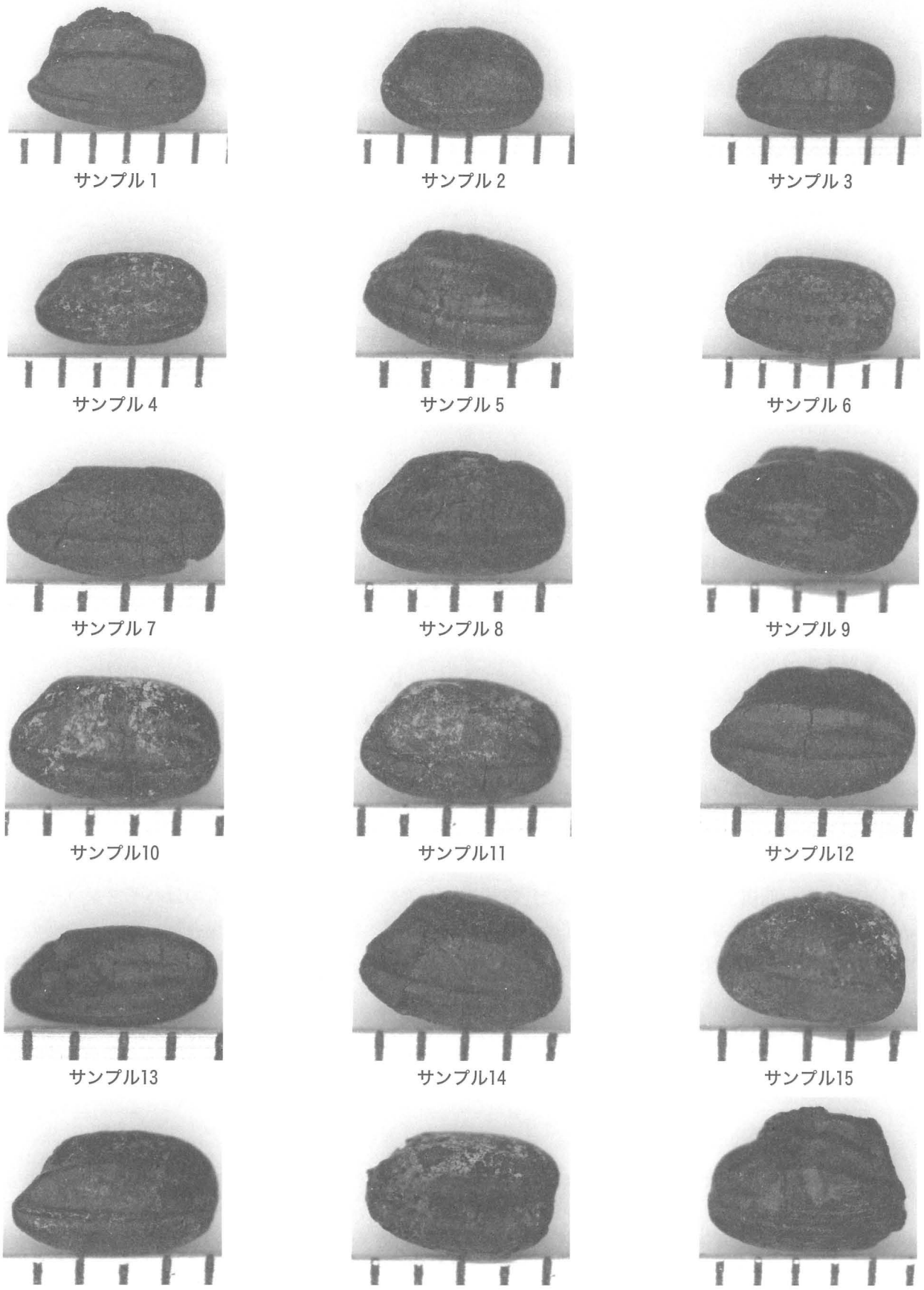


部分拡大

第308図　炭化米を含む断面のスキャン画像



第309図　切断面のフィルム写真



第310図　出土炭化米の３CCDデジタル画像

第２節　花粉分析

花粉分析は一般に低湿地の堆積物を対象として比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。なお、乾燥的な環境下の堆積物では、花粉などの植物遺体が分解されて現存していない場合もある。

１．試料と分析

（１）試　料

試料はSB27の遺構Ｄ（サンプルＡ、01-155地点）と遺構Ｂ（サンプルＣ、01-157地点）より採取された堆積物２点である（サンプルＡ～Ｃは前節の第307図参照）。

（２）分析方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村1973を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

ⅰ）５％水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。

ⅱ）水洗した後、0.5㎜の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈殿法を用いて砂粒の除去を行う。

ⅲ）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。

ⅳ）水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す。

ⅴ）再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。

ⅵ）沈渣に石灰酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作成する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離（1500rpm、２分間）の後、上澄みを捨てるという操作を３回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作成後直ちに生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、倉島1973および中村1980をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類で一部が属や節に細分できる場合は、それらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村1974・1977を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。また、同時に、寄生虫卵についても計数した。

2．結　果

（1）分類群

出現した分類群は、樹木花粉５、草木花粉１、シダ植物胞子２形態の計８である。これらの学名と和名および粒数を第９表に示す。主要な分類群は写真に示した。サンプルＡではわずかに花粉を検出したが、サンプルＣでは花粉は認められずシダ植物の胞子のみが検出された。なお、分析処理中にサンプルＣにおいて堆積物１cc中から炭化したイネ果実２粒を検出した。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、マツ属複維管束亜属、スギ、シイ属、コナラ属アカガシ亜属

〔草木花粉〕

イネ科

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

（2）花粉群集の特徴

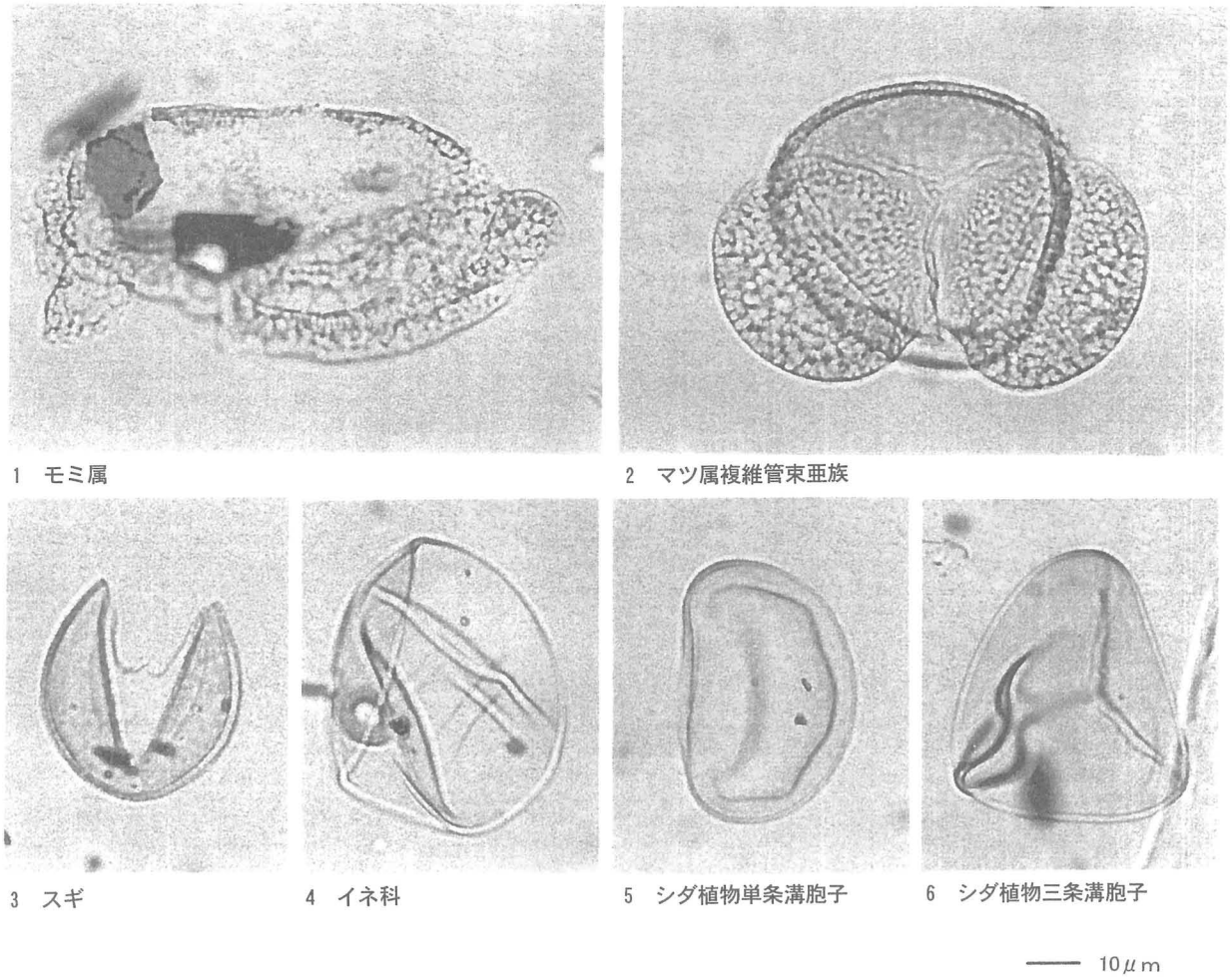
いずれの試料も花粉密度は低い。サンプルＡでは樹木花粉のスギがやや多く、単条溝胞子がやや多い。サンプルＣでは花粉が検出されず、単条溝胞子が出現する。

3．花粉分析から推定される植生と環境

サンプルＡ・サンプルＣの堆積時は、遺構Ｄ・遺構Ｂともに花粉などの有機質遺体が分解される乾燥した環境あるいは乾湿を繰り返すような環境が考えられる。遺構Ｄではスギ林の分布が推定され、林床に乾燥を好むシダ植物胞子の分布が示唆される。

第９表　花粉分析結果

試料分類群				サンプルＡ	サンプルＣ
和名		学名			
樹木花粉	モミ属	Arboreal pollen	Abies	1	0
	マツ属複維管束亜属		Pinus subgen.Diploxylom	3	0
	スギ		Cryptomeria japonica	23	0
	シイ属		Castanopsis	1	0
	コナラ属アカガシ亜属		Quercus subgen.Cyclobalanpsis	1	0
草木花粉	イネ科	Nonarboereal pollen	Graminese	2	0
シダ植物胞子	単条溝胞子	Fern spore	Nonarboreal pollen	16	4
	三条溝胞子		Trilate type spore	1	1
樹木花粉計				29	0
草木花粉計				2	0
花粉総数				31	0
未同定花粉				1	0
シダ植物胞子計				17	5
寄生虫卵				(-)	(-)
明らかな消化残渣				(-)	(-)



第311図　上ノ平遺跡の花粉・胞子

参考文献

金原正明　1993　「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法』　角川書店
島倉巳三郎　1973　『日本植物の花粉形態』大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集
中村　純　1973　『花粉分析』　古今書院
1974　「イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として」『第四紀研究』
1977　「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号
1980　『日本花粉の票徴』大阪自然博物館収蔵目録第13集１

第3節　プラント・オパール分析

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析はこの微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山1984)。

1．試料と分析方法

（1）試　料

分析試料はSB27の遺構D（サンプルA、01-155地点）と遺構B（サンプルC、01-157地点）の堆積物2点である（サンプルA～Cは本章第1節の第307図参照)。

（2）分析方法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析方法（藤原1976）をもとに、次の手順で行った。

i）試料を105℃で24時間乾燥する（絶乾)。

ii）試料約1gに直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（電気分析天秤により0.1mgの精度で秤量）する。

iii）電気炉灰化法（550℃・6時間）により脱有機物処理を行う。

iv）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）により試料を分散する。

v）沈底法により20μm以下の微粒子を除去する。

vi）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラートを作成する。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定に対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これは、ほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数（試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10^{-5}g）を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03)、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48およびミヤコザサ節型は0.30である。

2．結　果

検出されたプラント・オパールは、サンプルＡでは、イネ、ススキ属型、タケ亜科（ネザサ節型、その他）および未分類、サンプルＣでは、イネ、ススキ属型、タケ亜科（ネザサ節型、ミヤコザサ節型、その他）および未分類である。これらの分類群について定量を行い、その結果を第10表および第11表に示す。また主要な分類群の顕微鏡写真を第312図に示す。

3．所　見

サンプルＡ、サンプルＣともイネのプラント・オパールが検出されているが、プラント・オパール密度は１,000～１,700個/ｇと低い値である。このことから、これらの試料が採取された遺構そのもので稲作が行われていたことは考えにくく、両遺構ともその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、両試料ともネザサ節型が優勢であり、ススキ属型がみられることから、堆積当時の周辺は比較的乾いた環境であったことが推察される。

第10表　プラント・オパール分析結果１

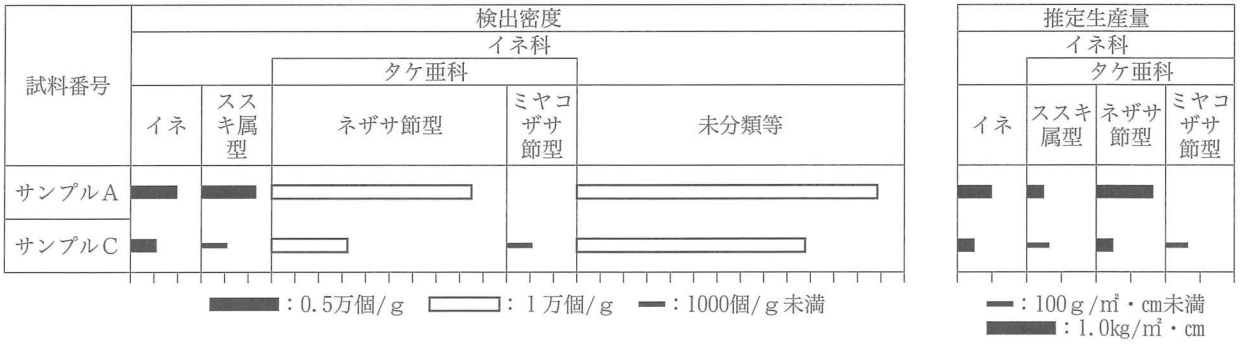
試料分類群				検出密度	
和名		学名		サンプルＡ	サンプルＣ
イネ科	イネ	Gramineae (Grasses)	*Oryza sativa* (domestic rice)	17	10
	ススキ属型		*Miscanthus* ytpe	21	5
タケ亜科	ネザサ節型	Bambusoideae (Bamboo)	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	167	65
	ミヤコザサ節型		*Sasa* sect. *Miyakozasa* type	0	5
	その他		Others	17	5
未分類等			Unknown	257	194
プラント・オパール総数				480	284

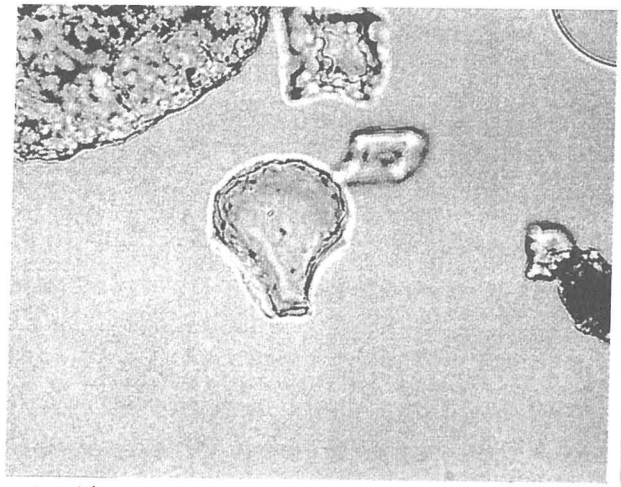
単位：×100個/ｇ

試料分類群		推定生産量	
和名	学名	サンプルＡ	サンプルＣ
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	0.50	0.29
ススキ属型	*Miscanthus* ytpe	0.27	0.06
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	0.80	0.31
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa* type		0.02

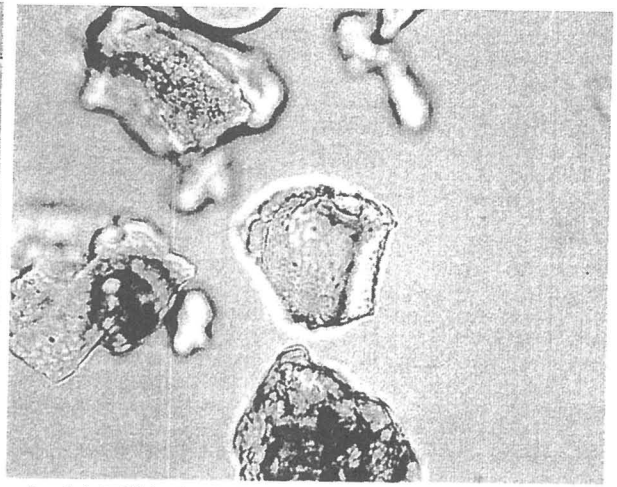
単位：kg/㎡・cm

第11表　プラント・オパール分析結果２

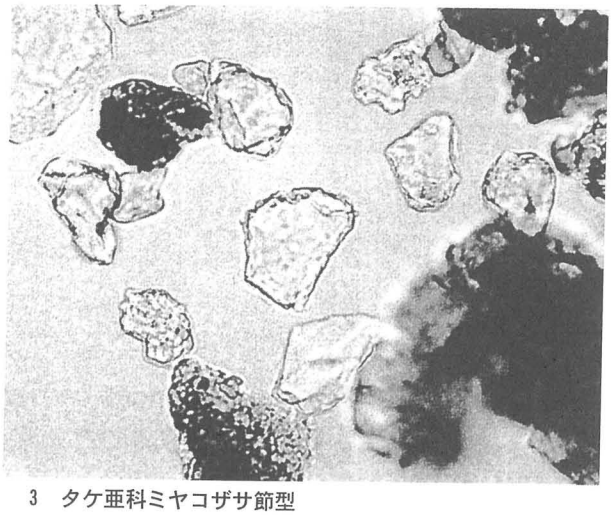




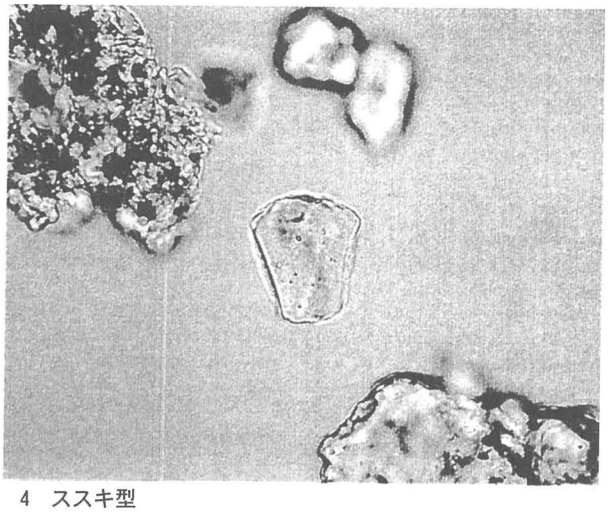
1　イネ



2　タケ亜科ネザサ節型



3　タケ亜科ミヤコザサ節型



4　ススキ型

50μm

第312図　プラント・オパールの顕微鏡写真

参考文献

杉山真二　1987「タケ亜科植物の機動細胞珪酸体」『富士竹類植物園報告』第31号

2000「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』同成社

藤原宏志　1976「プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－」『考古学と自然科学』9

藤原宏志・杉山信二　1984「プラント・オパール分析方法の基礎的研究（5）-プラント・オパール分析による水田址の探査-」『考古学と自然科学』17

第４節　炭化材の樹種同定およびC14年代測定・種子の同定

上ノ平遺跡（静岡県掛川市寺島上ノ平所在）は、原野谷川右岸丘陵上に立地する。発掘調査により、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての大規模な集落であったことが判明している。今回の自然科学分析調査では、竪穴住居跡や溝跡から出土した炭化材や種実の種類を知り、当時の植物利用に関する情報を得るとともに、炭化材の年代測定を行って、遺構の年代についての情報を得る。

１．試　料

樹種同定用試料は、竪穴住居跡から出土した８点（SB10が１点、SB73が１点、SB143が６点）である。さらに、各遺構から１点ずつ（SB143は状態のよいNo. ５を選択）の計３点を選んで、放射性炭素年代測定（AMS法）を実施する。種実同定用試料は、住居跡や溝などから出土した８点である。試料の詳細はそれぞれの結果とともに表に記す。

２．分析方法

（１）放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、AMS法で行った。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。また、北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与え、計算させる。

（２）樹種同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

（３）種実同定

試料をシャーレに移して双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な果実、種子などを抽出する。種実の形態的特徴を、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか2000）等と比較し、種類を同定し個数を数える。分析後の種実等は、種類毎にビンに入れ、70％程度のエタノール溶液による液浸保存または乾燥剤を入れ保管する。

３．結　果

（１）放射性炭素年代測定

結果を第12・13表に示す。測定結果は、SB10が1880±40、SB73が1790±40、SB143が1740±40であ

る。

暦年較正後の結果は、SB10がAD76～211、SB73がAD135～323、SB143がAD243～377である。発掘所見では、弥生時代後期とされるが、年代測定の結果でも、ほぼ調和的な年代が得られている。

（2）樹種同定

樹種同定結果を第14表に示す。炭化材は、針葉樹1種類（マキ属）、広葉樹3種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・クリ・クスノキ科）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・マキ属（Podocarpus）　　マキ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁は、観察した範囲ではらせん肥厚は認められない。樹脂細胞は早材部と晩材部の両方に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1～10細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris）　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）　　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1～4列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・クスノキ科（Lauraceae）

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

（3）種実同定

結果を第15表に示す。種実は、全て炭化しており、遺存状態は悪い。被子植物3分類群（木本1分類群、草本2分類群）の種実の他に、炭化材、部位・種類共に不明の炭化物などが確認された。種実は、栽培植物のモモ、イネ、マメ類が同定された。以下に、本分析によって得られた種実・葉の形態的特徴などを、木本、草本の順に記述する。

＜木本＞

・モモ（Prunus parsica Batsch）　　バラ科サクラ属

核（内果皮）の破片が検出された。黒色、完形ならば広楕円体でやや偏平。先端部はやや尖る。基部は切形で中央部に湾入した臍がある。破片の大きさは5～17㎜程度。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線に沿って半分に割れている個体もみられる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。

＜草本＞

・イネ（Oryza sativa L.）　　イネ科イネ属

胚乳が検出された。炭化し黒色を呈す。長楕円形でやや偏平。長さ4㎜、幅2㎜、厚さ1.5㎜程度。一端に胚が脱落した凹部がある。表面はやや平滑で、2～3本の縦溝がみられる。

・マメ類（Leguminosae）　　マメ科

種子が検出された。全個体とも炭化し黒色を呈す。長楕円体で長さ5～6.5㎜、径3～4㎜程度。焼

け膨れ、表面が崩れている等遺存状態は悪く、腹面中央の子葉の合わせ目上にある長楕円形状の臍を欠損する。子葉の合わせ目から半分に割れた1片もみられるが、合わせ目の表面は不明瞭。種皮表面はやや平滑で光沢がある。遺跡出土の炭化マメ類は、その形態からササゲ、アズキ、リョクトウなどの種類を同定する試みが行われている(吉崎1992)。一方で、野生種との雑種も多いため、形態のみから現在の特定の種類に比定することは難しいと考えられている(南木1991、南木・中川2000など)。今回検出された種子は、遺存状態が悪いため、現時点では特定種類の比定は控え、今後の資料の蓄積を待ち検討したいと考える。

第12表　放射線炭素年代測定

試料番号			種類	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code.No.
試料1	SB10	床直	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1880±40	-29.97±0.88	1960±40	IAAA-40213
試料2	SB73	床直	マキ属	1790±40	-28.53±1.00	1850±40	IAAA-40214
試料7	SB143	床直No. 5	クリ	1740±40	-30.10±0.75	1830±40	IAAA-40215

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第13表　暦年較正結果

試料	補正年代(BP)	暦年較正年代（cal）	相対比	Code No.
試料 1 SB10 床直	1882± 38	cal AD 76 - cal AD 136	cal BP 1,874 - 1,814	0.669	IAAA-40213
		cal AD 151 - cal AD 176	cal BP 1,799 - 1,774	0.182	
		cal AD 192 - cal AD 211	cal BP 1,758 - 1,739	0.149	
試料 2 SB73 床直	1787± 40	cal AD 135 - cal AD 154	cal BP 1,815 - 1,796	0.114	IAAA-40214
		cal AD 175 - cal AD 193	cal BP 1,775 - 1,757	0.117	
		cal AD 211 - cal AD 260	cal BP 1,739 - 1,690	0.452	
		cal AD 280 - cal AD 292	cal BP 1,670 - 1,658	0.086	
		cal AD 297 - cal AD 323	cal BP 1,653 - 1,627	0.231	
試料 7 SB143 床直No. 5	1742± 39	cal AD 243 - cal AD 342	cal BP 1,707 - 1,608	0.968	IAAA-40215
		cal AD 373 - cal AD 377	cal BP 1,577 - 1,573	0.032	

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4（Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer）を使用
計算には表に示した丸める前の値を使用している。
付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第14表　樹種同定結果

地点	番号	遺構	出土位置	遺物番号	樹種
No. 104・105地点	試料1	SB10	床直層		コナラ属コナラ亜属クヌギ節
	試料2	SB73	床直層		マキ属
	試料3	SB143	床直層	No. 1	マキ属
	試料4	SB143	床直層	No. 2	クリ
	試料5	SB143	床直層	No. 3	クリ
	試料6	SB143	床直層	No. 4	クスノキ科
	試料7	SB143	床直層	No. 5	クリ
	試料8	SB143	床直層	No. 6	クリ

第15表　種実同定結果

番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	種類名	部位	状態		個数	大きさ
試料9	2551	SD43		堅果種子	モモ	核	破片	炭化	1	17mm
試料10	915	SD58		堅果種子	モモ	核	破片	炭化	3	
試料11	2341	SD100		堅果種子	モモ	核	破片	炭化	1	
試料12	65	SD124		堅果種子	モモ	核	破片	炭化	5	
試料13	1443	SH60 P 5		堅果種子	モモ	核	破片	炭化	5	
試料14	1319	SB10	覆土	種子	イネ	胚乳		炭化	1	4mm 2mm1.5mm
試料15	1848	SB31	床面	種子	マメ類	種子		炭化	17	5.5-6.5mm, 4mm
					不明炭化物		破片	炭化	4	
う－16	1580	SD24		種子	炭化材		破片	炭化	6	

4．考　察

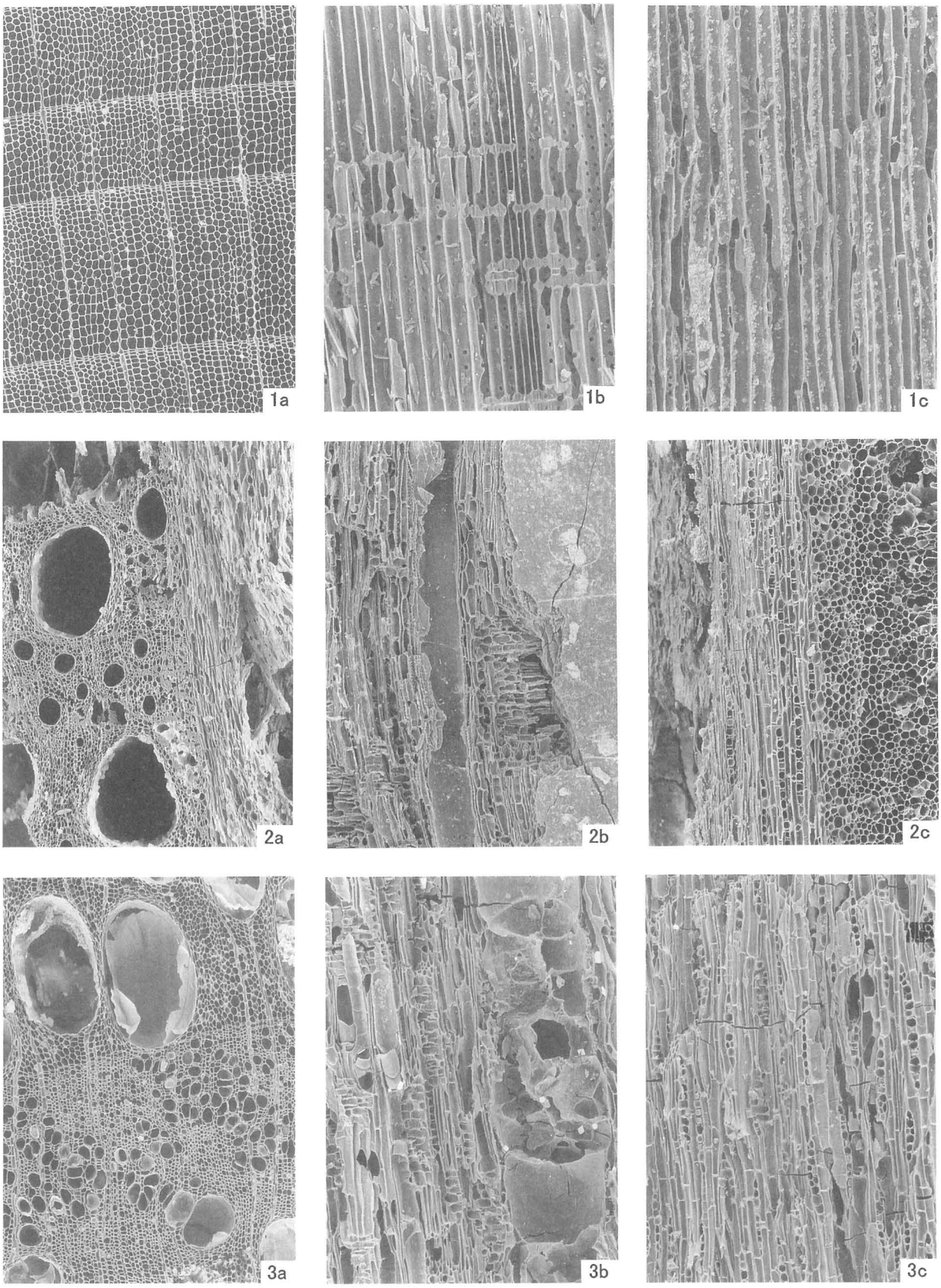
炭化材が出土した竪穴住居跡は、いずれも弥生時代後期と考えられている。炭化材のうち、SB143から出土した6点（試料3～試料8）については、出土状況が記録されている。SB143は床面が楕円形を呈し、長軸方向は南北で、中央よりやや北よりに炉跡がある。炭化材は、住居西壁付近に集中しており、軸方向が壁に平行になるものと、壁と直交する方向になるものとがある。いずれも棒状を呈し、長さが50cm近い炭化材もある。この状況から、垂木等の住居構築材に由来していることが推定される。

SB143から出土した炭化材6点は、クリが4点、クスノキ科・マキ属が各1点であった。出土位置が一ヶ所に集中しているため、クリについては同一個体に由来する可能性も否定できない。したがって、SB143の西壁付近では、少なくとも3種類の部材が利用されていたことが推定される。確認された種類は、クリが重硬で強度および耐朽性に優れた材質を有する。また、マキ属も針葉樹としては重硬であり、耐水性や防虫性に優れる。クスノキ科は、多くの種類があり、得られる木材の径、長さ、強度等が異なるが、多くの種類が防虫性分である樟脳を含有している。これらの材質から、住居構築材として、重硬で強度の高い木材を中心に利用していたことが推定される。

一方、SB10とSB73から出土した炭化材については、出土状況の詳細が不明である。SB10はクヌギ節、SB73はマキ属であった。SB10から出土したクヌギ節も重硬で強度の高い材質を有する。したがって、SB10とSB73でも重硬で強度の高い木材が利用されていることが推定される。

浜松市中平遺跡では、弥生時代後期の竪穴住居跡から出土した炭化材の樹種同定が行われている（山内1982）。その結果では、1軒がコナラを中心にクリ、カシ属、スギが混じる組成で、もう1軒は全点がクヌギに同定されている。スギを除けば重硬で強度の高い木材である。本遺跡で確認されている種類も含まれており、木材利用の傾向は似ている。ただし、本地域における弥生時代後期の住居構築材の樹種についての分析例は少ないため、今後、さらに多くの資料を蓄積し、さらに立地や住居の形態による木材利用の差異等を検討する必要がある。また、袋井市にある川田・藤蔵渕遺跡の花粉分析結果をみると、シイ・カシ類など常緑広葉樹を主とする組成を示している（パリノ・サーヴェイ1996）。今回検出された木材は、この花粉分析結果と一致する種類であるため、周辺の山野から採取し利用したものと考えられる。ただし、花粉化石では希にしかみられないクリが木材としては多用されているなど、樹種を選択して用いていることが示唆される。今後周辺植生に関する資料をさらに蓄積し、比較検討を行いたいと考える。

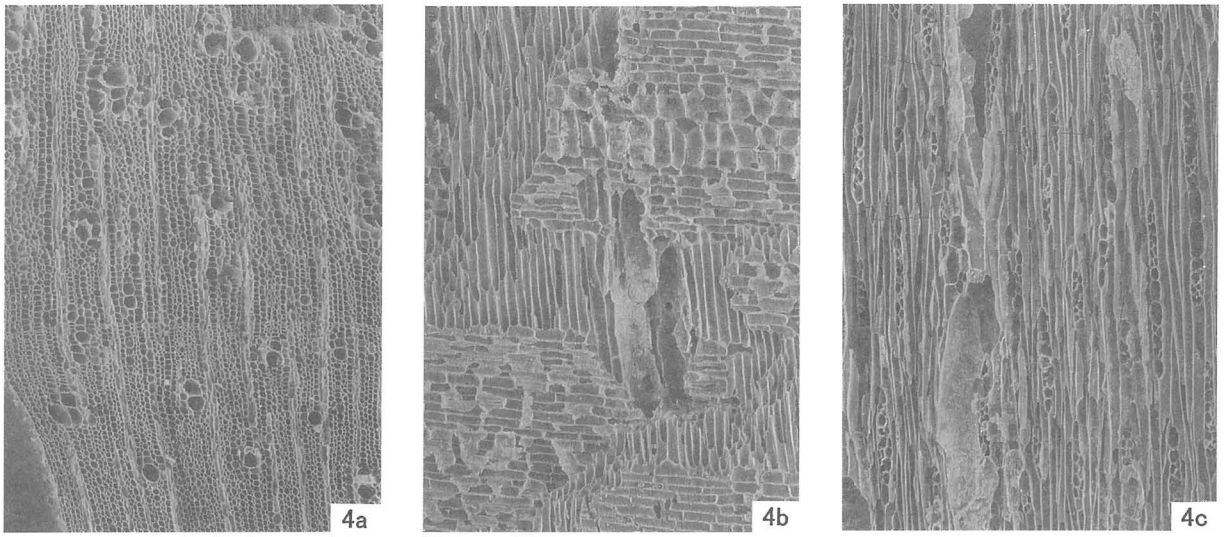
種実遺体同定の結果、住居跡の周囲をめぐる溝や掘建柱建物跡から検出されたモモや、竪穴住居跡から検出されたイネ、マメ類は、いずれも古くから栽培のために渡来した植物であり、弥生-古墳時代では多くの出土例がある（南木1991）。モモは観賞用の他、果実や核の中にある仁（種子）などが食用、薬用等に広く利用される。穀類のイネやマメ類は、胚乳や種子が食用される。遺構から検出された状況を考慮すると、上ノ平遺跡でこれらが利用されていたと考えられ、また周辺での栽培が示唆される。これらは全て炭化しており、共に炭化材が検出される試料もあることから、共に火熱を受けたことが推定される。



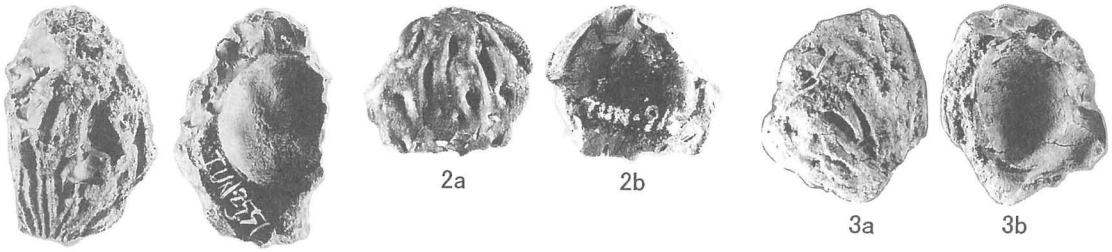
1．マキ属（試料2）
2．コナラ属コナラ亜属クヌギ節（試料1）
3．クリ（試料5）
a：木口　b：柾目　c：板目

200μm：2・3a
200μm：1a、2・3b、c
100μm：1b、c

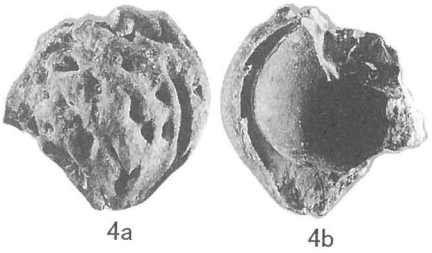
第313図　上ノ平遺跡の炭化材1



4．クスノキ科（試料6）　a：木口　b：柾目　c：板目　　200μm:a　200μm:b、c



1．モモ　核（試料9；SD43）
2．モモ　核（試料10；SD58）
3．モモ　核（試料12；SD124）
4．モモ　核（試料13；SH60-P5）
5．イネ　胚乳（試料14；SB10）
6．マメ類　種子（試料15；SB31）
7．マメ類　種子（試料15；SB31）
8．マメ類　種子（試料15；SB31）
9．マメ類　種子（試料15；SB31）
10．マメ類　種子（試料15；SB31）



1cm（1-4、10）　2mm（5）　2mm（6-9）

第314図　上ノ平遺跡の炭化材2・種実遺体

参考文献

石川茂雄　1994 『原色日本植物種子写真図鑑』 石川茂雄図鑑刊行委員会

南木睦彦　1991 「栽培植物」 『古墳時代の研究４　生産と流通Ⅰ』 石野博信ほか編　雄山閣

南木睦彦・中川治美　2000 「大型植物遺体」『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書３－２　粟津湖底遺跡　自然流路（粟津湖底遺跡Ⅲ）』 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会

中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000 『日本植物種子図鑑』 東北大学出版会

パリノ・サーヴェイ株式会社　1996 「川田・藤蔵渕遺跡」『二級河川宇刈川住宅宅地関連公共施設整備促進（小規模）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告82』 静岡県埋蔵文化財調査研究所

山内　文　1982 「中平遺跡出土炭化材・木材の樹種同定」『西鴨江　中平遺跡』 浜松市教育委員会

吉崎昌一　1992 「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355, 2-14

第7章　まとめ

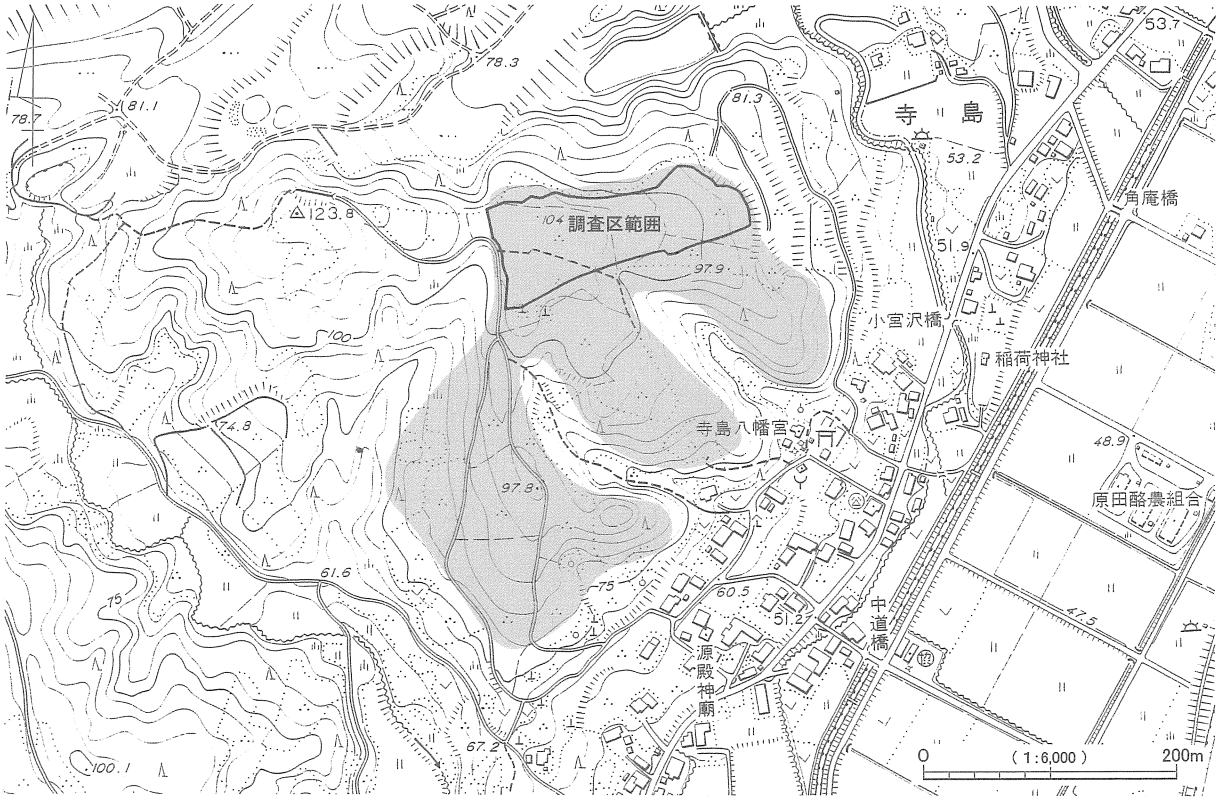
1．はじめに

静岡県掛川市上ノ平遺跡は、原野谷川上流域の丘陵上に立地する遺跡である。今回の発掘調査では、調査区の範囲が遺跡の北部に限定されているにもかかわらず、多くの遺構・遺物が発見され、遺跡の特徴や形成過程について把握できる調査成果を得ることができた。

調査区の範囲は、東にのびる丘陵上平坦面を中心とし、東側の斜面際、北側の斜面際までを含む。調査区内では、茶畑などによる削平の影響が広く認められる中にあって、縄文時代から近世に至る多くの遺構・遺物が発見され、遺跡形成時の地形的特徴も残されていた（第316図）。調査区の中央には、南にのびる谷地形が検出された（以下、中央谷）。調査区内における丘陵上平坦面は、その谷を境にして東西に分かれる（以下、東部と西部）。

発見された遺構・遺物の大半は、弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡に該当する。調査区全体に住居跡や掘立柱建物跡などが重なり合いながら分布しており、弥生時代後期～古墳時代前期の土器などが多く出土している。その他の時代については、縄文時代の遺構・遺物と古代の遺構・遺物について特筆することができる。

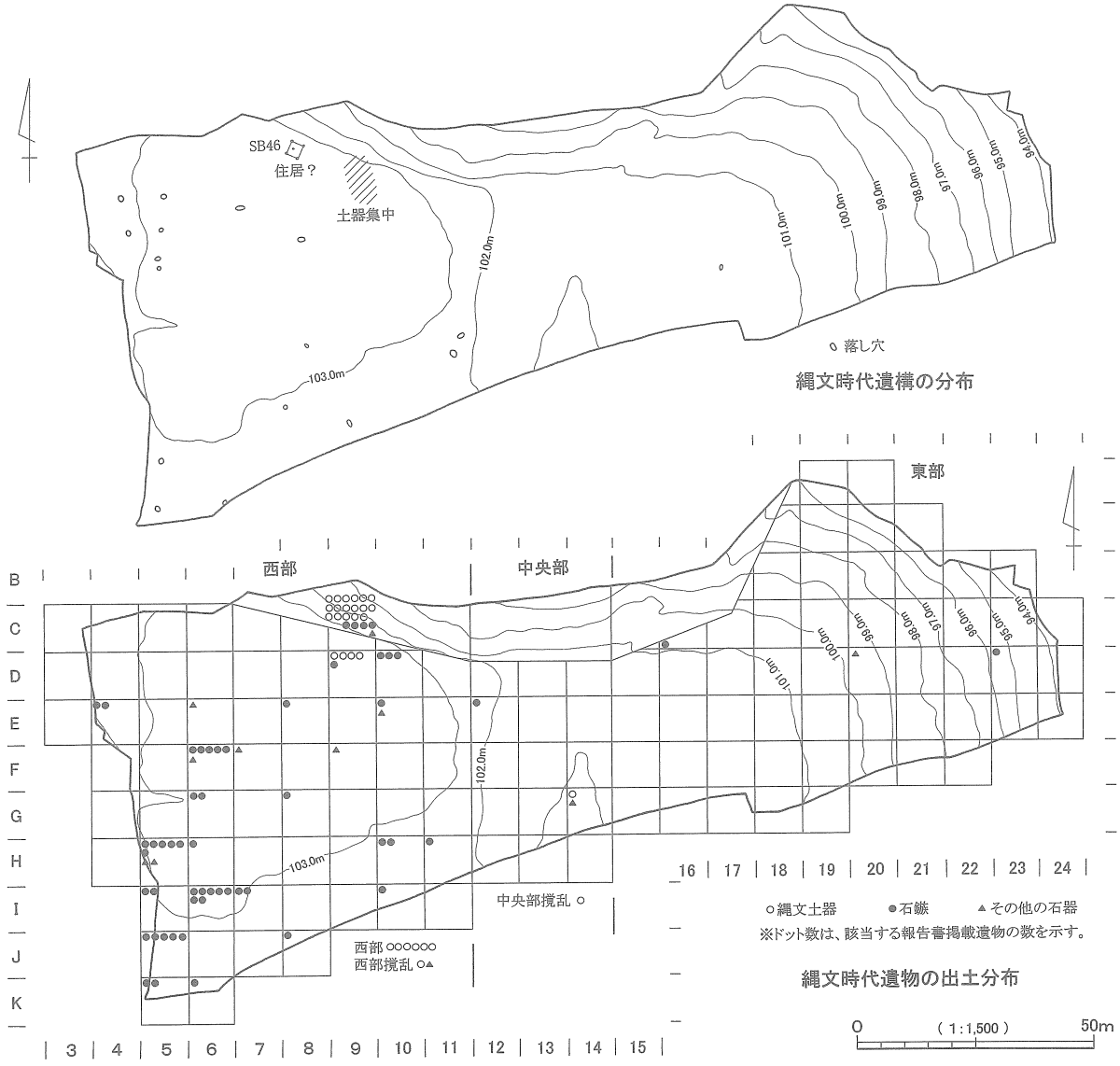
縄文時代の遺跡形成　縄文時代については、西部を中心として点在する十数基の落し穴が発見されており、西部の北斜面際から縄文時代中期の土器、西部の各所から石器が出土している。遺構・遺物の共通した分布傾向から、西部を主体とした縄文時代の営みを把握することができる（第316図）。



第315図　上ノ平遺跡全体図

しかし、落し穴・石鏃の分布と土器が多く出土した場所（土器集中範囲）とは重ならない。落し穴の機能と土器の役割について考えてみても、両者は決して強い関係性にあるとはいえない。したがって、土器集中範囲については、落し穴とは異なる営みがあった可能性が指摘できる。土器集中範囲の北西隣では、他よりも深い炉と焼土・炭化粒を含む特徴的な覆土の主柱穴４基が発見されている（SB46）。この住居跡については、弥生・古墳時代の住居跡とは大きく異なる特徴をもつことから、縄文時代のものである可能性が指摘できる。そして、土器集中範囲については、弥生時代の住居跡や方形周溝墓が集中していることから、完全に破壊された縄文時代の住居跡などがあった可能性が考慮される。

以上のように、縄文時代中期においては、数軒の住居跡と点在する十数基の落し穴による、丘陵上の遺跡形成を把握することができる。決して主要な集落跡であるとは評価できないが、この場所が広い活動領域内における営みの一部を担っていたと判断することはできる。なお、本遺跡よりも上流域に位置する平島Ⅰ～Ⅲ遺跡においても、数軒の住居跡と点在する落し穴が発見されている（静岡県埋蔵文化財調査研究所2005）。段丘上に立地する遺跡であり、本遺跡と類似した縄文時代中期の遺跡形成として評価することができる。



第316図　縄文時代に関する全体概要

古代の建物の可能性　弥生時代後期～古墳時代前期の集落形成が終焉を迎えた後については、古墳時代後期～近世までの遺物が出土しているものの、その量は非常に少ない。平安時代～近世の遺物（陶器・かわらけ）の出土は、西部にかたよる。その中でも、近世のかわらけについては、西部の焼き場とした場所からの出土であり、焼却跡か火葬跡の可能性が指摘できる（第１分冊の第13図）。

古墳時代後期～奈良時代の遺物（土師器・須恵器）の出土は、平安時代以降の遺物の出土とは逆に、東部にかたよる。遺物の出土分布の違いから、古墳時代後期～奈良時代においては、平安時代以降とは異なる営みがあった可能性が指摘できる。

その東部では、２×３間や３×４間の比較的大きな掘立柱建物跡が３棟検出されている（SH135・SH187・SH188）。百数十棟が分布する弥生時代後期～古墳時代前期の掘立柱建物跡については、基本的に梁行１間のもので占められている。そうした中にあって、２間や３間の梁行をもつ大型のSH135・SH187・SH188は、異質な存在として捉えることができる。さらに、SH188については、総柱になる可能性があるという特徴も加わる。以上のような本遺跡における特異性を評価したとき、また、遠江の遺跡を概観したとき、このような特徴をもつ掘立柱建物跡については、弥生時代後期～古墳時代前期の集落に伴うものではなく、古代以降の可能性が考慮される。なお、遠江における６世紀～11世紀の建物跡について分析した研究（丸杉2004）によると、SH135・SH187・SH188のような30～50㎡の建物跡は、７世紀以降に認められるようになることがわかっている。

SH135・187・188の３棟は、重なり合う遺構の全てを切っており、最も新しい遺構として捉えることができる。そして、先述のとおり、古墳時代後期～奈良時代の遺物の出土は、この３棟が分布する東部にかたよる。以上から、断言できる根拠があるとはいえないが、東部に古墳時代後期～奈良時代の営みがあり、その時期の遺構として、SH135・187・188の３棟の建物跡が該当する可能性を指摘することができる（第317図）。

本遺跡の主体時期　既に述べているとおり、本遺跡で発見された遺構・遺物の大半は、弥生時代後期～古墳時代前期に該当する。この時期の住居跡・建物跡などが、調査区のほぼ全域にわたって密集するように検出されており、弥生土器や土師器が多く出土している。弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡に限定して、上ノ平集落といっても過言ではないと考える。以降においては、この上ノ平集落について検討する。

第317図　古代の可能性が高い建物跡の分布

2．集落跡を構成する遺構

（1）住居跡の種類と時期・分布

住居跡は180軒以上が発見されているが、住居部分の形態と構造、周溝の有無、周溝の幅や形態などにおいて、多様な形態・構造を認めることができる。また、これらは密集しており、重複し合った状態で検出されている。出土遺物をみても、時期差を伴うことは明らかである。そこで、住居跡の構造・形態の違いと時期との関連について検討する。

住居跡の分類　本遺跡の住居跡は、住居部分の構造と形態、住居の周囲をめぐる溝（周溝）の有無、その周溝の形態によって分類することができる。

住居部分については、竪穴式の住居跡と、明確な竪穴状に検出されなかった住居跡とがある。ただし、本遺跡は茶畑の削平を伴うことから、後者も竪穴式であった可能性を考慮する必要がある。したがって、相対的に床面が高くなる点は指摘できるが、完全な平地式として明示できるものはない。竪穴住居跡の形態については、全体的な傾向から隅丸長方形・楕円形・方形に分類することができる。隅丸長方形と楕円形については、個体差が多く、両者の識別が困難な場合も少なくない。ただし、主軸方向に異なる傾向があり、部分的には規格的な住居跡群を確認することができる。

周溝については、周溝のない住居跡、幅の狭い周溝をもつ建物（住居）跡、幅の広い周溝をもつ建物（住居）跡に分類することができる（註１）。その一方で、周溝の平面形によって楕円形・円形・方形に分類することもできる。

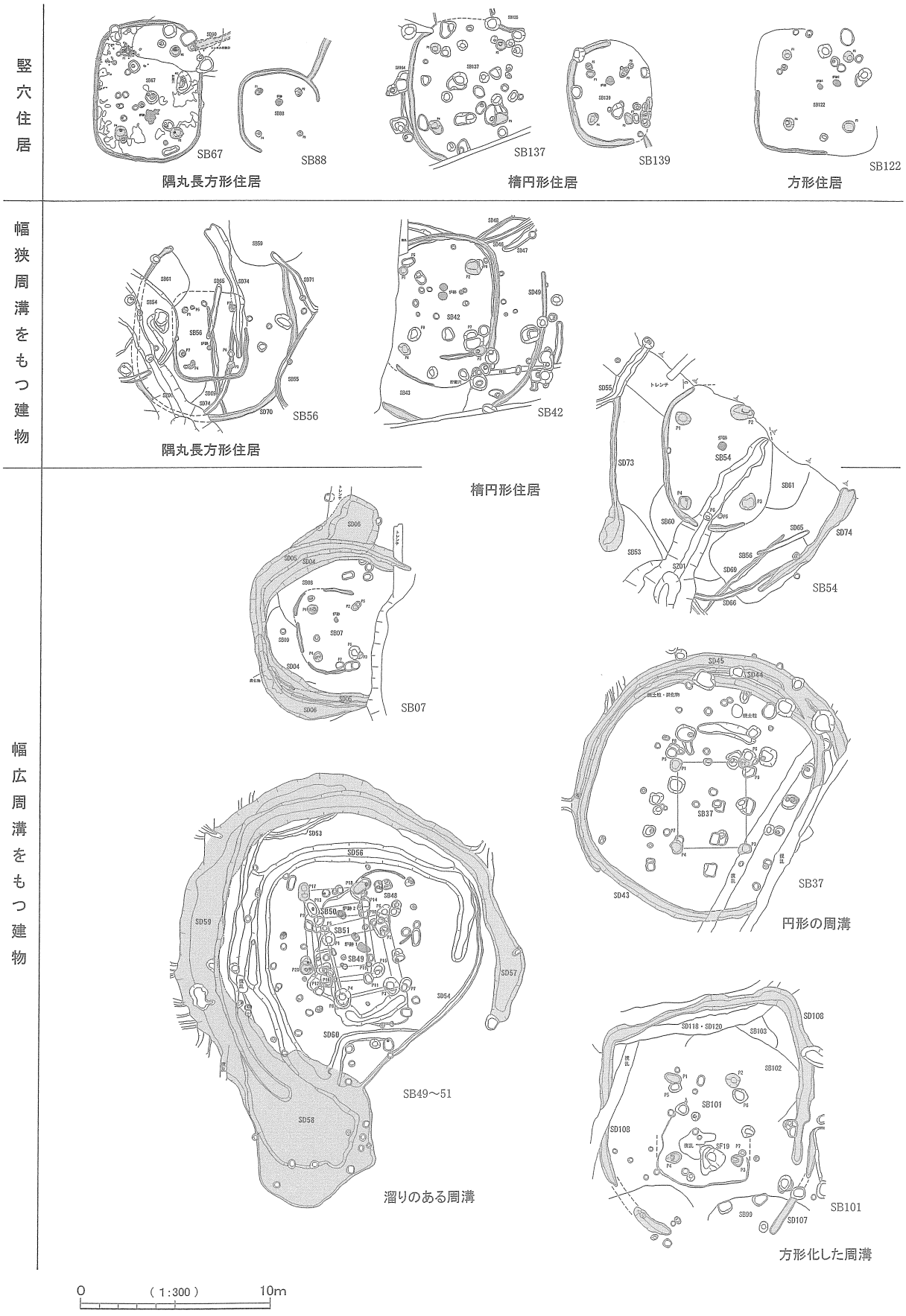
幅の狭い周溝については、隅丸方形や楕円形の竪穴住居部分を伴う場合が多い。周溝は断面箱形になる部分があり、幅の変動が少ないこと、土器の出土が非常に少ないことなどから、恒常的な溝になっていなかった可能性が指摘できる。住居周堤の外縁として機能した可能性などが考慮される。

幅の広い周溝については、住居部分が竪穴状に検出されなかった場合が多い。柱穴・床面・炉跡とともに、断続的な壁溝や不明瞭な掘方が検出される場合があることから、完全な平地式ではなかったと復元できる場合もある。しかし、相対的に住居部分が浅くなっていることは確かである。その一方で、周溝の覆土において、内側からの土の流入が顕著であると把握できる場合が多く、周溝と住居部分との間に堤を伴う可能性が指摘できる。周溝と強固な堤によって、住居部分が浅くなったのではないかと予測される。覆土は基本的に自然堆積であり、周溝内からは多くの土器片が出土している。したがって、住居の周囲をめぐる溝として存在していたことがわかる。周溝が途切れる場合があり、出入口の存在を予測させる。さらに、途切れた端部に溜りを伴う場合があり、そこから多くの土器片が出土している。溜り部の有無によって細分することもできる。周溝平面は円形が多く、一部に方形化したものがある。

以上から、本遺跡の住居跡を下記のように分類する（第318図）。

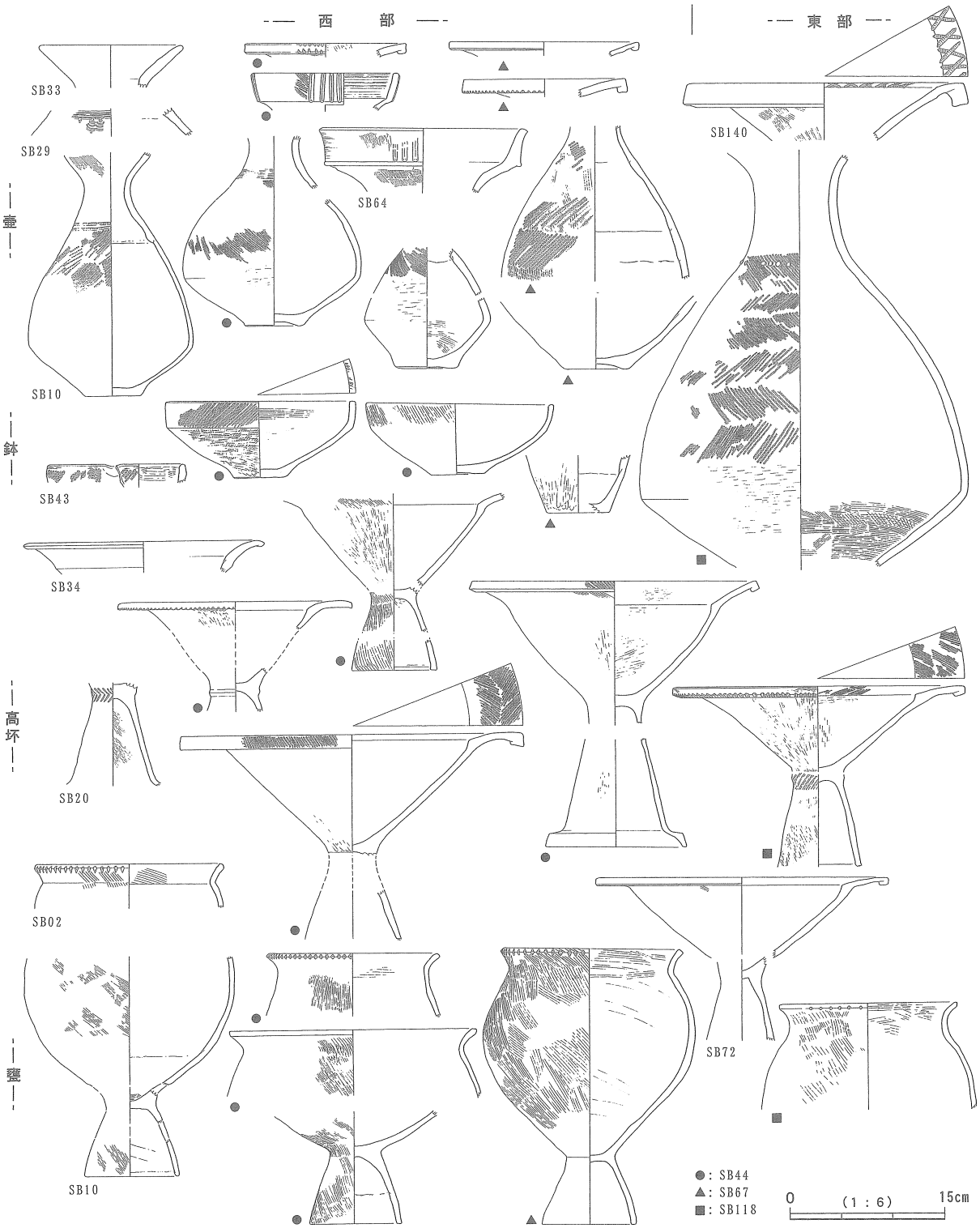
周溝のない住居跡（竪穴住居跡）…「隅丸長方形住居跡」
「楕円形住居跡」
「方形住居跡」
周溝をもつ建物跡…「幅狭周溝をもつ建物跡」
「幅広周溝をもつ建物跡」

※周溝に溜り部がある場合、「幅広（有溜）周溝をもつ建物跡」などとすることがある。
※竪穴式の住居部分がある場合、「幅広周溝をもつ竪穴住居跡」などとすることがある。
※住居部分の形態がわかるものは、「幅狭周溝をもつ楕円形住居跡」などとすることがある。



第318図　住居跡の分類

住居跡の時期　各遺構の時期は、出土した遺物の編年的位置と遺構間の切り合い関係によって判断することができる。しかし、出土遺物が少ない遺構や切り合い関係が判然としない場合も少なくない。全ての住居跡について、詳細な時期を個別に特定することは難しい。そこで、先に分類したそれぞれの形態・構造について、時期的な傾向を把握する。なお、住居分類ごとの主な出土土器を第319図～第323図にあげた。



第319図　隅丸長方形・楕円形住居跡の主な出土土器

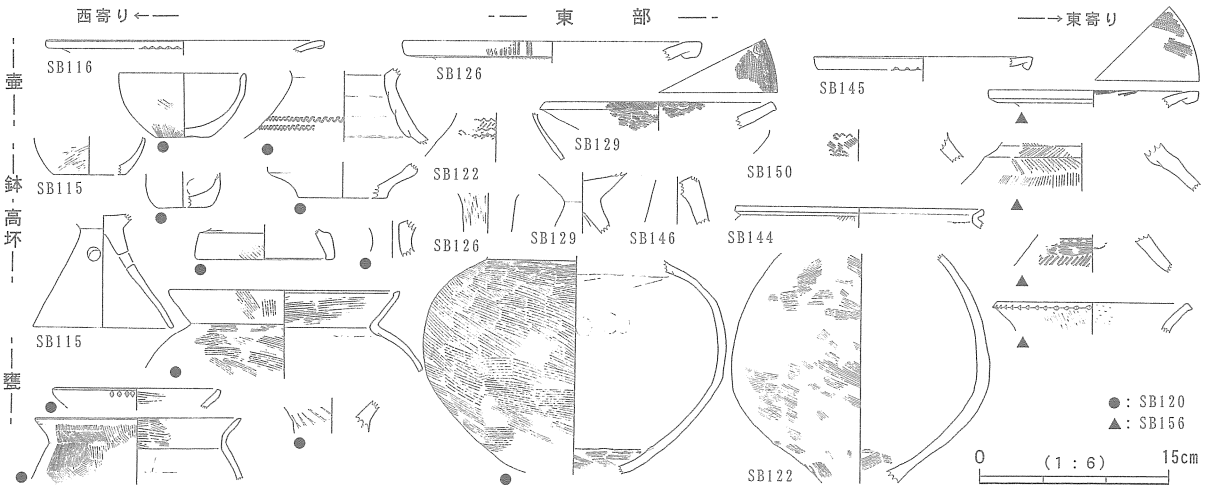
周溝のない住居跡のうち、隅丸方形・楕円形の竪穴住居跡の出土土器（第319図）には、胴部に広く縄文を施した壺などといった菊川様式古段階のものが目立ち、そこに中段階のものが加わる（註２）。したがって、この形態の住居跡の時期は、弥生時代後期前葉～中葉の中に位置づけることができる。さらに、出土土器の詳細や遺構の切り合い関係をみると、楕円形の住居跡よりも、隅丸方形の住居跡の方が古い段階に位置づけることができる。以上から、集落形成初期の住居跡は隅丸方形の竪穴住居跡であり、それに続いて楕円形の竪穴住居跡に変化していったことが把握できる。

周溝のない方形の竪穴住居跡から出土した土器には、結節縄文を多用する菊川様式最新段階の土器と古式土師器が混在する（第320図）。弥生時代後期末葉～古墳時代前期に位置づけることができ、この集落の最終段階の住居跡であると把握することができる。

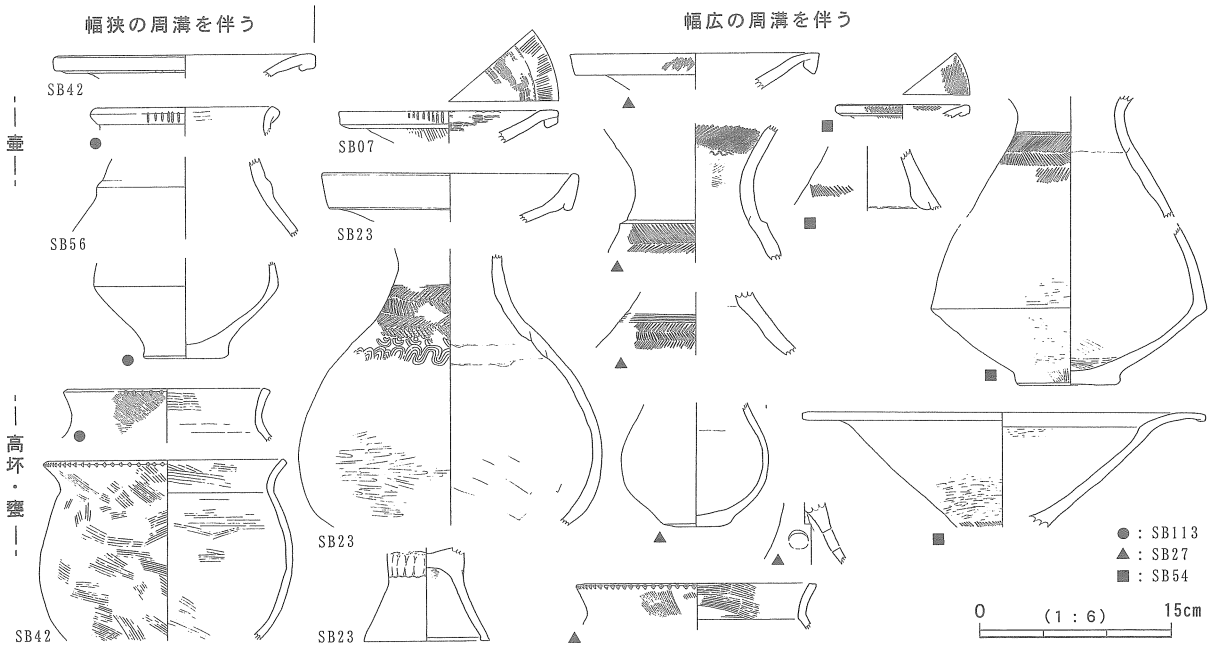
幅狭周溝をもつ建物跡は、出土遺物が少ない。菊川様式最新段階や古式土師器の出土はないが、明確に菊川様式古段階に位置づけできるものもない。遺構の切り合い関係は、隅丸方形・楕円形住居跡を切り、後述の幅広周溝をもつ建物跡に切られている場合が多い。以上から、この形態の住居跡の時期については、弥生時代後期中葉のあたりに位置づけできる可能性が評価できる。なお、幅狭周溝には楕円形住居を伴う場合が多いが、SD70だけは隅丸長方形住居（SB56）を伴う。先述した隅丸長方形住居跡と楕円形住居跡との比較を参照すると、SB56の方が他よりも古い可能性を指摘することができる。

幅広周溝をもつ建物跡については、住居部分の違いや溜り部の有無に関係なく、菊川様式新段階～最新段階および古式土師器の出土を多く確認することができる（第321～323図）。一部に中段階の可能性がある土器が含まれているが、重複する古い住居跡の土器が混在している可能性が考慮されるほか、住居跡の建て替えや周溝の再設定・再掘削が非常に多く、一定期間の幅を考慮する必要もある。以上から、全体的な傾向としては、弥生時代後期後葉～末葉を主とすると判断できるが、一部のはじまりが後期中葉にさかのぼる可能性、一部の終りが古墳時代初頭にまでくだる可能性があると判断できる。

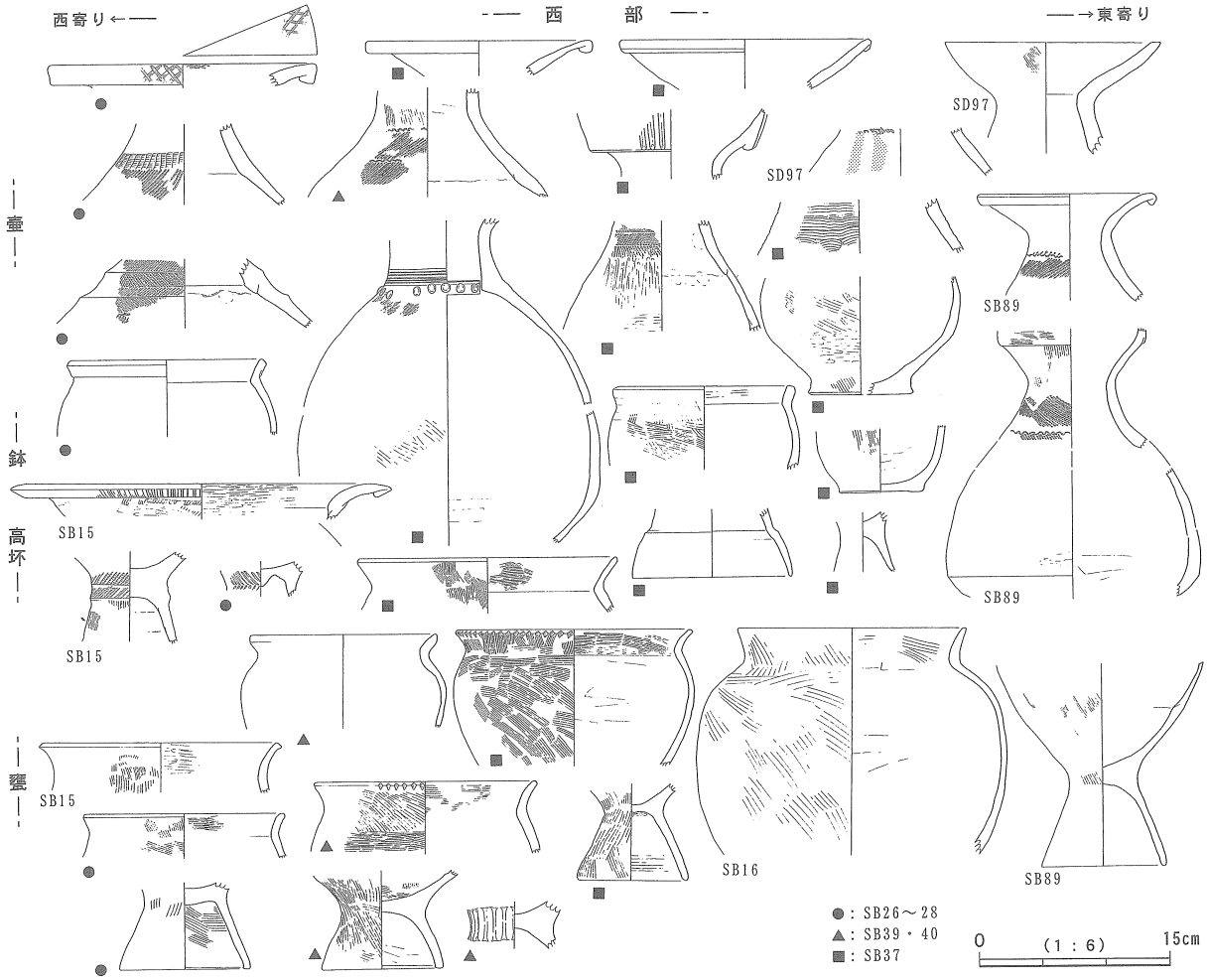
幅広周溝をもつ建物跡の中で、比較的古い土器が出土しているものとして、SB54をあげることができる（第318・321図）。楕円形の竪穴住居を伴い、周溝の平面形も楕円形を呈している。他の幅広周溝をもつ建物跡にはない特徴であり、むしろ、幅狭周溝をもつ建物跡に近い。周溝の幅をみると、西～南部は狭く、丘陵斜面のある北寄りが幅広になることがわかる。以上から、SB54は幅狭周溝から幅広周溝への過渡的な特徴を伴う住居跡であると評価することができる。



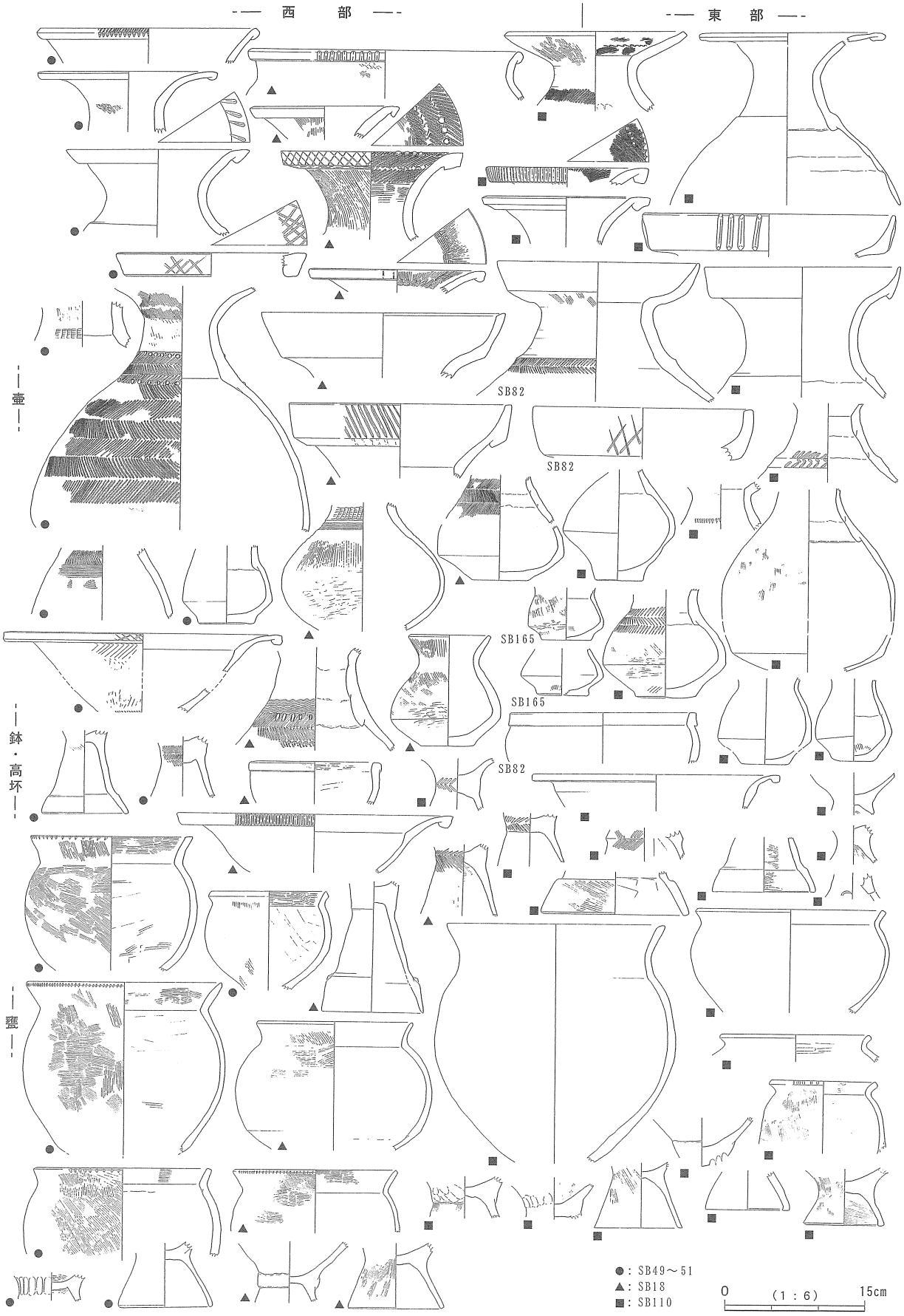
第320図　方形住居跡の主な出土土器



第321図　幅狭周溝をもつ建物跡、幅広周溝をもつ竪穴住居跡の主な出土土器



第322図　幅広（無溜）周溝をもつ建物跡の主な出土土器



第323図　幅広（有溜）周溝をもつ建物跡の主な出土土器

その他の幅広周溝をもつ建物跡については、出土土器や切り合い関係などから、幅狭周溝をもつ建物跡およびSB54よりも新しい住居跡であると判断することができる。そして、住居部分が竪穴状に検出されない場合が多くなり、周溝がめぐる平面形が正円化もしくは方形化するという変遷を指摘することができる。幅広周溝は、同じ場所でつくり替えている場合（幾重にも周溝が廻る場合）があり、その場合、周溝幅は広くなり、平面形は大きくなるという変遷傾向を把握することができる。ただし、別の住居跡間においては、周溝幅や平面規模が時期差の指標になるというわけではない。なお、周溝から古式土師器が出土している住居跡があるが、菊川様式の土器に比べて少数の出土である。幅広周溝のとくに溜り部では、上層から中世の土器が出土する場合もあり、住居跡よりも新しい時期の土器片が混在する可能性が高いと判断できる。幅広周溝をもつ建物跡について、基本的には方形住居跡（古墳時代前期）の前段階の住居跡として把握することができる。

住居跡の分布　本遺跡の中で最も古い段階（弥生時代後期前葉）の住居跡は、隅丸長方形住居跡である。その分布は、第324図上段にあるとおりに東西等しく認めることができる。さらに、斜面（丘陵斜面や中央谷）に近い場所に多く、東部・西部それぞれの平坦面中央が分布の空白になっていることがわかる。分布密度と排水溝の方向によって、数軒ごとのまとまりを抽出することができることから、排水溝を長く設ける必要のない斜面寄りの範囲の中で、いくつかの場所に分かれて住居群が設けられたと把握することができる。なお、隅丸長方形住居跡の主軸方向について、比較的急な傾斜地に立地する場合を除いて、大半は北西方向もしくはその直交方向に概ね統一されていることがわかる。さらに、幅狭周溝をもつ隅丸長方形住居跡（SB54）も、同じ方向を向いている（第324図下段）。先述の時期的な位置づけと合わせて、類似性を指摘することができる。

次段階（弥生時代後期中葉にかけた時期）の住居跡としては、楕円形住居跡をあげることができる。分布の特徴について、東西の差が大きくないこと、平坦部中央に分布の空白があることなど、前段階と変わらない点が多い（第324図中段）。しかし、東側斜面における増加を確認することができる。一方、主軸の方向については、前段階の隅丸長方形住居跡とは異なり、南北方向もしくはその直交方向を向く場合が多くなる。なお、幅狭周溝をもつ楕円形住居跡も同様の分布と方向を示すことから、類似性を指摘することができる（第324図下段）。

弥生時代後期後葉～末葉には、幅広周溝をもつ建物跡が主体となる。住居の構造について、幅狭周溝をもつ建物を介して幅広周溝をもつ建物へと変化し、周溝がめぐる平面形については、正円化もしくは方形化の変化を把握することができる。また、住居の床面が相対的に高くなり、住居部分からのびる排水溝が無くなるといった変化も合わせて確認することができる。さらに、その分布についても前段階との違いが強調される（第325図上段）。まず、東西の均衡が失われ、西部に多く分布するようになる。そして、東部では平坦部中央にかけた範囲に分布するようになり、西部では北寄り～西寄りのほかに、調査区の南縁にも多く分布するようになる。以上のように、住居跡の形態・構造の変化と分布の変化を確認することができ、この集落の形成過程全体の中において、比較的大きな変化として評価することができる。ただし、住居跡の主軸方向については、先の段階の楕円形住居跡と大きく違わない。

最終段階（弥生時代後期末葉～古墳時代前期）の住居跡としては、方形住居跡をあげることができる。主軸方向については、先の段階の幅広周溝をもつ建物跡と大きく違わない。しかし、住居の構造について、再び周溝を伴わなくなり、深い竪穴構造になる。住居部分の形態がこれまでにない方形になることから、元に戻ったというよりも、さらなる変化として評価することができる。分布については、東部に限られるようになり、とくに東側斜面に集中するようになる（第325図下段）。この分布の特徴も、これまでのどの段階とも共通しない点である。

（２）掘立柱建物跡の種類と時期・分布

掘立柱建物跡の分類　掘立柱建物跡については、既に第４章第３節にて以下のように分類している。

桁行４・３間…３Ａ・４Ａ：桁行7.0m以上
　　４Ｂ・３Ｂ：桁行5.8m～7.0m
　　４Ｃ・３Ｃ：桁行4.3m～5.8m
　　４Ｄ・３Ｄ：桁行4.3m以下
桁行２間…　２Ａ　：桁行6.4m以上
　　２Ｂ　：桁行4.7m～6.4m
　　２Ｃ　：桁行3.3m～4.7m
　　２Ｄ　：桁行3.3m以下

掘立柱建物跡の時期　掘立柱建物跡については、出土土器が非常に少なく、伴うことが明らかであると判断できる場合が少ないことから、住居跡以上に時期の判断が難しい。

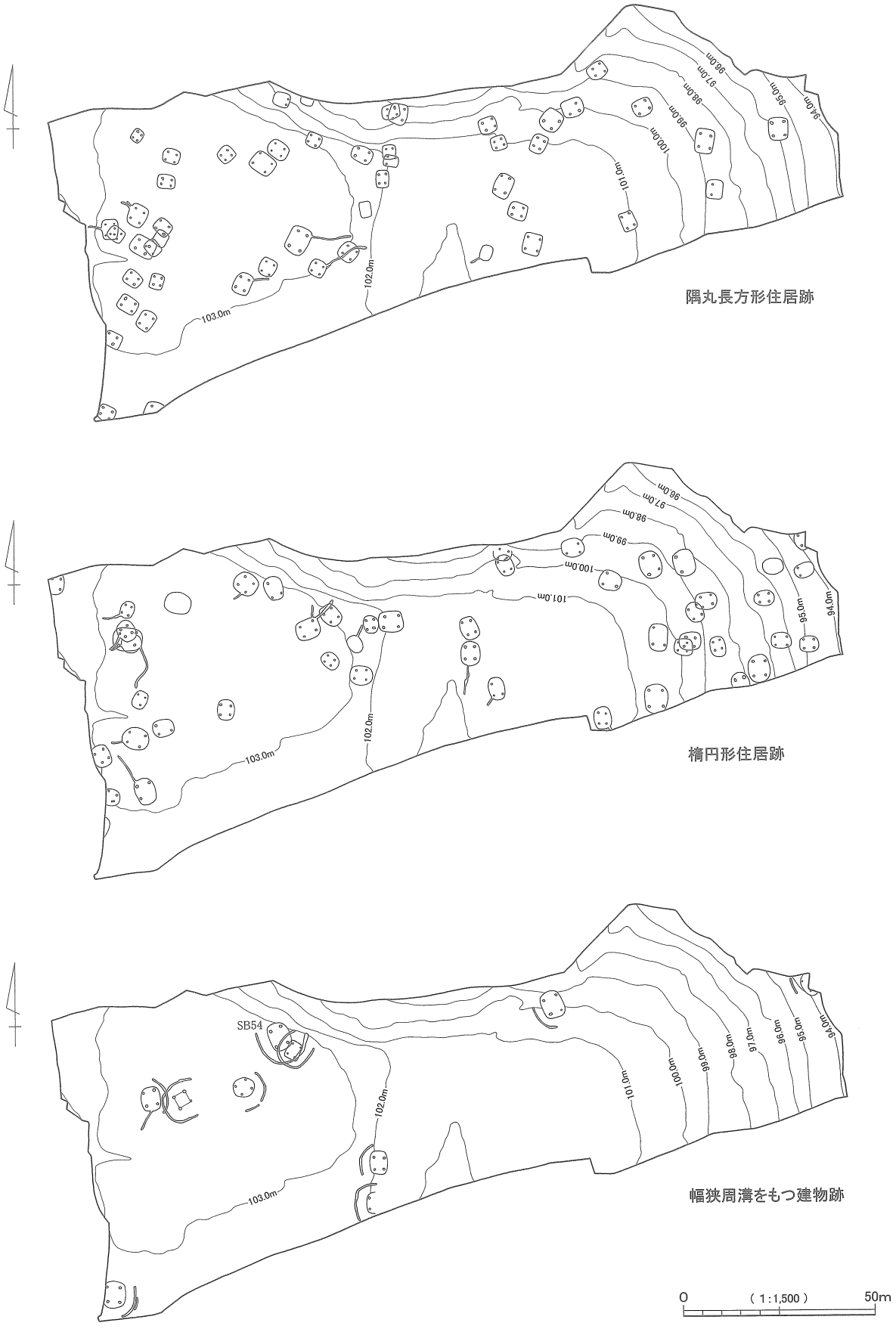
第４章第３節では、主に遺構間の切り合い関係によって、種別ごとの時期的傾向について検討している。それによれば、最も古い段階（弥生時代後期前葉）の掘立柱建物跡としては、小型の掘立柱建物跡（２Ｄ・３Ｄおよび４Ｂ～Ｄ）をあげることができ、その中でも、２Ｄが先行する傾向にある。次の段階の掘立柱建物跡として中型掘立柱建物跡である２Ｃと３Ｃがあり、続いて大型掘立柱建物跡である２Ａ・３Ａ・３Ｂが主体となる段階（弥生時代後期後葉～末葉）が把握できる。最終段階（古墳時代前期）の主な掘立柱建物跡としては、２Ｂをあげることができる。先述のとおり、３×４間の掘立柱建物跡については奈良時代に下る可能性がある。

もちろん、全ての掘立柱建物跡について、出土遺物や切り合い関係などが把握できるわけではないので、上記の時期的傾向に合致しないものが存在する可能性は否定できない。３Ｄおよび４Ｂ～Ｄの場合や、２Ａ・３Ａの場合などは、分布や主軸方向などによって、それぞれの同時期性を評価することができる。しかし、２Ｂと２Ｃ、３Ｂと３Ｃについては、分類において厳密性を求めることが難しい。全体的な傾向としては分けることができるが、それに合致しない場合も存在する可能性を考慮する必要がある。

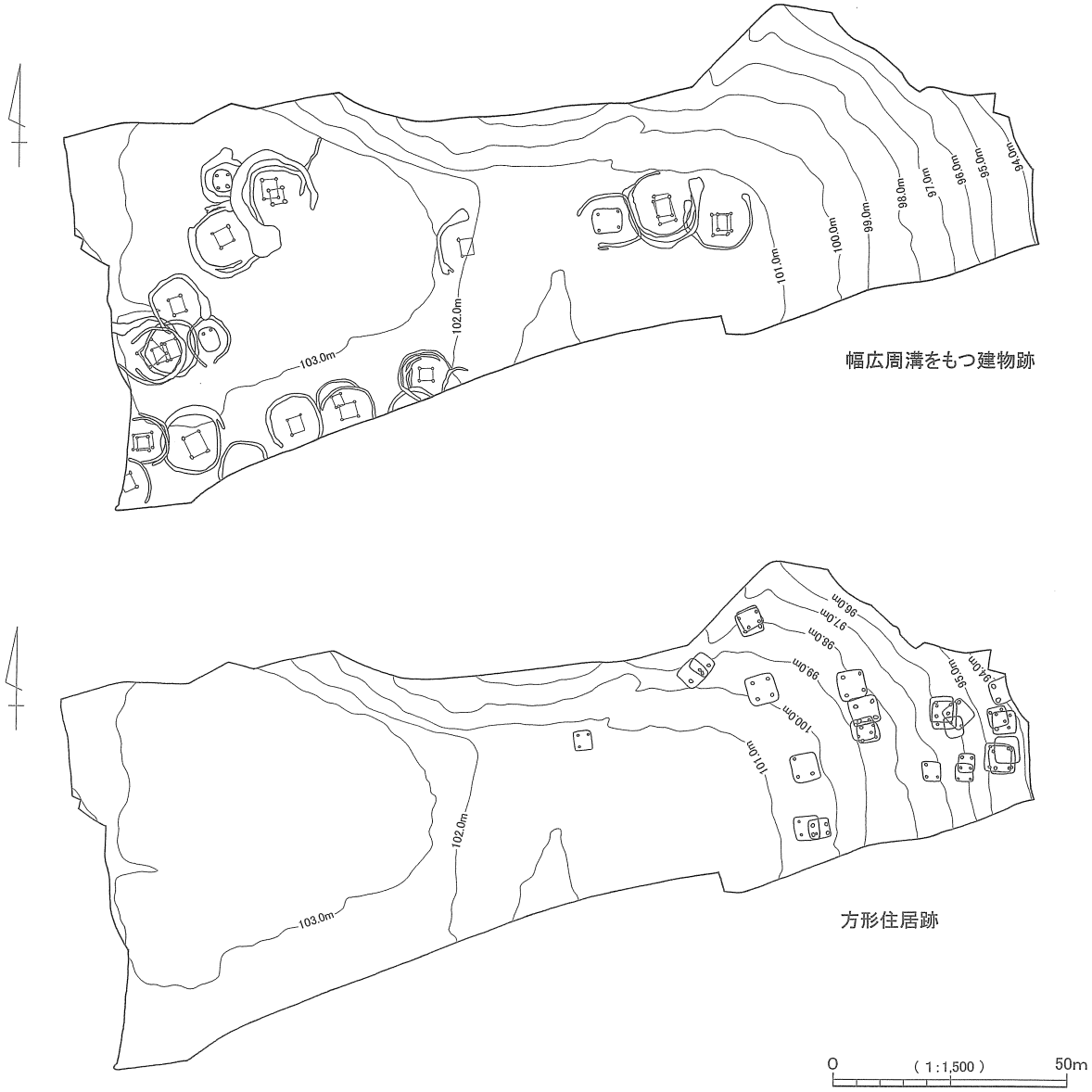
掘立柱建物跡の分布　第326・327図に、種別の掘立柱建物分布を時期的傾向に沿って示した。この順序に沿って、分布等の特徴について記す。

最も古い段階に位置づけできる２Ｄの掘立柱建物跡は、主軸を北西方向もしくはその直交方向に向け、東西等しく分布する（第326図上段）。ただし、西部では丘陵上平坦面の中央に集中するのに対して、東部では周縁に寄る傾向にある。３Ｄおよび４Ｂ～Ｄの分布は、圧倒的に西部に多い（第326図中段）。ただし、唯一の４Ｂが東部に位置する点は注視する必要がある。西部の平坦面中央に集中する点、主軸が北西方向もしくはその直交方向にある点は２Ｄと変わらない。

２Ｃ・３Ｃの掘立柱建物跡は、調査区全体に多く分布する（第326図下段）。丘陵上平坦面の中央付近に比較的多いが、東側斜面に立地する掘立柱建物跡も少なくない。主軸方向は先の段階と大きく異なり、南北方向もしくはその直交方向が主体となる。２Ａ・３Ａ・３Ｂの掘立柱建物跡は、数が少なく、基本的に丘陵上平坦面の中に立地する（第327図上段）。東部では、建て替えを続ける掘立柱建物跡が３ヶ所で把握でき、その内の１ヶ所には布掘りの掘立柱建物跡がある。主軸方向の特徴は２Ｃ・３Ｃと類似しており、南北方向を基本とする。また、西部の分布は２Ｃ・３Ｃに近い。最も新しい段階に位置づけできる２Ｂは、東部に集中する（第327図中段）。東側斜面に分布がかたよる傾向にあり、前段階の掘立柱建物分布とは異なる。西部においては、前段階と同様に平坦面に分布するが、建て替え回数の多い掘立柱建物跡が中央に位置する点が注目される。主軸方向も前段階とは異なり、南北方向より若干傾く場合が多い。



第324図　住居跡の分布 1



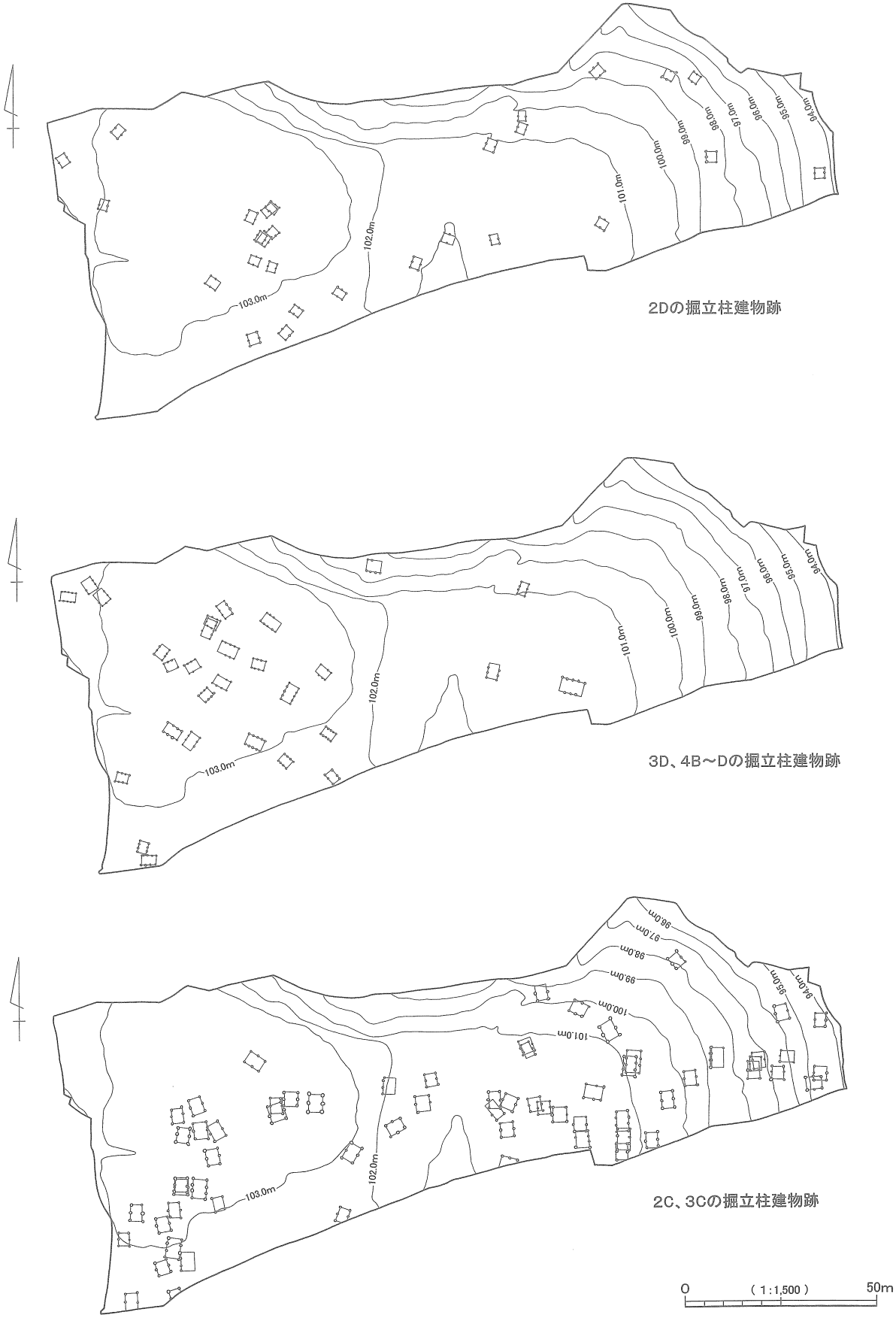
第325図　住居跡の分布 2

（3）その他の遺構について

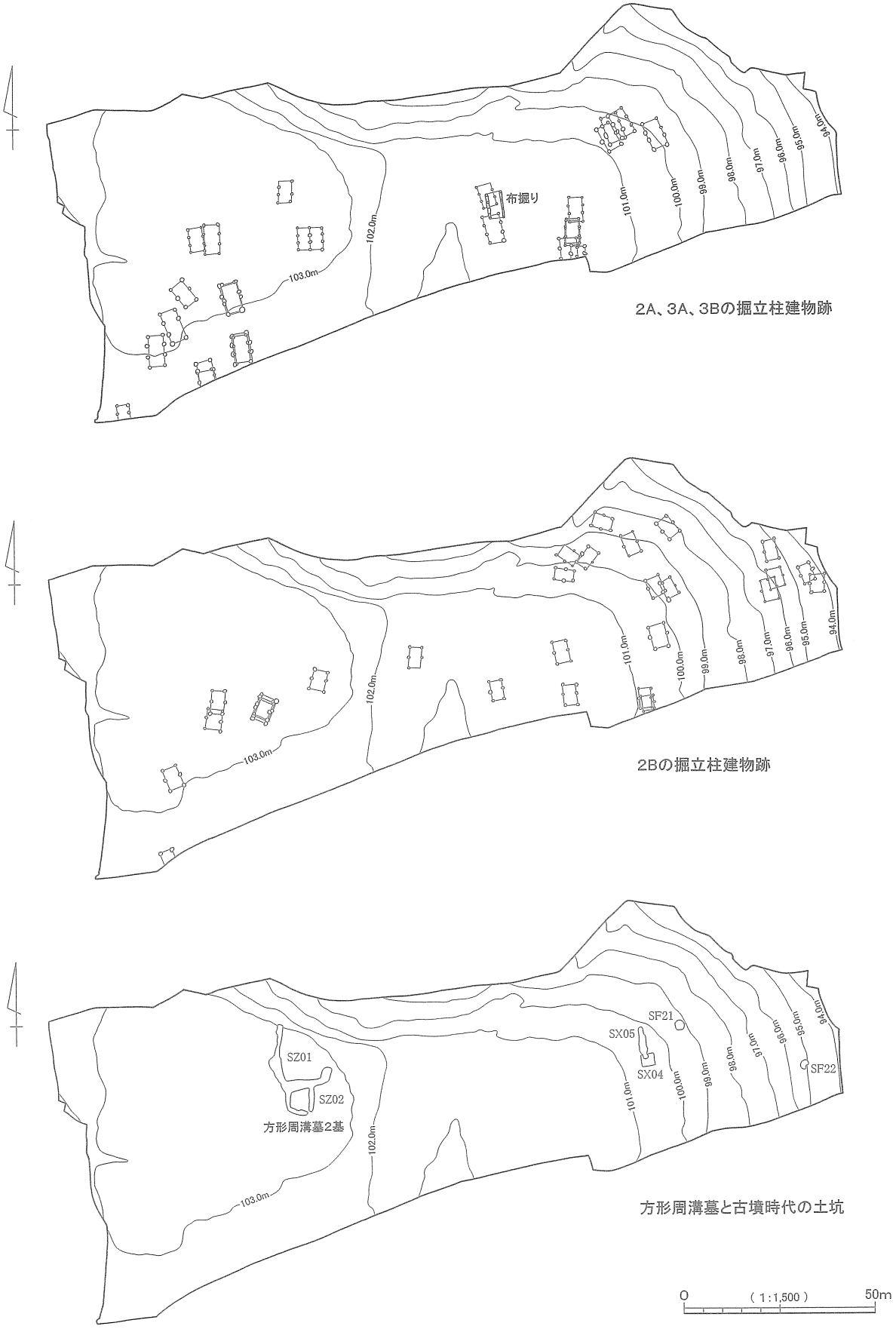
集落の構造や変遷を考える中で重視すべき遺構として、住居跡・掘立柱建物跡のほかに方形周溝墓と一部の土坑等がある。

方形周溝墓は西部の北側斜面際において、比較的大きなSZ01と小型のSZ02が南北に隣接する（第327図下段）。切り合い関係によって、大型のSZ01の後に小型のSZ02がつくられたと判断できる。ただし、出土遺物などから、両者の時期差は小さいものと把握できる。さらに、遺構の分布や切り合いから、2基の方形周溝墓は幅広周溝を伴う住居跡と同時併存すると把握でき、出土遺物から弥生時代後期後葉～末葉の中で設けられたと判断できる。

東部には、古墳時代前期の土器が多く出土しているSF21・SF22がある（第327図下段）。土坑状の遺構であり、焼土塊を伴う場合もあることから、祭祀行為の跡として把握できる可能性がある。



第326図　掘立柱建物跡等の分布1



第327図　掘立柱建物跡等の分布 2

3．集落の変遷

集落跡を構成する住居跡・掘立柱建物跡といった遺構について、形態・構造や規模から分類し、それぞれに異なる時期や分布の特徴について示してきた。

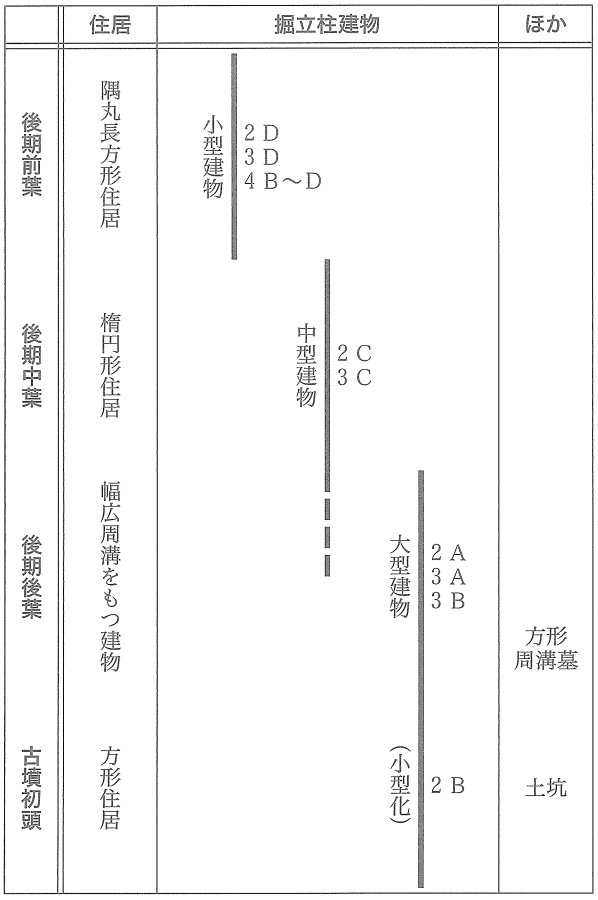
各種別の時期的傾向については、第328図のように示すことができる。住居跡・掘立柱建物跡のそれぞれについて、様々な変化を経ながらつくられ続けていったことがわかるとともに、この集落全体の変遷について、概ね４つの段階に整理して把握することができる。

第１段階　最初の段階は、概ね弥生時代後期前葉（弥生土器編年では菊川様式古段階）に該当する。

隅丸長方形の竪穴住居と小型の掘立柱建物によって集落が構成されており、住居･掘立柱建物の主軸は北西方向およびその直交方向で概ね統一されている。住居跡と掘立柱建物跡の数は、概ね１：１である。

集落は、中央谷によって西部と東部に分かれる。西部の方が住居跡・掘立柱建物跡の数は多く、重なり合うものも多い。東部では、西部よりも分布が少なく、遺構間の重なりも少ない。さらに、桁行２間の掘立柱建物は東西に等しく分布するが、桁行３・４間の掘立柱建物は西部に集中する。西部の方が長い期間に渡って営まれ、建て替えの中で掘立柱建物の構造に変化が生じていたのに対して、東部における形成期間は短く、西部のような変化もなかった可能性が指摘できる。

西部では、丘陵上平坦面の周縁部に住居跡が集中し、中央には掘立柱建物跡が多く分布する。一方の東部では、住居跡の分布は西部と同様であるが、掘立柱建物跡も周縁に分布し、中央は空白になっている。数軒の住居と数棟の掘立柱建物を１単位としたまとまりが抽出できる点では、東西共通している。また、住居には排水溝が伴うことが多く、その排水に関わる必要性から周囲の斜面に寄った位置に住居が設けられ、掘立柱建物の位置については、第一の立地条件は住居に近い場所であること、その中でも、排水・除湿を考慮して住居よりも高い場所が選択される傾向にあると把握することができる。東西の掘立柱建物分布の違いについては、地形的特徴や形成期間の違いによるものと考えたい。



第328図　各種住居・建物等の時期的傾向

第２段階　後期中葉（弥生土器編年では菊川様式中段階）のあたりになると、住居は楕円形の竪穴住居になり、掘立柱建物は中型（２Ｃ・３Ｃ）に変化する。さらに、住居・掘立柱建物の主軸について、南北方向およびその直交方向に変化する。

住居跡と掘立柱建物跡の数は、前段階と同様に概ね１：１である。また、住居・掘立柱建物の構造については、前段階と大きく違わない。さらに、丘陵上平坦面の周縁に住居が分布し、その内側に掘立柱建物が設けられる傾向は前段階から引き継がれている。しかし、西部では、住居跡分布の内側にある掘立柱建物跡も円弧状に分布しており、中央に空白が設けられている。そして東部では、外縁の住居跡と内側の掘立柱建物跡の分布のほかに、東斜面への住居・掘立柱建物の増大を確認することができる。東西における住居・掘立柱建物跡の分布数に大差はない。

第３段階　後期後葉～末葉（弥生土器編年では菊川様式新段階）になると、住居には周溝を伴うようになり、掘立柱建物は大型（２Ａ・３Ａ・３Ｂ）になる。明確な竪穴住居で幅狭周溝を伴うものについては、第１・２段階にも存在した可能性がある。しかし、周溝をもつ建物が一般的になるのは第３段階になってからである。周溝幅は広くなり、溝としての機能を維持されるようになる。その一方で、住居部分の床面は深く掘りこまれなくなる。平面形については、まず円形化していることがわかり、続いて一部が方形化する。掘立柱建物には全体規模とともに柱穴の大きいものが盛行する。住居・掘立柱建物の主軸は、北より若干西に傾く方向で占められる。前段階と大きくは変わらない。

住居と掘立柱建物の数の比率は、これまでと同様の概ね１：１である。しかし、全体的に数は減少している。その一方で、住居・掘立柱建物の両方において、建て替えが多く確認されるようになる。また、周溝の存在によって、出土土器の量が増加する。

住居・掘立柱建物の分布傾向についても、前段階との違いが把握できる。西部においては、前段階と同様に、住居が丘陵上平坦面の周縁に分布し、内側に掘立柱建物跡が分布する傾向にある。住居と掘立柱建物との位置関係においては、前段階と同じ意識が働いているものと判断できる。しかし、斜面寄り以外（調査区南縁）にも住居が設けられており、前段階との違いも確認することができる。東部ではさらに前段階との違いが顕著に認められ、住居が中央付近に位置し、その周囲に掘立柱建物が展開するという、これまでにない分布を把握することができる。そして、東斜面への分布は全くなくなる。

この段階になって、幅広周溝を伴うようになり、排水溝を設けなくなるという住居の構造的転換が生じる。幅広周溝と周堤を伴う新たな構造の住居の場合、これまでのように斜面寄りに設ける必要はなく、むしろ、掘立柱建物との位置関係に問題がなければ、より平坦な場所を選んだ方が良い。分布傾向の変化の背景として、このことが関連している可能性が考慮される。また、東西における分布の違いについては、西部に布堀の掘立柱建物跡がある点を含めて、集落内の機能的・性格的な位置づけが東西で異なっていた可能性が考慮される。

以上のように、第２段階から第３段階への過程は、住居の構造や掘立柱建物の機能における変化と連動した、集落構造の大きな転換であった可能性が指摘できる。そして、この段階の比較的新しい時期に、方形周溝墓２基がつくられる。

第４段階　古墳時代前期に入る時期（土器編年では菊川様式最新段階以降、古式土師器に至る時期）に該当する。住居については、周溝をもつ建物から周溝のない方形住居に大きく転換する。掘立柱建物については、やや縮小化する（２Ｂ）。

住居の分布は東部に限られ、東斜面にかけた範囲に集中する。掘立柱建物も東部に集中するが、平坦面中央寄りに立地する傾向にあり、西部にも分布を確認することができる。住居・掘立柱建物の主軸については、東部では前段階と大きく変わらないが、西部では北より若干東に傾く方向へと変化する。

東部と西部とで分布や主軸方向に違いがあることから、前段階と同様に、集落内における機能や性格的な位置が東西で異なっていた可能性を指摘することができる。ただし、その違いの内容については、前段階とは逆の特徴を示す。前段階まで住居が集中していた西部は、非住居空間へと大きく転化する。その背景としては、方形周溝墓２基が関連しているのではないかと考えたい。また、建て替えを多く繰り返す掘立柱建物跡が中央に存在する点についても、東部とは異なる西部の機能的性格を反映したものと把握することができる。東部については、東斜面にかけた範囲が主要な住居の場へと変化する。これについては、住居の構造変化と関連したものと把握できる。いずれにしても、第３段階から第４段階への過程について、住居の構造などを含む集落構造全体に対する大きな転換として把握することができる。なお、東部の住居分布範囲にあるSF21・SF22などの土坑についても、住居や掘立柱建物とは異なる機能を伴う遺構として、集落構造を把握する上で注視することができる。

拡散などといった変化が把握できる場合が目立つ（浜松市山の神遺跡、浜松市松東遺跡など）。先述の中・東遠江（天竜川以東）における低地集落についても、袋井市春岡遺跡、袋井市鶴松遺跡、菊川市川田・東原田遺跡など、後期中葉～後葉に低地の居住域が減退する場合が目立つ。以上から、後期中葉～後葉に地域的に広く低地集落の衰退もしくは再編が生じた可能性が指摘でき、そのことが丘陵上集落における低地型の住居（幅広周溝をもつ建物）の採用、上ノ平集落における後期後葉の画期につながったものと推察することもできる。

ただし、各集落遺跡の形成時期や変遷過程は、弥生時代後期を前葉・中葉・後葉（・末葉）に区分する土器編年（鈴木敏1996など）によって把握されており、決して詳細で厳密な把握であるとはいえない。したがって、同時的に把握される現象について、実際に時間差がないのか、１つの汎地域的現象として評価できる有機的関係にあるのかについては、ここで述べた概観だけでは検討が不十分である。また、上ノ平集落と低地集落との関係性についても、他の要素による評価が必要である。

出土遺物にみる評価　後期後葉の画期について考えるための１つの要素として、台付甕の接合部をとりあげる。上ノ平遺跡出土の台付甕をみると、胴部と台部とが単純に接合している場合と、その接合部に粘土帯が巻かれている場合とがある。さらに詳細にみると、粘土帯を伴う甕は幅広周溝をもつ建物からの出土に限定されていることがわかる。

この粘土帯を伴う台付甕は、弥生時代後期の西遠江（伊場式土器）に特徴的な要素であるという指摘がある(大野2004)。その指摘によれば、粘土帯を伴う頻度が高いのは浜松市南部(伊場遺跡など)の50％強であり、その周辺域（浜松市北部や東部）では40～20％、中・東遠江や関東でも確認されているが、多くの場合は数点の出土であるという。上ノ平集落においては、幅広周溝をもつ建物で約12％、その他では０％である。西遠江と同等ではないが、中・東遠江の中では比較的多い集落であったと評価できる。そして、西遠江では後期初頭から認められる特徴であるのに対して、上ノ平集落では幅広周溝をもつ建物が一般化する後期後葉になって現れるという違いが指摘できる。西遠江から上ノ平集落への影響が後期後葉にあった可能性を考慮することができる。

残念ながら、その他の土器の要素に西遠江との関連を見出すことはできない。したがって、西遠江から上ノ平集落への影響について、間接的なものであった可能性も考慮する必要がある。ただし、三河・西遠江を中心とする当時の銅鐸文化は、原野谷川中・下流域にまで広がることがわかっている。上ノ平集落における後期後葉の画期について、西遠江を含む広範囲の動向に関連する可能性を評価することはできると考える。

古墳時代初頭の画期について　これまで述べてきた後期後葉の画期については、住居構造における変化が顕著であり、その変化に起因するような住居配置の変化は見出せるものの、それ以上の集落構造の変化は評価されない。以前と変わらず東部と西部の両方に住居と掘立柱建物が配置され、西部では周縁部に住居、内側に掘立柱建物という配置の基本が維持されている。

これに対して、古墳時代初頭の画期については、西部から住居を排除し、東部の東斜面寄りに住居域を限定させるという、集落構造の大きな変化を把握することができる。この集落構造の再編については、西部に設けられた方形周溝墓２基の存在が大きく関連するものと評価できる。２基の方形周溝墓は、その数や単発性において、集落構成員に対する単なる墓域としては異様であり、そこには階層的な要素を含めた象徴的な価値が付与されている可能性が考慮される。以上から、この画期の背景として、集落構造に反映される概念的な変革を予測することができる。なお、後期後葉の画期が銅鐸文化を基軸とした地域社会における動向と関連したものであったとするならば、古墳時代初頭の画期は銅鐸文化の終焉に伴う社会変動による可能性が考慮される。

5．結　語

これまで、原野谷川流域の弥生時代遺跡としては、下流域や中流域（和田岡丘陵）に大きな集落形成が把握されていた。そうした中で、この上流域において密度の濃い丘陵上集落の展開があったこと、その存在が判明したこと自体が１つの大きな調査成果であるといえる。さらに、多量の住居跡と掘立柱建物跡について分析し、集落の変遷について検討してみると、弥生時代後期から古墳時代に至るまでの様々な社会動向を色濃く反映していることが把握できた。東西文化の境界域とも評価される遠江において、地域的な集落動向と社会変動を解明する上で極めて重要な資料であると評価することができる。

現地調査および本報告の作成にあたっては、以下の方々・期間に有益な御指導・御助言をいただきました。ここに記してお礼申し上げます。(敬称略、五十音順)

青木 修　天石夏実　安藤 寛　飯塚晴夫　井口智博　伊藤延男　井村広巳　岩崎しのぶ　岩本 貴
大賀克彦　大熊茂広　大塚淑夫　大庭 宏　大谷宏治　岡村 渉　岡本茂史　加藤芳朗　加納俊介
佐藤由紀男　佐藤洋一郎　篠原和大　柴田 稔　柴田 睦　白澤 崇　鈴木悦之　鈴木一有
鈴木敏則　鈴木良孝　竹内直文　田辺昭三　寺澤 薫　戸塚和美　中川律子　仲屋栄一
禰宜田佳男　長谷川睦　花森功仁子　平野吾郎　前田庄一　正岡大実　松井一明　松本一男
向坂鋼二　村松弘規　山本雄一　渡井英誉　渡瀬 治
掛川市教育委員会　寺島地区自治会　原里地区自治会

註

1　「周溝をもつ建物跡」の用語は、これまでの研究（岡本1997、松井2002など）によるものであり、本稿でもこれを踏襲する。ただし、その性格は掘立柱の建物とは異なり、住居であったものと考える。用語・用法の詳細は本文のとおりである。

2　当地域の弥生時代後期の土器については、菊川式（様式）として把握され、古段階・中段階・新段階・最新段階に分類されている（中嶋1988、鈴木敏1996、佐藤ほか2002など）。古段階が概ね弥生時代後期前葉、中段階が概ね後期中葉、新段階が概ね後期後葉に位置づけされ、最新段階は古式土師器を共伴することから古墳時代初頭として位置づけられている。

参考文献

井村広巳　2002　「弥生時代集落の概観－西部地域」『静岡県における弥生時代集落の変遷』　静岡県考古学会
磐田市史編さん委員会　1992　『磐田市史』資料編１
岩本　貴　1995　「菊川式土器における編年上の問題」『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所設立10周年記念論文集』
大野勝美　2004　「銅鐸形土製品考－銅鐸祭祀の東限を考える－」『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所20周年記念論文集』
小笠町教育委員会　2001　『川田・東原田遺跡』
岡本淳一郎　1997　「周溝をもつ建物について」『埋蔵文化財概要－平成８年度』　富山県文化振興事業団
掛川市教育委員会　2000　『溝ノ口遺跡』
掛川市史編さん委員会　1997　『掛川市史』上巻
　　2000　『掛川市史』資料編　古代・中世
菊川町教育委員会　1985　『三沢西原遺跡』
佐藤由紀男・萩野谷正宏・篠原和大　2002　「遠江・駿河地域」『弥生土器の様式と編年　東海編』　木耳社
静岡県考古学会　2002　『静岡県における弥生時代集落の変遷』
静岡県埋蔵文化財調査研究所　2001　『領家遺跡・梅橋古墳』
　　2004　『石畑Ｉ遺跡』
　　2005　『掛川市大和田・平島の遺跡』
鈴木一有　2002　「古墳時代前期にかんする諸問題」『恒武西宮遺跡』　浜松市文化協会
　　2004　「坊ヶ跡遺跡にみる弥生・古墳移行期の集落像」『坊ヶ跡遺跡』　浜松市文化協会
鈴木敏則　1996　「遠江・駿河（後期）」『ＹＡＹ！』　弥生土器を語る会

鈴木敏則　2002　「西遠江の古式土師器－堤町様式」平野吾郎先生還暦記念論文集『東海の路』
中嶋郁夫　1988　「いわゆる「菊川式」と「飯田式」の再検討」『転機』2
　　1991　「東遠江における後期弥生土器編年と土器移動」『東海系土器の移動から見た東日本の後期や弥生土器』
　　1997　「東海東部の古式土師器」『静岡県史研究』13
西井　亨　2004　「石畑Ⅰ遺跡における弥生集落」『石畑Ⅰ遺跡』　静岡県埋蔵文化財調査研究所
長谷川睦　2001　「弥生時代集落としての領家遺跡」『領家遺跡Ⅱ・梅橋古墳』　静岡県埋蔵文化財調査研究所
袋井市教育委員会　1981　『袋井市一色前田遺跡』
　　1991　『堀越ジョウヤマ遺跡発掘調査報告書』
　　1992　『鶴松遺跡Ⅴ』
　　1995　『小山角田遺跡』
松井一明　2002　「竪穴住居と掘立柱建物－静岡県下における低地集落の建物構造と集落イメージ－」『静岡県における弥生時代集落の変遷』　静岡県考古学会
松井文孝　2002　「掛川市上ノ平遺跡」『静岡県における弥生時代集落の変遷』　静岡県考古学会
丸杉俊一郎　2004　「古代遠江国における遺構研究の基礎的整理」『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所20周年記念論文集』
森町教育委員会　1996　『静岡県森町　飯田の遺跡』
森町史編さん委員会　1998　『森町史』資料編一　考古

写 真 図 版

北からの遠景（▲：遺跡の位置）

図版 2

1　全景（南西から）

2　中央・西部の全景（北東から）

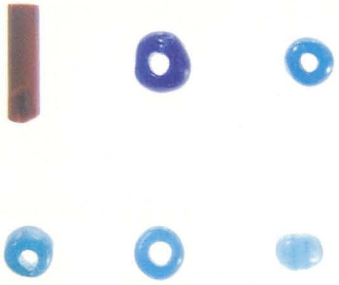
1　SB49～51（周溝を伴う住居跡）周辺（南から）

2　SH111（布掘りの掘立柱建物跡）（南東から）

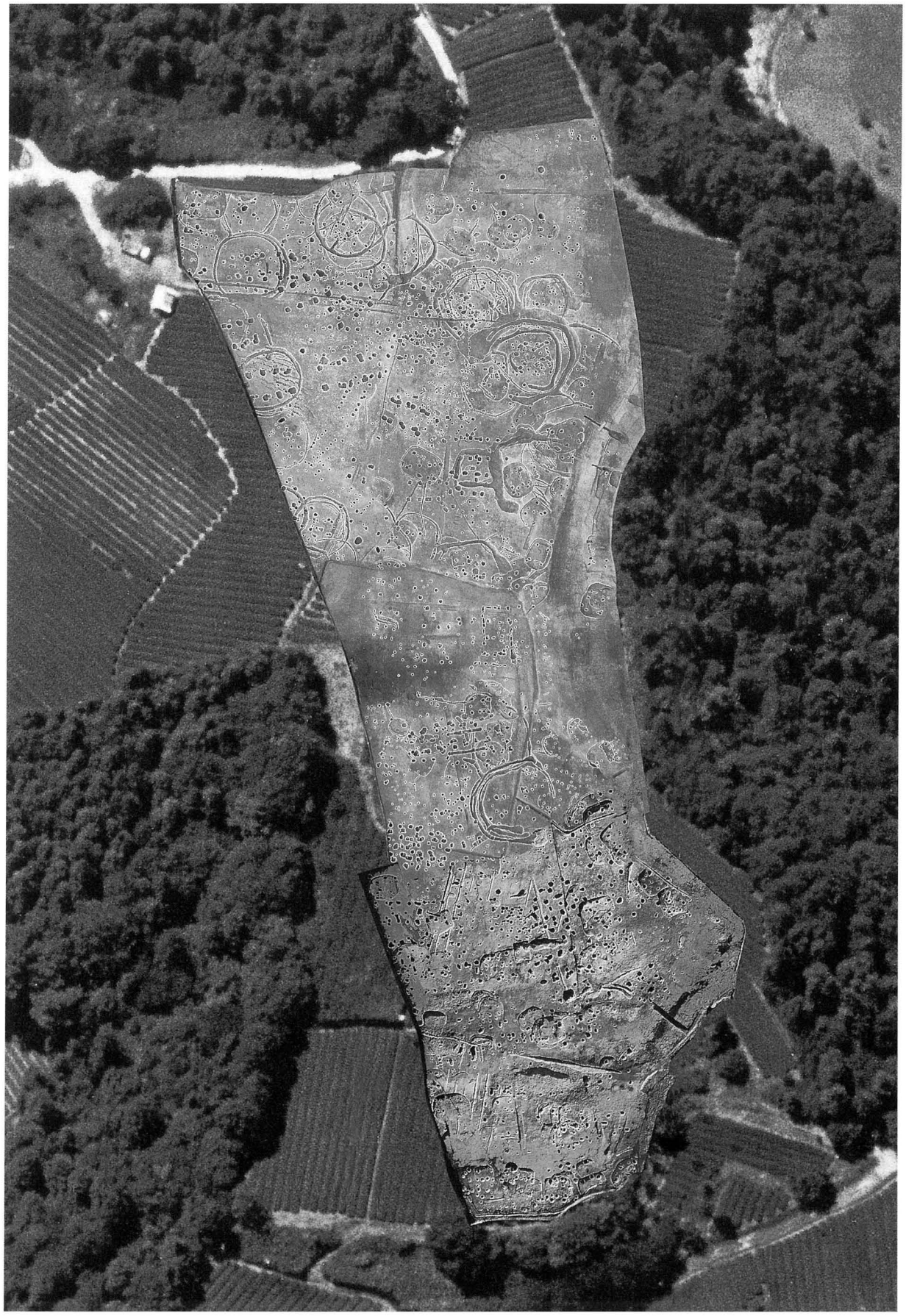
図版 4

1　SZ01・02（方形周溝墓）（南から）

2　赤彩のある土器片（511・544）



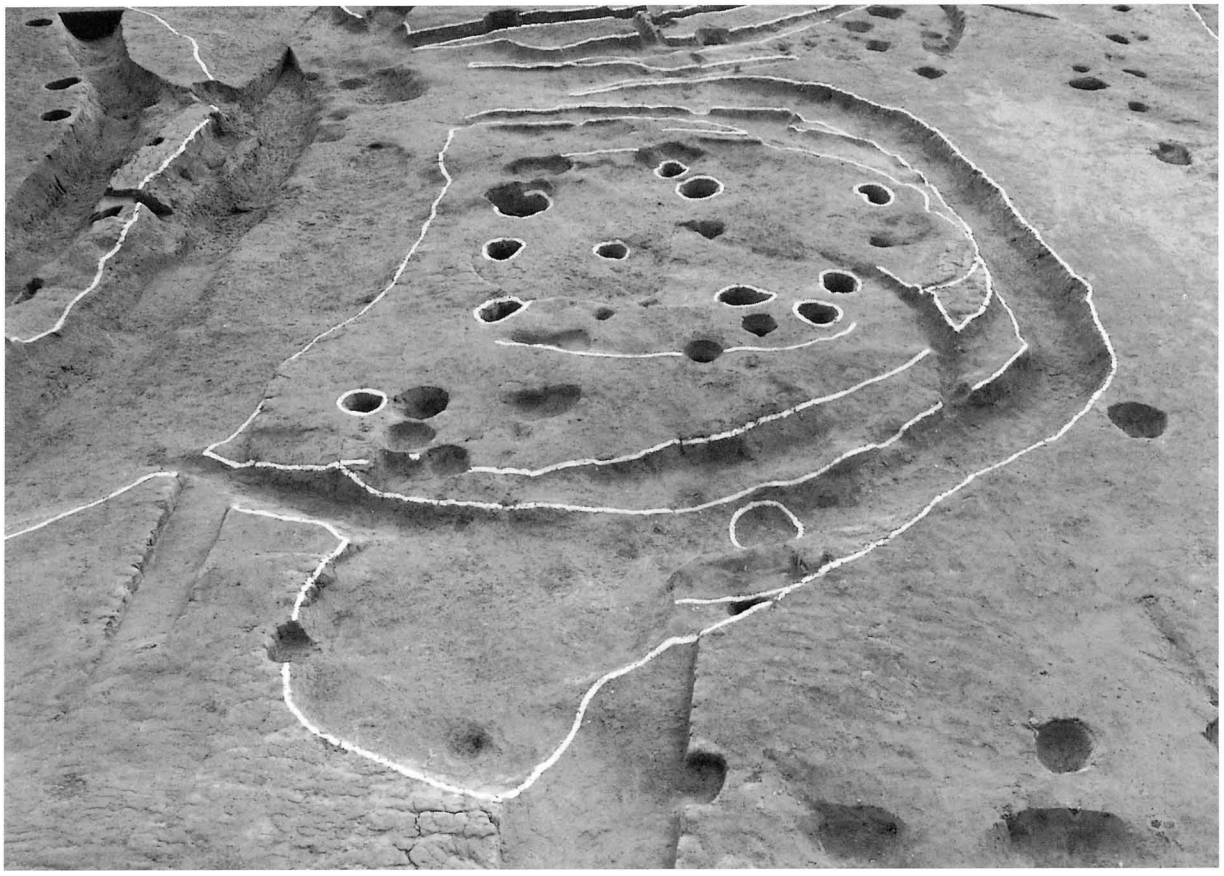
3　玉類（遺物の配置は図版95に対応）



調査区全景（合成）

図版 6

1　調査区西側遺構集中部（俯瞰）



2　SB07・SD04～06（北から）

1　SB11・SB12（西から）

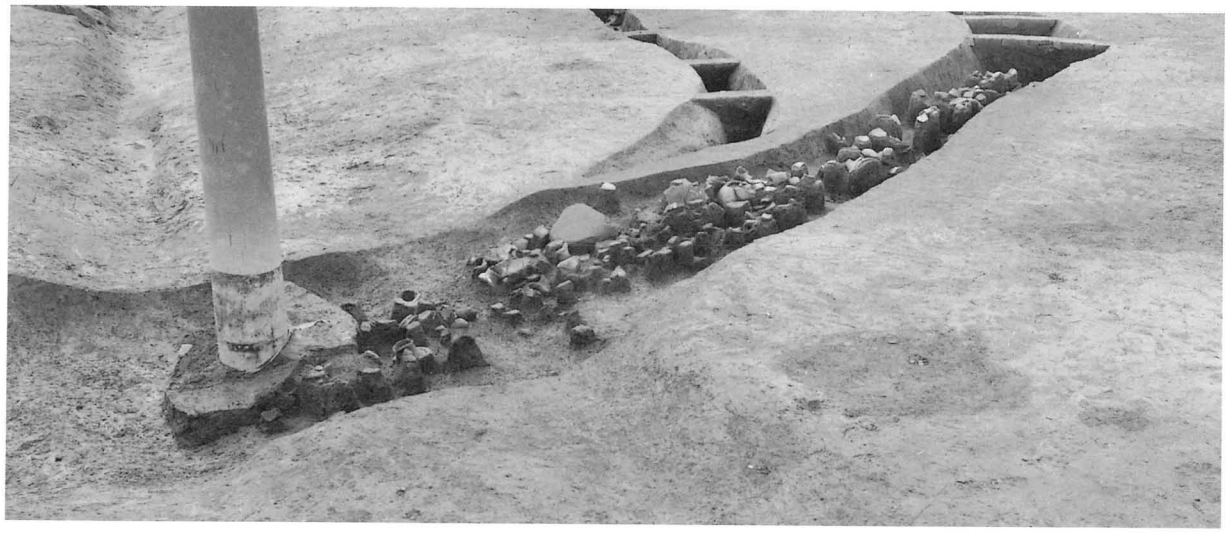
2　SB15・SD18～20（南東から）

図版 8

1　SB16・SD81・82・SH85・86（北から）

2　SB18（西から）

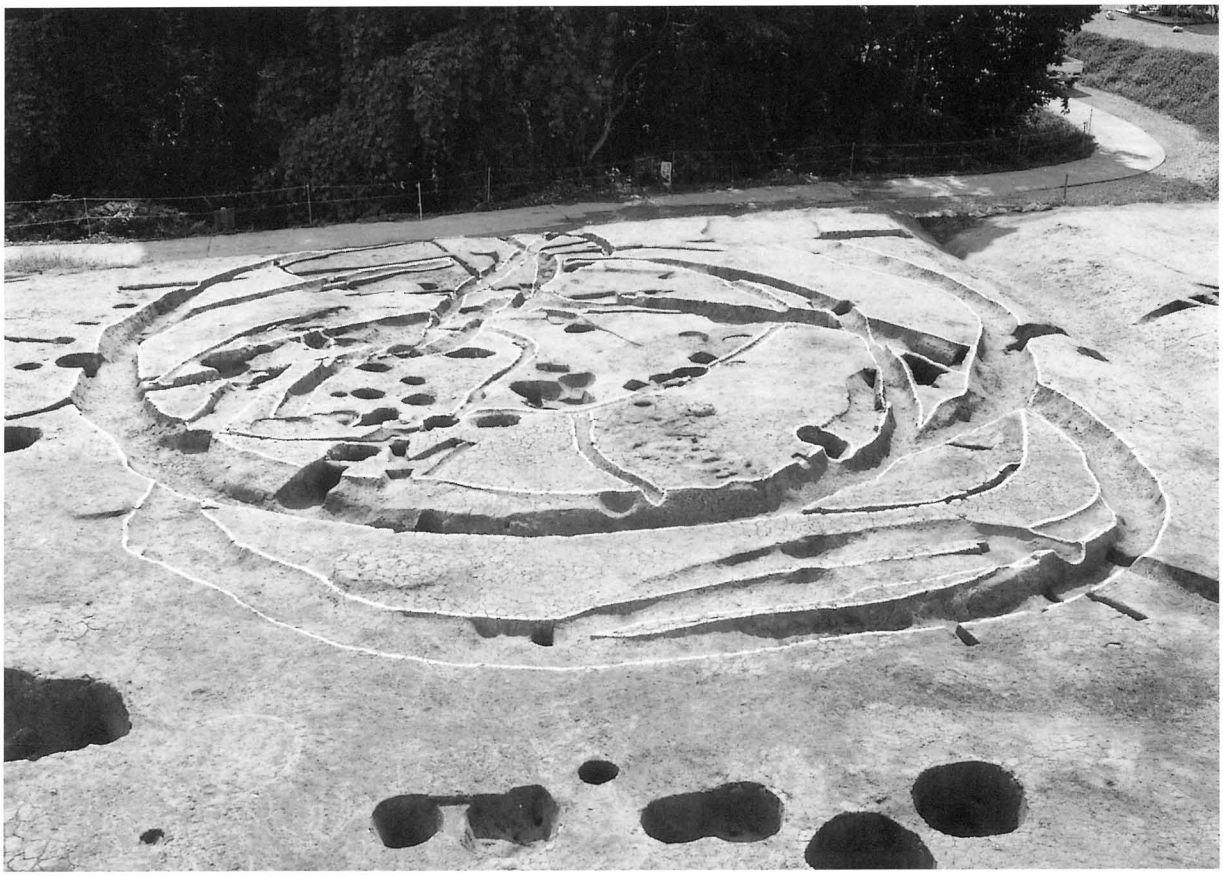
1　SD24遺物出土状況（南から）



2　SD24遺物出土状況（東から）

図版10

1　SB23・SB25・26（東から）

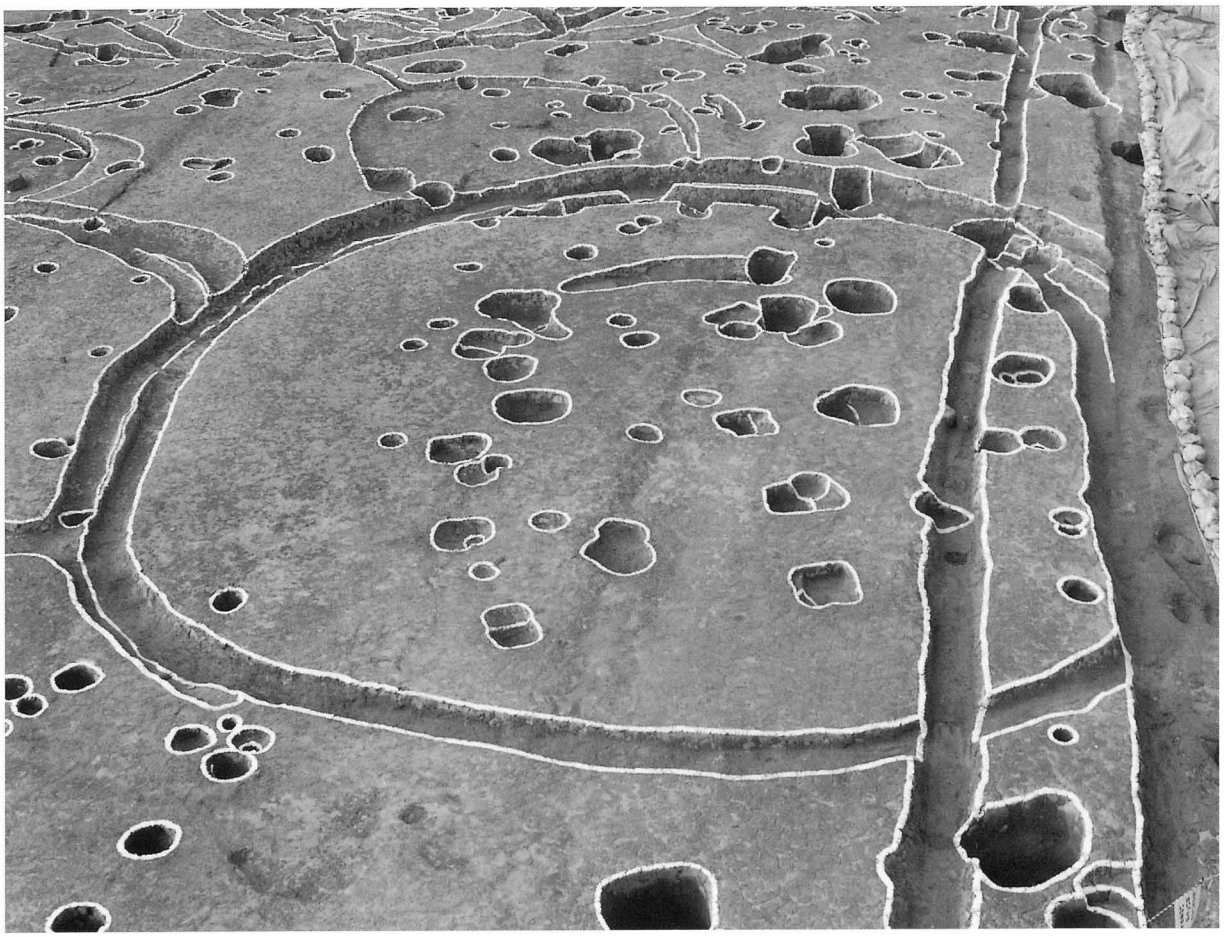


2　SB26～31・SD30～33（東から）

1　SB26～31・SD30～33（南から）

2　SB27炭化米出土状況（南から）

図版12



1　SB37・SD43～45（南から）

2　SD43遺物出土状況（東から）

3　SD45遺物出土状況（南から）

1　SB39・40・SD46・47（北東から）

2　調査区南西部（南東から）

図版14

1　SB42・SD49（南から）

2　SB42炉跡検出状況（東から）

1　SB49～51・SD56～59（北西から）

2　SB49～51・SD56～59（俯瞰）

図版16

1　SD57遺物出土状況（南から）

2　SD57遺物出土状況（東から）

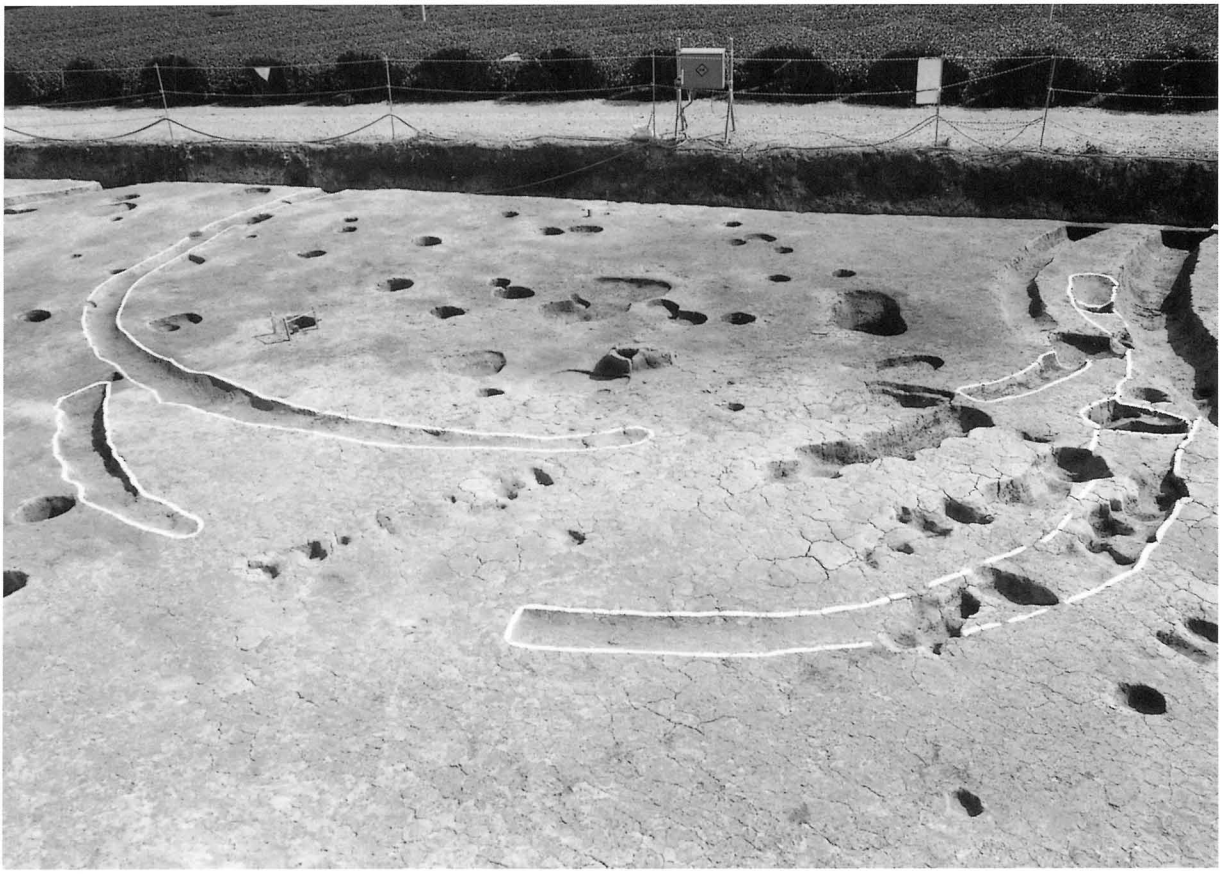
3　SD57遺物出土状況（東から）

1　SB54・56・SD70・73・74（南から）

2　SB54・56・SD70・73・74（東から）

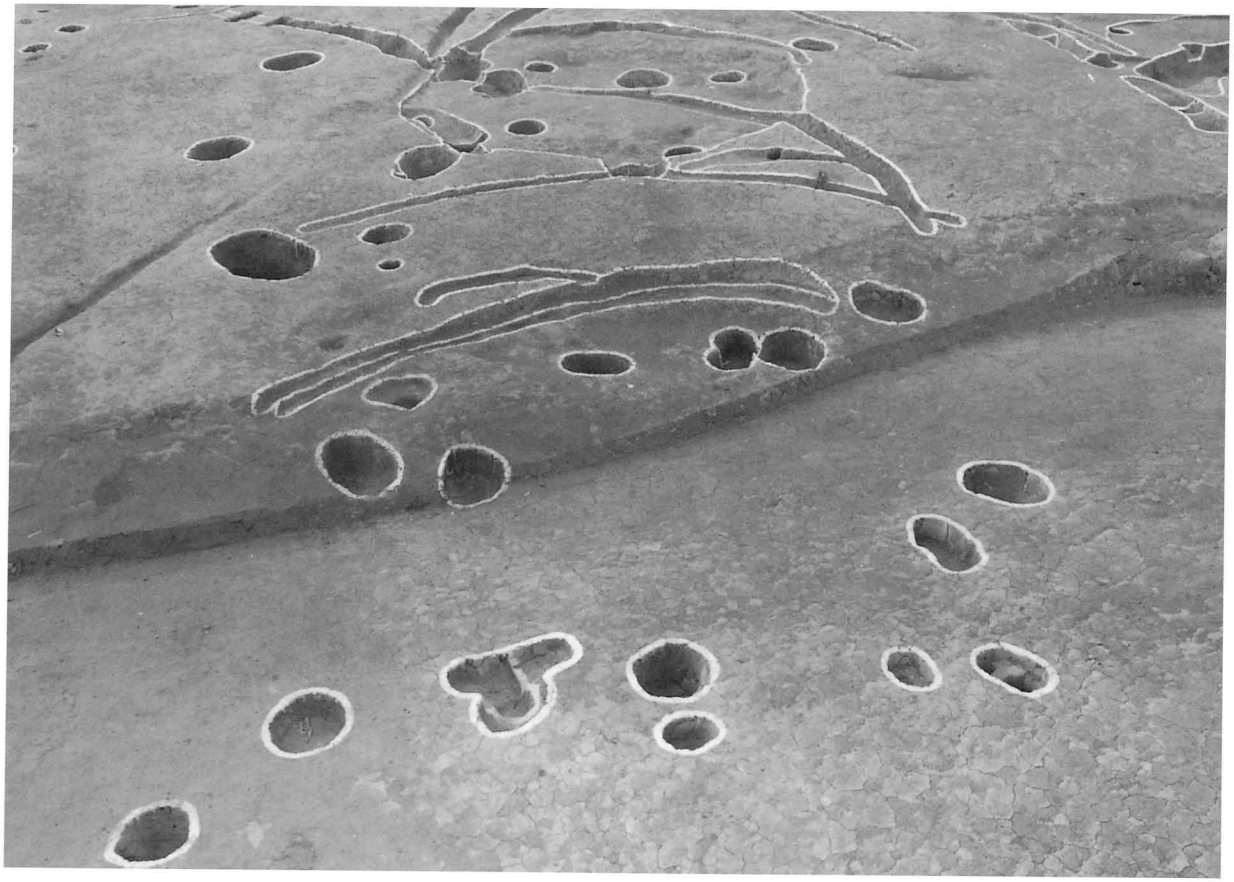
図版18

1　SB52・SD61（南から）



2　SB69・70・SD84・85（北から）

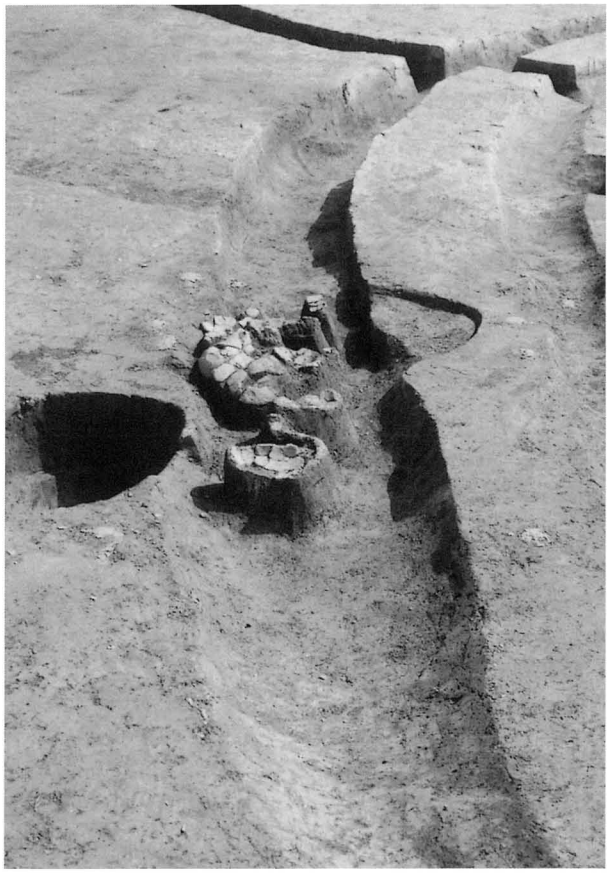
1　SB82・SD87（南西から）



2　SB87・SD91（東から）

図版20

1　SB89・SD97～100（西から）



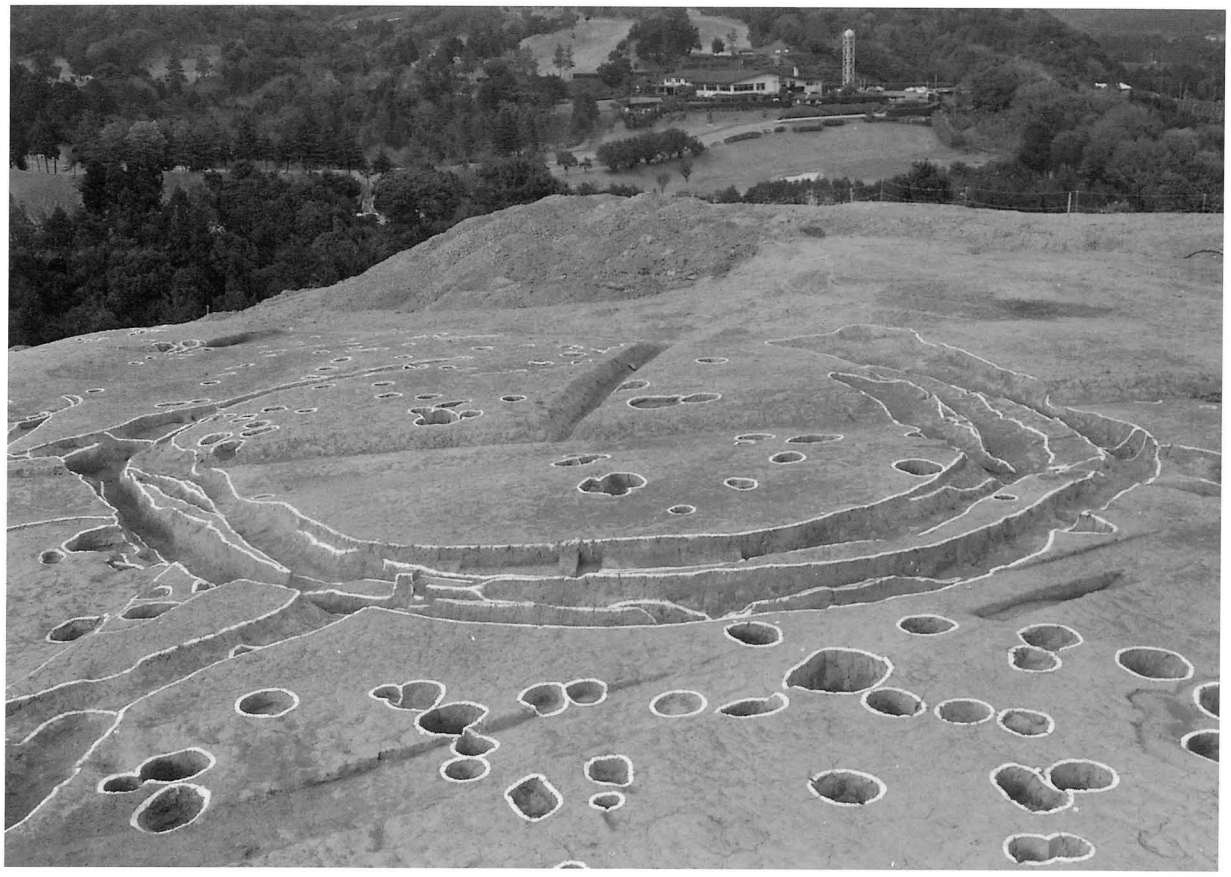
2　SD100遺物出土状況（西から）

3　SD100遺物出土状況（北から）

1　SB90・SD96（北西から）

2　調査区中央部（俯瞰）

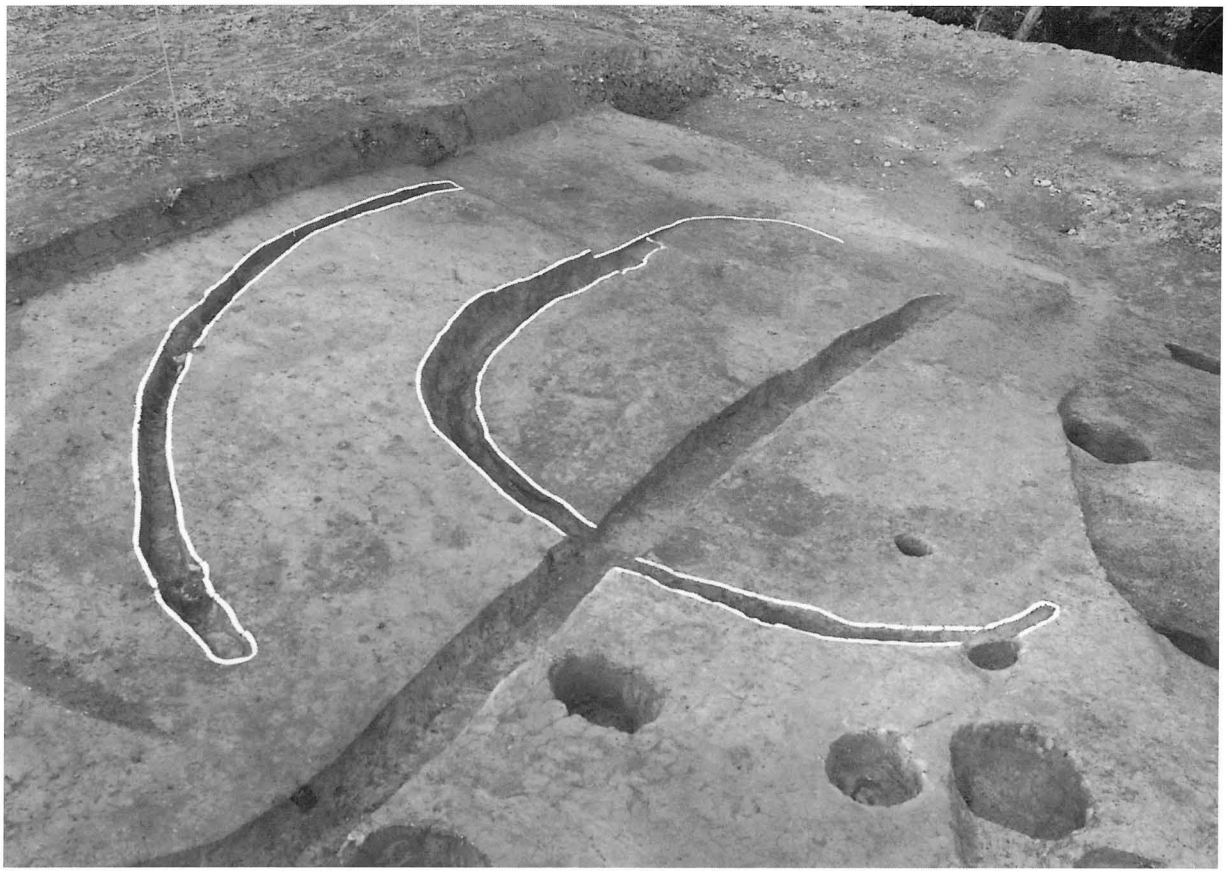
図版22



1　SB110・SD116～120（南から）

2　SD120遺物出土状況（南から）

3　SD120遺物出土状況（南から）



1　SB113・SD121（南東から）

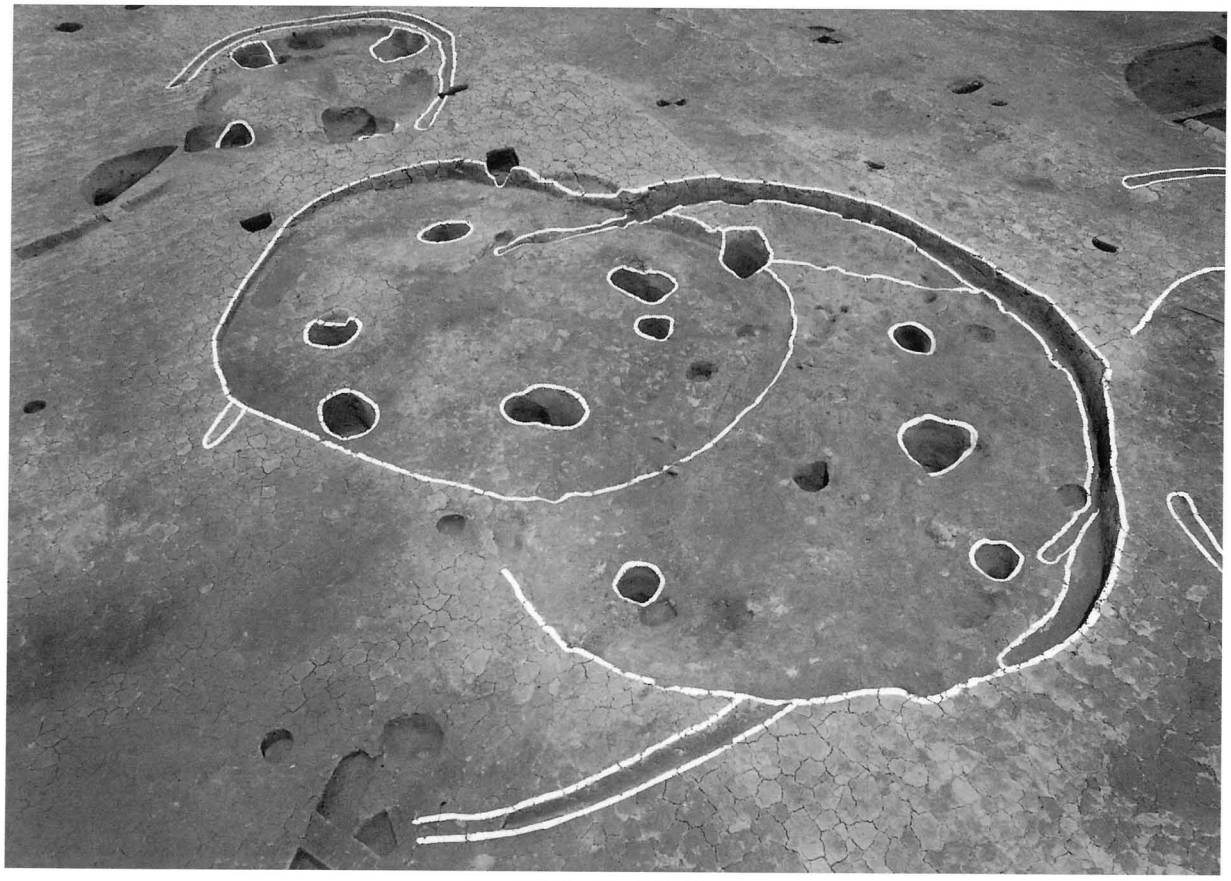
2　SB126・127・SD123・124（北から）

図版24

1　SB163・164・SD125（南東から）

2　SB01（東から）

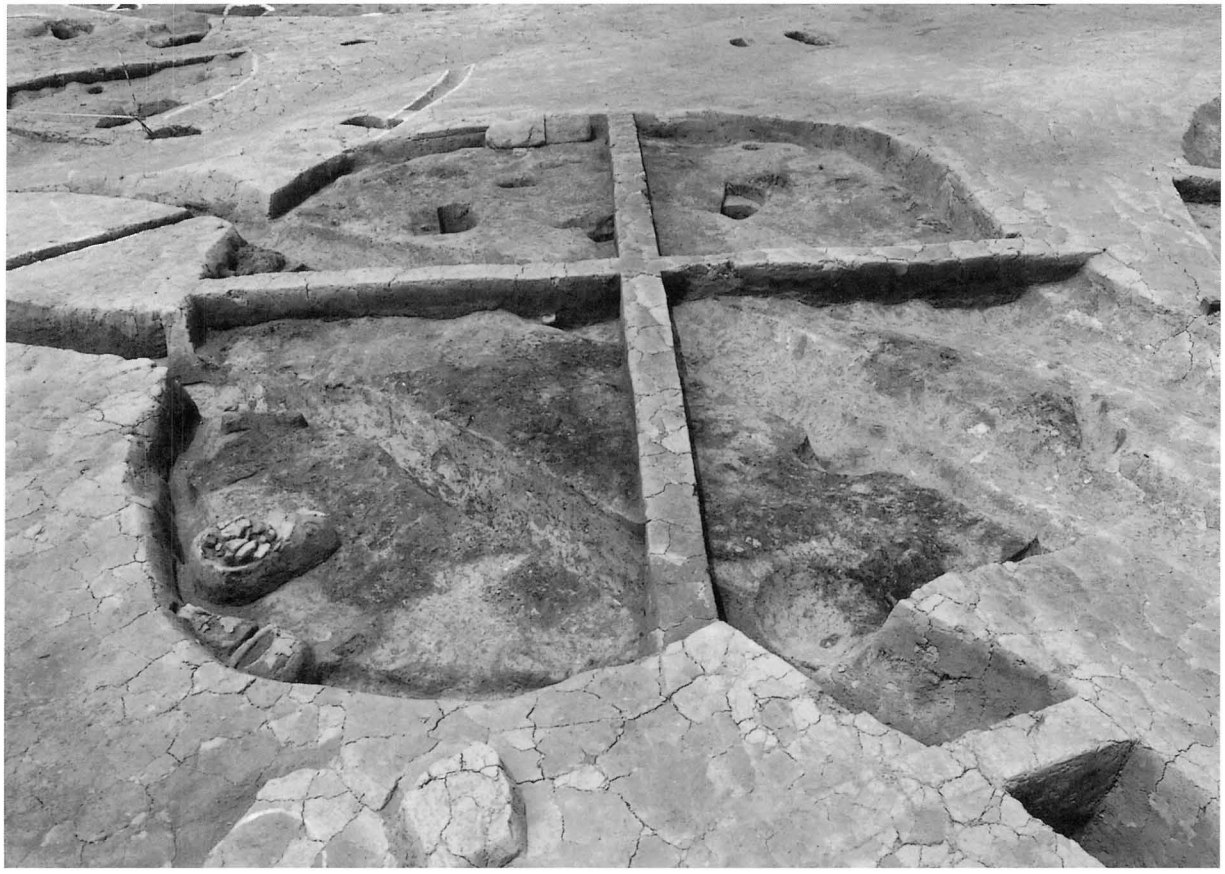
1　SB02・03（西から）



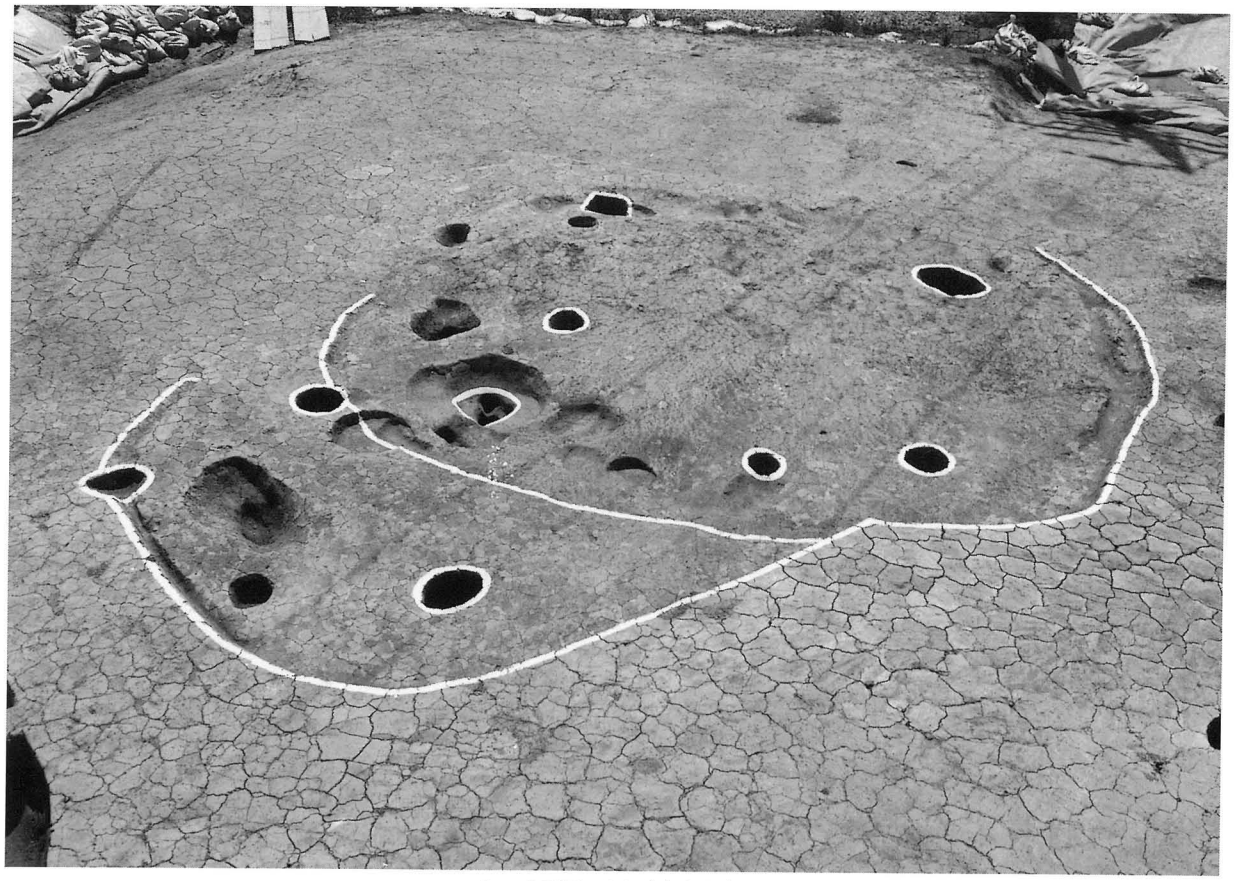
2　SB04～06（南西から）

図版26

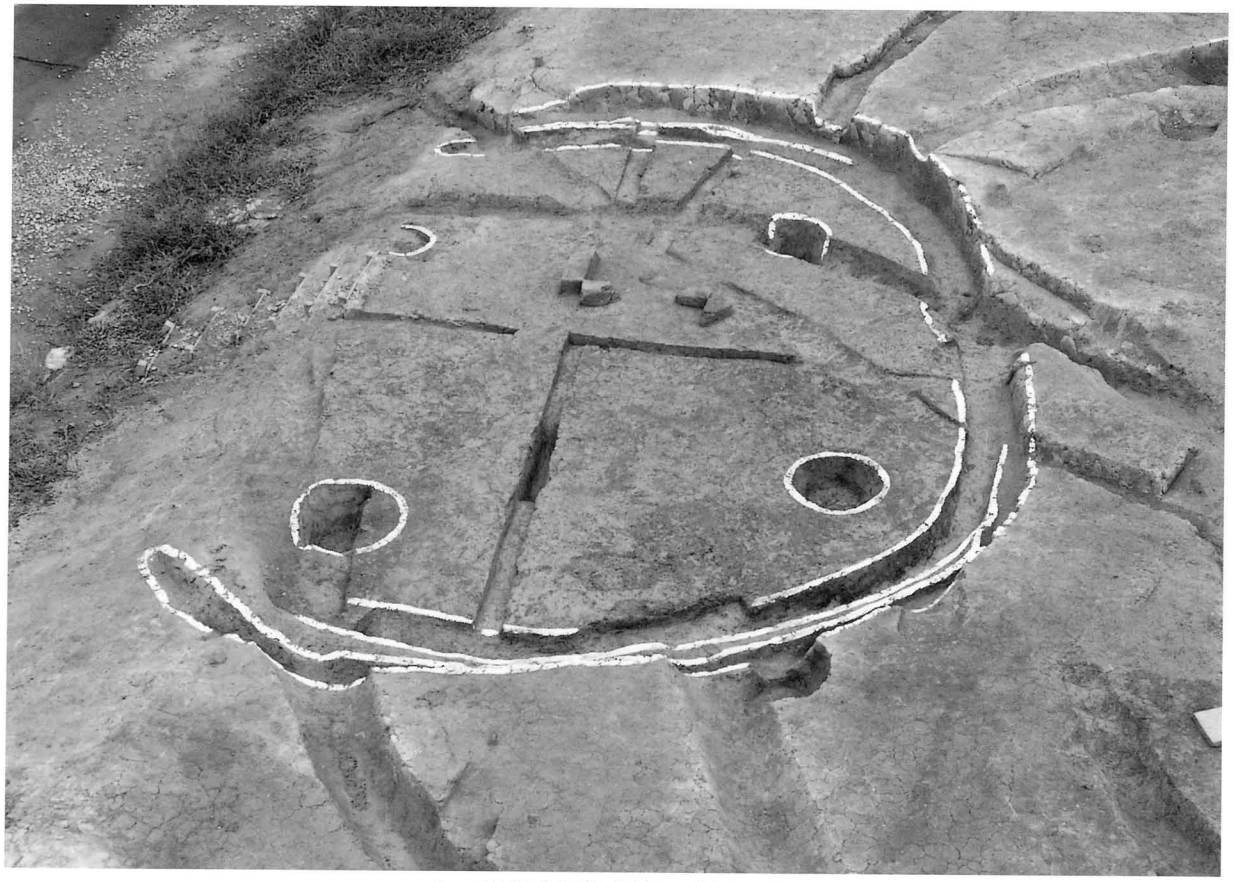
1　SB10（東から）



2　SB10炭化材検出状況（東から）

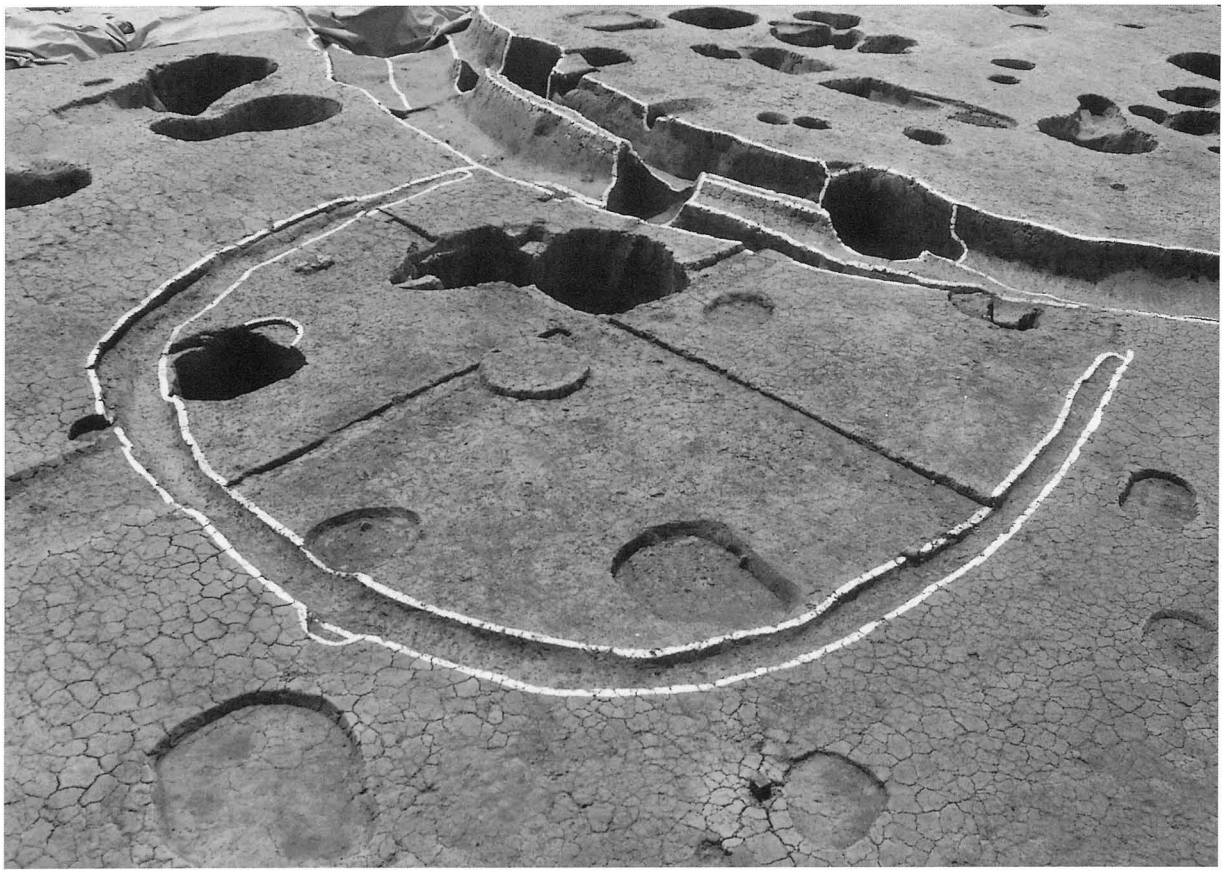


1　SB13・14（東から）



2　SB29床面検出状況（南から）

図版28



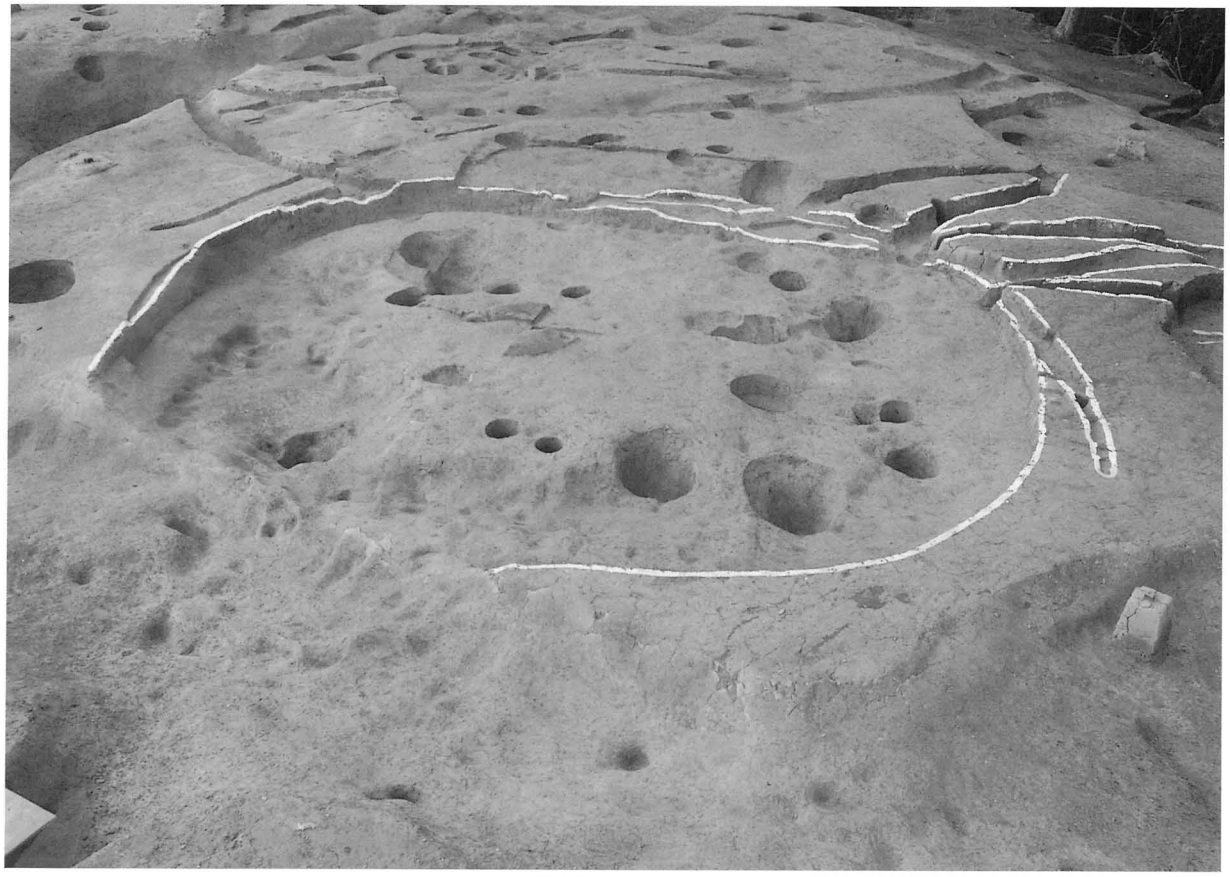
1　SB34床面検出状況（北西から）

2　SB43（東から）

1　SB44遺物出土状況（北西から）

2　SB47（東から）

1　SB53（北西から）



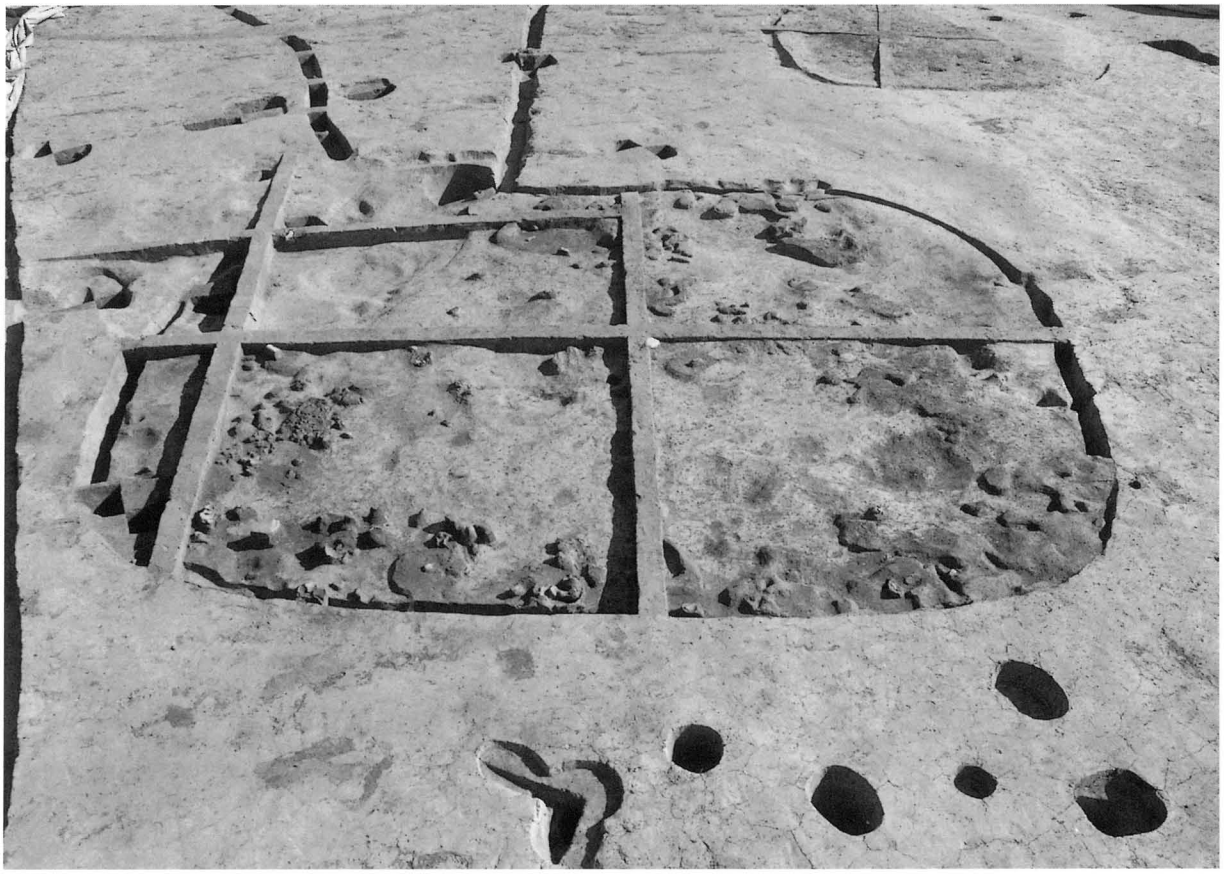
2　SB55（南東から）

1　SB59（南東から）

2　SB62（南東から）

図版32

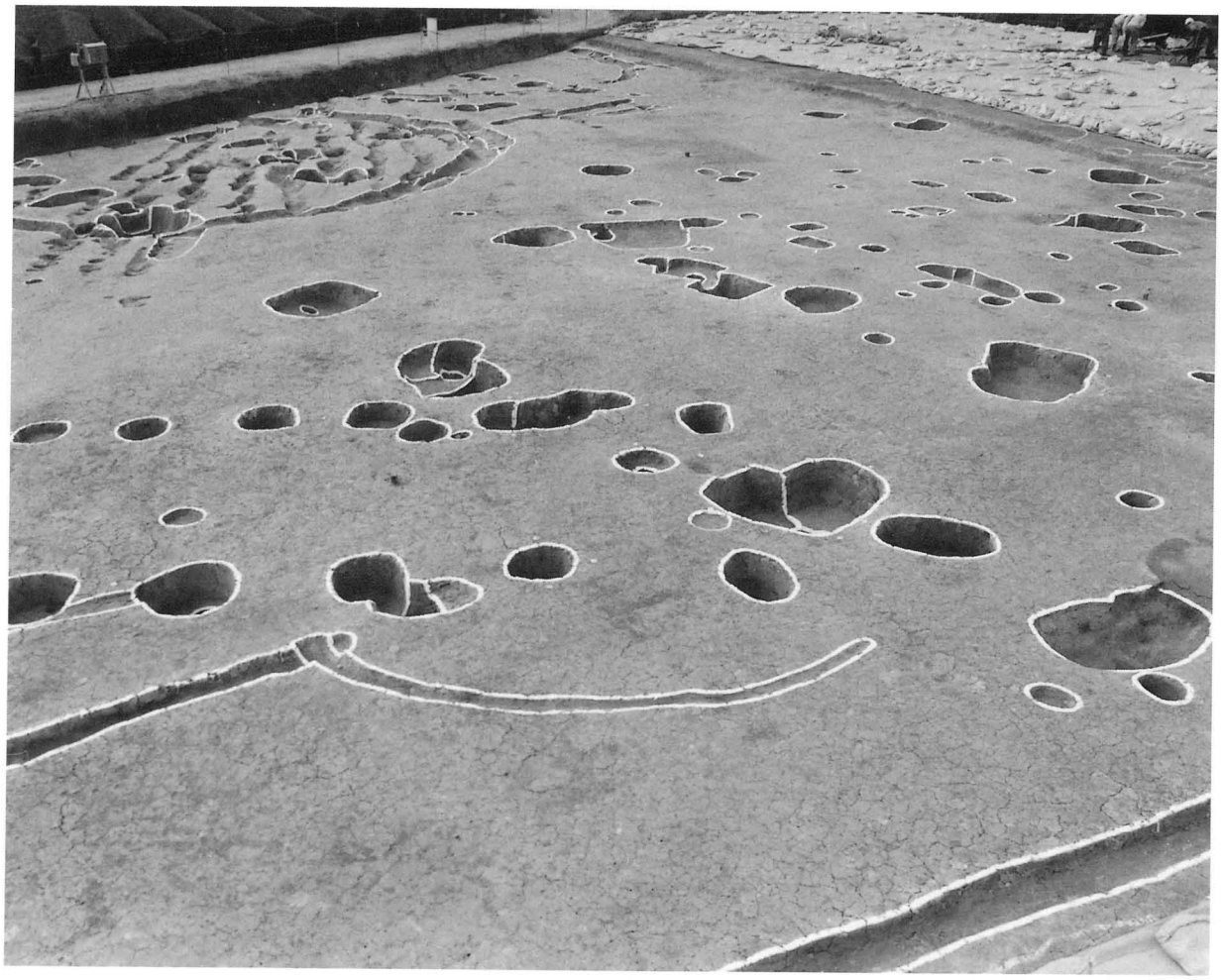
1　SB67（西から）



2　SB67炭化材検出状況（西から）

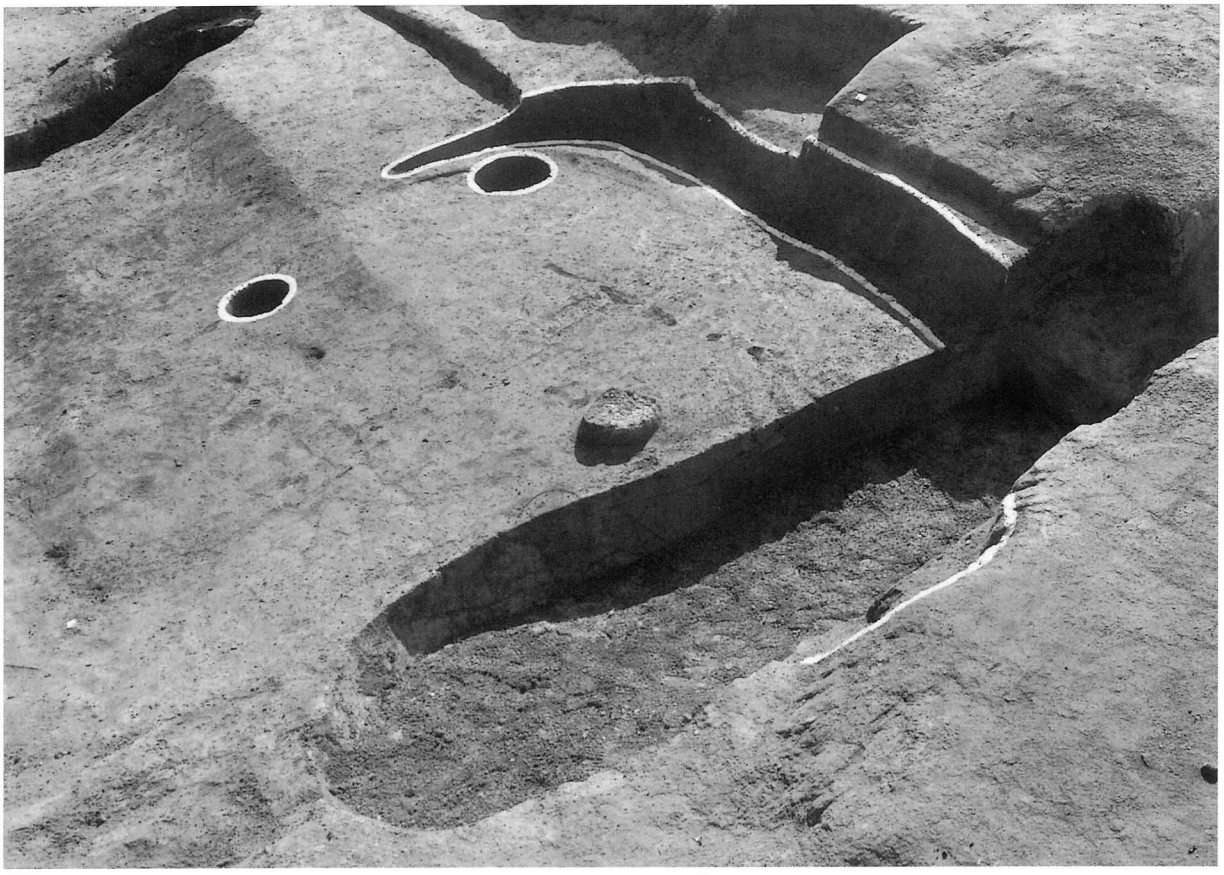
1　SB67貯蔵穴内土器出土状況（西から）

2　SB64（南から）



3　SB65（北東から）

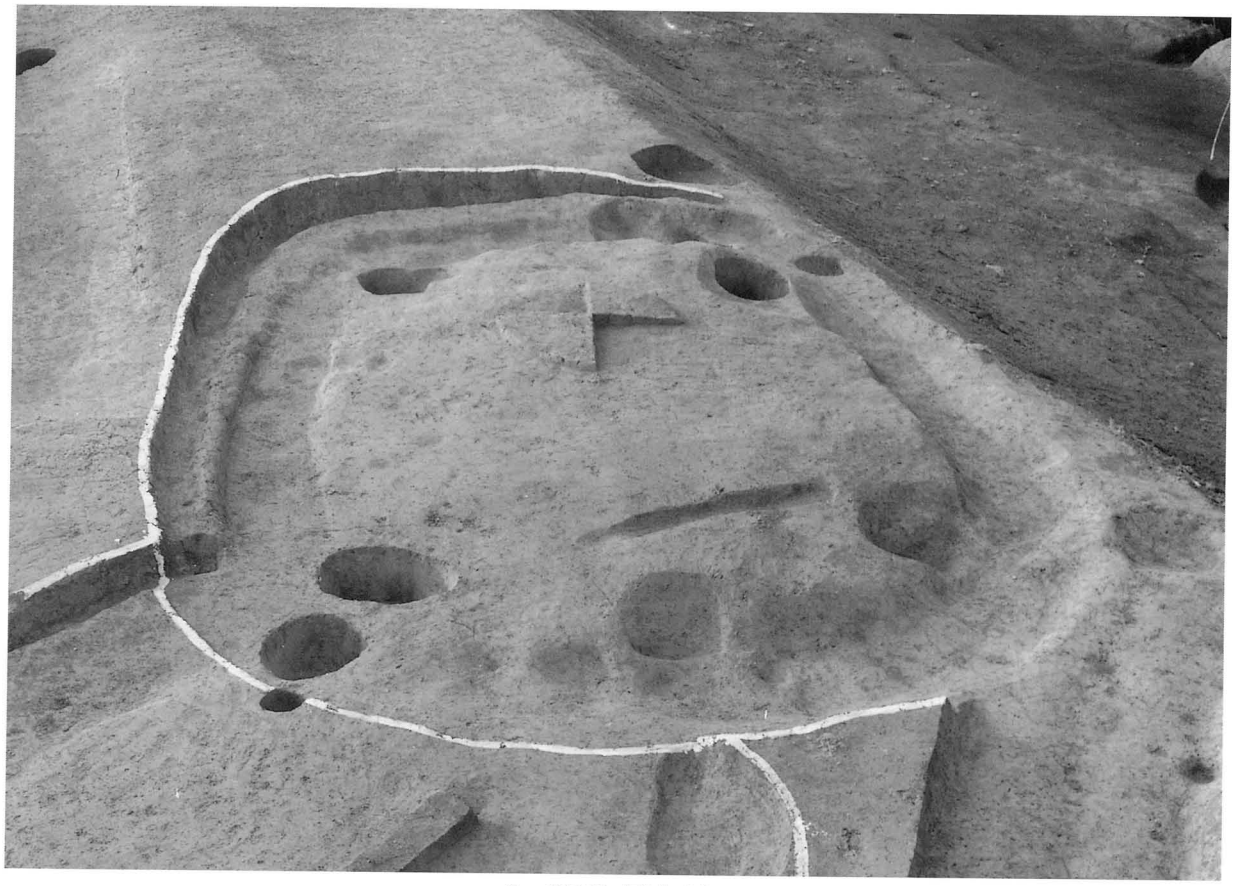
図版34



1　SB71（西から）

2　SB72床面検出状況（西から）

1　SB73・74（北から）



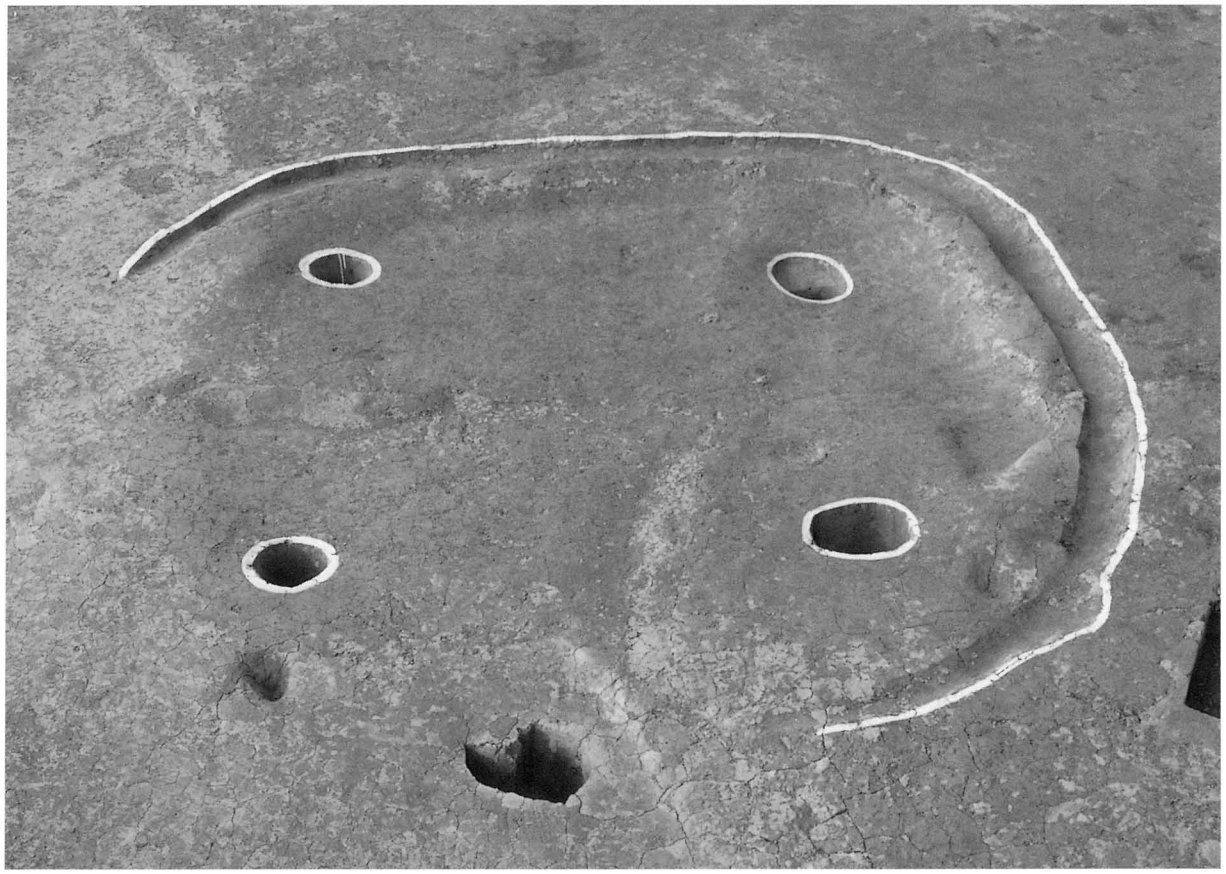
2　SB76（東から）

図版36

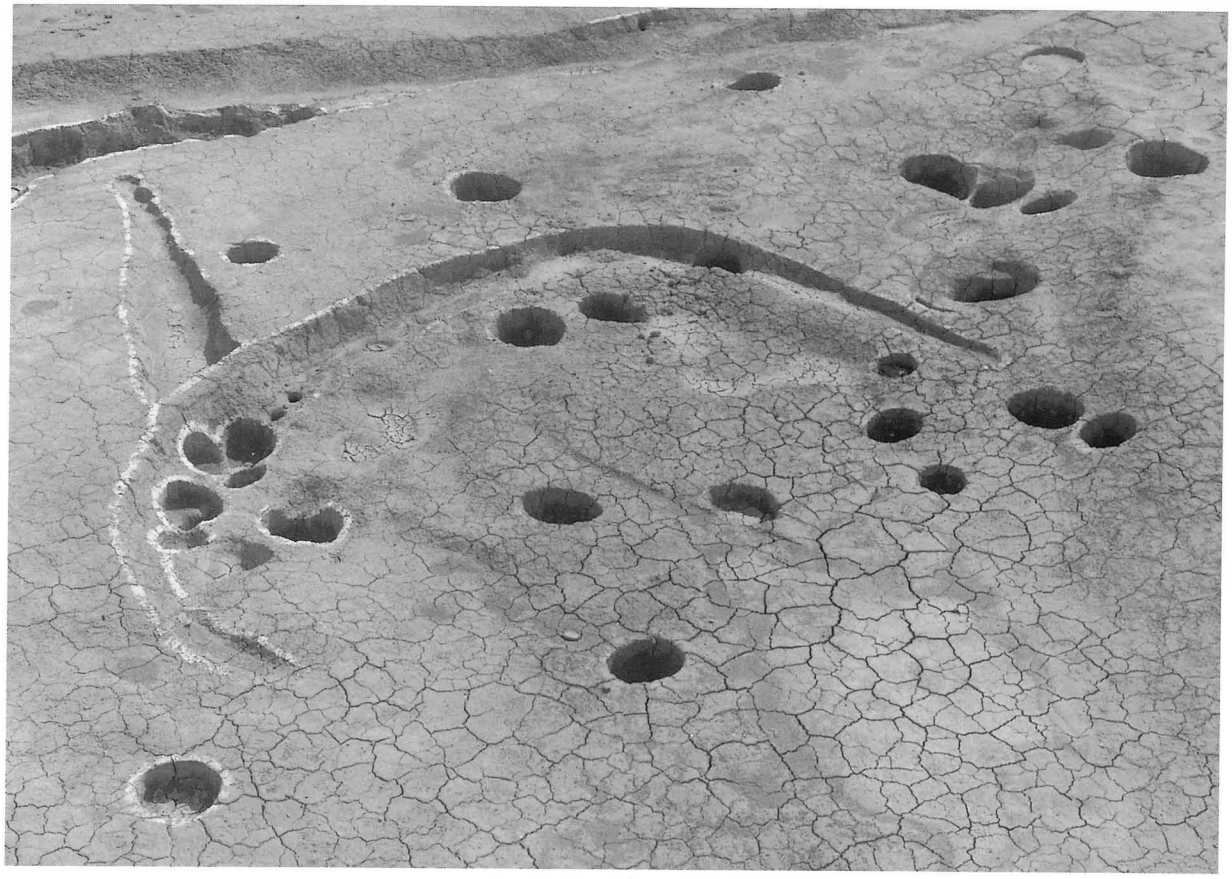
1　SB75～79（南東から）

2　SB81（南西から）

1　SB86（南から）



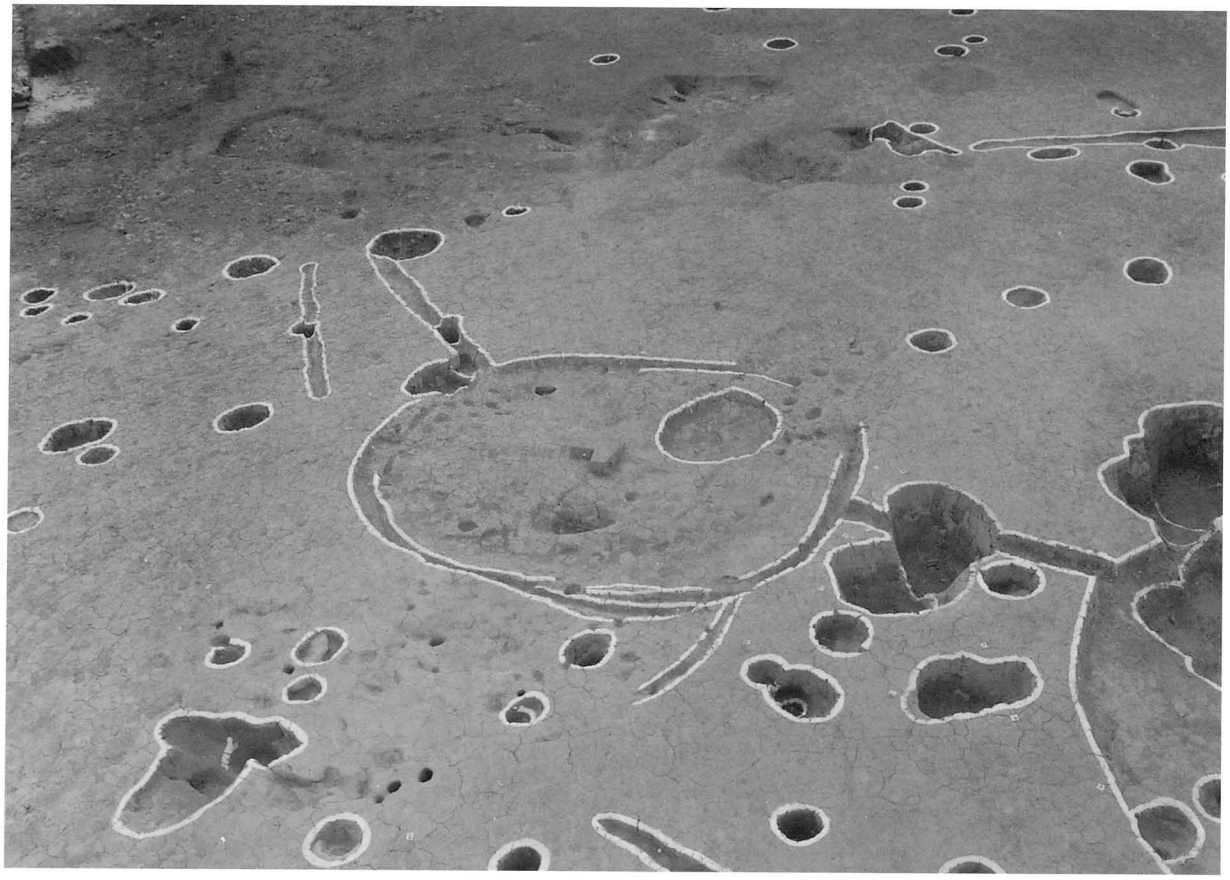
2　SB88（南東から）



1　SB94（南西から）

2　SB95・96（東から）

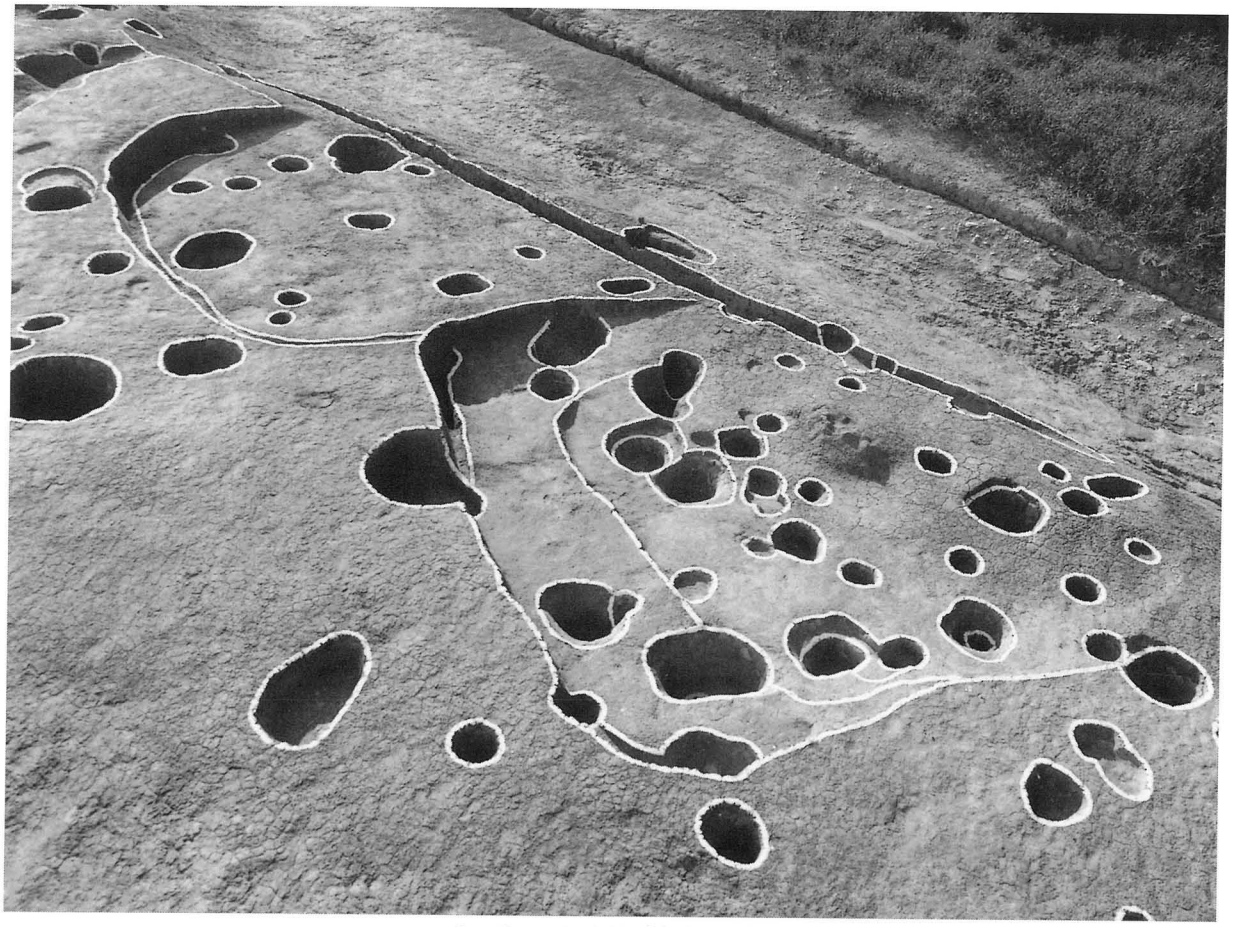
1　SB97（西から）



2　SB106（北から）

1　調査区北東部（俯瞰）

2　SB114～117（北から）

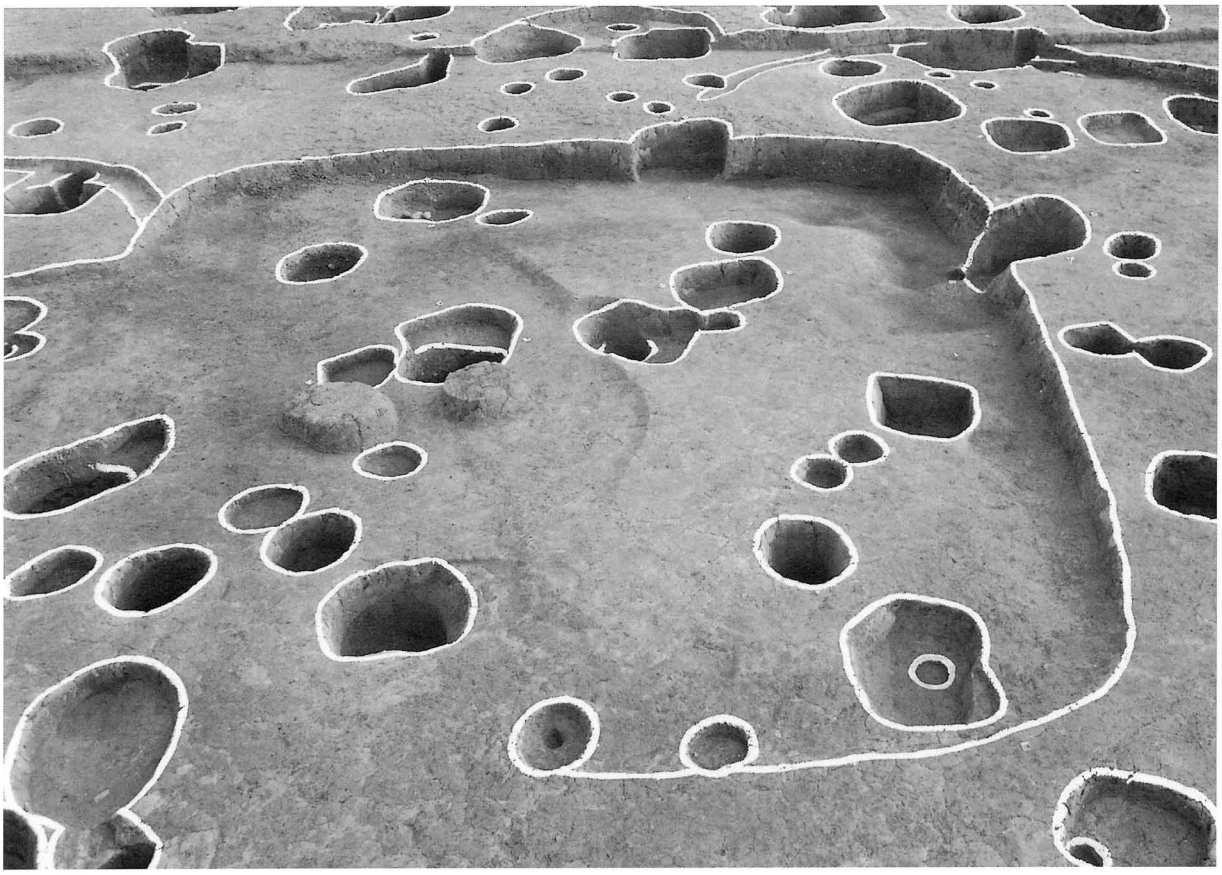


1　SB118～120（南東から）

2　SB118遺物出土状況（南から）

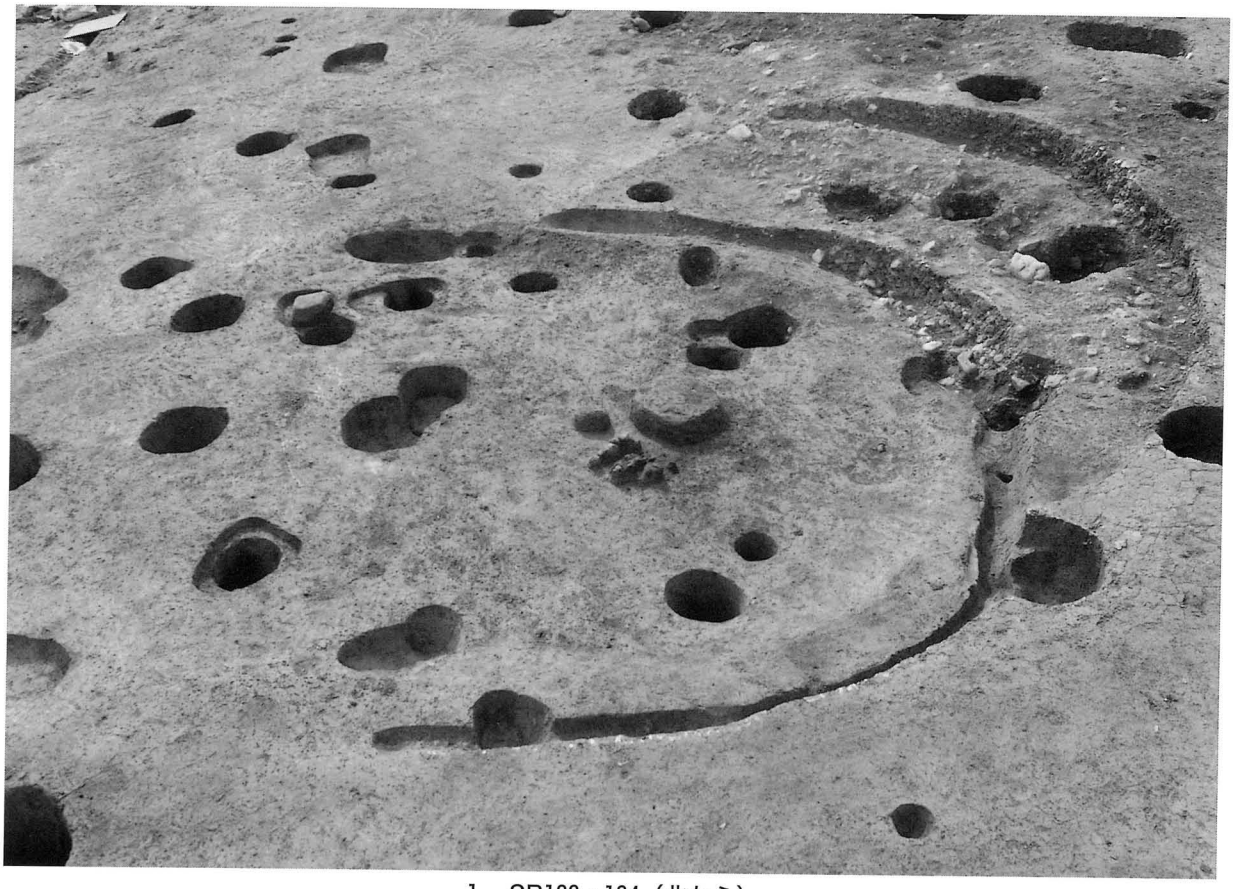
3　SB118遺物出土状況（東から）

図版42



1　SB122（北から）

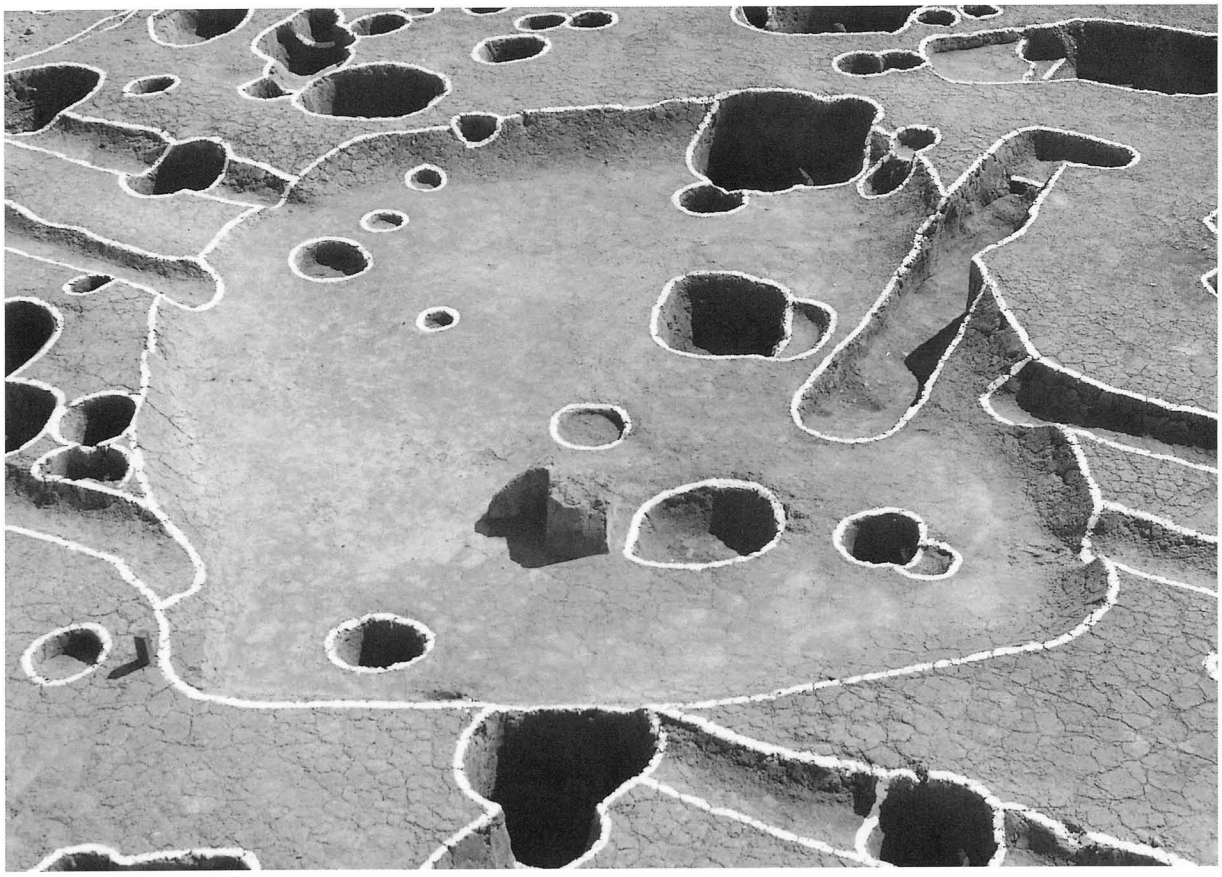
2　SB128～130（北から）



1　SB133・134（北から）

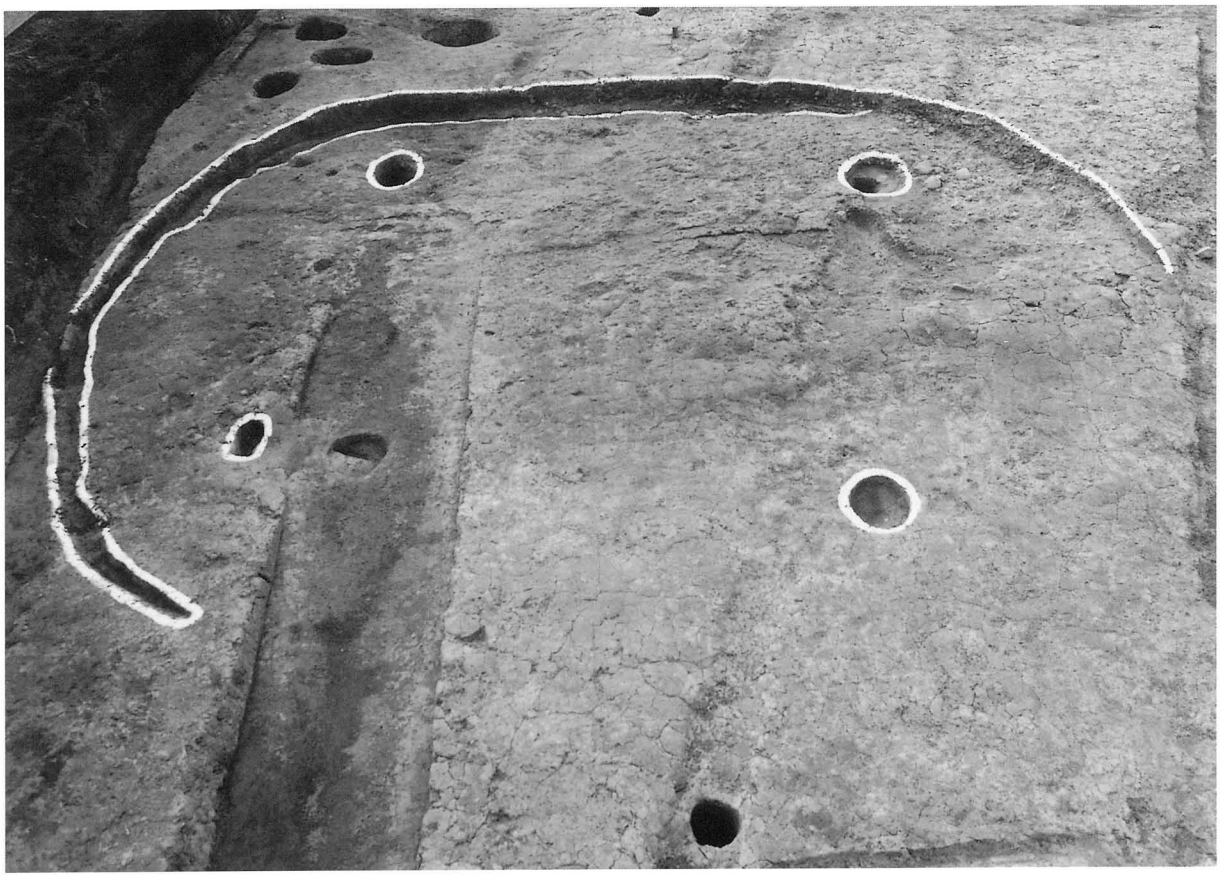
2　SB135～137（東から）

図版44



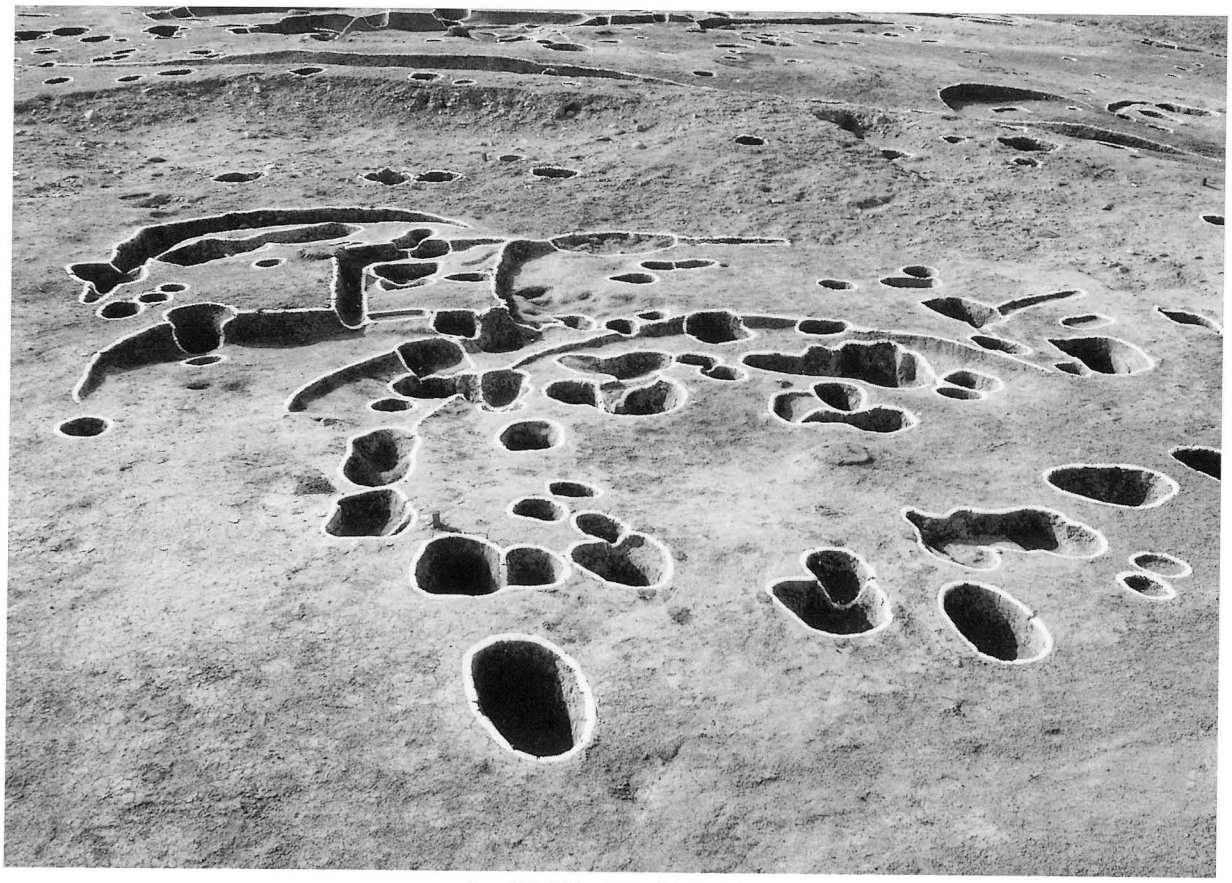
1　SB138（北から）

2　SB139床面検出状況（東から）



1　SB143（東から）

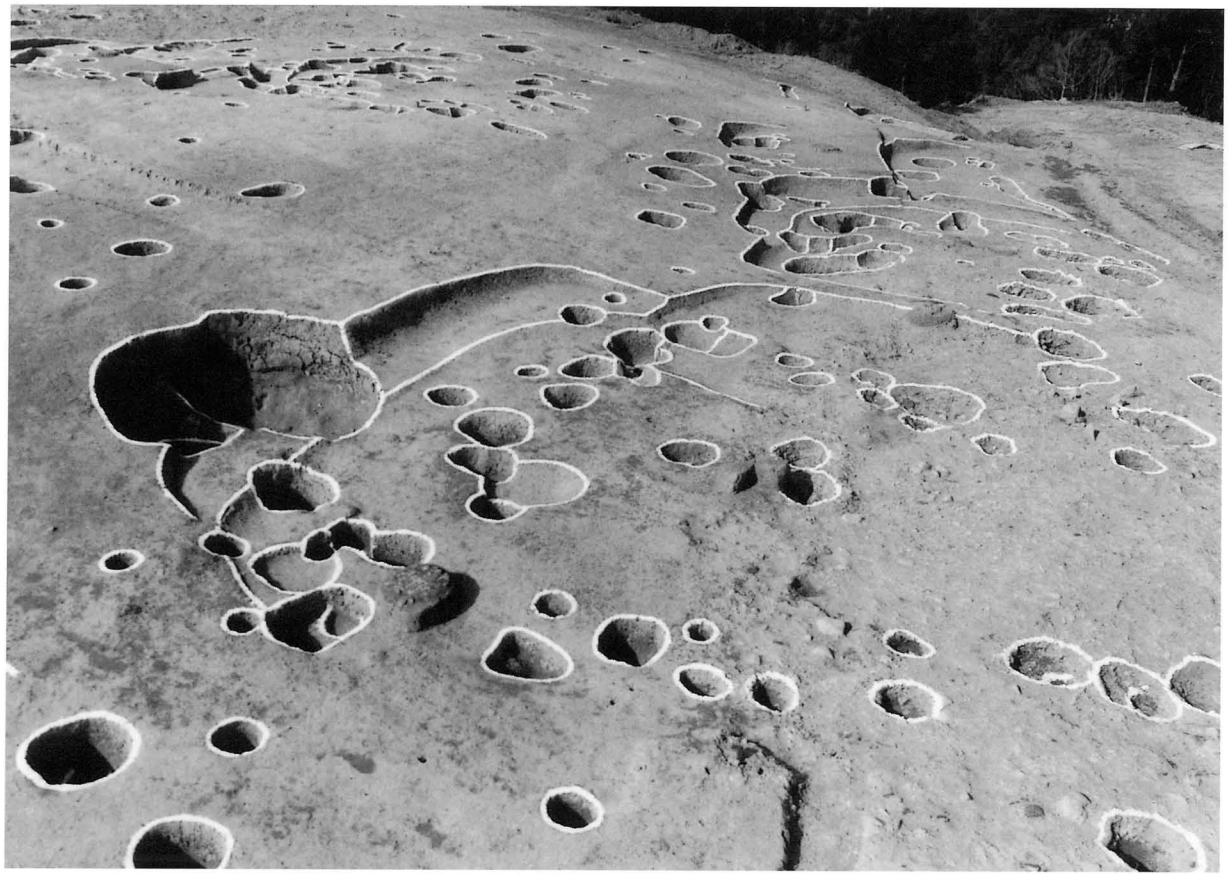
2　SB143炭化材検出状況（北から）



1　SB145～151（東から）

2　SB155・156（南から）

1　SB157・158（南から）



2　SB160～162（南から）

1　SH01～05（西から）

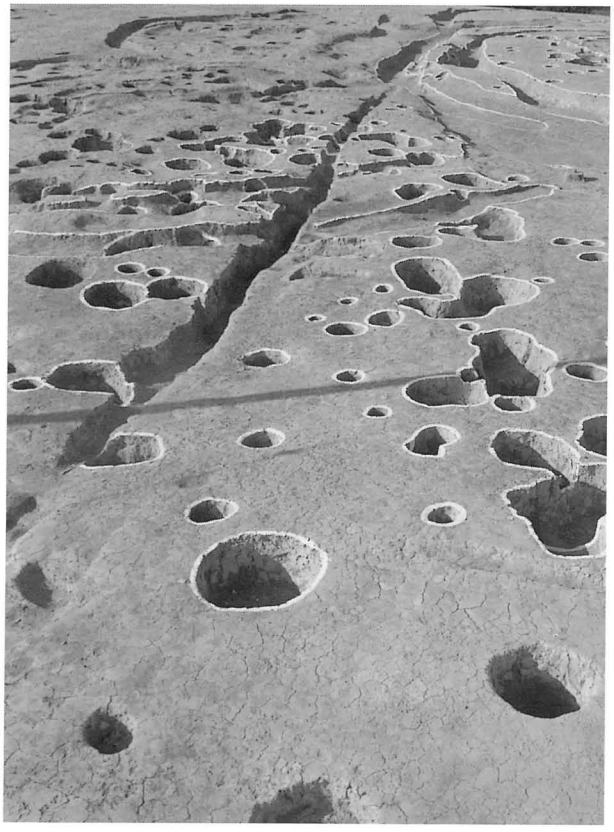
2　調査区北西部（俯瞰）

1　SH17～21（南東から）

2　SH23・25～27（北から）

図版50

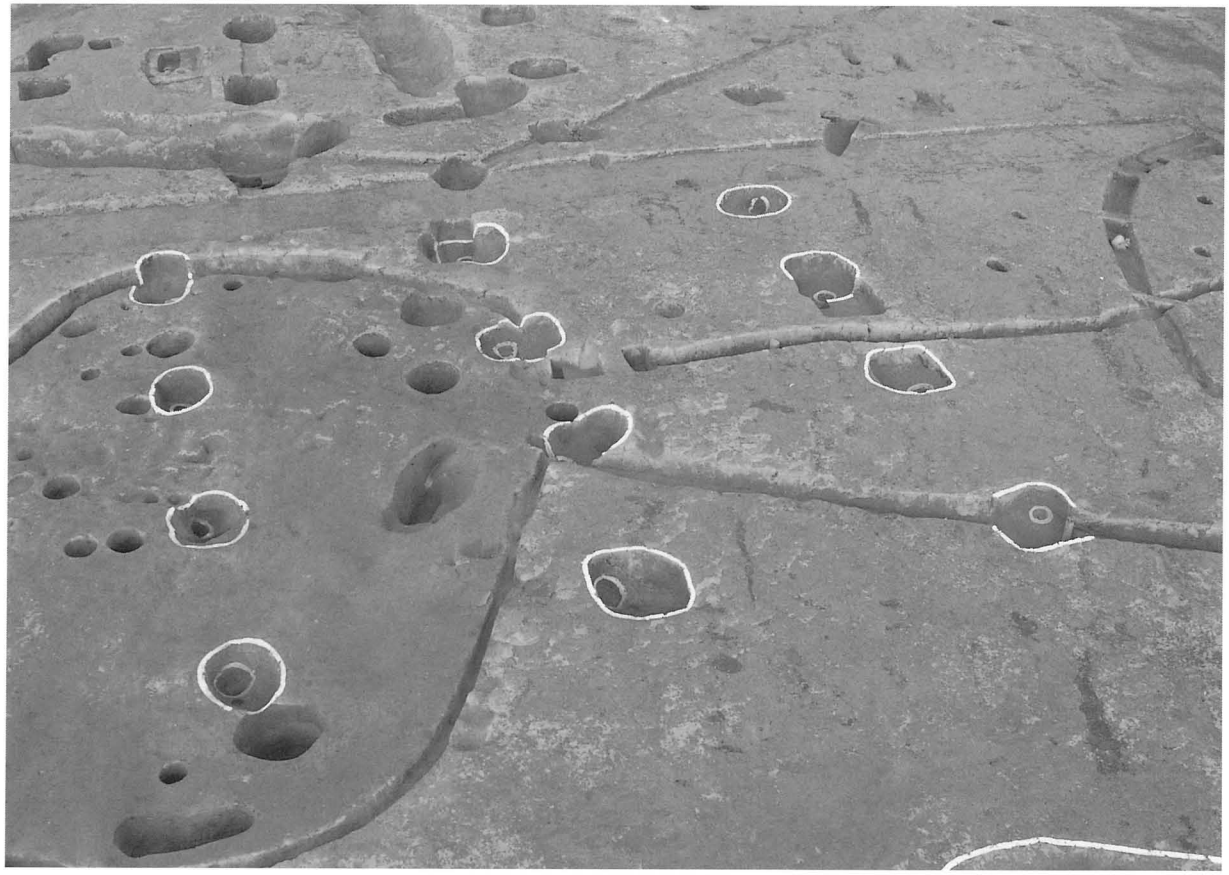
1　SH45～47・50・51（南から）



2　SH48・49（南から）

3　SH56～59（南から）

1　SH60・61（南から）

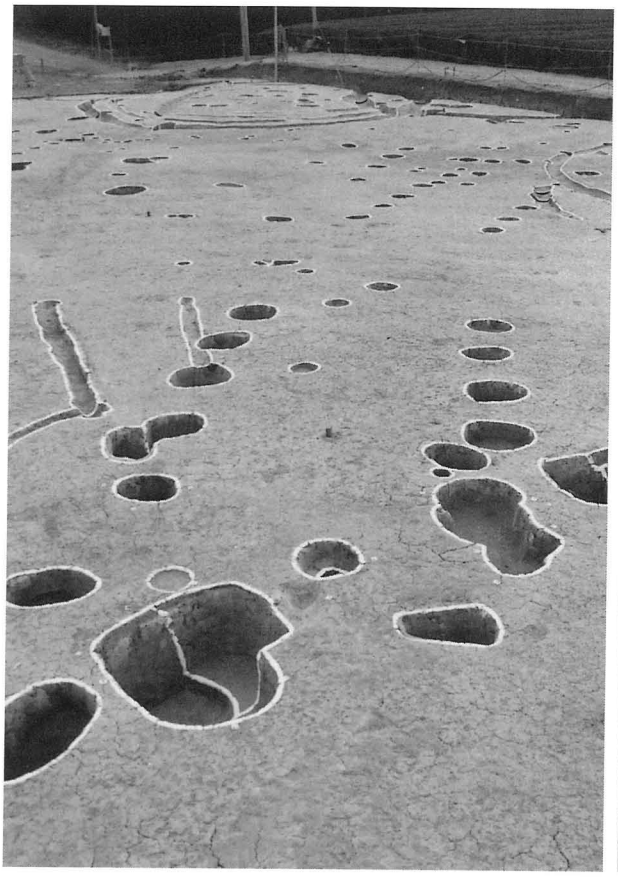


2　SH66（南から）

図版52

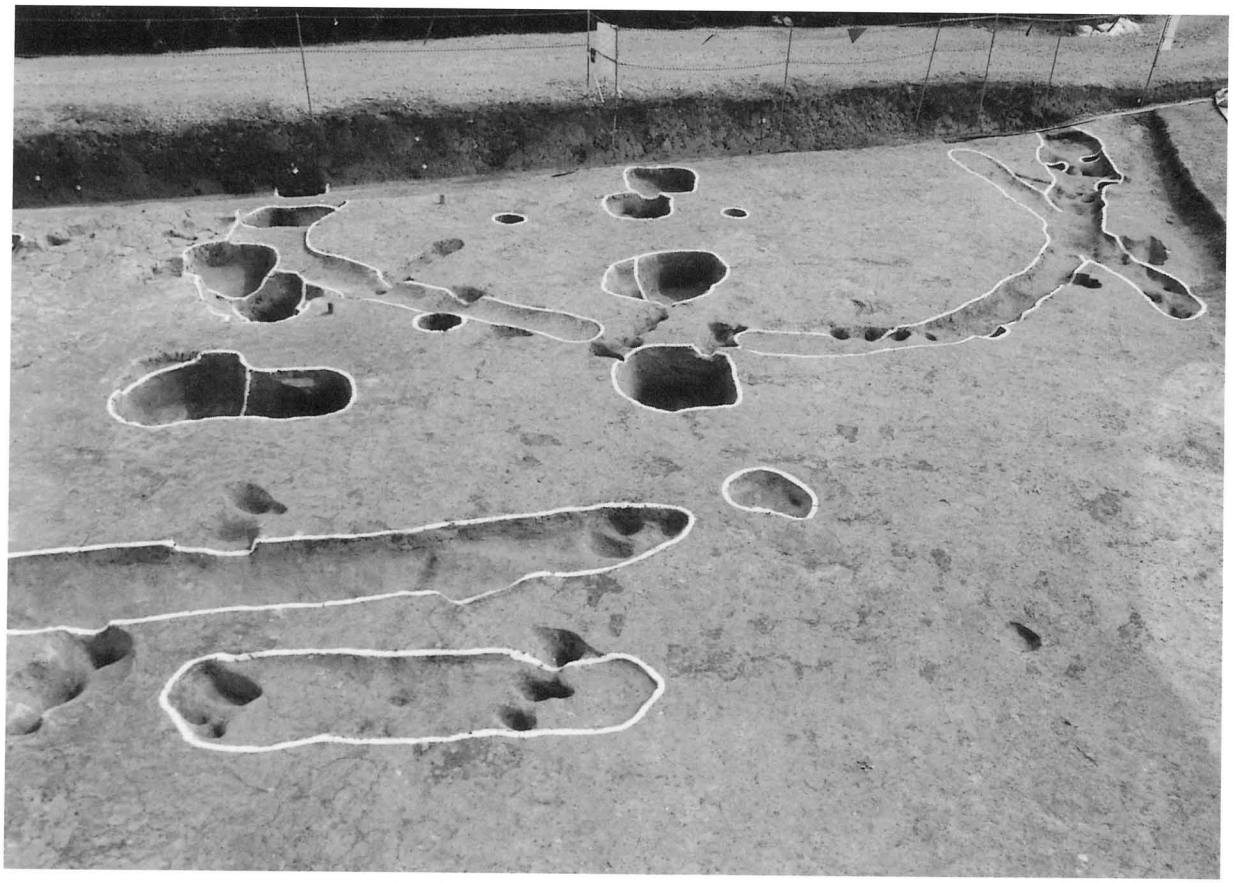
1　SH72～75（南から）

2　SH77～80（北から）



1　SH81（北西から）

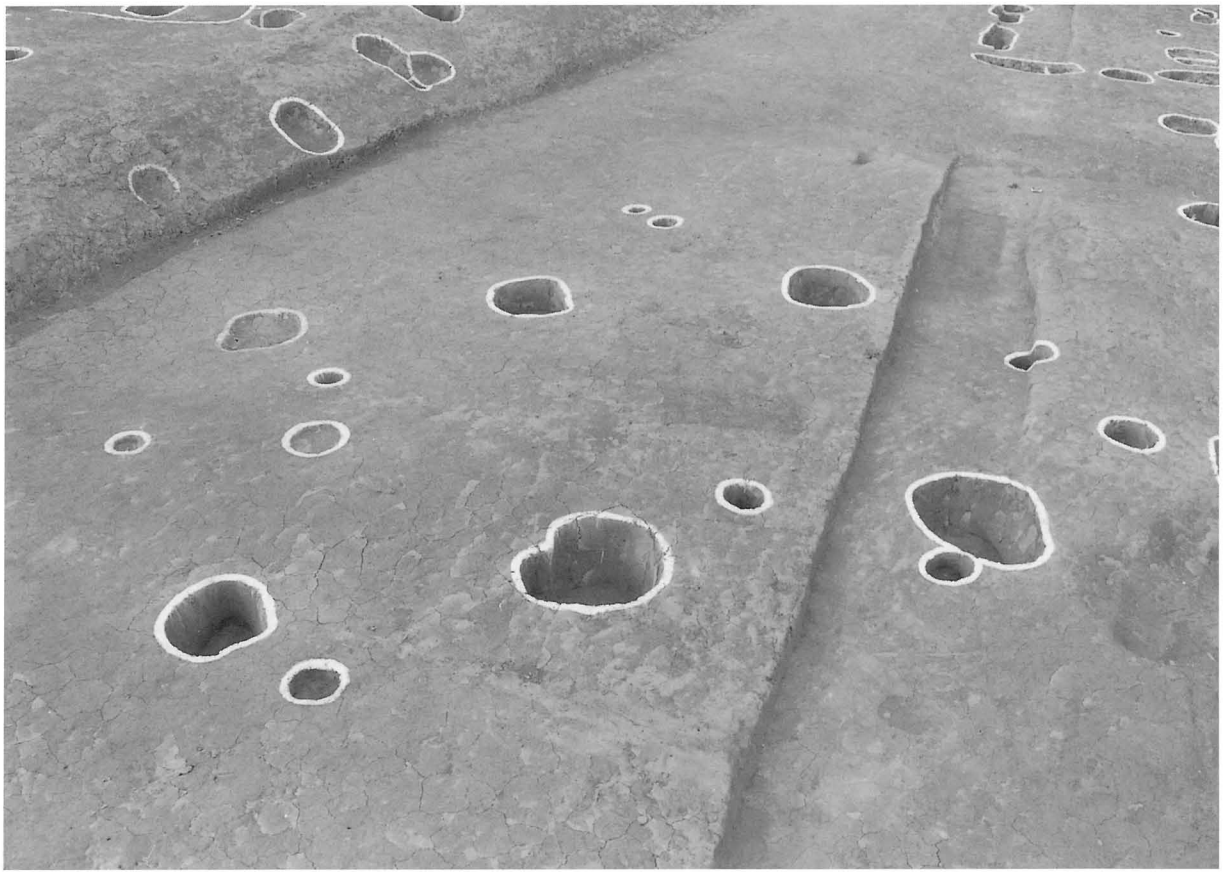
2　SH88・89（北西から）



3　SH82・83・SD77・78・80（北から）

図版54

1　SH92（南東から）



2　SH98（南から）

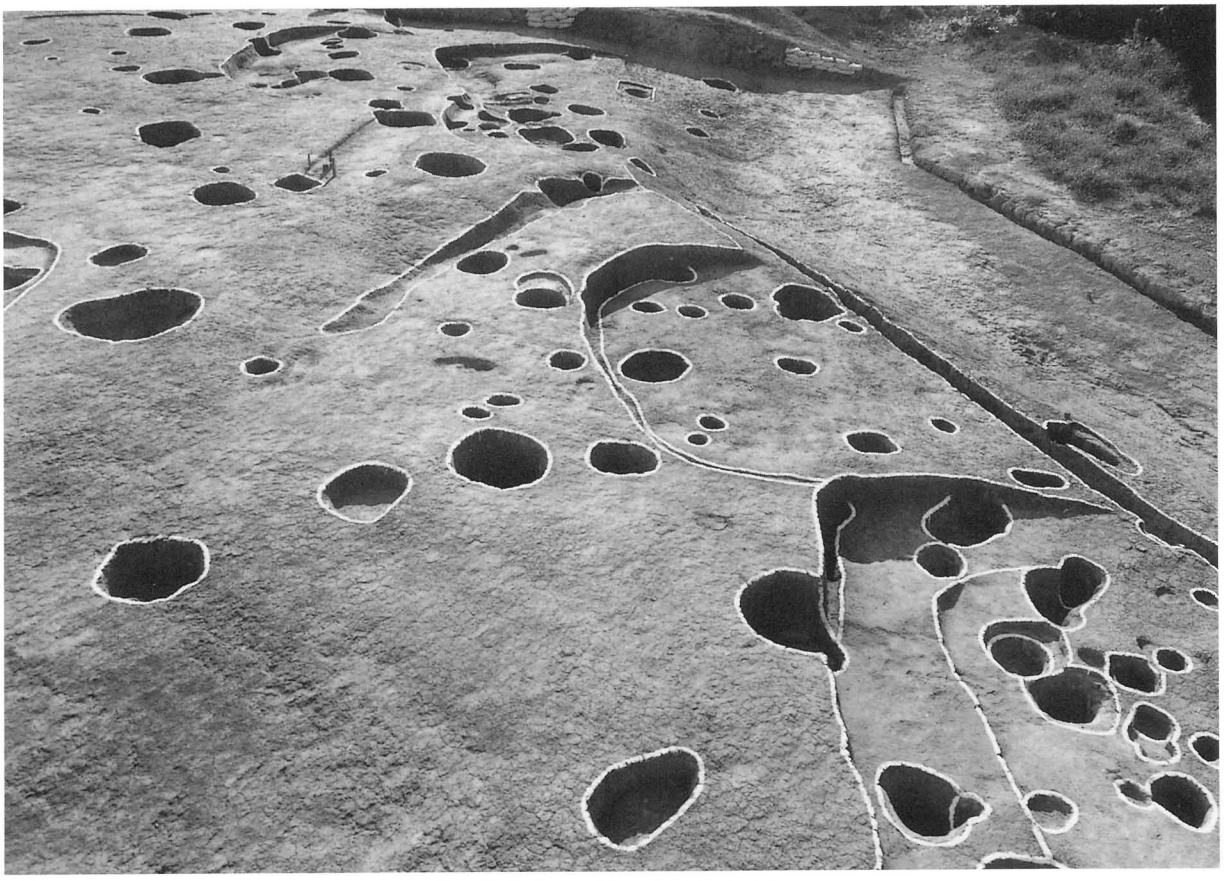
1　SH111（南から）

2　SH111根固石出土状況（北東から）

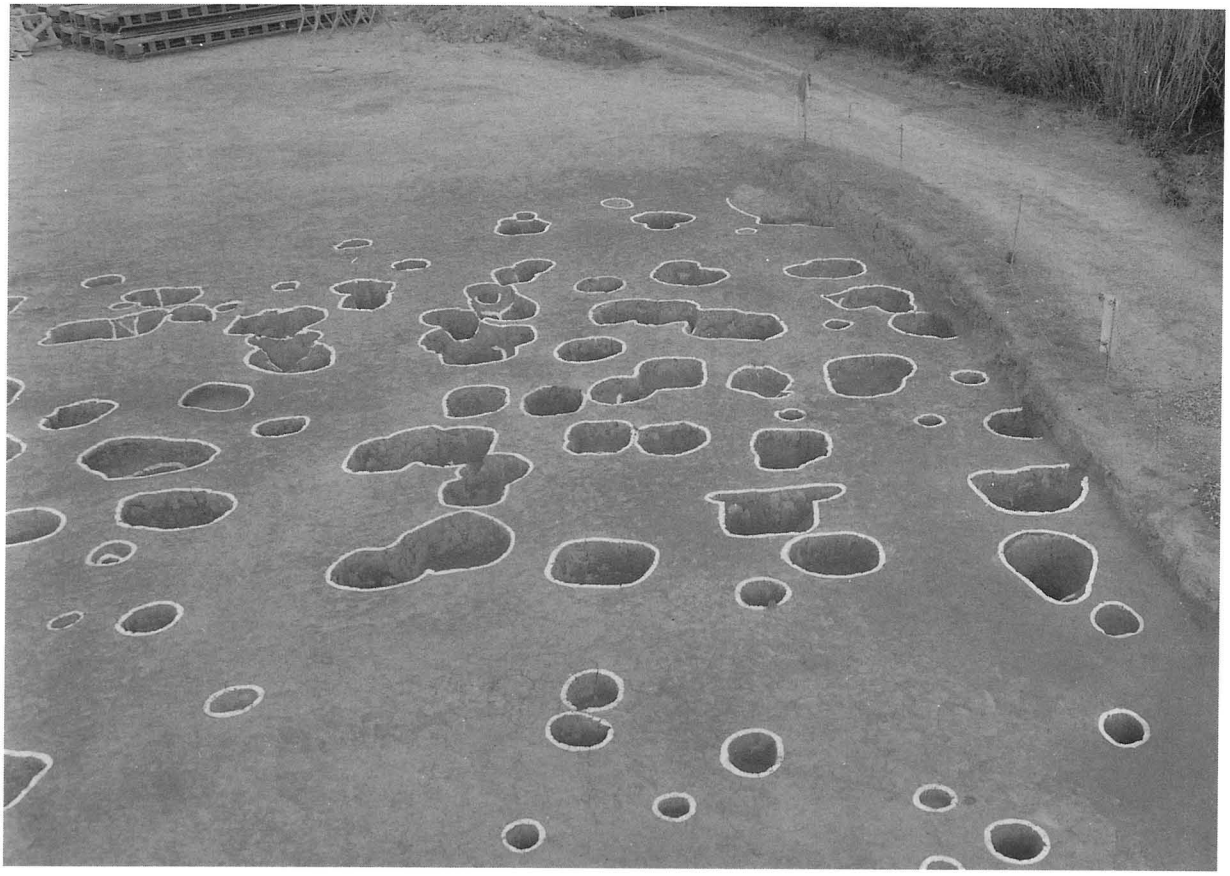
3　SH111土層断面（東から）

図版56

1　SH118～120（北から）



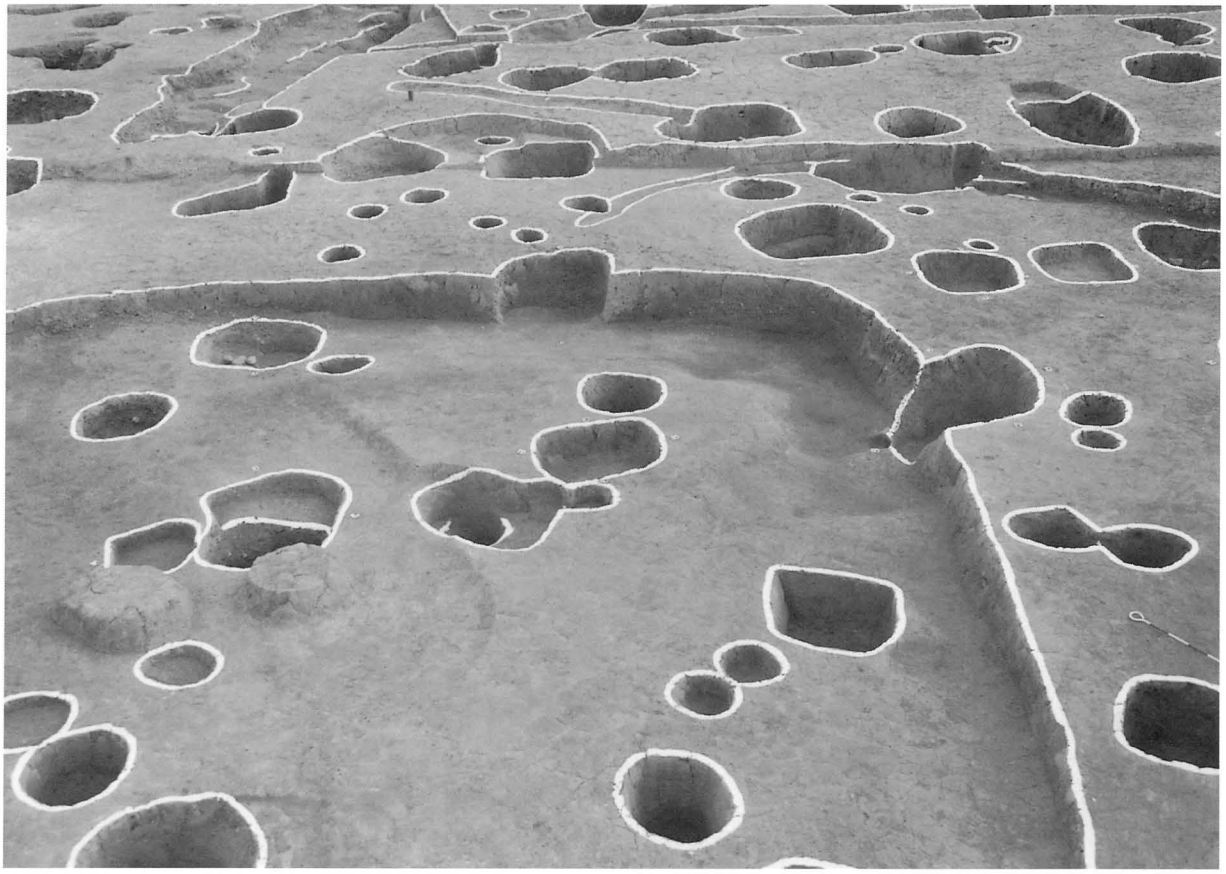
2　SH141・143・144（東から）



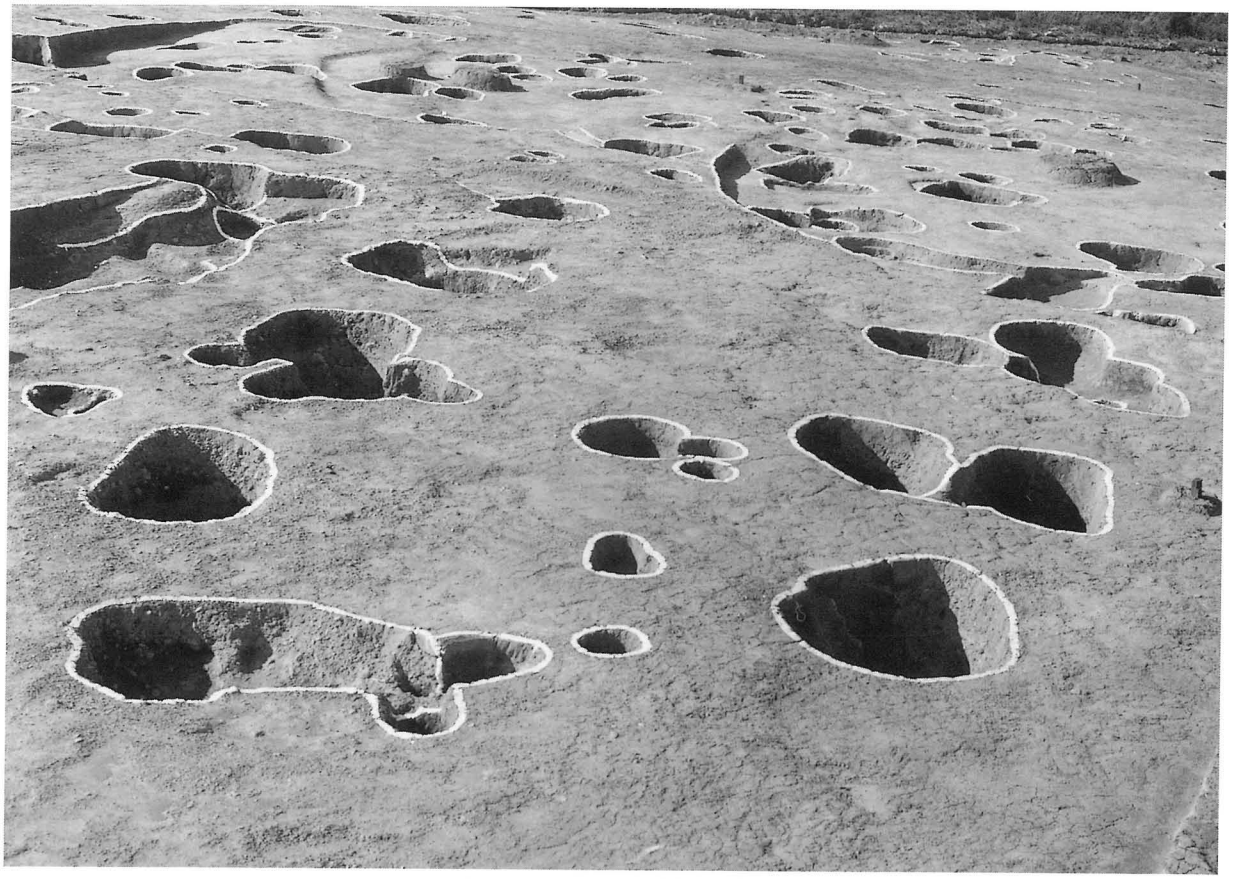
1　SH127～135（西から）

2　SH127～135（北から）

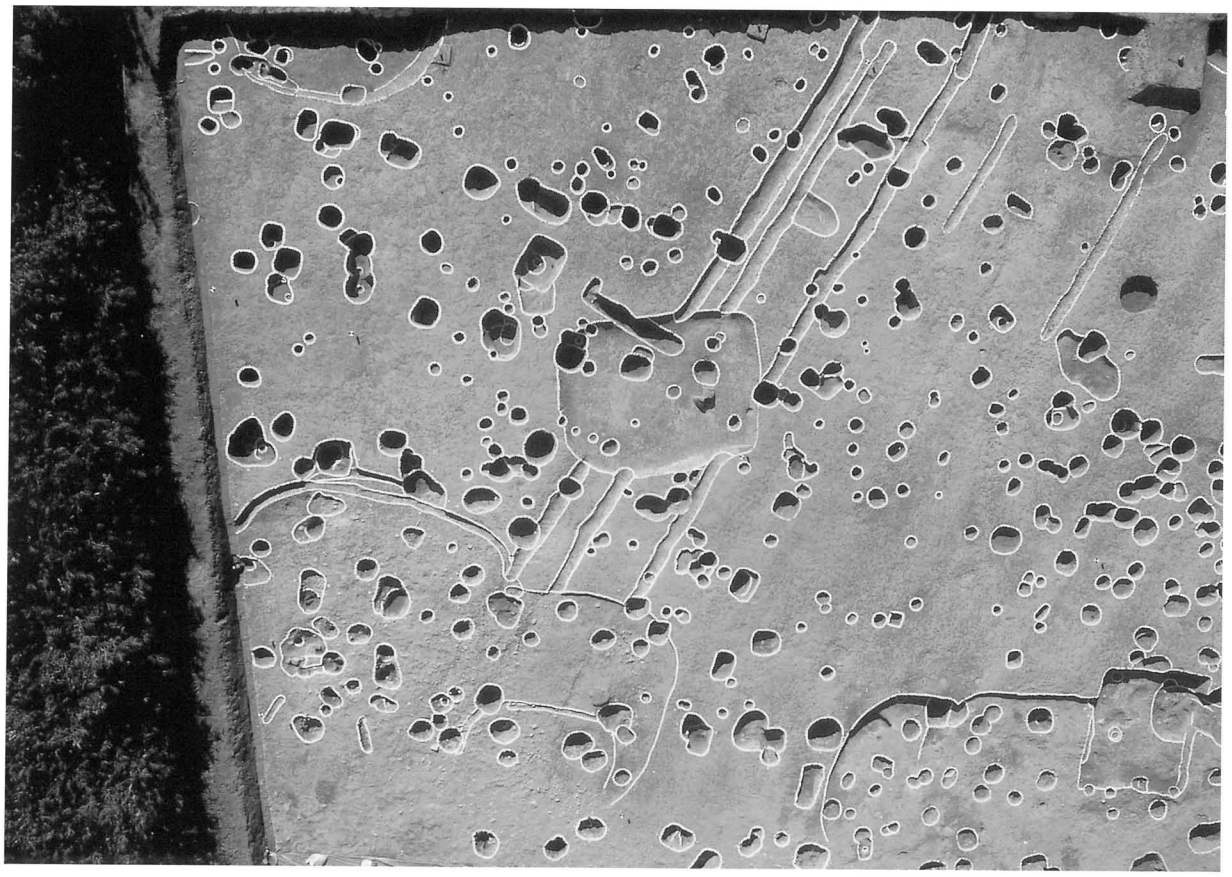
1　SH146・147（北から）



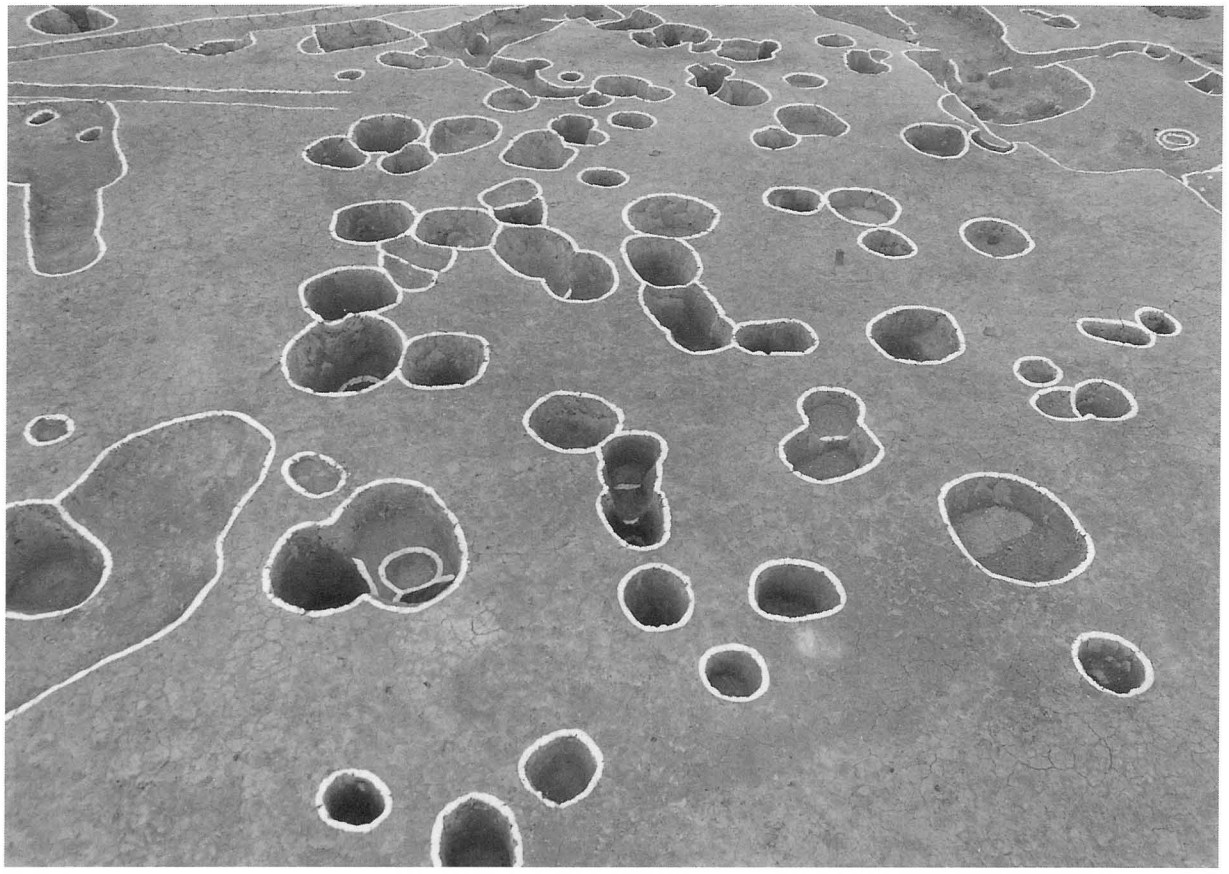
2　SH148（北から）



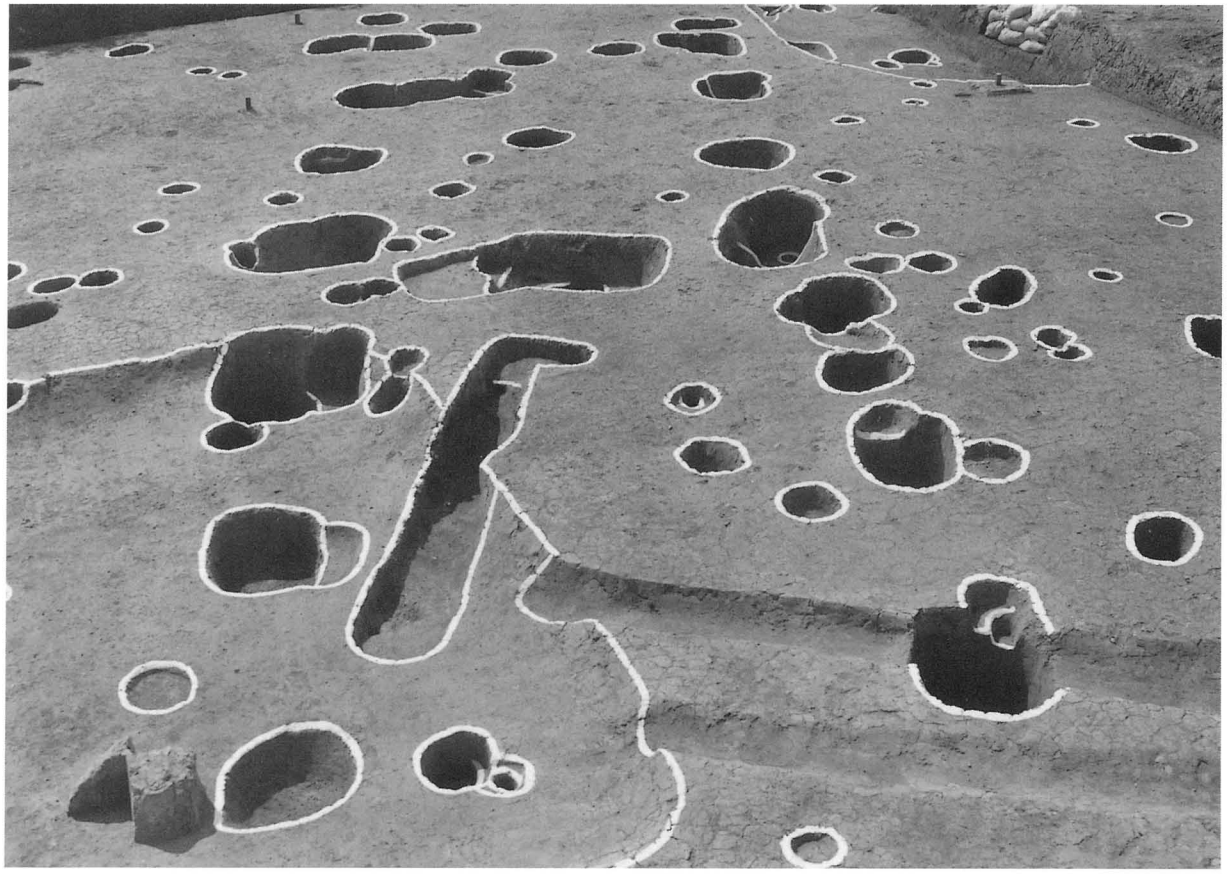
1　SH150・183（南から）



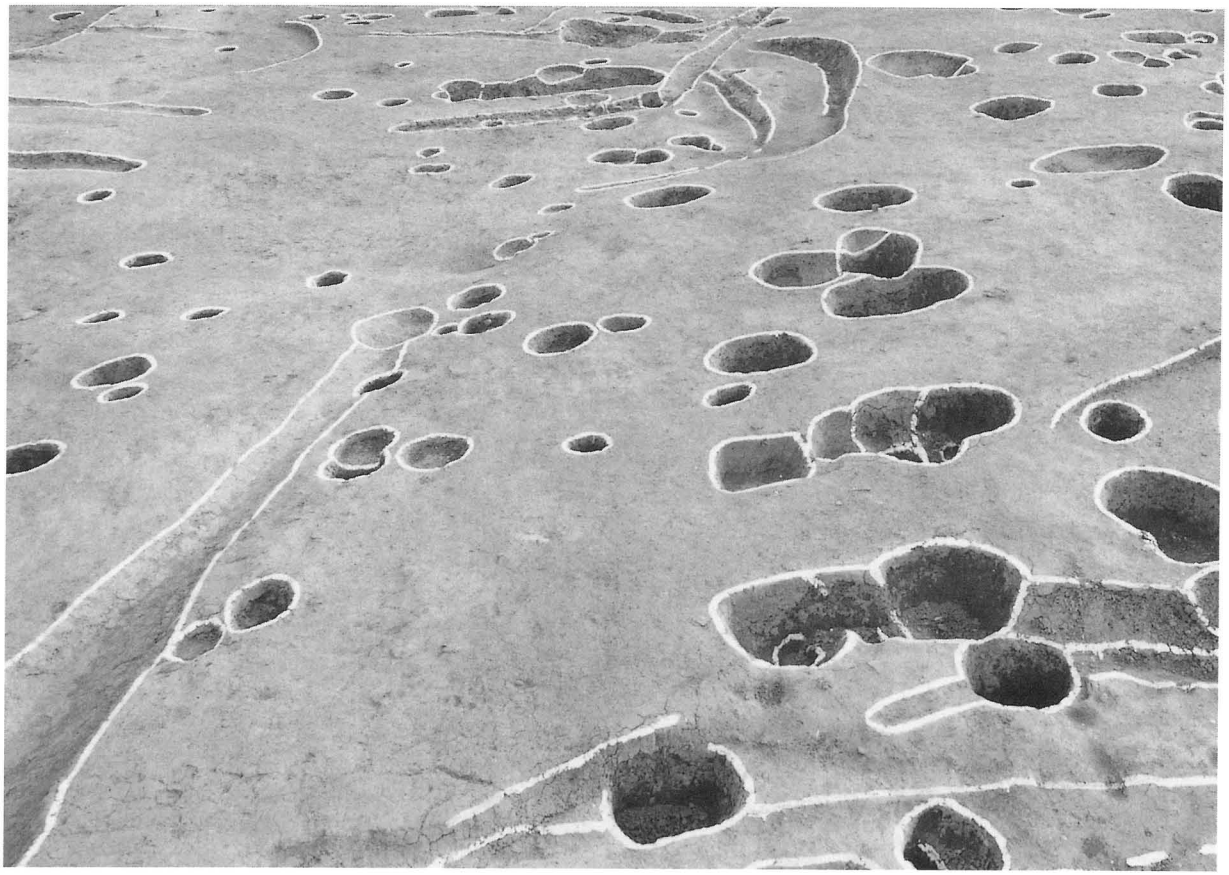
2　調査区南東部（俯瞰）



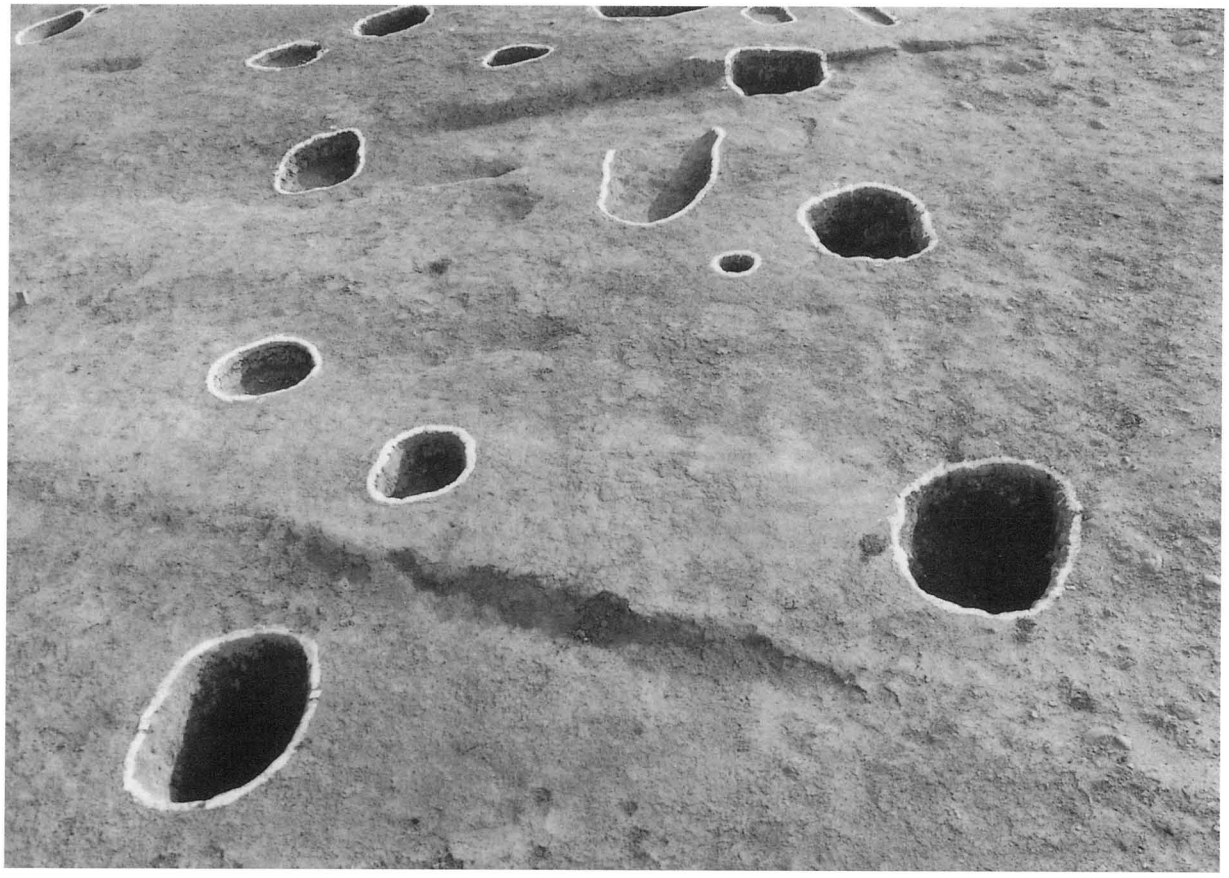
1　SH155・156（南から）



2　SH159・161（北から）

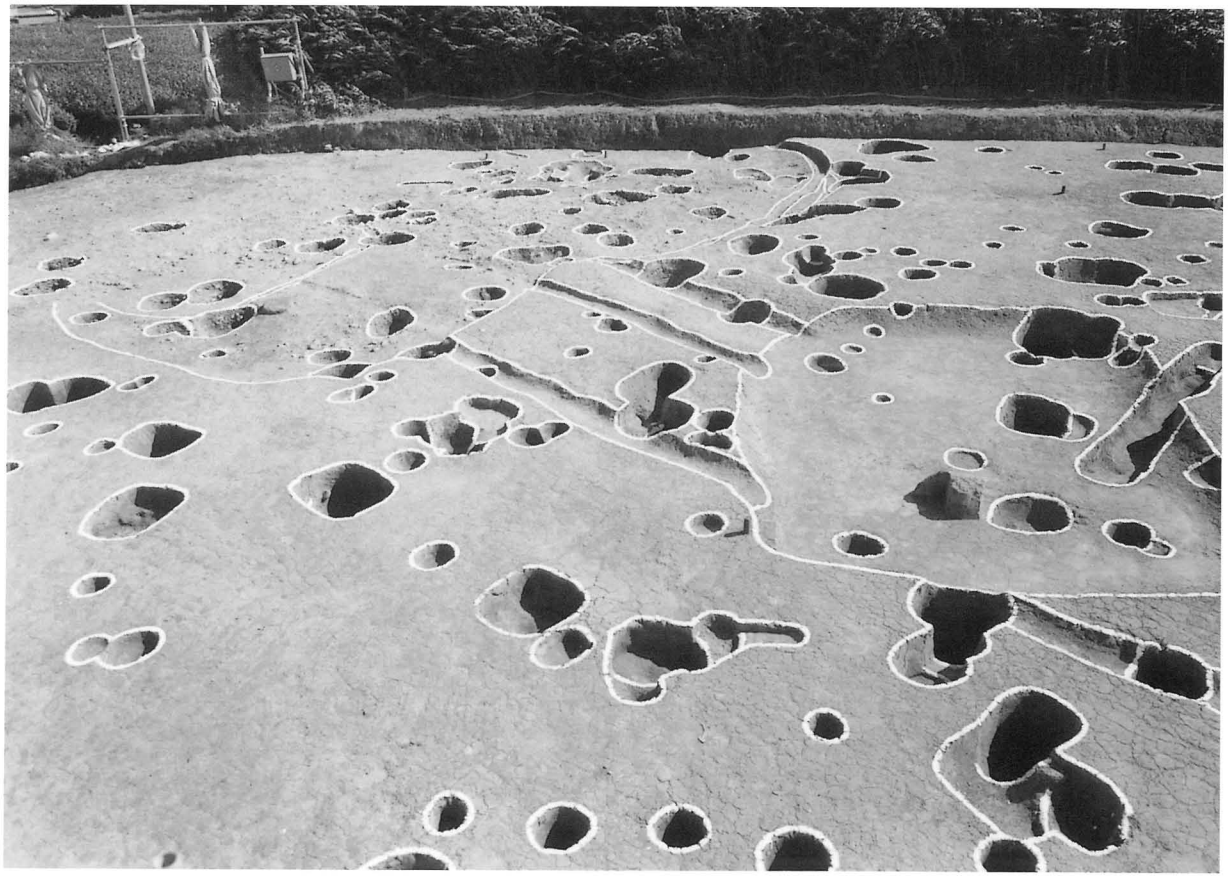


1　SH166～168（北から）



2　SH169（北から）

1　SH178～180（北から）



2　SH187（北から）

1　調査区北部（俯瞰）

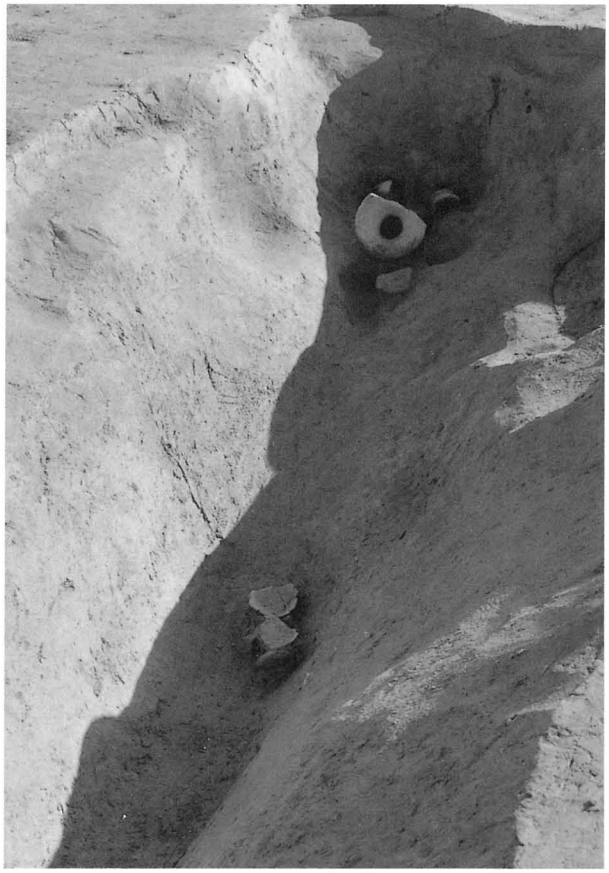
2　SZ01・02（南から）

図版64

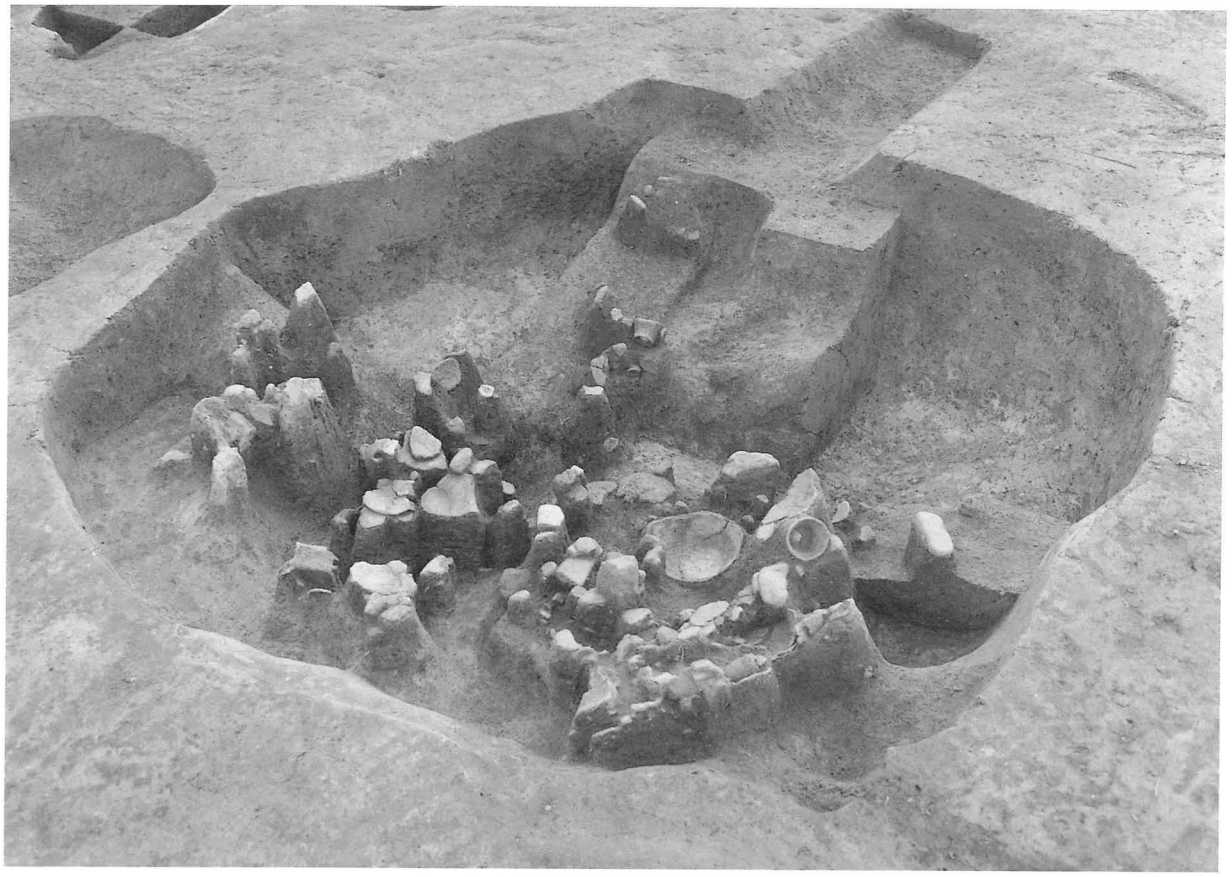
1　SZ01遺物出土状況（北から）

2　SZ01遺物出土状況（北から）

3　SZ01遺物出土状況（南から）



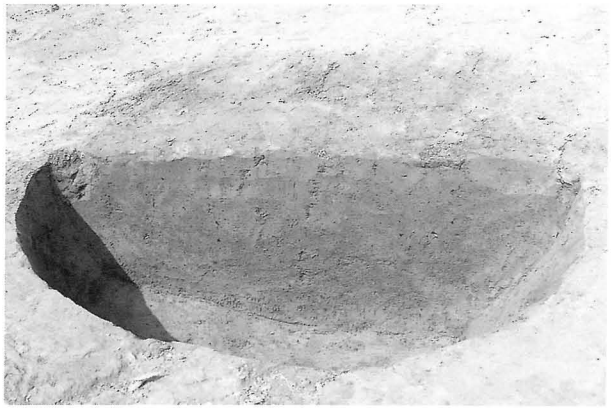
4　SZ02遺物出土状況（西から）



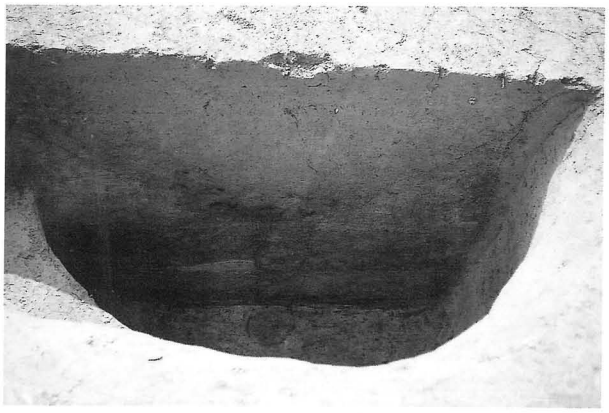
1　SF21遺物出土状況（北東から）

2　SF22遺物出土状況（東から）

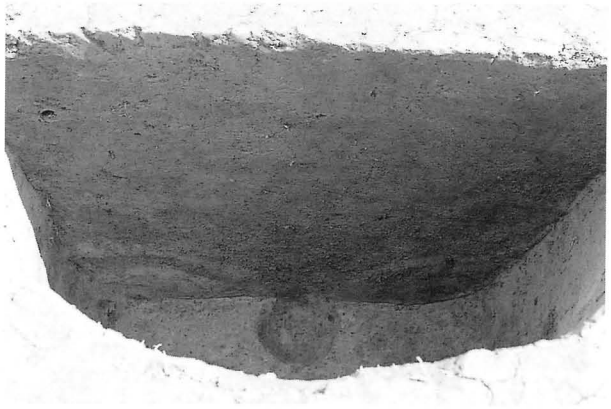
図版66



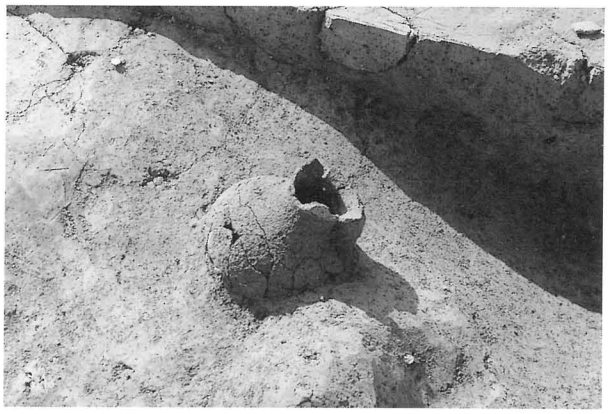
1　SF01半切状況



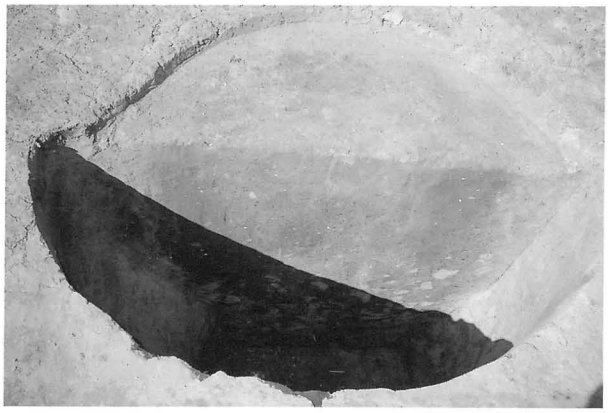
2　SF02半切状況



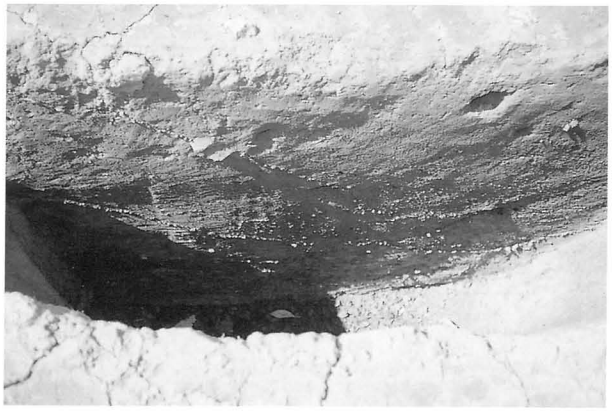
3　SF04半切状況



4　SF08遺物出土状況



5　SF15半切状況

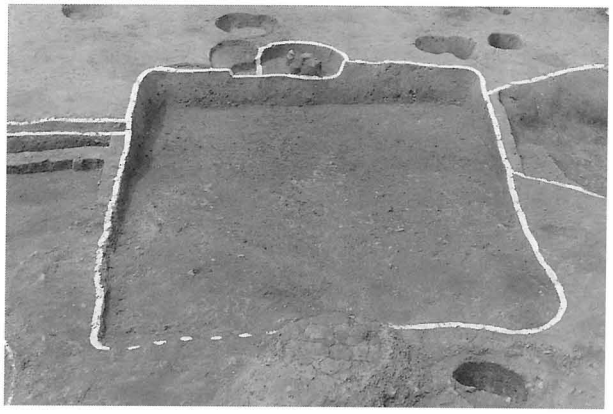


6　SF16半切状況

7　SF14（南から）

1　SX01半切状況（西から）

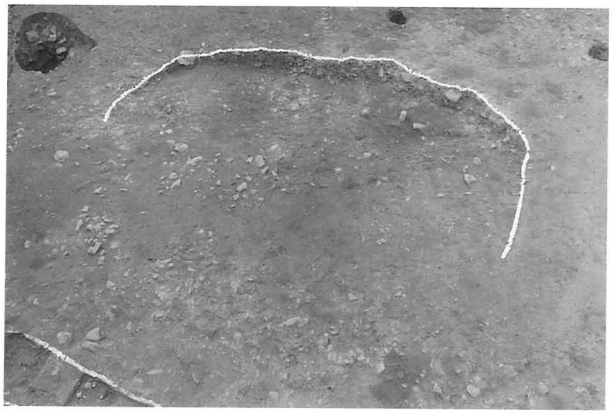
2　SX05遺物出土状況



3　SX04（東から）

4　SX04炉跡土層断面

5　SX06遺物出土状況（北から）



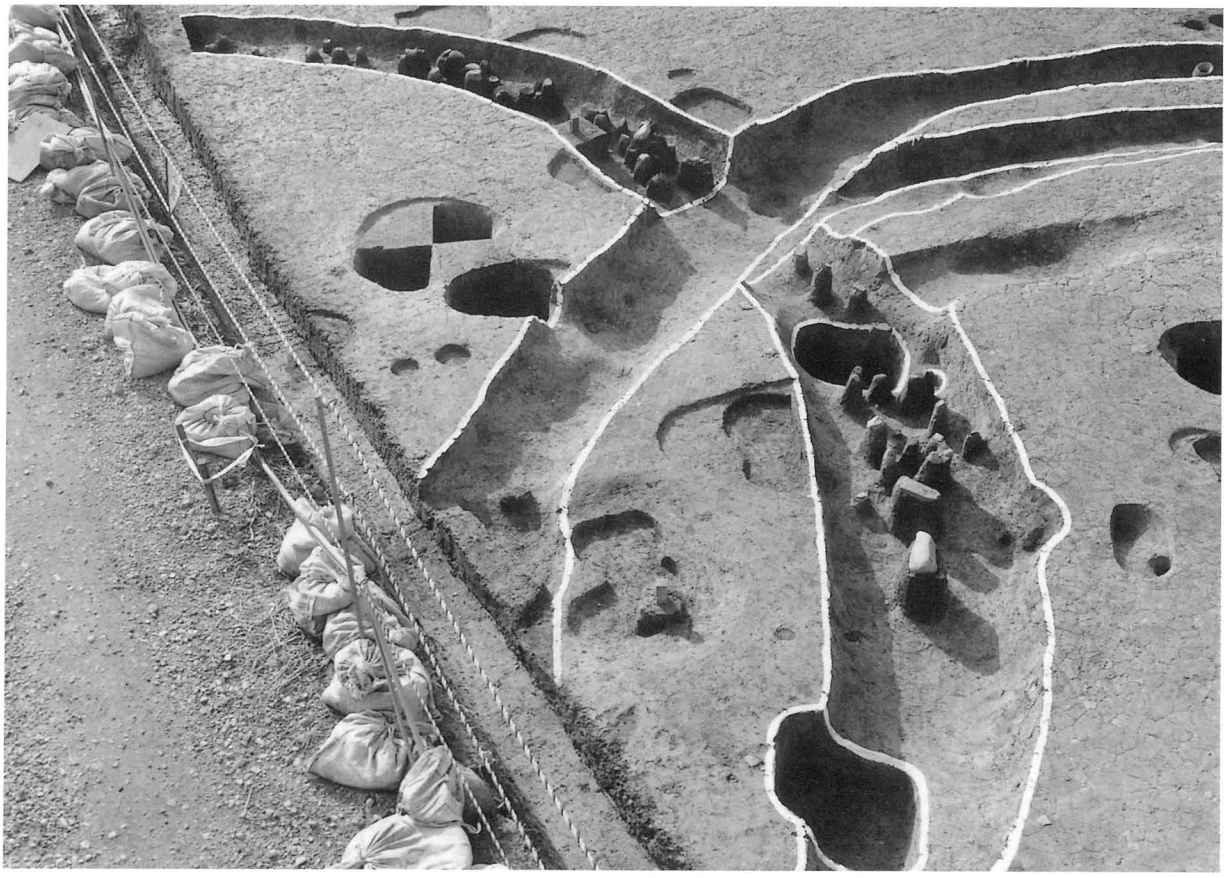
6　SX07（東から）

7　焼き場跡遺物出土状況（東から）

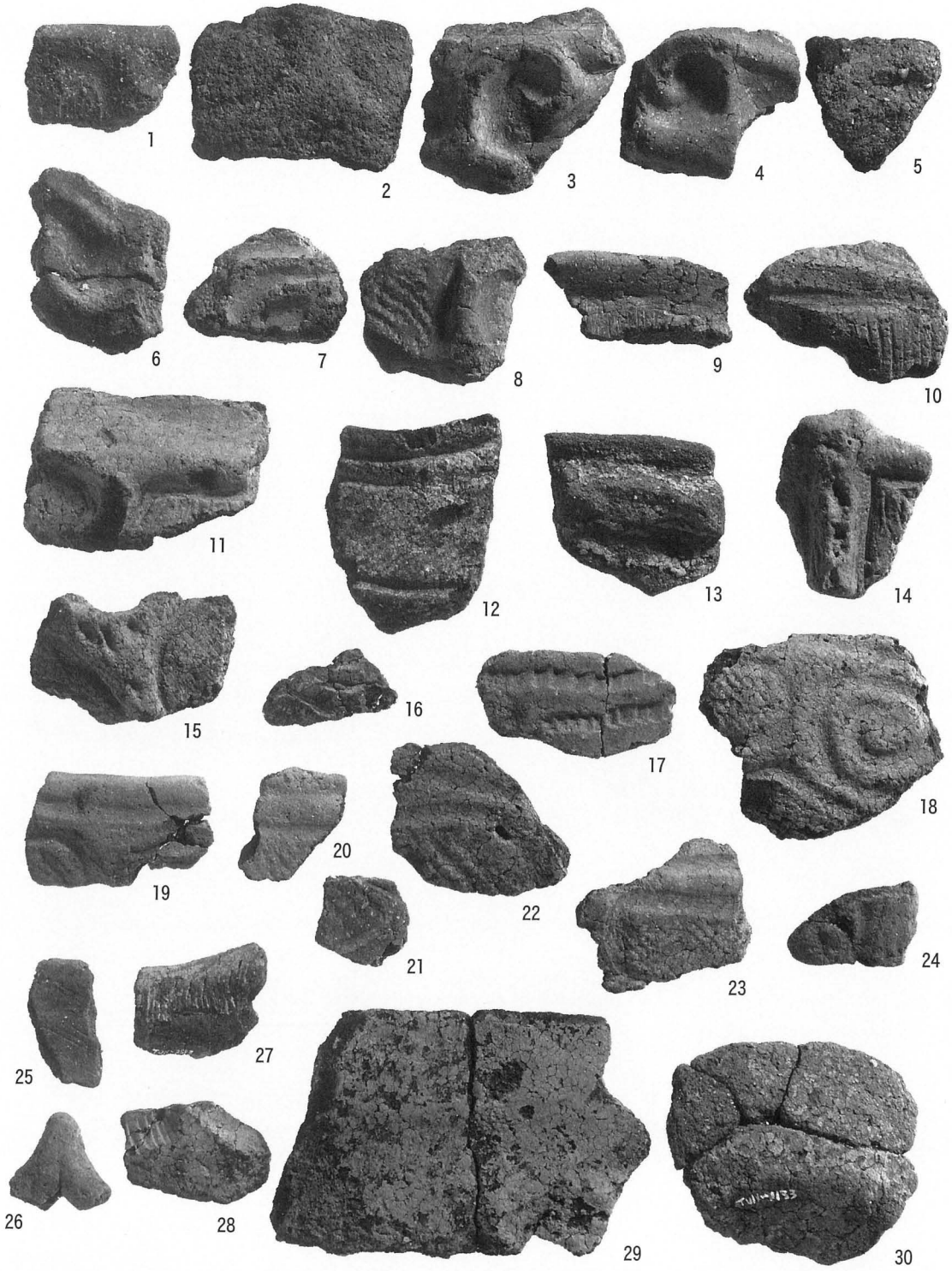
図版68

1　SD93暗渠部分土層断面（東から）

2　SD28鍬掘削痕検出状況（西から）



3　SD97遺物出土状況（南東から）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

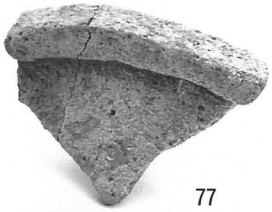
出土土器１（縄文）

図版70

41

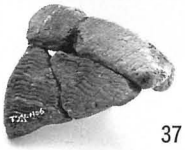
47

55



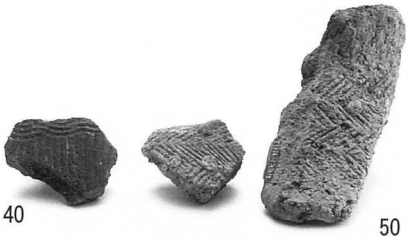
77

85



37

46



40

50

56

73

出土土器２（弥生～古墳）

83

88

98

102

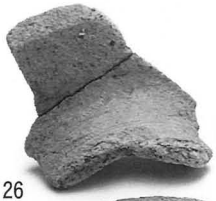
99

110

100

103

105



126

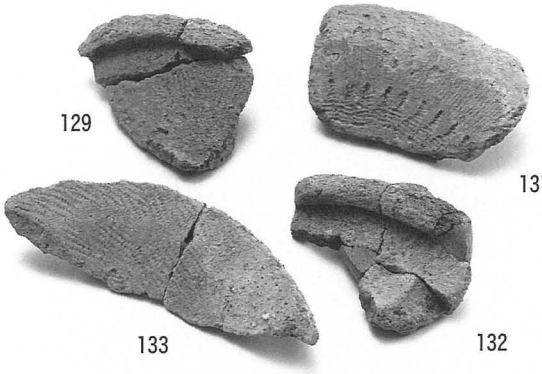
118

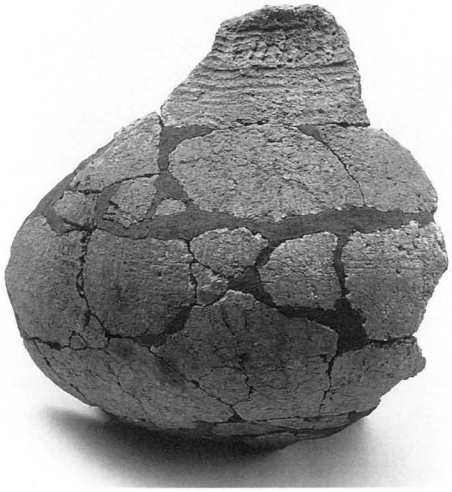
115

116

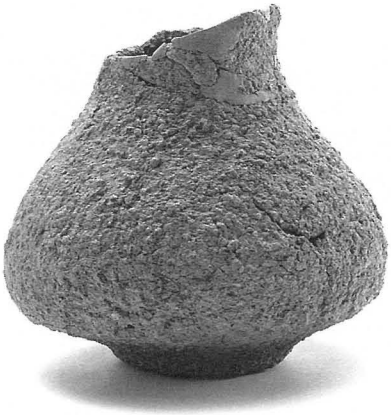
出土土器 3 （弥生～古墳）

図版72

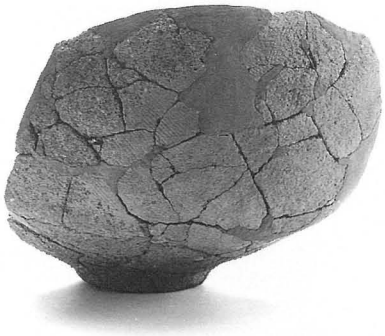




出土土器４（弥生～古墳）



150



151

152

188

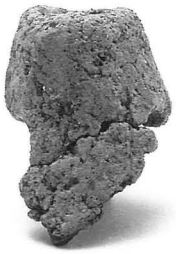
198

197

199

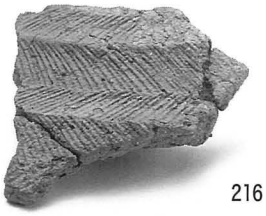
出土土器５（弥生～古墳）

図版74



200

214



216

207

211

226

233

224

234

232

244

231

235

243

250

252

出土土器 6 （弥生～古墳）

261

265

262

272

271

277

281

284

285

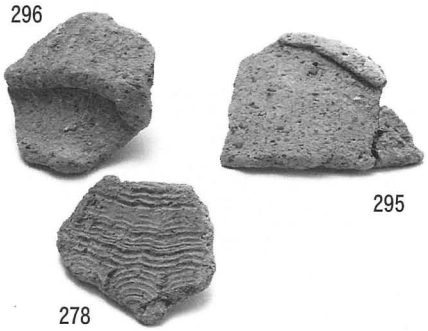
275

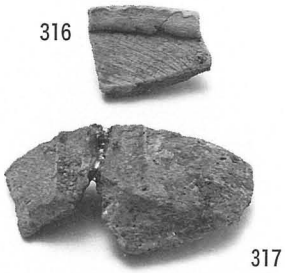
292

294

出土土器７（弥生～古墳）

283


296
295
278


316
317

307
308

310

315

319

320

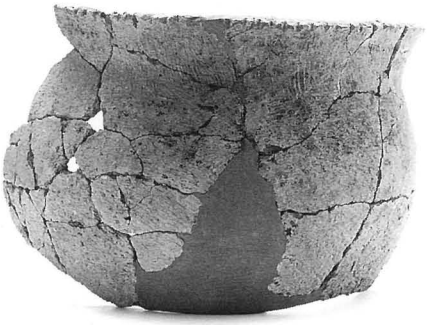
出土土器８（弥生～古墳）

出土土器 9 （弥生～古墳）

363

364

365



371

370

373

出土土器10（弥生～古墳）

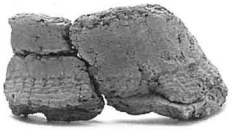
385

386

389

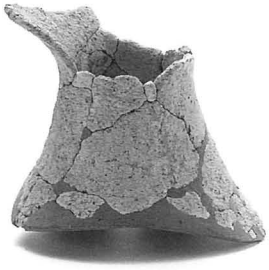
394

392



393

398



395

396

397

399

出土土器11（弥生～古墳）

416

418

420

451

436

455

450

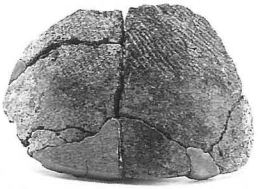
423

449

469

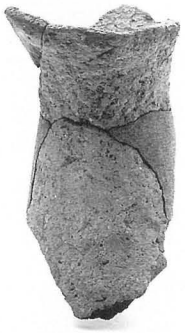
出土土器12（弥生～古墳）

460



461

471


480

490

477

497

495

494

498

510

出土土器13（弥生～古墳）

511

544

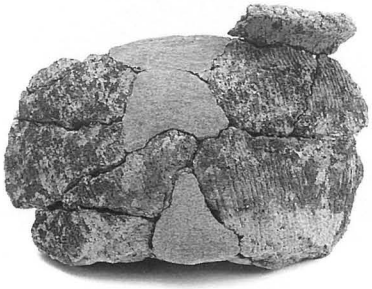
514

513

515

530

531


548

560

561

出土土器14（弥生～古墳）

564

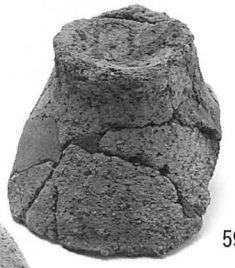
567

572

568

573

579



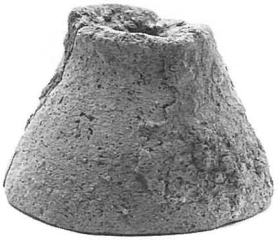
598

603

600

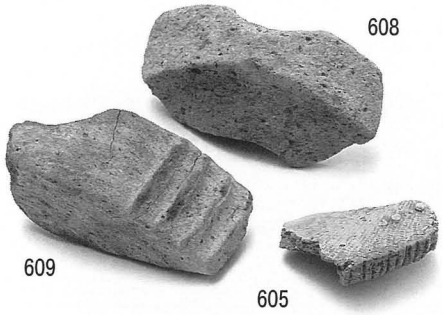
601

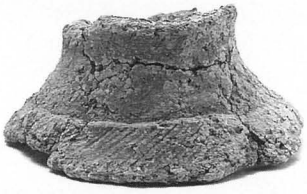
604

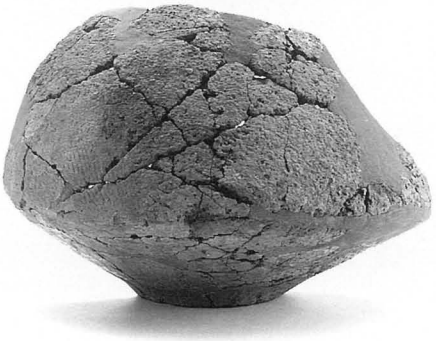


597

出土土器15（弥生～古墳）







出土土器16（弥生～古墳）

630

629

631

643

638

651

669

644

出土土器17（弥生～古墳）

653

646

657

647

660

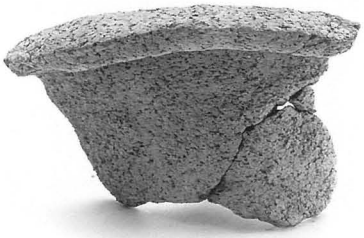
692

662

693

677

684


680

702

711

712

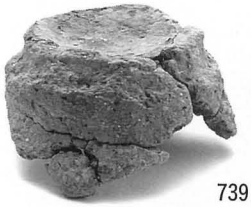
出土土器18（弥生～古墳）

713

725

737

755



739

743

756

757

772

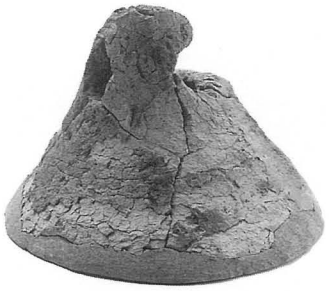
773

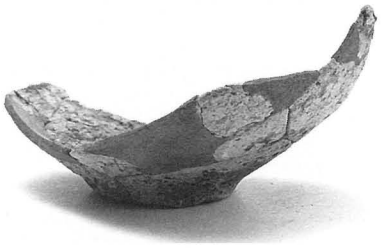
759

出土土器19（弥生～古墳）

767

769


766

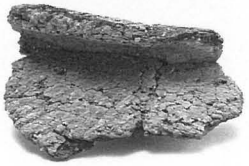

774

775

776

780

781

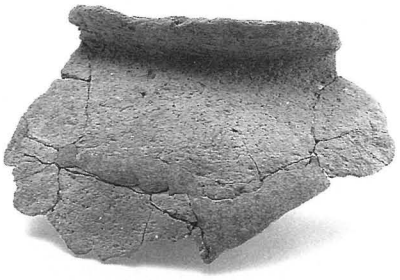

788

791

797

798

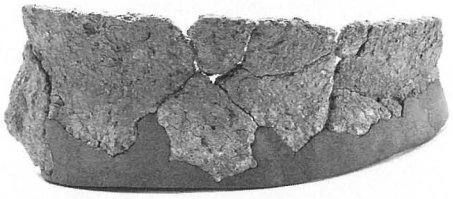
出土土器20（弥生～古墳）

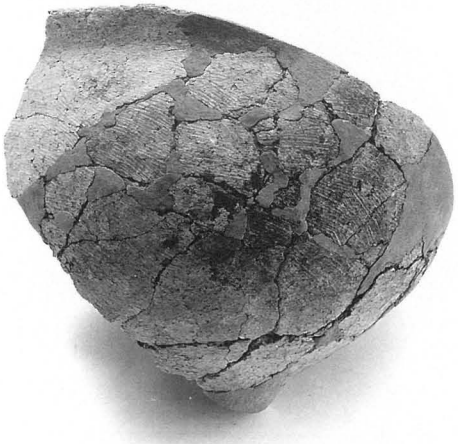


799

805

816





813

814

819

801

817

818

出土土器21（弥生～古墳）

824

828

832

829

831

833

出土土器22（弥生～古墳）

830

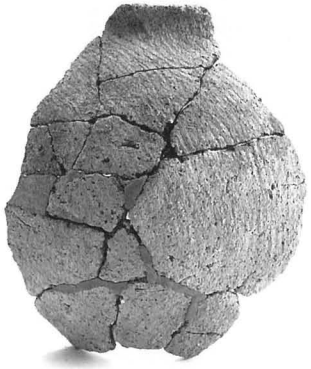
834

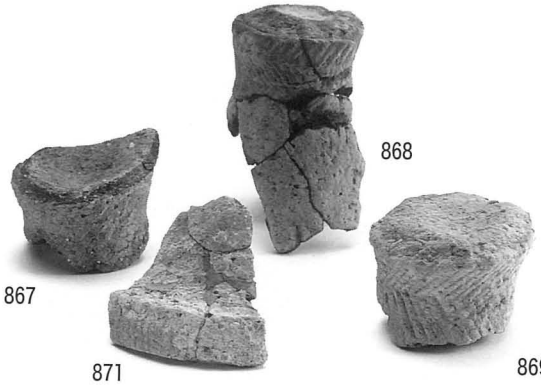
835

836

848

851

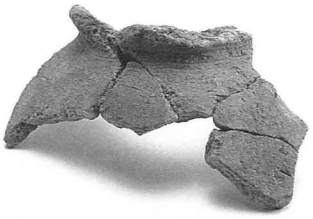

858


867
868
869
871

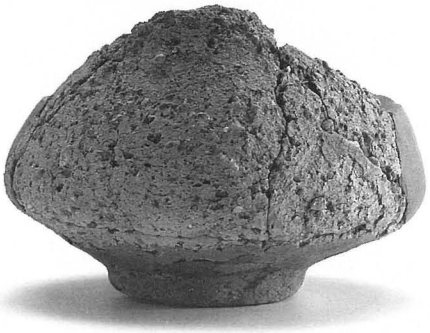
875
878

出土土器23（弥生～古墳）

872


886

912


902

929

931

932

950

936

935

934

944

940

949

941

942

951

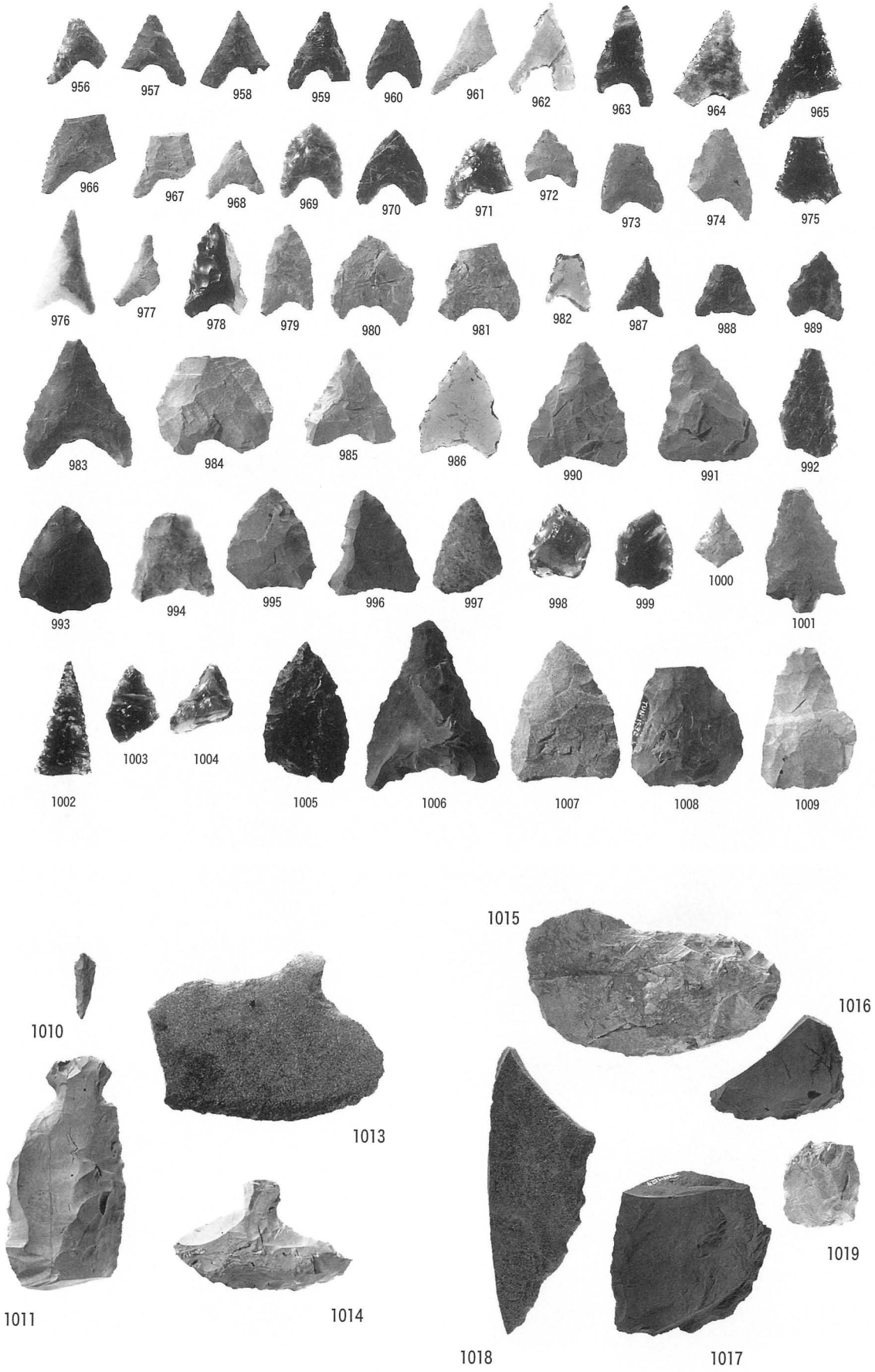
952

953

954

955

出土土器24（弥生～古墳、その他）


956
957
958
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
980
981
982
987
988
989
983
984
985
986
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1009
1010
1011
1013
1014
1015
1016
1017
1018
1019

出土石器 1

1021

1022

1023

1024

1025

1028

1044

1041

1043

1042

1029

1030

1031

1032

1036

1038

1034

1037

1040

1039

1047

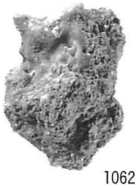
1048

出土石器 2

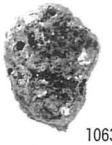
1051

1046

1061



1062



1063

1055

1056

1057

1064

1065

1066

1058

1059

1060

出土石器３、ガラス質の滓、玉類

報告書抄録

ふりがな	うえのたいらいせき
書名	上ノ平遺跡
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	掛川市－2（第2分冊）
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シリーズ番号	第187集
編著者名	田村隆太郎（編集）、株式会社ジェネテック、パリノ・サーヴェイ株式会社
編集機関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
所在地	〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20　TEL　054-262-4261（代）
発行年月日	2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		経緯度(世界測地系)		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
うえのたいらいせき 上ノ平遺跡	しずおかけんかけがわし 静岡県掛川市 てらしまあざうえのたいら 寺島字上ノ平	22213	31	34° 49′ 45″	137° 57′ 21″	200004～ 200203	13,900㎡	道路建設（第二東名建設に伴う埋蔵文化財発掘調査）

所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上ノ平遺跡	集落	縄文時代中期	住居跡1、土坑（落し穴）17	縄文土器、石鏃51、石錐1、石匙4、スクレーパー4、楔形石器1、石核1、石斧2、円盤形石器1	狩猟と生活の痕跡
	集落	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居跡140、周溝をもつ建物跡44、掘立柱建物跡177、土坑など4、小穴、溝、方形周溝墓2	弥生土器、土師器、石鏃3、石斧5、石錘4、敲石10、磨石3、砥石8、石皿1、管玉1、小玉5	遺構密度の高い居住域跡
	集落	古墳時代終末期～奈良時代	掘立柱建物跡3	土師器、須恵器	建物設置の可能性
	散布地	平安時代～鎌倉時代		灰釉陶器、山茶碗	
	散布地	江戸時代		かわらけ	

要約

原野谷川上流域の丘陵上に立地する、弥生時代後期前葉から古墳時代前期に至る集落跡である。調査は、遺跡の北部を対象とする。調査区内の地形は中央の谷をはさんで東西に分かれる。

弥生時代後期前葉に、排水溝をもつ隅丸長方形の竪穴住居跡と小型の掘立柱建物によって集落がはじまる。弥生時代後期後葉になると、住居は周溝をもつ建物が主体となり、掘立柱建物は大型化する。古墳時代前期になると、住居は方形の竪穴住居跡になり、住居域が東部に限定されるようになる。古墳時代直前に西部に設けられた方形周溝墓2基との関連によって、集落構造が変化したものと把握することができる。

遺跡の広さや遺構数・密度、形成期間の長さなどから、原野谷川上流域における主要集落として位置づけることができる。また、周溝をもつ建物や大型掘立柱建物などは、丘陵上の集落としては特徴的であるといえる。さらに、住居構造や集落構造における変遷過程や、布掘りの掘立柱建物跡や鉄石英の管玉などから、原野谷川流域を越えた社会的動向との関連を把握することができる。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第187集

上ノ平遺跡

第二東名№104・105地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

掛川市－２（第２分冊）

平成20年３月31日

編集・発行　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL　(054) 262-4261㈹
FAX　(054) 262-4266

印　刷　所　松本印刷株式会社
〒421-0303　静岡県榛原群吉田町片岡2210
TEL　(0548) 32-0851㈹